

納付シテ記録ノ閲覧若ハ隱寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ繫屬中記録ノ閲覧又ハ隱寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス

第三十一條 第十八條ノ旅費、日當及止宿料並前二條ノ手数料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 調停委員會ノ呼出ヲ受ケタル當事者カ正當ノ事由ナクシテ出頭セザルトキハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ調停委員會ノ意見ヲ聽キ五十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件

(大正十一年七月二十二日勅令第三百三十八號)
改正、大正一四一勅令第一二六

借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
左ノ地區ニハ大正十一年十月一日ヨリ借地借家調停法ヲ施行ス

- 東京府
 - 京都府
 - 大阪府
 - 神奈川縣
 - 兵庫縣
- 左ノ地區ニハ大正十四年四月十五日ヨリ借地借家調停法ヲ施行ス

借地借家調停ノ手数料等ニ關スル件

(大正十一年七月二十二日勅令第三百三十九號)

- 借地借家調停ノ手数料等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 第一條 借地借家調停法第二十九條ノ手数料ハ左ノ區別ニ從フ
- 調停ヲ求ムル事項ノ價格五圓迄 十五錢
- 同十圓迄 二十五錢
- 同二十圓迄 五十錢
- 同五十圓迄 一圓二十錢

- 同七十五圓迄 一圓七十錢
- 同百圓迄 二圓五十錢
- 同二百五十圓迄 五圓
- 同五百圓迄 八圓
- 同七百五十圓迄 十圓
- 同一千圓迄 十二圓
- 同二千五百圓迄 二十圓
- 同五千圓迄 三十圓
- 同五千圓以上八千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ
- 調停ヲ求ムル事項ノ價格ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ額ハ百圓ト看做ス
- 第二條 借地借家調停法第三十條ノ手数料ハ各一件ニ付二十錢トス
- 第三條 調停委員及借地借家調停法第十七條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ノ日當ハ一日六圓以内、止宿料ハ一日八圓以内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル
- 第四條 調停委員及借地借家調停法第十七條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通スル水路ニ在リテハ二等旅客運賃、運賃ノ等級ハ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃ニ依リ汽船ヲ通セサル水路ニ在リテハ一海里毎二十五錢、其ノ他ニ在リテハ一海里毎九十錢トス但シ一海里未滿

又ハ一里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

附則
本令ハ大正十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

借地借家臨時處理法

(大正十三年七月二十二日勅令第十六號)
改正、昭和四一法律七

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ爾レ借地借家臨時處理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

借地借家臨時處理法

第一條 本法ニ於テ借地借家ト稱スルハ借地法及借家法ニ於ケル借地借家ヲ謂フ

第二條 地代、家賃、敷金其ノ他借地借家ノ條件カ著シク不當ナルトキハ當事者ノ申立ニ因リ裁判所ハ鑑定委員會ノ意見ヲ聽キ借地借家關係ヲ衡平ナラシムル爲メ其ノ條件ノ變更ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ裁判所ハ敷金其ノ他ノ財産上ノ給付ノ返還ヲ命シ又ハ其ノ給付ヲ地代若ハ家賃ノ前拂ト看做シ其ノ他相當ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第三條 大正十二年九月ノ震災ニ因リテ滅失シタル建物ノ借主ハ其ノ建物ノ敷地又ハ其ノ換地ノ上ニ新ニ築造セラレタル建物ニ付其ノ完成前賃借ノ申出ヲ爲シタルトキハ他ノ者ニ優先シテ之ヲ賃借スルコトヲ得滅失

借地借家臨時處理法

シタル建物ノ敷地又ハ其ノ換地ノ上ニ築造セラレタル假設建築物ノ借主亦同シ
前項ノ申出ヲ受ケタル者申出ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ拒絕ノ意思ヲ表示セザルトキハ申出ヲ承諾シタルモノト看做ス
第一項ノ申出ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒絕スルコトヲ得ス

第四條 前條ノ場合ニ於テ借家ニ付當事者間ニ協議調ハサルトキハ申立ニ因リ裁判所ハ鑑定委員會ノ意見ヲ聽キ從前ノ賃借ノ條件、建物ノ狀況其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ借家關係ヲ定ムルコトヲ得

第五條 新ニ築造セラレタル建物ニ付第三條第一項ノ規定ニ依リ賃借ノ申出ヲ爲シタル者數人アル場合ニ於テ賃借スヘキ建物ノ割當ニ付當事者間ニ協議調ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ從前ノ建物又ハ假設建築物ノ狀況、借主ノ職業其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ其ノ割當ヲ爲ス

第六條 前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ裁判所ハ抽籤ノ方法ヲ用キテ割當ヲ爲スコトヲ得裁判所ハ當事者間ノ衡平ヲ維持スル爲メ必要アリト認ムルトキハ割當ヲ受ケサル借主又ハ著シク不利ヲ受ケタル借主ノ利益ヲ受ケタル借主ノ爲割當ニ因リ著シク利益ヲ受ケタル他ノ借主ニ對シ相當ナル出捐ヲ命スルコトヲ得
大正十二年九月ノ震災ニ因リテ滅失

シタル建物ニ居住シタル者カ其ノ建物ノ敷地ノ上ニ假設建築物ヲ築造シタル場合ニ於テ敷地ノ借主カ之ニ同意シタルトキハ其ノ同意ニ付地主ノ承諾ヲ得サリシ場合ト雖地主ハ之ヲ理由トシテ契約ヲ解除ヲ爲スコトヲ得但シ裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 借地ノ上ニ存スル借地人ノ建物カ大正十二年九月ノ震災ニ因リ滅失シタル場合ニ於テハ其ノ借地權ハ借地權ノ登記及其ノ土地ノ上ニ存スル建物ノ登記ナキモノ之ヲ以テ大正十三年七月一日以後其ノ土地ニ付權利ヲ取得シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得

第八條 第二條及第四條乃至第六條ノ規定ニ因リ裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

第九條 鑑定委員會ハ五人以上ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十條 鑑定委員ハ特別ノ知識經驗アル者其ノ他適當ナル者ニ就キ毎年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付裁判所之ヲ指定ス

第十一條 鑑定委員會ノ決議ハ委員ノ過半數ノ意見ニ依ル

第十二條 鑑定委員會ノ評議ハ秘密トス

借地借家臨時處理法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件

(大正十三年八月十二日勅令第七十四號)

借地借家臨時處理法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
借地借家臨時處理法ハ大正十三年八月十五日ヨリ東京府及神奈川縣ノ内借地法及借家法ノ施行地區ニ之ヲ施行ス
前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建築物アル場合ニ於テハ借地借家臨時處理法ハ其ノ建築物ノ存スル場所ニ付亦之ヲ適用ス

小作調停法

(大正十三年七月二十二日法律第十八號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル小作調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
小作調停法

第一條 小作料其ノ他小作關係ニ付爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得
當事者ハ合意ヲ以テ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得
第二條 當事者不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得
第三條 調停ノ申立ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長又ハ郡長ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ得
第四條 前條ノ規定ニ依ル調停ノ申立アリタルトキハ市町村長又ハ郡長ハ遲滞ナク申立ニ關スル書類ヲ裁判所ニ送付シ且町村長ニ在リテハ郡長ニ、郡長ニ在リテハ町村長ニ申立アリタル旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス
爭議ノ目的タル土地力數郡市町村ニ互ル場

第十三條 鑑定委員ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス其ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十四條 借地借家調停法第四條ノ二及第五條ノ規定ハ第二條、第四條及第五條ノ規定ニ依ル申立並第六條ノ規定ニ依ル許可ノ申請アリタル場合ニ之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テ調停ニ付スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
第十五條 第二條及第四條乃至第六條ノ規定ニ依ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ之ヲ二週間トス
前項ノ即時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス
第十六條 本法ニ依ル裁判ニシテ財産上ノ給付ヲ命スルモノハ執行力ヲ有スル債務名義タルノ效力ヲ有ス
第十七條 本法ニ依ル裁判ノ費用ニ付テハ民事訴訟費用法第十六條及民事訴訟用印紙法第十六條ノ規定ニ依ル
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ昭和十四年四月三十日迄其ノ效力ヲ有ス
本法失効ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

合ニ於テハ調停ノ申立ヲ受ケタル市町村長又ハ郡長ハ遲滞ナク關係市町村長及郡長ニ前項ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス
第五條 裁判所直接ニ調停ノ申立ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス但シ第八條第一項ノ規定ニ依リ事件ヲ移送スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第六條 調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スヘシ
第七條 調停ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
口頭ヲ以テ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ市町村長、郡長又ハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス
第八條 爭議ノ目的タル土地力數箇ノ裁判所ノ管轄區域内ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケタル地方裁判所又ハ區裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所又ハ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所力調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ
前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
第一項ノ場合ニ於テ事件ノ移送ヲ受ケタル裁判所ハ遲滞ナク爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲

スコトヲ要ス
第九條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟力繫屬スルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス
第十條 裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス但シ爭議ノ實情ニ鑑ミ之ヲ開カスシテ調停ヲ爲スコトヲ得
當事者ノ申立アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス裁判所ハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス
第十一條 裁判所事情ニ依リ適當ナル者アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス之ヲシテ勸解ヲ爲サシムルコトヲ得
第十二條 當事者多數ナル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ代表シテ調停ニ關スル一切ノ行為ヲ爲サシムル爲總代ヲ選任スルコトヲ得
裁判所前項ノ規定ニ依ル總代ナキ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ總代ノ選任ヲ命スルコトヲ得
總代ハ當事者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス
第十三條 總代ノ選任ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス總代ノ解任ハ之ヲ裁判所ニ届出ツルニ非サレハ其ノ効ナシ
第十四條 裁判所ハ期日ヲ定メ當事者又ハ總

代ヲ呼出スコトヲ要ス
前項ノ呼出ヲ受ケタル當事者又ハ總代ハ正當ノ事由ナクシテ出頭ヲ拒ムコトヲ得ス
第十五條 調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケテ調停ニ參加スルコトヲ得
裁判所ハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得
第十六條 當事者、總代及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケテ代理人ヲシテ出頭セシメ又ハ輔佐人ヲ同伴スルコトヲ得
裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得
第十七條 爭議ノ目的タル土地ノ所在地又ハ當事者ノ住所ノ市町村長又ハ郡長ハ裁判所ニ對シ事件ノ經過ニ付陳述ヲ爲スコトヲ得
第十八條 裁判所必要アリト認ムルトキハ小作官、前條ノ市町村長又ハ郡長其ノ他適當ト認ムル者ニ對シ意見ヲ求ムルコトヲ得
第十九條 小作官ハ期日ニ出席シテ又ハ期日外ニ於テ裁判所ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得
第二十條 裁判所必要アリト認ムルトキハ事實ノ調査ヲ小作官ニ囑託スルコトヲ得

小作調停法

第二十一條 裁判所ニ於ケル調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍觀ヲ許スコトヲ得

第二十二條 裁判所ハ費用ヲ要スル行為ニ付當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第二十三條 裁判所ニ對スル申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十四條 裁判所ノ調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十五條 裁判所ハ調停前調停ノ爲ニ必要ト認ムル措置ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 裁判所ノ調停條項中ニ費用ノ負擔ニ關スル定メヲ爲ササルトキハ各當事者ハ其ノ支出シタル費用ヲ自ラ負擔ス

第二十七條 調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十八條 調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十九條 調停主任ハ判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方裁判所長ノ指定スル者ニ就キ地方裁判所長ノ選任シタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス但シ當事者カ合意ヲ以テ選定シタル者アルトキ又ハ地方裁判所長

ノ選任シタル者ニ就キ當事者雙方カ各別ニ選定シタル者アルトキハ其ノ者ノ中ヨリ先ツ之ヲ指定スルコトヲ要ス

第三十條 前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十一條 調停主任ハ爭議ノ實情ニ鑑ミ適當ト認ムル場所ニ於テ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第三十二條 調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任之ヲ指揮ス

第三十三條 調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル

第三十四條 調停委員會ノ評議ハ之ヲ秘密トス

第三十五條 調停委員會ハ當事者、總代又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且必要ト認ムルトキハ證據調停ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 調停委員會ハ調停主任ヲシテ證據調停ヲ爲サシメ又ハ之ヲ區裁判所ニ屬託スルコトヲ得證據調停ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス

第三十七條 證人及鑑定人ノ受クヘキ旅費、日當及止宿料ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス

第三十八條 期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ適當ト認ムル調停條項ヲ定ム

ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ調停條項ヲ定メタル場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ調書ノ正本ヲ當事者、總代アルトキハ總代ニ送付シ且當事者又ハ總代カ其ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シタルモノト看做ス旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シタルモノト看做ス旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

調停委員會ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得期間ノ伸長ハ之ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ調停條項ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

第三十七條 調停委員會第二條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲ササルコトヲ得

第三十八條 調停成リタルトキ又ハ第三十六條第三項ノ規定ニ依リ調停ニ同意シタルモノト看做サレタルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

調停不認可ノ決定ニ對シテハ當事者又ハ總代ハ民事訴訟法ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 裁判所ハ調停カ著シク公正ナラスト認ムル場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第四十條 調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ調停認可決定アリタルトキニ限り裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第四十一條 裁判所調停認可ノ決定ヲ總代ニ告知シタル場合ニ於テハ調停條項ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ揭示スルコトヲ要ス

第四十二條 調停委員會必要アリト認ムルトキハ調停ノ經過ヲ公表スルコトヲ得

第四十三條 調停事件終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ結果ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス

第四十四條 當事者又ハ利害關係人ハ手数料ヲ納付シテ記録ノ閲覧ヲ請フ又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ繫屬中記録ノ閲覧又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス

第四十五條 調停委員及第十一條又ハ第三十條ノ規定ニ依リ勸解ヲ爲シタル者ニハ旅

小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件

小作調停ノ手数料等ニ關スル件

費、日當及止宿料ヲ給ス

第四十六條 第四十四條ノ手数料並前條ノ旅費日當及止宿料ノ額ハ勸令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 本法中郡トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳管轄區域、郡長トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳長、島司トアルハ北

本法中町村、町村長又ハ町村役場トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村、町村長又ハ町村役場ニ準スルモノトス

第四十八條 第三十四條ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ調停委員會ノ意見ヲ聽キ五拾圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付テ之ヲ準用ス

第四十九條 調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク許諾ノ類未又ハ調停主任調停委員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勸令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ勸令ヲ以テ指定スル地區ニ之ヲ施行セ

小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件

改正 (大正一五) 勸令六五
昭和一四 勸令一四一

小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小作調停法ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

小作調停法附則第二項ノ規定ニ依リ同法ヲ施行セサル地區ヲ指定スルコト左ノ如シ

沖繩縣

小作調停ノ手数料等ニ關スル件

(大正十三年十一月三日) 勸令二百五十三號

朕小作調停ノ手数料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大正十一年勸令第三百三十九號第二條乃至第四條ノ規定ハ小作調停法第四十四條ノ手数料並第四十五條ノ旅費、日當及止宿料ニ付テ之ヲ

本令ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

不動產登記法

(明治三十二年二月二十四日法律第二十四號)

改正

明治三十八年法律第三九
明治三十四年法律第一二
大正八一年法律第一八
大正一一年法律第四五
昭和二年法律第四四
昭和六年法律第三〇

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル不動產登記法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 登記ハ左ニ掲ケタル不動產ニ關スル權利ノ設定、保存、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付キ之ヲ爲ス

- 一 所有權
- 二 地上權
- 三 永小作權
- 四 地役權
- 五 先取特權
- 六 質權
- 七 抵當權

八 賃借權

第二條 假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス
一 登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セザルトキ
二 前條ニ掲ケタル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セントスルトキ
右ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ其他將來ニ於テ確定スヘキモノナルトキ亦同シ

第三條 豫告登記ハ登記原因ノ無効又ハ取消タル場合ニ於テ之ヲ爲ス但登記原因ノ取消ニ因ル訴ニ付テハ其取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル
第四條 詐欺又ハ強迫ニ因リテ登記ノ申請ヲ妨ケタル第三者ハ登記ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス

第五條 他人ノ爲メ登記ヲ申請スル義務アル者ハ其登記ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス但其登記ノ原因カ自己ノ登記ノ原因ノ後ニ發生シタルトキハ此限ニ在ラス
第六條 同一ノ不動產ニ關シテ登記シタル權利ノ順位ニ付キ法律ニ別段ノ定ナキトキハ其順位ハ登記ノ前後ニ依ル
登記ノ前後ハ登記用紙中同區ニ爲シタル登記ニ付テハ順位番號ニ依リ別區ニ爲シタル

第七條 附記登記ノ順位ハ主登記ノ順位ニ依ル但附記登記ノ順位ハ其前後ニ依ル
假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ本登記ノ順位ハ假登記ノ順位ニ依ル

第二章 登記所及ヒ登記官吏

第八條 登記スヘキ權利ノ目的タル不動產ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス
不動產カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カルトキハ其各登記所ヲ併セテ管轄スル直近上級ノ裁判所ニ於テ申請ニ因リ管轄登記所ヲ指定ス

第八條ノ二 司法大臣ハ一ノ登記所ノ管轄ニ屬スル事務ヲ他ノ登記所ニ委任スルコトヲ得

第九條 町村其他登記簿ヲ分設シタル區畫カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其區畫ニ關スル登記簿及ヒ其附屬書類ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス
一箇又ハ數箇ノ不動產ノ所在地カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其不動產ニ關スル登記簿ノ原本及ヒ附屬書類又ハ其原本ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス但登記簿ノ原本ニハ抹

消ニ係ラサル登記ノミヲ謄寫シ其不動產ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第十條 登記所ニ於テ其事務ヲ停止セザルコトヲ得サル事故ノ生シタルトキハ司法大臣ハ期間ヲ定メテ其停止ヲ命スルコトヲ得

第十一條 登記所ハ土地ニ付キ左ニ掲ケタル事項ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ土地臺帳所管廳ニ通知スルコトヲ要ス
一 所有權ノ保存若クハ移轉
二 質權ノ設定及ヒ存續期間、存續期間ノ變更、移轉若クハ消滅
三 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ設定、移轉若クハ消滅又ハ百年ヨリ長キ存續期間ヲ百年以下ニ變更シ若クハ百年以下ノ存續期間ヲ百年ヨリ長キ期間ニ變更シ又ハ存續期間ノ定ナキ地上權ニ百年ヨリ長キ期間ヲ定メ若クハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ヲ存續期間ノ定ナキモノト爲シタルコト

四 所有權、質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ登記名義人ノ表示ノ變更
第十二條 登記官吏ハ自己、其妻又ハ四親等内ノ親族カ申請人ナルトキハ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル成年者ニシテ且登記官吏ノ妻又ハ四親等内ノ親族ニ非サル者二人以

上ノ立會アルニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得但親族ニ付テハ親族關係カ止ミタル後亦同シ
前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ調書ヲ作り立會人ト共ニ之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

第三章 登記ニ關スル帳簿

第十四條 登記簿ハ土地登記簿及ヒ建物登記簿ノ二種トス
各種ノ登記簿ハ市ニ付テハ從前ノ區畫ニ從ヒ別冊ト爲シ町村ニ付テハ町村毎ニ別冊ト爲ス但登記事件夥多ナル町村ニ付テハ大字其他從前ノ區畫ニ從ヒ別冊ト爲スコトヲ得
第十五條 登記簿ハ一筆ノ土地又ハ一棟ノ建物ニ付キ一用紙ヲ備フ
同一ノ登記所ノ管轄ニ屬スル不動產カ登記簿ヲ分設シタル數箇ノ區畫ニ跨カルトキハ其一箇ノ區畫ノ登記簿ニノミ其不動產ニ關スル用紙ヲ備フ

第十六條 登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙ノ二區ニ分チ尙ホ表題部ニ

表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク
 登記番號欄ニハ各土地又ハ各建物ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス
 表示欄ニハ土地又ハ建物ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス
 甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス
 乙區事項欄ニハ所有權以外ノ權利ニ關スル事項ヲ記載ス
 順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス
 第十七條 削除
 第十八條 登記簿ニハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺捺シ且毎葉ノ綴目ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス
 第十九條 土地登記簿及ヒ建物登記簿ニ付キ各其見出帳ヲ設ク
 第二十條 登記簿、見出帳、共同人名簿及ヒ圖面ハ永久ニ之ヲ保存スルコトヲ要ス
 第二十一條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求シ又利害

ノ關係アル部分ニ限り登記簿又ハ其附屬書類ノ閲覧ヲ請求スルコトヲ得
 手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得
 第二十一條ノ二 登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者カ不動産ノ目錄ヲ提出シタルトキハ登記所ハ其書面ヲ用キテ謄本又ハ抄本ヲ作成スルコトヲ得
 第二十二條 登記簿及ヒ其附屬書類ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外登記所外ニ持出スコトヲ得ス但第二十二條ノ二項ニ掲ケタル書類ニ付テハ裁判所又ハ豫審判事ノ命令又ハ囑託アリタルトキハ此限ニ在ラス
 第二十三條 登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ三ヶ月ヨリ少カラサル期間ヲ定メ其期間内ニ登記ノ回復ヲ申請スル者ハ仍ホ其登記簿ニ於ケル順位ヲ有スヘキ旨ヲ告示スルコトヲ要ス
 第二十四條 登記簿及ヒ其附屬書類ノ滅失スル虞アルトキハ司法大臣ハ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得
 第四章 登記手続
 第一節 通則
 第二十五條 登記ハ法律ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請又ハ官廳若クハ公署ノ囑託アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託ニ因ル登記ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外申請ニ因ル登記ニ關スル規定ヲ準用ス
 第二十六條 登記ハ登記權利者及ヒ登記義務者又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス
 第二十七條 判決又ハ相續ニ因ル登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得
 第二十八條 登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ登記名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得
 抵當證券ノ發行アリタル場合ニ於テハ債務者ノ表示ノ變更登記ハ債務者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得
 第二十八條ノ二 滯納處分ニ因ル差押ノ登記ヲ囑託スル場合ニ於テ必要アルトキハ官廳又ハ公署ハ登記名義人又ハ相續人ニ代ハリ不動産ノ表示若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル權利移轉ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス
 第二十八條ノ三 第四十六條ノ二、第二十條ノ三、第六十條ノ二及ヒ第六十三條ノ三ノ規定ハ前條ノ登記ニ之ヲ準用ス
 第二十九條 官廳又ハ公署ノ公費處分ニ因ル權利移轉ノ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ其官廳又ハ公署ヨリ滯留ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ

囑託スルコトヲ要ス
 第三十條 官有不動産又ハ府縣、郡、市、町村若クハ區ノ所有ニ係ル不動産ニ關スル權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳若クハ公署ヨリ滯留ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス
 第三十一條 官廳又ハ公署カ不動産ニ關スル權利ヲ取得シタルトキハ其權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ其官廳又ハ公署ヨリ滯留ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面及ヒ登記義務者ノ承諾書ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス
 官廳又ハ公署カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ變更又ハ處分ノ制限ニ付キ爲スヘキ登記ハ官廳又ハ公署カ登記權利者ナルトキハ職權ヲ以テ、登記義務者ナルトキハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳又ハ公署ヨリ滯留ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス
 官廳又ハ公署カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ消滅ノ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳又ハ公署ヨリ滯留ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十二條 假登記ハ次條ノ場合ヲ除ク外假登記權利者ノ申請ニ因リ其目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ滯留ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス
 前項ノ假處分命令ハ假登記權利者カ假登記原因ヲ説明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス
 申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス
 第三十三條 假登記ハ假登記義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其承諾書ヲ添附シテ假登記權利者ヨリ之ヲ登記所ニ申請スルコトヲ得
 第三十四條 豫告登記ハ第三條ニ掲ケタル訴ヲ受理シタル裁判所ヨリ職權ヲ以テ滯留ナク囑託書ニ訴狀ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス
 第三十五條 登記ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス
 一 申請書
 二 登記原因ヲ證スル書面
 三 登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證
 四 登記原因ニ付キ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書

五 代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其權限ヲ證スル書面
 登記原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ前項第三號及ヒ第四號ニ掲ケタル書面ヲ提出スルコトヲ要セス
 第三十六條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノニ署名捺印スルコトヲ要ス
 一 不動産所在ノ郡、市、區、町村、字及ヒ土地ノ番號
 二 地目及ヒ段別又ハ坪數
 三 申請人ノ氏名、住所若シ申請人カ法人ナルトキハ其名稱及ヒ事務所
 四 代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其氏名、住所
 五 登記原因及ヒ其日附
 六 登記ノ目的
 七 登記所ノ表示
 八 年月日
 第三十七條 登記スヘキ權利ノ目的カ建物ナル場合ニ於テハ申請書ニ其種類、構造及ヒ建坪ヲ記載シ若シ建物ノ番號アルトキハ其番號ヲ記載シ附屬建物アルトキハ其種類、構造及ヒ建坪ヲ記載スルコトヲ要ス
 前條第二號ニ掲ケタル事項ハ前項ノ申請書ニハ之ヲ記載スルコトヲ要セス
 第三十八條 登記原因ニ買戻ノ特約其他登記

ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條 登記權利者カ多數ナル場合ニ於テ登記原因ニ其持分ノ定アルトキハ申請書ニ其持分ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十條 登記原因ヲ證明スル書面カ初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ申請書ノ副本ヲ提出スルコトヲ要ス

第四十一條 登記原因カ相續ナルトキハ申請書ニ相續ヲ證明スル(戸籍吏)ノ書面又ハ之ヲ證明スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第四十二條 申請人カ登記權利者又ハ登記義務者ノ相續人ナルトキハ申請書ニ其身分ヲ證明スル(戸籍吏)ノ書面又ハ之ヲ證明スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第四十三條 登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其表示ノ變更ヲ證明スル(戸籍吏)ノ書面又ハ之ヲ證明スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第四十四條 登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟力減失シタルトキハ申請書ニ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル成年者二人以上カ登記義務者ノ人違ナキコトヲ保證シタル書面

事項欄ニ登記ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的其他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ登記スヘキ權利ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第四十六條 ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲スニハ前項ノ規定ニ依ルノ外事項欄ニ債權者ノ氏名又ハ名稱、住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十一條 登記權利者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ登記用紙ニ記載シ其氏名、住所ヲ共同人名簿ニ記載スルコトヲ得登記義務者ノ氏名、住所ヲ登記用紙ニ記載スルコトヲ要ス

第五十二條 表示欄ニ登記ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ記載シ事項欄ニ登記ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十三條 附記ニ依ル登記ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登記ノ番號ヲ用キ其番號ノ左側ニ附記何號ト記載スルコトヲ要ス

第五十四條 假登記ハ登記用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ其左側ニ餘白ヲ存スルコトヲ要ス

二通り添付スルコトヲ要ス
第四十五條 申請書ニ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其第三者ヲシテ申請書ニ署名、捺印セシメテ其書面ニ代フルコトヲ得

第四十六條 同一ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數個ノ不動産ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テハ登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ナルトキニ限り同一ノ申請書ヲ以テ登記ヲ申請スルコトヲ得

第四十七條 債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ債權者及ヒ債務者ノ氏名又ハ名稱、住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載シ且代位原因ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第四十八條 登記官吏ハ受附番號ノ順序ニ從テ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ申請書ニ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ之ヲ申請人ニ交付スルコトヲ要ス

第五十五條 假登記ヲ爲シタル後本登記ノ申請アリタルトキハ假登記ノ左側ニ餘白ニ其登記ヲ爲スルコトヲ要ス

第五十六條 權利ノ變更ノ登記ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ニ於テハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ證據ヲ添付シタルトキニ限リ附記ニ依リテ其登記ヲ爲ス尙權利ノ變更ノ登記ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル抵當證券ノ所持人又ハ裏書人アルトキハ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ證據ヲ添付スルコトヲ要ス

第五十七條 權利ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ變更シタル登記事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第五十八條 登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第五十九條 行政區畫又ハ其名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス字又ハ其名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

第六十條 登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記原因ヲ證明スル書面又ハ申請書ノ副本ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十九條 ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス
登記官吏ハ左ノ場合ニ限り理由ヲ附シタル決定ヲ以テ申請ヲ却下スルコトヲ要ス但申請ノ欠缺カ補正スルコトヲ得ヘキモノナル場合ニ於テ申請人カ即日ニ之ヲ補正シタルトキハ此限ニ在ラス

- 一 事件カ其登記所ノ管轄ニ屬セサルトキ
- 二 事件カ登記スヘキモノニ非サルトキ
- 三 當事者カ出頭セサルトキ
- 四 申請書カ方式ニ適合セサルトキ
- 五 申請書ニ掲ケタル不動産又ハ登記ノ目的タル權利ノ表示カ登記簿ト抵觸スルトキ
- 六 第四十二條ニ掲ケタル書面ヲ提出シタル場合ヲ除ク外申請書ニ掲ケタル登記義務者ノ表示カ登記簿ト符合セサルトキ
- 七 申請書ニ掲ケタル事項カ登記原因ヲ證明スル書面ト符合セサルトキ
- 八 申請書ニ必要ナル書面又ハ圖面ヲ添付セサルトキ
- 九 登録稅ヲ納付セサルトキ

第五十條 表示欄ニ登記ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、登記ノ目的其他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ不動産ノ表示ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第六十二條 官廳又ハ公署カ登記権利者ノ爲メニ登記ヲ屬シタル場合ニ於テ登記所ヨリ登記簿ニ送付ヲ受ケタルトキハ過期ナク之ヲ登記簿ニ交付スルコトヲ要ス

第六十三條 登記官吏カ登記ヲ完了シタル後其登記ニ付錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ過期ナク其旨ヲ登記簿ニ及ヒ登記義務者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ニ通知スルヲ以テ足ル

第六十四條 前條ノ場合ニ於テ登記ノ錯誤又ハ遺漏カ登記官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ヲ除ク外登記官吏ハ過期ナク地方裁判所長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲シ其旨ヲ登記簿ニ及ヒ登記義務者ニ通知スルコトヲ要ス

第六十五條 前條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十六條 前二條ノ通知ハ第四十六條ノ二ノ場合ニ於テハ債權者ニ亦之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十七條 第五十六條及ヒ第五十七條ノ規定ハ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六十八條 抹消シタル登記ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ原本ヲ添付スルコトヲ要ス尙登記ノ回復ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル抵當證券ノ所持人又ハ裏書人アルトキハ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ原本ヲモ添付スルコトヲ要ス

第六十九條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第七十條 前條ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ申請書ニ前項ノ順位番號申請書受附ノ年月日、受附番號ヲ記載シ前項ノ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第七十一條 第六十九條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記簿ニ送付シタルトキハ登記簿ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ不動產ノ表示ヲ爲シ相當區區位番號欄ニ前項ノ番號ヲ記載シ事項欄ニ前項ノ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十二條 前二條ノ規定ニ依リテ定メタル期間中新登記ノ申請アリタルトキハ假設登記簿ニ其登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第七十三條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第七十四條 假設登記簿ノ登記簿ニ送付スル場合ニ於テハ同復シタル登記簿ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ事項欄ニ前項ノ番號ヲ記載シ事項欄ニ前項ノ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十五條 假設登記簿ノ登記簿ニ送付スル場合ニ於テハ同復シタル登記簿ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ事項欄ニ前項ノ番號ヲ記載シ事項欄ニ前項ノ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十六條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第七十七條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第七十八條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第七十九條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第八十條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第八十一條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第八十二條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第八十三條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第八十四條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第八十五條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第八十六條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第八十七條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第八十八條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第八十九條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第九十條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第九十一條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第九十二條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第九十三條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第九十四條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第九十五條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第九十六條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第九十七條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第九十八條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第九十九條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

第一百條 登記簿ニ送付シタルトキハ前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ送付スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ甲地ノ登記用紙中表層欄ニ殘餘部分ノ表示ヲ爲シ分割ニ因リテ他ノ部分ヲ登記何號ニ移シタル旨ヲ記シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第八十三條 前條第一項ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ヲ轉寫シ且所有權以外ノ權利ニ關スル登記中ニ甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨ヲ申請書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ登記官更捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ヨリ乙地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ヲ轉寫シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ乙地ト共ニ其權利ノ目的タル旨ヲ附記スルコトヲ要ス

申請書ニ所有權以外ノ權利ノ登記名義人カ乙地ニ關シ其權利ノ消滅ヲ承諾シタルコトヲ證明スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ其旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第八十四條 甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ乙地ノミカ所有權以外ノ權利ノ目的タルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其ノ權利ニ關スル登記ヲ移

シ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官更捺印スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ甲地ノ登記用紙中所有權以外ノ權利ニ關スル登記ニ乙地ノ表示ヲ爲シ分割ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ附記シ其登記ヲ朱抹スルコトヲ要ス申請書ニ所有權以外ノ權利ノ登記名義人カ其登記ノ消滅ヲ承諾シタルコトヲ證明スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ其旨ヲ附記シ其登記ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第八十五條 甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ニ合併シタル場合ニ於テ合併ノ登記ヲ爲ストキハ乙地ノ登記用紙中表層欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ轉寫シ其登記カ合併シタル部分ノミニ關スル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官更捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ轉寫シ合併シタル部分ノミカ甲地ト共ニ其權利ノ目的

タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官更捺印スルコトヲ要ス

第八十二條第二項、第八十三條第二項、第三項及ヒ前條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十六條 甲地ヲ乙地ニ合併シタル場合ニ於テ合併ノ登記ヲ爲ストキハ乙地ノ登記用紙中表層欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙中表層欄ニ合併ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ甲地ノ表示、其番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第八十七條 前條ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ移シ其登記カ甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官更捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ移シ甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官更捺印スルコトヲ要ス

第八十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之

ヲ準用ス

第八十八條 土地ノ段別又ハ坪數ノ増減ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表層欄ニ増減ノ原因ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第八十九條 地目又ハ土地ノ番號ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第九十條 削除

第九十一條 建物ノ分合、其番號若クハ構造ノ變更、其滅失、其建坪ノ増減又ハ附屬建物ノ新築アリタルトキハ其建物ノ所有權ノ登記名義人ハ遲滞ナク登記ヲ申請スルコトヲ要ス

建物ノ敷地ノ番號ノ變更アリタルトキ亦同シ

第九十二條 前條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ分合シタル建坪、新番號若クハ新構造又ハ滅失、増減若クハ新築シタル建坪並ニ現在ノ建坪ヲ記載シ又ハ敷地ノ新番號ヲ記載シ且建物ノ分合、構造ノ變更又ハ建坪ノ増減ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ其圖面ヲ添付スルコトヲ要ス

第九十三條 建物ノ分合、其構造ノ變更、其滅失又ハ其建坪ノ減少ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其建物ノ登記用紙ニ所有權以外ノ

權利ニ關スル登記アルトキハ第八十一條ノ規定ヲ準用ス

第九十四條 甲建物又ハ其附屬建物ヲ分割又ハ區分シテ之ヲ乙建物ト爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割又ハ區分ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ甲建物ノ登記用紙中表層欄ニ殘餘部分ノ表示ヲ爲シ分割又ハ區分ニ因リテ他ノ部分ヲ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス但分割又ハ區分シタル附屬建物ノミニ關スル表示番號アルトキハ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第九十五條 甲建物又ハ其附屬建物ヲ分割又ハ區分シテ之ヲ乙建物ノ附屬建物ト爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲ストキハ乙建物ノ登記用紙中表層欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十六條 第八十三條及ヒ第八十四條ノ規定ハ第九十四條ノ場合ニ之ヲ準用ス但甲建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ分割又ハ區分シタル附屬建物ニ關スル登記原因ヲ記載ナキトキハ第八十三條ニ定メタル手續ヲ爲ス

外乙建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ申請人ノ氏名、住所及ヒ分割又ハ區分ニ因リテ其者ノ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十七條 第八十五條第二項乃至第四項ノ規定ハ第九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス但甲建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ分割又ハ區分シタル附屬建物ニ關スル登記原因ヲ記載ナキトキハ第八十五條第二項乃至第四項ニ定メタル手續ヲ爲ス外乙建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ申請人ノ氏名、住所及ヒ合併ニ因リテ其者ノ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十八條 甲建物ヲ乙建物又ハ其附屬建物ニ合併シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲スニ付テハ第八十六條及ヒ第八十七條ノ規定ヲ準用ス但甲建物ヲ乙建物ノ附屬建物ニ合併シタル場合ニ於テハ乙建物ノ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要セス

第九十九條 第八十八條ノ規定ハ建物又ハ附屬建物ノ新築ノ登記ヲ爲ストキハ主たる建物ノ登記用紙中表層欄ニ附屬建物ノ種類、構造及ヒ建坪ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百條 第八十九條ノ規定ハ建物ノ番號ノ變更、建物若クハ附屬建物ノ構造ノ變更又ハ敷地ノ番號ノ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百條ノ二 行政區畫又ハ字ノ變更ニ伴ヒ土地ノ番號ノ變更アリタルトキハ土地臺帳所管廳ハ遲滞ナク其旨ヲ登記所ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滞ナク登記用紙中表示欄ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百一條 不動産ノ滅失ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ滅失ノ原因ヲ記載シ不動産ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第百二條 前條ノ場合ニ於テ滅失シタル不動産力他ノ不動産ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的ヲシトキハ他ノ不動産ノ登記用紙中相當事項欄ニ滅失シタル不動産ノ表示ヲ爲シ滅失ノ原因及ヒ其不動産ノ滅失シタルコトヲ附記シ其不動産ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨ヲ記載シタル登記中滅失シタル不動産ノ表示ヲ抹スルコトヲ要ス

他ノ不動産ノ所在地力他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滞ナク前項ノ登記ヲ其登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ囑託ヲ受ケタル登記所ハ遲滞ナク第一項ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第百三條ノ二 既登記ノ不動産ヲ世傳料ニ編入シタル場合ニ於テ其登記ヲ抹消ノ囑託アリタルトキハ登記用紙中表示欄ニ世傳料

料ニ編入シタル旨ヲ記載シ不動産ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第百四條ノ三 既登記ノ土地力河川ノ敷地ト爲リタル場合ニ於テハ當該官廳ハ遲滞ナク其登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ必要アルトキハ當該官廳ハ登記名義人又ハ相續人ニ代ハリ土地ノ表示若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得

第一項ノ囑託ヲ受ケタル登記所ハ登記用紙中表示欄ニ河川ノ敷地ト爲リタル旨ヲ記載シ土地ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第百五條 土地ノ收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得其申請書ニハ補償金ノ受取證又ハ供託受領證ヲ添付スルコトヲ要ス

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ必要アルトキハ起業者ハ登記名義人又ハ相續人ニ代ハリ土地ノ表示若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

官廳又ハ公署力起業者ニルトキハ其官廳又ハ公署ハ遲滞ナク前二項ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第百六條ノ二 第四十六條ノ二、第五十條第三項、第六十條ノ二及ヒ第六十三條ノ三ノ規定ハ前百二條ノ三第三項及ヒ前條第二項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百七條ノ三 不動産ニ付キ遺留財産ノ設定又ハ増加ノ勅許アリタルトキハ當該官廳ハ遲滞ナク遺留財産ノ設定ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第百八條ノ四 前條ノ規定ハ王公家軌範ニ依ル世襲財産ノ設定又ハ増加ノ勅許アリタル場合ニ之ヲ準用ス(昭和二年法律第三、四號ヲ以テ本條追加)

第百九條 不動産ヲ華族世襲財産ト爲スコトヲ認可シタルトキハ當該官廳ハ遲滞ナク世襲財産ノ設定ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

華族世襲財産法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依ル管理財産中不動産アルトキハ當該官廳ハ遲滞ナク管理財産タル旨ヲ登記ヲ登記所ニ囑託シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ノ囑託スルコトヲ要ス

管理人力其管理中取得シタル不動産ニ付テハ取得ノ登記ト共ニ管理財産タル旨ヲ登記ヲ申請シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹

消ヲ申請スルコトヲ要ス

第百四條ノ二 不動産ノ信託ノ登記ニ付テハ受託者ヲ登記權利者トシ委託者ヲ登記義務者トス

第百四條ノ三 信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬スル不動産ノ信託ノ登記ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ信託法第二十七條ノ規定ニ基ク信託財産ノ復舊ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百四條ノ四 受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ信託ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

第四十六條ノ二ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登記ノ申請ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ申請書ニ代位原因ヲ記載スル書面ノ外登記ノ目的タル不動産力信託財産タルコトヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第百四條ノ五 信託ノ登記ノ申請ハ信託ニ因ル不動産ノ所有權ノ移轉ノ登記ノ申請ト同ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬スル不動産ノ取得ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第百四條ノ六 受託者更迭ノ場合ニ於テ所有權移轉ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其更迭ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託法第五十條第二項ノ場合ニ於テ爲スヘキ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百四條ノ七 受託者ノ任務力死亡、破産、禁治産、準禁治産又ハ裁判所若クハ主務官廳ノ解任命令ニ因リテ終了シタルトキハ前條ノ登記ハ新受託者又ハ他ノ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得受託者タル法人ノ任務力解散ニ因リテ終了シタルトキ亦同シ

第百四條ノ八 信託ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ申請書ニ添付スルコトヲ要ス

- 一 委託者、受託者、受益者及ヒ信託管理人ノ氏名、住所法人ニ在リテハ其名稱及ヒ事務所
- 二 信託ノ目的
- 三 信託財産ノ管理方法
- 四 信託終了ノ事由
- 五 其他信託ノ事項

前項ノ書面ニハ申請人署名、捺印スルコトヲ要ス

第百四條ノ九 前條ノ規定ニ依リ申請書ニ添付シタル書面ハ之ヲ信託原簿トシ信託原簿ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第百四條ノ十 裁判所力信託管理人ヲ選任シ又ハ解任シタルトキハ遲滞ナク信託原簿ノ記載ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス主務官廳力信託管理人ヲ選任シタルトキ亦同シ

第百四條ノ十一 前條ノ規定ハ裁判所又ハ主

務官廳力受託者ヲ解任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百四條ノ十二 裁判所力信託財産ノ管理方法ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク信託原簿ノ記載ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ主務官廳力信託ノ條項ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百四條ノ十三 前三條ノ場合ヲ除ク外第百四條ノ八第一項ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ受託者ハ遲滞ナク其變更ヲ證明スル書面ヲ添ヘテ信託原簿ノ記載ヲ申請スルコトヲ要ス但第百四條ノ六又ハ第百四條ノ七ノ場合ニ於テ登記ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ信託原簿ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第百四條ノ十四 第百四條ノ十一ノ規定ニ依リテ信託原簿ノ記載ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ登記簿ニ其旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第百四條ノ十五 第百四條ノ二乃至前條ノ規定ハ擔保附社債信託法ニ依ル登記ニ之ヲ適用セス

第百五條 未登記ノ土地所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

- 一 土地臺帳原本ニ依リ自己又ハ被相續人力土地臺帳ニ所有者トシテ登録セラレタルコトヲ證明スル者

二 判決ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者
第六六條 未登記ノ建物所有權ノ登記ハ左ニ
掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

一 建物ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者ト
シテ登記簿ニ登記セラレタル者
二 土地臺帳原本ニ依リ自己又ハ被相續
人カ土地臺帳ニ敷地ノ所有者トシテ登
録セラレタルコトヲ證スル者
三 既登記ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者
ノ證明書ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル
者

四 判決其他官廳又ハ公署ノ書面ニ依リ
自己ノ所有權ヲ證スル者
第七七條 前二條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請
スル場合ニ於テハ申請書ニ第五五條第何號
又ハ前條第何號ニ依リテ登記ヲ申請スル旨
ヲ記載シ必要ナル證明書類ヲ添付シ前條ノ
規定ニ依ル申請ニ付テハ圖面ヲ添付スルコ
トヲ要ス但登記原因及ヒ其日附ヲ記載シ又
ハ第三十五條第二號乃至第四號ニ掲ケタル
書面ヲ添付スルコトヲ要セス

第八八條 未登記ノ不動産所有權ノ登記ヲ爲
ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記
載スルコトヲ要ス
第九九條 第二百二十八條及ヒ第二百二十九條ノ
規定ハ未登記ノ不動産所有權ノ變更又ハ處
分ノ制限ノ登記ニ之ヲ準用ス

第一百十條 官廳又ハ公署カ未登記ノ不動産所
有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ
ハ第五五條又ハ第六六條ノ規定ニ依リテ證
明ヲ爲スコトヲ要セス
第三節 所有權以外ノ權利ニ關
スル登記手続

第一百一十條 地上權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ
申請スル場合ニ於テハ申請書ニ地上權設定
ノ目的及ヒ範圍ヲ記載シ若シ登記原因ニ存
續期間、地代又ハ其支拂時期ノ定アルトキ
ハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百一十二條 永小作權ノ設定又ハ移轉ノ登記
ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ小作料ヲ
記載シ若シ登記原因ニ存續期間、小作料ノ
支拂時期其他永小作人ノ權利若クハ義務ニ
關スル特約又ハ民法第二百七十二條但書ノ
定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百一十三條 地役權ノ設定ノ登記ヲ申請スル
場合ニ於テハ申請書ニ要役地ノ表示ヲ爲シ
地役權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載シ若シ登
記原因ニ民法第二百八十一條第一項但書、
第二百八十五條第一項但書又ハ第二百八十
六條ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要
ス
第一百一十四條 地役權ノ設定ノ登記ヲ爲シタル
トキハ要役地タル不動産ノ登記用紙中相當
區事項欄ニ承役地タル不動産ノ表示ヲ爲シ

其不動産カ地役權ノ目的タル旨、地役權設
定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載スルコトヲ要ス
要役地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ
遲滞ナク其登記所ニ承役地、要役地、地役
權設定ノ目的及ヒ範圍及ヒ申請書受附ノ年
月日ヲ通知スルコトヲ要ス
前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滞ナク要
役地タル不動産ノ登記用紙中相當區事項欄
ニ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要
ス

第一百五條 先取特權ノ保存ノ登記ヲ申請ス
ル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若
シ登記原因ニ辨濟額ノ定アルトキハ之ヲ記
載スルコトヲ要ス但不動産工事ノ先取特權
ノ保存ニ付テハ其工事費用ノ豫算額ヲ記載
スルコトヲ要ス

第十六條 質權ノ設定又ハ轉質ノ登記ヲ申
請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載
シ若シ登記原因ニ存續期間若クハ辨濟期ノ
定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、連
約金若クハ賠償額ノ定アルトキ、債權ニ條
件ヲ附シタルトキ、民法第三百四十六條但
書ノ定アルトキ、第三百五十六條若クハ第
三百五十七條ノ規定ニ異ナリタル定アルト
キ又ハ第三百七十條但書ノ定アルトキハ之
ヲ記載スルコトヲ要ス
第十七條 抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル

場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ
登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關
スル定アルトキ、其發生期若クハ支拂時期
ノ定アルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ
又ハ民法第三百七十條但書ノ定アルトキハ
之ヲ記載スルコトヲ要ス
第十八條 先取特權、質權又ハ抵當權ノ保
存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其
權利ノ目的カ所有權以外ノ權利ナルトキハ
申請書ニ其權利ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス
第十九條 質權又ハ抵當權ノ設定ノ登記ヲ
申請スル場合ニ於テ設定者カ債務者ニ非サ
ルトキハ申請書ニ債務者ノ表示ヲ爲スコト
ヲ要ス
質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ヲ申請スル場
合ニ於テハ申請書ニ質權又ハ抵當權カ債權
ト共ニ移轉スルヤ否ヤヲ記載スルコトヲ要
ス

第二十條 一定ノ金額ヲ目的トセザル債權
ノ擔保タル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保
存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ
申請書ニ其債權ノ價格ヲ記載スルコトヲ要
ス
第二十一條 官吏又ハ公吏ノ身元保證ヲ目
的トスル抵當權ノ設定ノ登記ハ囑託書ニ其
官吏又ハ公吏カ差出シタル登記請求書ヲ添
附シテ該官吏又ハ公署ヨリ遲滞ナク之ヲ
登記所ニ囑託スルコトヲ要ス
第二十二條 數箇ノ不動産ニ關スル權利ヲ
目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保
存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ
申請書ニ各不動産ニ關スル權利ノ表示ヲ爲
スコトヲ要ス

第二十三條 債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨
濟ニ因ル先取特權、質權又ハ抵當權ノ移轉
ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓
渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載ス
ルコトヲ要ス
第二十四條 第二百二十二條ノ規定ニ從ヒテ
登記ノ申請アリタル場合ニ於テ其一箇ノ不
動產ニ關スル權利ニ付キ登記ヲ爲ストキハ
其不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ他ノ
不動産ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其權利カ
共ニ擔保ノ目的タル旨ヲ記載スルコトヲ要
ス
第二十四條ノ二 申請書ニ共同擔保目録ヲ
添付シタル場合ニ於テ其一箇ノ不動産ニ關
スル權利ニ付キ登記ヲ爲ストキハ其不動産
ノ登記用紙中相當區事項欄ニ共同擔保目録
ニ掲ケタル他ノ不動産ニ關スル權利ト共ニ
擔保ノ目的タル旨ヲ記載スルコトヲ要ス
第二十四條ノ三 共同擔保目録ハ之ヲ登記
簿ノ一部ト看做シ其記載ハ之ヲ登記ト看做
ス
第二十四條ノ四 第二百二十二條ノ三ノ規定
ニ依ル登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記
ヲ爲ストキハ其登記及ヒ前ノ登記ニ各不動

第二百二十四條 先取特権、質権又ハ抵當権ノ移轉ノ登記ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第二百二十五條 先取特権、質権又ハ抵當権ノ先取特権、質権又ハ抵當権ノ目的タル場合ニ於テ其第一箇ノ不動産ニ關スル權利ヲ目的トシテ先取特権、質権又ハ抵當権ノ消滅ノ登記ヲ爲シタルトキハ他ノ不動産ニ關スル權利ニ付キ第二百二十四條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記ニ其旨ヲ附記シ消滅ニ係ル事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス其第一箇ノ不動産ニ關スル權利ノ表示ニ付キ變更ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二百二十六條 前條ノ第一項ノ規定ニ從ヒテ爲スヘキ登記ハ共同擔保目録アル場合ニ於テハ其目録ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十七條 登記官更力抵當證券ヲ交付シタルトキハ抵當權ヲ以テ抵當權設定ノ登記ニ其旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第二百二十八條 登記官更力抵當證券法第五條第二項ノ囑託ニ因リ抵當證券ヲ作成シタルトキハ抵當權ヲ以テ抵當權設定ノ登記ニ

其旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第二百二十九條 前條第一項ノ規定ニ依ル登記アリタル不動産ニ付キ同條第二項ノ囑託ニ因リ抵當證券交付ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記ハ同條第一項ノ規定ニ依ル登記ノ時ニ遡リテ其効力ヲ生ス

第二百三十條 貸借權ノ設定又ハ貸借物ノ轉貸ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ借貸ノ支拂時期ノ定アルトキ又ハ貸借權ノ移轉若クハ貸借物ノ轉貸ヲ許シタルトキハ之ヲ記載シ貸借借主ノ者カ處分ノ能力若クハ權限ヲ有セザル者ナルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百三十一條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲スコキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ爲シ甲區事項欄ニ何權利ヲ目的トスル何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ且所有權以外ノ權利ヲ登記スヘキ相當區事項欄ニ權利者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ何權利ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百三十二條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲スコキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ爲シ甲區事項欄ニ何權利ヲ目的トスル何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ且所有權以外ノ權利ヲ登記スヘキ相當區事項欄ニ權利者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ何權利ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百三十三條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲スコキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ爲シ甲區事項欄ニ何權利ヲ目的トスル何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ且所有權以外ノ權利ヲ登記スヘキ相當區事項欄ニ權利者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ何權利ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百三十四條 前條ノ規定ハ所有權以外ノ權利又ハ其權利ノ目的トスル權利ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二百三十五條 官廳又ハ公署カ未登記ノ不動産ニ付キ所有權以外ノ權利若クハ其權利ノ目的トスル登記ニ關スル登記又ハ既登記ノ不動産ニ付キ未登記ノ所有權以外ノ權利ノ目的トスル登記ニ關スル登記ヲ登記所ニ屬託スル場合ニ於テハ裁判ニ依リテ其權利ヲ證明スルコトヲ要セス

第二百三十六條 建物ヲ新築スル場合ニ於テ不動産工務ノ先取特権ノ保存ノ登記ヲ申請スルトキハ申請書ニ設計書ニ定メタル其建物ノ種類、構造、建坪、建物ノ新築スヘキ都、市、區、町村、字土地ノ番號及ヒ工事費用ノ豫算額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ

第二百三十七條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲スコキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ新築スヘキ建物ノ表示ヲ爲シ且其建物ノ種類、構造及ヒ建坪ハ設計書ニ依ル旨ヲ記載シ甲區事項欄ニ登記義務者ノ氏名、住所及ヒ不動産工務ノ先取特権ノ保存ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百三十八條 既登記ノ主タル建物ノ附屬建物ヲ新築スル場合ニ於テ不動産工務ノ先取特権ノ保存ノ登記ヲ爲スコキハ主タル建物ノ登記用紙中表示欄ニ新築スヘキ附屬建物ノ表示ヲ爲シ且其建物ノ種類、構造及ヒ建坪ハ設計書ニ依ル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百三十九條 建物ヲ新築スルニ付キ不動産工務ノ先取特権ノ保存ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其建物ノ建築力終ハリタルトキハ其建物ノ所有權ハ遲滞ナク新築ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス但第六條及ヒ第七條ノ適用ヲ妨ケス

第二百四十條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲スコキハ登記用紙中表示欄ニ更ニ抹スルコトヲ要ス但前條第一項ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ不動産工務ノ先取特権ノ保存ニ關シテ甲區事項欄ニ爲シタル登記ヲモ朱抹スルコトヲ要ス

第二百四十一條 登記シタル權利カ或人ノ死亡ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ其死亡ヲ證明スル(戸籍吏)ノ書面其他ノ證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百四十二條 登記權利者カ登記義務者ノ行方ノ知レサルニ因リテ之ト共ニ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ能ハサルトキハ民事訴訟法ノ登記ニ從ヒテ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二百四十三條 前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其除權判決アリタル事ヲ記載シ且第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書及ヒ債權消滅ノ最後ノ二年分ノ定期金ノ受取證書ヲ添附シタルトキハ登記權利者ノミニテ先取特権、質権又ハ抵當權ニ關スル登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第二百四十四條 遺留財産ノ廢止ノ勅許ヲ

リタルトキハ當該官廳ハ遲滞ナク遺留財産ノ設定ノ登記ヲ抹消シ登記所ニ屬託スルコトヲ要ス遺留財産ノ相續人ナキトキ亦同シ

第四百二十二條ノ三 前條ノ規定ハ王家軌範ニ依ル世襲財産ノ解除ノ勅許アリタル場合及ヒ世襲財産ノ失効アリタル場合ニ之ヲ準用ス（昭和二年法律第三十四號ヲ以テ本條追加）

第四百二十三條 華族世襲財産ノ廢止又ハ失効アリタルトキハ當該官廳ハ遲滞ナク華族世襲財産ノ設定ノ登記ヲ抹消シ登記所ニ屬託スルコトヲ要ス

第四百三十三條ノ二 信託財産タル不動産ニ關スル權利ノ移轉ニ因リ其權利カ信託財産ニ屬セサルニ至リタル場合ニ於テ爲スヘキ信託登記抹消ノ申請ハ移轉登記ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託終了ニ因リ信託財産タル不動産ニ關スル權利カ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ擔保附債信託法ニ依ル登記ニ之ヲ適用セス

第四百四十四條 假登記ノ抹消ハ假登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

申請書ニ假登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ原本ヲ添付シタルトキハ登記上ノ利害關係人ヨリ假登記ノ

抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四百四十五條 第三條ニ掲ケタル訴ヲ却下シタル裁判若クハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタル裁判カ確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ拋棄アリタルトキ、又ハ請求ノ目的ニ付キ和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ遲滞ナク屬託書ニ裁判ノ原本若クハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ拋棄若クハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添付シテ豫告登記ノ抹消ヲ登記所ニ屬託スルコトヲ要ス

第四百四十六條 登記ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其抹消ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ原本ヲ添付スルコトヲ要ス尙登記ノ抹消ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル抵當證券ノ所持人又ハ裏書人アルトキハ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ原本ヲ添付スルコトヲ要ス抵當證券ノ發行アリタル場合ニ於テハ其抵當權ノ抹消ノ登記ノ申請書ニ抵當證券ヲ添付スルコトヲ要ス

第四百四十七條 登記ノ抹消スルニハ抹消ノ登記ヲ爲シタル後抹消スルニハ抹消ノ權利ヲ目的トスル第三者ノ權利ニ關スル登記アルトキハ登記用紙中相當區事項欄ニ其第

三者ノ權利ノ表示ヲ爲シ何權利ノ登記ヲ抹消シタルニ因リテ抹消ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四百四十八條 第二十九條ノ規定ニ從ヒ官廳又ハ公署ヨリ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ノ屬託アリタル場合ニ於テハ權利處分ニ關スル差押ノ登記ヲ抹消シ若シ其權利ヲ目的トセル先取特權、質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第四百四十九條 第三百三條ノ規定ニ從ヒ土地收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ノ申請又ハ屬託アリタル場合ニ於テ其不動産ノ登記用紙中所有權又ハ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス但其不動産ノ爲メニ存スル地役權ノ登記ハ此限ニ在ラス

第四百四十九條ノ二 登記官吏ハ登記ヲ完了シタル後其登記カ第四十九條第一號又ハ第二號ニ該當スルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記權利者、登記義務者及ヒ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ對シテ一個月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

通知ヲ受クヘキ者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ商業登記ニ付キ定メタル公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スル

コトヲ要ス

登記官吏ハ前項ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得

第四百四十九條ノ三 異議ノ申立アリタルトキハ登記官吏ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第四百四十九條ノ四 前條第二項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第四百四十九條ノ五 異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判カ確定シタルトキハ登記官吏ハ機權ヲ以テ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス若シ登記完了ノ後ナルトキハ其登記ニ付キ異議アル旨ノ附記ヲ爲シ之ヲ登記上ノ利害關係人ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第四百五十四條 抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス

抗告裁判所ハ抗告ニ付キ決定ヲ爲ス前登記官吏ニ假登記ヲ命スルコトヲ得

第四百五十五條 抗告裁判所カ抗告理由アリトスルトキハ決定ヲ以テ登記官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告裁判所ハ登記上ノ利害關係人ニ決定ノ原本ヲ送達スルコトヲ要ス

第四百五十六條 抗告裁判所ノ決定ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第四百五十七條 登記官吏カ抗告裁判所ノ命令ニ依リテ登記ヲ爲ストキハ命令ヲ爲シタル裁判所、命令ノ年月日、命令ニ依リテ登記ヲ爲ス旨及ヒ登記ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第四百五十八條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ適背シタル決定ナルコトヲ理由トスルトキニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百五十四條乃至第四百五十七條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第四百五十九條 送達ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用シ抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手

續法ノ規定ヲ準用ス

第六十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十二年勅令第三百三十四號ヲ以テ同年六月十六日ヨリ施行ス）

第六十一條 明治十九年法律第一號登記法中地所及ヒ建物ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第六十二條 明治六年第十八號布告地所賣入書入規則又ハ同八年第四百八號布告建物書入規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル書面ノ權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ一年内ニ債權者ヨリ其登記ヲ申請セサルトキハ其權利ハ公證ノ效力ヲ失フ

前項ノ規定ニ從ヒテ登記シタル權利ノ順位ハ公證ノ順位ニ依ル

第六十三條 本法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ本法施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記簿ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記簿番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當區順位番號欄及ヒ事項欄ニ舊登記簿ノ用紙中抹消ニ係ラサル番號及ヒ事項ヲ移シ舊登記簿ノ用紙中新登記簿ノ用紙ニ移シタ

コトヲ要ス

登記官吏ハ前項ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得

第四百四十九條ノ三 異議ノ申立アリタルトキハ登記官吏ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第四百四十九條ノ四 前條第二項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第四百四十九條ノ五 異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判カ確定シタルトキハ登記官吏ハ機權ヲ以テ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス若シ登記完了ノ後ナルトキハ其登記ニ付キ異議アル旨ノ附記ヲ爲シ之ヲ登記上ノ利害關係人ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第四百五十四條 抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス

抗告裁判所ハ抗告ニ付キ決定ヲ爲ス前登記官吏ニ假登記ヲ命スルコトヲ得

第四百五十五條 抗告裁判所カ抗告理由アリトスルトキハ決定ヲ以テ登記官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告裁判所ハ登記上ノ利害關係人ニ決定ノ原本ヲ送達スルコトヲ要ス

第四百五十六條 抗告裁判所ノ決定ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第四百五十七條 登記官吏カ抗告裁判所ノ命令ニ依リテ登記ヲ爲ストキハ命令ヲ爲シタル裁判所、命令ノ年月日、命令ニ依リテ登記ヲ爲ス旨及ヒ登記ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第四百五十八條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ適背シタル決定ナルコトヲ理由トスルトキニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百五十四條乃至第四百五十七條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第四百五十九條 送達ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用シ抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手

續法ノ規定ヲ準用ス

第六十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十二年勅令第三百三十四號ヲ以テ同年六月十六日ヨリ施行ス）

第六十一條 明治十九年法律第一號登記法中地所及ヒ建物ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第六十二條 明治六年第十八號布告地所賣入書入規則又ハ同八年第四百八號布告建物書入規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル書面ノ權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ一年内ニ債權者ヨリ其登記ヲ申請セサルトキハ其權利ハ公證ノ效力ヲ失フ

前項ノ規定ニ從ヒテ登記シタル權利ノ順位ハ公證ノ順位ニ依ル

第六十三條 本法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ本法施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記簿ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記簿番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當區順位番號欄及ヒ事項欄ニ舊登記簿ノ用紙中抹消ニ係ラサル番號及ヒ事項ヲ移シ舊登記簿ノ用紙中新登記簿ノ用紙ニ移シタ

ル番號及ビ事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス
第六十四條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ司
法大臣之ヲ定ム

附則 (大正二年法律第十八號)
第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム(大正二年勅令第九十一號ヲ以テ同年六
月一日ヨリ施行ス)

第二條 本法施行前ニ登記所ノ受附タル事件
ハ從前ノ規定ニ依リ完結ス

第三條 本法施行前ニ調製シタル登記簿ハ當
分ノ内之ヲ使用スルコトヲ得

第四條 本法ニ依リ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲
ス場合ニ於ケル登記番號ハ從來ノ番號ヲ追
ヒテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第五條 從前ノ規定ニ依リ登記用紙中表題部
又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リ
タルトキハ本法ニ依リ登記簿ニ繼續用紙ヲ
設ケルコトヲ要ス

第六條 所有權以外ノ權利ニ關スル登記ノ前
後ハ從前ノ規定ニ依リ登記簿ニ爲シタルモ
ノト本法ニ依リ登記簿ニ爲シタルモノトノ
間ニ在リテハ受附番號ニ依リ

第七條 從前ノ規定ニ依リ登記簿ニ爲シタル
所有權以外ノ權利ニ關スル登記ニ付キ本法
ニ依リ登記簿ニ附記登記ヲ爲ス場合ニ於テ
ハ主登記ヲ爲シタル區ノ名稱ヲ記載スルコ
トヲ要ス

第八條 從前ノ規定ニ依リ登記簿ヨリ本法ニ
依リ登記簿ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登
記ヲ移シ又ハ轉寫スルトキハ受附番號ノ順
序ヲ追ヒテ新ナル順位番號ヲ記載シテ左側
ニ從前ノ規定ニ依リ登記簿ニ於ケル區ノ名
稱及ヒ順位番號ヲ記載ヘルコトヲ要ス

第九條 不動産登記法施行前ニ登記シタル不
動產ニ付キ本法施行ノ後登記ノ申請アリタ
ル場合ニ於テ本法ニ依リ登記簿ニ登記ヲ爲
ストキハ第六十三條ノ規定ヲ準用ス

第十條 明治三十九年法律第五十號ハ之ヲ廢
止ス

不動産登記法施行細則

(明治三十二年五月十二日)
(司法省令第十一號)

改正、明治三二一司令五、明治三四一
司令一七、明治三五二司令一三、
明治三六一司令二五、明治三七一
司令一八、大正二二司令一五、大
正三三司令三、司令八、大正五一
司令一九、司令二四、大正一一一
司令四六、昭和二一司令一〇、昭和
四一司令一六、昭和六一司令二四、
昭和八一司令二〇、司令三一、昭
和九一司令八

第一章 登記ニ關スル帳簿

第一條 土地登記簿及ヒ建物登記簿ハ附録第
一號雜形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製
スヘシ

第二條 共同人名簿ハ土地共同人名簿及ヒ建
物共同人名簿ノ二種トス

共同人名簿ハ登記簿ヲ分設シタル區畫ニ從
ヒ別冊ト爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコ
トヲ得

共同人名簿ヲ合綴シタル場合ニ於テハ登記
簿ヲ分設シタル區畫毎ニ見出ヲ附スヘシ

第三條 土地共同人名簿及ヒ建物共同人名簿
ハ附録第二號雜形ニ依リ地方裁判所ニ於テ
之ヲ調製スヘシ

第四條 登記簿及ヒ共同人名簿ハ登記所ノ請
求ニ因リ地方裁判所長之ヲ交付スヘシ

登記所ハ翌年中 必要ナル帳簿ノ冊數及ヒ
各冊ノ枚數ヲ見積リ毎年十一月中ニ請求ヲ
爲スヘシ

豫定外ニ帳簿ノ必要ヲ生シタルトキハ臨時
其請求ヲ爲スコトヲ得

第五條 登記簿及ヒ共同人名簿ノ用紙ニハ豫
メ丁數ヲ記入スヘシ

第六條 土地登記簿見出帳ハ附録第三號雜形ニ
依リ土地分合登記見出帳ハ附録第四號雜形
ニ依リ建物登記見出帳ハ附録第五號雜形ニ
依リ之ヲ調製スヘシ

第七條 土地登記簿見出帳ニハ土地ノ番號ヲ逐
ヒ豫メ各筆ノ見出欄ヲ設ケ置キ登記用紙ニ
登記番號ヲ記載スル毎ニ其登記用紙ヲ編綴
ナル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記
入スヘシ

第八條 土地分合登記見出帳ニハ豫メ一ノ部
ヨリ九ノ部マテヲ設ケ置キ土地ノ分合ニ關
スル登記ヲ爲ス毎ニ其土地ノ番號ノ頭字ニ
依リ相當ノ部(十百千ノ數ヲ冠スルモノハ
一ノ部ニ記入スルノ類)ニ土地ノ番號、登
記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ

登記番號ヲ記入スヘシ但土地カ合併ニ因リ
二箇以上ノ番號ヲ有スルトキハ其少キ番號
ノ部ニノミ記入スヘシ

前項ノ記入ヲ爲シタルトキハ土地登記見出
帳ノ備考欄ニ事由ヲ記入シ其見出ヲ朱抹ス
ヘシ

第九條 建物登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ
九ノ部マテヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號
ヲ記載スル毎ニ數地ノ番號ノ頭字ニ依リ相
當ノ部ニ數地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル
登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入シ
若シ建物ノ番號アルトキハ其番號ヲモ記入
スヘシ但數地カ二箇以上ノ番號ヲ有スルト
キハ其少キ番號ノ部ニノミ記入スヘシ

第十條 登記用紙ヲ閉鎖シタルトキハ見出帳
ノ備考欄ニ事由ヲ記入シ其見出ヲ朱抹スヘ
シ

第十一條 受附帳ハ登錄第六號雜形ニ依リ每
年之ヲ調製スヘシ

第十二條 受附帳ハ一ノ年毎ニ更新スヘシ

第十三條 受附帳ニ申請人ノ氏名ヲ記載スル
場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多
數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノ
ミノ氏名及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足
ル

第十四條 登記所ニハ登記簿、共同人名簿、
見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

- 一 圖面綴込帳
- 二 印帳
- 三 共同擔保目錄綴込帳
- 四 信託原簿綴込帳
- 五 申請書類綴込帳
- 六 決定原本綴込帳
- 七 抗告書類綴込帳
- 八 評價事件簿
- 九 評價書類綴込帳
- 十 印鑑證明書類綴込帳
- 十一 本登記簿綴込帳
- 十二 土地登記簿綴込帳
- 十三 謄本抄本交付帳
- 十四 各種通知簿
- 十五 受領證明符元帳
- 十六 還納受領證明綴込帳
- 十七 前項第三號乃至第十六號ノ帳簿ハ一ノ年毎
ニ別冊ト爲スヘシ但分冊スルコトヲ妨ケス
- 第十八條 申請書、寫託書、通知書、許可書、
管轄轉屬ニ因リ移送ヲ受ケタル登記簿謄
本、登記立會調書其他ノ附屬書類ハ受附番
號ノ順序ニ依リテ申請書類綴込帳ニ之ヲ編
綴スヘシ
- 第十九條 圖面ニハ申請書受附ノ年月日、受
附番號及ヒ登記番號ヲ記載シ受附番號ノ順
序ニ依リテ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ
- 第二十條 共同擔保目錄ノ表紙ニハ申請

ヲ記載スヘシ
 第三十九條 申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目 契印スヘシ但登記権利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ノ契印ヲ以テ足ル
 第四十條 登記原因ヲ證スル書面カ初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ申請書ニ其旨ヲ記載スヘシ
 第四十一條 不動産カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カル場合ニ於テ裁判所ノ指定シタル管轄登記所ニ登記ヲ申請スルトキハ申請書ニ裁判ノ附屬トシテ添付スヘシ
 第四十二條 不動産登記法第二百二十八條又ハ第四百三十條ノ規ニヨリテ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ權利ノ目的タル不動産カ建物ナルトキハ申請書ニ圖面ヲ添付スヘシ
 第四十三條 建物ノ圖面ニハ不動産登記法第三十六條第一號並ニ第三十七條ニ掲ケタル事項及ヒ敷地ノ方位並ニ建物ノ形狀、間尺、位置ヲ記載シテ申請人署名捺印スヘシ
 圖面ハ總テ墨引、墨字ト爲シ若シ登記ノ目的ナル建物アルトキハ其圖ハ朱引、朱字ト爲スヘシ
 圖面ハ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ
 第四十四條 共同擔保目録ハ附錄第九號圖形ニ依リ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

第四十三條ノ三 申請人ハ共同擔保目録ニ捺印スヘシ
 共同擔保目録ノ用紙ニハ丁數ヲ記入シ且毎葉ノ綴目 契印ヲ爲スヘシ
 前二項ノ場合ニ於テ登記権利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ各一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル
 第四十三條ノ四 共同擔保目録ニ不動産ニ關スル權利ノ表示ヲ爲スニハ其表示ノ順序ヲ追ヒテ番號欄ニ番號ヲ附記スヘシ
 第四十三條ノ五 質權又ハ抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ先順位ノ質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ申請書ニ其旨ヲ記載スヘシ
 第四十三條ノ六 信託原簿ハ附錄第十號圖形ニ依リ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ
 第四十三條ノ七 信託原簿用紙中ノ或欄カ記載スヘキ餘白ナキトキハ豫備欄ニ記載ヲ爲スヘシ
 第四十三條ノ八 信託原簿用紙中ノ豫備欄カ記載スヘキ餘白ナキトキハ申請人ハ附錄第十號圖形ノ豫備欄用紙ヲ編綴シ之ニ記載ヲ爲スヘシ
 第四十三條ノ九 第四十三條ノ三ノ規定ハ信託原簿ニ之ヲ準用ス
 第四十四條 登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一

ニシテ且登錄稅法第二條第一項第七號、第十二號乃至第十四號、第十六號、第十九號但書及ヒ第二十號但書ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ納付スヘキ場合ニ於テ數箇ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數箇ノ不動産ニ關スル權利ノ登記ヲ申請スルトキハ最初ニ登記ヲ申請スル登記所ニ登錄稅ノ全額ヲ納付スヘシ
 前項ノ規ニ從ヒ登錄稅ヲ納付シタルトキハ登記官吏ハ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應ジ登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ
 申請人カ他ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添付スヘシ
 第四十四條ノ二 數箇ノ不動産ニ關シ登錄稅法第十六條ノ三ノ規定ニヨリ登錄稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ登記官吏ハ後ニ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應ジ課稅價格ノ記載シタル登錄稅 受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ
 不動産及ヒ他ノ權利ニ關シ登錄稅法施行規則第四條及ヒ第四條ノ二ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ徵收スル場合ニ前項ニ同シ
 前條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第四十四條ノ三 登記稅法施行規則第五條又

ハ第五條ノ六ノ規定ニ依リ登錄稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ登記ノ申請書ニ左ノ各號ニ從ヒ附屬書類 添付スヘシ
 一 登錄稅法施行規則第五條第一號ノ場合ニ於テハ同號ニ該當スル施設ナルコトノ地方長官ノ證明書及ヒ資金ノ貸付證明書又ハ貸付ヲ爲シタル北海道府縣市町村、產業組合若クハ產業組合聯合會ノ認證シタル貸付證明書ノ添付
 二 登錄稅法施行規則第五條第二號ノ場合ニ於テハ同號ニ該當スル施設ナルコトノ地方長官ノ證明書及ヒ資金ノ貸付證明書又ハ貸付ヲ爲シタル北海道府縣ノ認證シタル貸付證明書ノ添付
 三 登錄稅法施行規則第五條第三號ノ場合ニ於テハ同號第一號又ハ第二號ニ該當スル施設ナルコトノ地方長官ノ證明書
 四 登錄稅法施行規則第五條第四號ノ場合ニ於テハ同號第一號又ハ第二號ニ該當スル施設ナルコト及ヒ登記義務者カ資金ノ貸付ヲ受ケタル者ニシテ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタルモノナルコトノ地方長官ノ證明書
 五 登錄稅法施行規則第五條ノ六第一號ノ場合ニ於テハ同號ニ該當スルコトノ地方長官ノ證明書及ヒ資金ノ貸付證明書

又ハ貸付ヲ爲シタル負債整理組合若クハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ認證シタル貸付證明書ノ添付
 六 登錄稅法施行規則第五條ノ六第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ其各號ニ該當スルコトノ地方長官ノ證明書
 第四十四條ノ四 登錄稅法施行規則第五條ノ四ノ規定ニ依リ登錄稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ登記ノ申請書ニ大廳大臣ノ認定書ヲ添付スヘシ
 第四十四條ノ五 不動産登記法第二百二十二條ノ三ノ規定ニ依リ申請書ニ前 登記ヲ表示スルニハ共同擔保目録ノ番號又ハ登記番號及ヒ順位番號ヲ記載スルヲ以テ足ル
 第四十四條ノ六 不動産登記法第二百二條ノ三ノ第一項ノ規定ニ依リ當該官廳カ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ囑託書ニ河川法ノ規定ニ依リ河川ノ敷地ト爲リタル旨ヲ記載スヘシ
 第四十四條ノ七 法人又ハ外國會社ノ代表者カ不動産ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テ其法人又ハ外國會社ノ登記ヲ受ケタル登記所ト不動産所在地ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ申請書ニ不動産登記法第三十五條第一項第五號ノ書面ヲ添付スルコトヲ要セス

第四十四條ノ八 法人又ハ外國會社ノ登記ヲ受ケタル登記所ハ不動産所在地ヲ管轄スル登記所ト異ナル場合ト雖モ同時ニ數箇ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ不動産登記法第三十五條第一項第五號ノ書面ハ一箇ノ申請書ノミニ一通ヲ添付スルヲ以テ足ル
 前項ノ場合ニ於テハ他ノ各申請書ニ其旨ヲ附記スヘシ
 第四十四條ノ九 前條ノ規定ハ數箇ノ申請書ニ「戶籍吏」ノ書面ヲ添付スル場合ニ之ヲ準用ス
 第四十四條ノ十 不動産登記法第六條第一號ノ規定ニ依リテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登記番號ヲ記載スル外證明書類ヲ添付スルコトヲ要セス
 第四十四條ノ十一 申請書ニ添付シタル書類ノ原本ノ還付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請人ハ其原本ト共ニ原本ニ相違ナキ旨ヲ記載シタル原本ヲ添付スヘシ
 登記官吏カ書類ノ原本ヲ還付スルトキハ其原本ニ原本還付ノ旨ヲ記載シテ捺印スヘシ
 第四十四條ノ十二 不動産登記法第四條第一項ノ規定ニ依リ管理財產タル旨ノ登記ノ囑託書ニハ管理人ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ管理人ノ改任ノ登記ノ囑託書ニ付キ亦同シ管理人ノ表示ノ變更ノ登記ハ本人ヨリ之ヲ申請スヘシ

第四十四條ノ十三 不動産登記法第四百四條第三項ノ規定ニ依リ登記ノ申請書ニハ管理人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第四十四條ノ十四 不動産登記法第四百四條第三項ノ規定ニ依リ取得ノ登記及ヒ管理財産タル旨ノ登記ノ申請ハ同一ノ申請書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得管理財産ノ移轉ニ因リテ管理終了スル場合ニ於テ其移轉ノ登記及ヒ管理終了ニ因ル登記抹消ノ申請ニ付キ亦同シ

第四十四條ノ十五 管理財産ノ移轉其他ノ處分ニ因ル登記ノ申請書ニハ宮内大臣ノ認可書ヲ添附スヘシ

第四十四條ノ十六 債權ノ分割ニ因ル抵當權ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ分割セラレタル各債權ノ額ヲ記載スヘシ

第四十四條ノ十七 抵當證券交付ノ附記登記アル抵當權ニ付キ移轉其他ノ登記ヲ申請スル爲メ登記原因ヲ證スル書面トシテ抵當證券ヲ提出スル場合ニハ申請書副本ヲモ提出スヘシ

第四十四條ノ十八 抵當證券交付ノ附記登記ノ抹消ヲ申請スルニハ不動産登記法第四百四十六條第二項ノ規定ニ準シ申請書ニ抵當證券又ハ除權判決ノ原本ヲ添附スヘシ

第四十五條 不動産登記法第四百四條ノ場合

ニ於テハ申請書ニ登記済力滅失シタル旨ヲ記載スヘシ

第四十六條 不動産登記法第四十四條ニ掲ケタル書面ニハ左ノ諸件ヲ記載シ保證人署名捺印スヘシ

- 一 登記ヲ受クヘキ不動産 表示及ヒ登記ノ目的
- 二 登記義務者ノ人違ナキコト
- 三 保證人カ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及ヒ年月日又ハ登記番號
- 四 保證人ノ住所、年齢
- 五 年月日

第四十六條ノ二 明治三十四年勅令第七十九號第一條第二項及ヒ第一條ノ二ノ規定ニ依リ土地ノ所有權ヲ取得シタル者カ所有權保存ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ永代借地券ノ抹消ニ因リ所有權ヲ取得シタルモノナル旨ヲ記載スヘシ

第四十六條ノ三 登録稅法第十九條ノ五ノ規定ニ依リ價格ヲ認定シタルトキハ之ヲ申請書ニ記載シ且書面又ハ口頭ヲ以テ告知スヘシ

第四十六條ノ四 評價ノ請求ヲ爲サントスル者ハ其請求書ニ登記官吏ノ指示シタル費用ノ豫納額ニ相當スル印紙ヲ貼附シテ之ヲ差出スヘシ

第四十六條ノ五 登録稅法第十九條ノ六ノ規定ニ依リ評定價格及ヒ課稅標準價格ハ遲滞ナク書面ヲ以テ之ヲ評價請求者ニ告知スヘシ

前項ノ告知書ニハ評價費用額ヲ記載シ且評價費用ノ豫納額ニ不足アルトキハ其不足額ヲ遲滞ナク納付スヘキ旨ヲ記載スヘシ

第四十六條ノ六 課稅標準價格確定シタルトキハ登記官吏ハ申請書ニ其價格及ヒ登録稅額ヲ記載スヘシ

第四十六條ノ七 登記申請人カ其負擔ヲ超エテ納付シタル登録稅額及ヒ評價費用額ノ交付ヲ請求シタルトキハ登記官吏ハ遲滞ナク其請求書ヲ地方裁判所長ニ送付シ且事件ヲ表示シテ左ノ事項ヲ報告スヘシ

- 一 申告價格、認定價格、評定價格及ヒ確定價格
- 二 既納及ヒ確定ノ登録稅額
- 三 豫納及ヒ確定ノ評價費用額
- 四 還付ヲ要スル金額
- 五 還付ヲ受クヘキ者ノ氏名、住所

第三章 登記手續

第四十七條 登記官吏カ申請書ヲ受取りタルトキハ遲滞ナク申請ニ關スル總テノ事項ヲ調査スヘシ

第四十八條 登記番號ハ不動産登記法施行ノ

日ヨリ更ニ新ナル番號ヲ附スヘシ

第四十九條 表示欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及ヒ表示欄ニ縦線ヲ劃シ事項欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及ヒ事項欄ニ縦線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

假登記ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縦線ヲ劃シ其左側ニ本登記ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及ヒ事項欄ニ縦線ヲ劃スヘシ

第五十條 登記ノ申請書ニ圖面ヲ添附シタル場合ニ於テハ登記用紙中表示欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ圖面綴込帳ノ冊數及ヒ丁數ヲ記載スヘシ

第五十一條 申請書ニ記載シタル代理人ノ氏名、住所ハ登記簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要セス

第五十二條 不動産登記法第七十六條第一項ノ場合ニ於テハ新用紙中登記番號ノ左側ニ其番號ノ第二ナルコトヲ附記シ前用紙中登記番號ノ左側ニ第一ノ文字ヲ追記スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設ケル場合ニ之ヲ準用ス

第五十三條 不動産登記法第五十一條ノ規定ニ依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ記載シ氏名、住所欄ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ全員ノ氏名、住所ヲ記載シ豫備欄ニ登記番號、申請書受附ノ年月日、シ豫備欄ニ登記番號、申請書受附ノ年月日、

受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シテ登記官吏捺印スヘシ

第五十四條 共同人名簿ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所等ヲ記載シタルトキハ氏名、住所欄及ヒ持分欄ニ於ケル縦線ヲ番號欄及ヒ豫備欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ

登記原因ニ持分ノ定ナキトキハ持分欄ニハ朱線ヲ交スヘシ

第五十五條 共同人名簿ニ記載シタル登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所ノ變更又ハ持分ノ移轉若クハ變更ニ付キ登記簿ニ登記ヲ爲シタルトキハ人名簿中豫備欄ニ登記ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シ登記官吏捺印シ前記記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

第五十六條 前條ノ場合ニ於テ豫備欄ニ餘白ナキトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其左側ニ第二ノ文字、前番號ノ用紙ニ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及ヒ其繼續用紙ナルコトヲ記載シ氏名、住所欄ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名ノミヲ記載シ持分欄ニハ朱線ヲ交シ豫備欄ニハ登記ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ前用紙ノ番號

ノ左側ニ第一ノ文字、繼續用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ

前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙 設ケル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ登記用紙中相當區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第五十七條ノ二 不動産登記法第二百四條ノ二ノ規定ニ依リ記載ハ登記用紙中相當區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ共同擔保目録ノ番號ヲモ記載スヘシ

第五十七條ノ三 申請書ニ共同擔保目録ヲ添附シタル場合ニ於テ登記ヲ爲シタルトキハ其目録ニ掲ケタル各不動産ニ關スル權利ノ表示ノ上ニ其登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、登記番號及ヒ順位番號ヲ記載シ且申請書ニ共同擔保目録ノ番號ヲ記載スヘシ

第五十七條ノ四 不動産登記法第二百六條ノ二ノ規定ニ依リ共同擔保目録ニ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スニハ第四十三條ノ四ノ規定ニ依リ番號ヲ用ヒテ之ヲ豫備欄ニ記載シ登記官吏捺印シ其變更又ハ消滅ニ係ル事項ヲ朱抹スヘシ

第五十七條ノ五 前條ノ手續ヲ爲シタルトキハ豫備欄ニ縦線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第五十七條ノ六 共同擔保目録用紙中豫備欄カ登記官スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ登記官スヘキ目録ニ繼續用紙ヲ編綴シ之ニ契印ヲ爲スヘシ

第五十七條ノ七 不動産登記法第六十三條ノ二第一項ノ規定ニ依リ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ於テハ許可ヲ爲シタル裁判所ノ名稱、許可ノ年月日及ヒ登記ノ年月日ヲモ記載スヘシ

第五十七條ノ八 信託ノ登記ヲ爲ストキハ信託原簿ノ番號ヲ記載スヘシ

第五十七條ノ九 不動産登記法第四百四條ノ五、第四百二十七條ノ二及ヒ第四百四十三條ノ二第一項第二項ノ規定ニ依リ登記ノ申請ノリタルトキハ其登記ハ登記用紙中同一順位ノ事項欄ニ之ヲ爲シ縦線ヲ以テ各登記ヲ分界スヘシ

第五十七條ノ十 信託原簿ノ記載ヲ變更スヘキトキハ登記官スヘキ附録第十二號雛形ノ變更欄用紙ヲ編綴シテ契印ヲ爲シ之ニ記載ヲ爲スヘシ

第五十七條ノ十一 信託原簿ノ變更欄ニ記載ヲ爲シタルトキハ縦線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第五十八條 登記シタル權利ノ順位ヲ讓渡シ

又ハ拋棄シタル場合ニ於テ變更登記ヲ爲シタルトキハ其權利ノ登記ノ順位番號ノ左側ニ變更登記ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第五十九條 附記登記ヲ爲シタルトキハ主登記ノ順位番號ノ左側ニ附記番號ヲ記載スヘシ

第六十條 登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルニ因リ登記回復ノ登記ヲ爲シタルトキハ前登記ノ登記簿ニ不動産登記法第六十條第一項ノ手續ヲ爲シタル上之ヲ申請人ニ還付スヘシ

第六十一條 不動産登記法第四百九條ノ五ノ規定ニ依リ抹消ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ其事由及ヒ登記ノ年月日ヲモ記載スヘシ

第六十二條 不動産カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨ル場合ニ於テ裁判所ノ指定ニ因リ登記ヲ爲シタルトキハ登記所ハ速ニ其旨ヲ他ノ登記所ニ通知スヘシ

第六十三條 前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ見出張中備考欄ニ其通知事項ヲ記入スヘシ

第六十三條 地役權ノ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其要役地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滞ナク其登記所ニ變更又ハ消滅ノ事由及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滞ナク要役地タル不動産ノ登記用紙中相當事項欄

ニ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

第六十三條ノ二 不動産登記法第四十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ表示欄ニ登記ヲ爲スニハ債權者ノ氏名又ハ名稱、住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ハ不動産登記法第二十八條ノ三及ヒ第三百三條ノ二ノ規定ニ依リ登記ニ之ヲ準用ス

第六十三條ノ三 債權ノ分割ニ因ル抵當權ノ變更ノ登記ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第六十三條ノ四 第四百四條ノ十七ノ規定ニ依リ申請書副本ノ提出アリタル場合ニ於テハ不動産登記法第六十條第一項ノ記載ハ其申請書副本ニ之ヲ爲スヘシ

第六十三條ノ五 第四百四條ノ十八ノ申請ニ基キ抵當證券交付ノ附記登記ヲ抹消スル場合ニ於テ其抵當證券作成ノ附記登記アルトキハ登記官スヘキ之ヲ抹消スヘシ

第六十四條 登記用紙ヲ閉鎖スルニハ表示欄ニ閉鎖ノ事由及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印シ不動産ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹スヘシ

第六十五條 不動産登記法第四十七條第二項ノ規定ニ依リ受領證ヲ交付スル場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノ氏名及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第六十六條 不動産登記法第四十七條第二項ノ受領證ハ登記簿ヲ交付スルトキハ之ヲ還納セシムヘシ

還納ヲ受ケタル受領證ハ之ヲ保存スヘシ

第六十七條 不動産登記法第十二條第二項ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 申請人ノ氏名、住所

二 申請人カ登記官スヘキコト又ハ登記官吏ノ妻若クハ登記官吏ノ四親等内ノ親族ナルコト

三 登記ヲ爲スヘキ不動産ノ表示及ヒ登記ノ目的

四 申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號

五 立會人ノ氏名、住所及ヒ年齡

六 立會人カ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及ヒ年月日又ハ登記番號

第六十八條 不動産登記法第十一條第一項ノ通知ニハ土地所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別若クハ坪數、申請書受附ノ年月日、登記ノ目的及ヒ申請人ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ

前項ノ通知ハ登記ヲ完了シタル日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヘシ但地租納期開始前十五日內ハ其都度通知ヲ爲スヘシ

第六十九條 登記官吏カ不動産登記法第二百二十九條、第三百一一條又ハ第三百三十三條ノ

規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ不動産ノ表示、登記原因其日附、登記權利者ノ氏名、住所、登記ノ目的及ヒ登記簿ノ旨ノ不動産ノ所有者ニ通知スヘシ但第三百三十一條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ所有權以外ノ權利者ニモ其通知ヲ爲スヘシ

第六十九條ノ二 不動産登記法第四百九條ノ二第一項ノ通知ハ同法第四百六條ノ二ノ場合ニ於テハ債權者ニ亦之ヲ爲スヘシ

第六十九條ノ三 不動産登記法第四百九條ノ二第一項ノ通知ニハ登記ヲ完了シタル事件ノ表示及ヒ事件カ登記所ノ管轄ニ屬セサルコト若クハ登記スヘキモノニ非サルコトヲ記載スヘシ

第七十條 不動産登記法第二十八條ノ三、第六十條ノ二、第六十一條、第六十三條乃至第六十三條ノ三、第七十五條第一項、第九條ノ二、第二百二十七條ノ二、第二百四十九條ノ二第一項、第二百五十三條第二項及ヒ本令第六十九條、第六十九條ノ二ノ通知ハ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七十一條 不動産登記法第九條第一項ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ニ管轄ノ變更アリタルコト及ヒ其年月日ヲ記載シ其表紙ニ記載シタル登記所ノ名稱ヲ變更スヘシ

同法第五十九條ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表

紙ニ行政區畫若クハ字又ハ其名稱ノ變更アリタルコト及ヒ其年月日ヲ記載シ其表紙ニ記載シタル行政區畫若クハ字又ハ其名稱ノ變更スヘシ

第七十一條ノ二 第四百六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ永代借地登記簿ノ用紙中永代借地權ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル登記アリテ其登記カ未タ抹消ニ係ラサルトキハ登記官吏ハ普通登記簿ニ所有權ノ登記ヲ爲シタル上他ノ權利ニ關スル登記ヲ移スヘシ

第七十一條ノ三 前條ノ規定ニ依リ他ノ權利ニ關スル登記ヲ普通登記簿ニ移ストキ又ハ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ヲ普通登記簿ニ移ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記番號ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ前登記簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第七十一條ノ四 登記官吏カ其職務上擔保附社債信託法第九條第十四號ノ規定ニ依リテ過料ニ處セラレハキ者アルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク其事件ヲ管轄地方裁判所長ニ通知スヘシ

附則

第七十二條 不動産登記法第六十三條ノ規定ニ依リ舊登記簿ヨリ登記ヲ移シタルトキハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ舊登記簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ
前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊登記簿表題部取消欄ニ新登記簿第何冊第何丁ニ移シタル旨、新登記簿表題部及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第七十三條 不動産登記法第六十三條ノ登記ヲ爲ササル不動産ニ付キ其滅失又ハ其不動産ニ關スル權利ノ抹消ノ登記ノ申請アリタルトキハ舊登記簿ニ其登記ヲ爲スヘシ
第七十四條 受附番號ハ明治三十二年分ニ限リ六月十六日ヨリ之ヲ更新シ十二月三十一日ニ止ムヘシ

第七十五條 舊登記簿ノ謄本ハ舊謄本用紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

第七十六條 明治二十六年三月司法省令第三號ニ依リ既ニ印刷ヲ提出シタル者ハ更ニ之ヲ提出スルコトヲ要セス

附則 (大正二年司法省令第十五號)
第一條 本令ハ大正二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 従前ノ規定ニ依ル登記簿ノ謄本ハ従前ノ規定ニ依ル謄本用紙ヲ以テ之ヲ作成ス

第三條 従前ノ規定ニ依ル登記簿ヨリ改正登記簿ニ建物ニ關スル登記ヲ移シ又ハ轉寫スル場合ニ於テハ敷地ノ地目及ヒ段別若クハ坪數ハ之ヲ移シ又ハ轉寫スルコトヲ要セス
舊登記簿ヨリ従前ノ規定ニ依ル登記簿又ハ改正登記簿ニ建物ニ關スル登記ヲ移シ又ハ轉寫スルトキ亦同シ

第四條 前條ノ規定ハ舊建物登記簿及ヒ従前ノ規定ニ依ル建物登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ作成スル場合ニ之ヲ準用ス

第五條 不動産登記法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ本令施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ改正登記簿ニ登記ヲ爲ストキハ第七十二條ノ規定ヲ準用ス

第六條 本令施行前ニ調製シタル土地登記見出帳及ヒ土地分合登記見出帳ハ當分ノ内其儘之ヲ使用スルコトヲ得

第七條 土地臺帳謄本及ヒ土地異動通知書級込帳ハ司法大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ廢毀スルコトヲ得
區裁判所出張所力前項ノ許可ヲ請フトキハ管轄區裁判所ヲ經由スヘシ
(附録様式略ス)

抵當證券法 (昭和六年三月三十日法律第十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル抵當證券法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 土地、建物又ハ地上權ヲ目的トスル抵當權ヲ有スル者ハ其ノ登記ヲ管轄スル登記所ニ抵當證券ノ交付ヲ申請スルコトヲ得
抵當權ノ目的物力數個ノ登記所ノ管轄地ニ散在スルトキハ抵當證券ノ交付ハ其ノ一ノ登記所ニ之ヲ申請スルコトヲ要ス
抵當證券交付ノ申請ハ申請人(代理人ニ依リテ申請スルトキハ其ノ代理人)登記所ニ出頭シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ抵當證券ヲ發行スルコトヲ得ス

- 一 抵當權力根抵當ナルトキ
- 二 抵當權ニ付本登記ナキトキ
- 三 債權ノ差押若ハ假差押ノ登記又ハ抵當權ノ處分禁止若ハ抵當權ヲ他ノ債權ノ擔保ト爲シタル旨ノ登記アルトキ
- 四 債權又ハ抵當權ニ附シタル解除條件ノ登記アルトキ
- 五 抵當證券發行ノ特約ナキトキ

第三條 抵當證券ノ交付ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス

一 申請書

二 抵當權者ノ權利ニ關スル登記簿謄本

三 手形其ノ他ノ債權ニ關スル證書

四 抵當證券發行ノ特約ノ登記ナキトキハ抵當權設定者又ハ第三取得者及債權者ノ同意書

五 代理人ニ依リテ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面

前項第三號ノ證書ナキトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第一條第二項ノ申請ヲ爲スニハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ且他ノ登記所ノ管轄ニ屬スル目的物ノ登記簿ノ謄本並ニ其ノ登記所ノ數ニ應ジ申請書ノ副本及附屬書面ノ寫本ヲ提出スルコトヲ要ス

抵當證券ノ交付ヲ申請スルニハ命令ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ納付スルコトヲ要ス

第四條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

- 一 申請人ノ氏名及住所
- 二 代理人ニ依リテ申請スルトキハ其ノ氏名及住所
- 三 抵當權ノ目的タル土地、建物又ハ地上權ノ表示
- 四 抵當權設定者及第三取得者ノ氏名及住所
- 五 抵當權ノ順位及登記ノ年月日

六 不動産登記法第十七條ニ掲クル事項

七 債權者ノ氏名及住所

八 抵當權、質權又ハ先取特權ノ登記アルトキハ債權額、債權者ノ氏名及住所並ニ登記ノ年月日

九 地上權、永小作權、地役權又ハ賃借權ノ登記アルトキハ其ノ權利者ノ氏名及住所並ニ登記ノ年月日

十 登記所ノ表示

十一 申請ノ年月日

第五條 登記官吏ハ抵當證券交付ノ申請力左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ要ス但シ申請ノ欠缺力補正スルコトヲ得ヘキモノナル場合ニ於テ申請人カ即日之ヲ補正シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 其ノ登記所ノ管轄ニ屬セザルトキ
- 二 第二條ニ規定スル事由アルトキ
- 三 申請書ニ記載シタル事項力登記簿ト符合セザルトキ
- 四 申請人カ出頭セザルトキ
- 五 申請書カ方式ニ適合セザルトキ
- 六 必要ナル書面ヲ提出セザルトキ
- 七 手数料ヲ納付セザルトキ

第六條 抵當證券ノ交付ニ於テハ登記官吏ハ申請書ノ副本及附屬書面ノ寫本

ヲ各管轄登記所ニ送付シ其ノ管轄ニ屬スル目的物ニ付抵當證券ヲ作成スヘキ旨ヲ囑託スルコトヲ要ス

第六條 抵當證券交付ノ申請ヲ受理シタルトキハ登記官吏(前條第二項ノ規定ニ依リ囑託アリタルトキハ其ノ部分ニ付テハ囑託ヲ受ケタル登記所ノ登記官吏)ハ遲滞ナク抵當證券ノ交付ニ付異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ申立ツヘキ旨ヲ抵當權設定者、第三取得者、債權者、抵當權又ハ其ノ順位ノ讓渡人及先順位ヲ拋棄シタル者ニ催告スルコトヲ要ス但シ抵當證券ノ發行ヲ妨クル事由アルコトヲ發見シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

囑託ヲ受ケタル登記所ノ登記官吏力抵當證券ノ發行ヲ妨クル事由アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ囑託ヲ爲シタル登記所ニ通知スルコトヲ要ス

第一項ノ催告ニハ第四條第一號及第二號乃至第七號ニ掲クル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

債權者ニ對スル催告ニハ前項ノ事項ノ外第三條第一項第三號ノ證書カ手形ナルトキハ其ノ表示及同條第二項ノ規定ニ依リ記載ヲモ記載スルコトヲ要ス

第七條 抵當證券ノ交付ニ關スル異議ハ左ノ理由ニ基クトキニ限り之ヲ申立ツルコトヲ

得

一 申請ニ付第二條ニ規定スル事由アルコト

二 債權ノ質人、差押又ハ假差押アリタルコト

三 催告ニ記載シタル事項力登記簿ノ記載又ハ事實ト符合セザルコト

四 債務者ガ抵當權者ニ對シ相殺ヲ以テ對抗シ得ヘキ債權ニシテ其ノ辨濟期力抵當權者ノ債權ノ辨濟期以前ニ到來スルモノヲ有スルコト

異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基キ之ヲ申立ツルコトヲ得ス

異議申立ノ權利ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第八條 異議ニ關スル裁判ハ抵當證券交付ノ申請ヲ受理シタル登記所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

異議ノ申立ヲ受理シタルトキハ登記官吏ハ事件ヲ管轄裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第九條 異議ニ關スル裁判確定シタルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ關係登記所ニ通知スルコトヲ要ス

第十條 第六條ノ催告ヲ受ケタル者ハ異議ノ

申立ヲ爲スコトヲ得ル事由ニ付テハ其ノ申立ヲ爲シタルモノニ非サレハ之ヲ以テ抵當證券ノ善意ノ取得者ニ對抗スルコトヲ得ス

異議ノ申立ヲ理由ナシトスル裁判確定シタル場合ニ於テハ其ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ申立ヲ爲シタル者ハ二月内ニ訴ヲ提起スルニ非サレハ申立ヲ爲シタル事由ヲ以テ抵當證券ノ善意ノ取得者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ訴ノ提起アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第十一條 第六條ノ催告ニ指定シタル期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ登記官吏ハ抵當權ノ目的物力其ノ登記所ノ管轄地ノミニ在ル場合ニハ直ニ、抵當權ノ目的物力數個ノ登記所ノ管轄地ニ散在スル場合ニハ囑託ヲ受ケタル登記所ヨリ抵當證券ノ送付ヲ受ケタル後直ニ抵當證券ヲ交付スルコトヲ要ス

異議ノ理由ナシトスル裁判確定シタルトキ亦同シ

第十二條 抵當證券ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ登記官吏署名捺印シ且登記所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

一 證券ノ番號

二 第四條第一號及第三號乃至第九號ニ掲グル事項

三 登記所ノ提示

四 證券作成ノ年月日

囑託ヲ受ケタル登記所ヨリ抵當證券ノ送付ヲ受ケタルトキハ登記官吏ハ其ノ作成ニ係ルモノト一括シ之ニ各證券ハ同一ノ債權ノ爲ニ作成シタルモノナル旨ヲ記載シ且記名捺印スルコトヲ要ス

第十三條 第三條第一項第二號及第三號ノ書面ノ提出アリタル場合ニ於テ抵當證券ヲ交付シタルトキハ登記官吏ハ抵當證券ヲ交付シタル旨ヲ其ノ書面ニ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ申請人ニ還付スルコトヲ要ス

其ノ書面中ニ手形アルトキハ其ノ手形ハ爾後效力ヲ有セス

第十四條 抵當證券ノ發行アリタルトキハ抵當權及債權ノ處分ハ抵當證券ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

抵當權ト債權トハ分離シテ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十五條 抵當證券ノ讓渡ハ裏書ニ依リテ之ヲ爲ス

商法第四百五十七條第一項ノ規定ハ前項ノ裏書ニ之ヲ準用ス尙其ノ裏書ニハ裏書人ノ住所ヲ記載スルコトヲ要ス

第十六條 抵當證券ノ發行アリタル場合ニ於テハ抵當權ノ變更ハ不動産登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ登記ヲ爲シ且抵當證券ノ記載ノ變更ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ

對抗スルコトヲ得ス數個ノ不動産ニ付抵當權アル場合ニ於テ其ノ一ヲ消滅セシメタルトキ亦同シ

第十七條 抵當證券ノ記載ノ誤謬又ハ遺漏カ登記ノ錯誤又ハ遺漏ニ基カサル場合ニ於テハ所持人ハ抵當證券ノ記載ノ變更ヲ申請スルコトヲ得

債務者ノ表示ノ變更其ノ他ノ事由ニ因リ登記ヲ變更又ハ更正シタル爲抵當證券ノ記載力登記ト符合セザルニ至リタル場合亦同シ

第十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外抵當證券ノ記載ノ變更ハ不動産登記法第五十六條、第六十四條第八十一條又ハ第九十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 抵當證券ノ發行アリタル場合ニ於テ登記官吏力抵當權ノ變更、消滅又ハ更正ノ登記ヲ完了シタルトキ、抵當證券ノ記載ヲ變更シ之ヲ其ノ所持人ニ還付スルコトヲ要ス

第二十條 前條ノ規定ハ不動産登記法第八十一條又ハ第九十三條ノ登記ヲ完了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 抵當證券ノ所持人ハ左ノ場合ニ於テ抵當證券ヲ交付シタル登記所ニ證券ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

一 證券ヲ汚損シタルトキ

二 證券ヲ喪失シタル場合ニ於テ除權判決アリタルトキ

第二十二條 抵當證券ノ再交付ニ關シテハ命令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外第三條乃至第十三條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 不動産登記法第六十五條ノ場合ニ於テ登記官吏力回復登記ノ手續ヲ完了シタルトキハ更ニ抵當證券ヲ作成シ舊證券ノ所持人ニ交付スルコトヲ要ス

第二十四條 民法第三百七十八條及第三百八十一條乃至第三百八十七條ノ規定 抵當證券ノ發行アリタル抵當權ニハ之ヲ適用セス

第二十五條 抵當證券ノ所持人ハ元本ノ一部又ハ利息ノ支拂アリタルトキハ證券ニ其ノ金額及受領ノ年月日ヲ記載シ且之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第二十六條 債務者カ利息ノ支拂ヲ怠リタル場合ニ於テ其ノ延滞力二年ニ達シタルトキハ元本ノ辨濟期到來シタルモノト看做ス但シ抵當證券ニ特約ノ記載アルトキハ其ノ定ニ從フ定期ニ元本ヲ辨濟スヘキ場合ニ於テ其ノ延滞力二年ニ達シタルトキ全元本ニ付亦同シ

第二十七條 抵當證券ノ所持人ハ元本ノ辨濟期後一月内ニ債務者ニ對シテ支拂ヲ請求ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ債務者カ支拂ヲ爲ササル

トキハ抵當證券ノ所持人ハ公證人又ハ執達吏ニ其ノ支拂ヲキ旨ノ證明ヲ求ムルコトヲ要ス

第二十八條 抵當證券ニ元本及利息ノ支拂ノ場所ノ記載ナキ場合ニ於テ債務者ノ現時ノ住カ知レザルトキハ登記簿ニ記載シタル住所ニ於テ支拂ヲ請求ヲ爲スヲ以テ足ル

第二十九條 第二十七條第一項ノ場合ニ於テ債務者カ支拂ヲ爲ササルトキハ抵當證券ノ所持人ハ五日內ニ各裏書人ニ對シ 其ノ旨ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ各裏書人ハ抵當證券ト引換ニ其ノ支拂ヲ爲スコトヲ得

第三十條 抵當證券ノ所持人ハ債務者カ元本ノ支拂ヲ爲ササルトキハ辨濟期ヨリ三月内ニ抵當權ノ目的タル土地、建物又ハ地上權ニ付競賣ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス

已ムコトヲ得サル事由ニ因リ前項ノ期間内ニ競賣ノ申立ヲ爲スコト能ハサルトキハ抵當證券ノ所持人ハ期間ノ伸長ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得裏書人全員ノ同意アリタルトキ亦同シ

第三十一條 抵當證券ノ所持人ハ競賣代金ヲ以テ支拂ヲ受ケル債權ノ部分ニ付テノミ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第二十七條又ハ前條ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ其ノ權利ヲ失フ

第三十二條 抵當権カ存在セス若ハ其ノ目的タル物及權利ノ全部カ滅失シタルニ因リ競賣ノ申立ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ競賣代金ヲ以テ競賣費用ヲ償フ見込ナキトキハ抵當證券ノ所持人ハ前二條ノ規定ニ拘ラス裁判所ノ許可ヲ得テ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ辨濟期ヨリ三月内ニ許可ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 第三十條第二項及前條ノ裁判ハ抵當権ノ目的物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十四條 本法ニ依リ裁判ノ費用ニ付テハ民事訴訟費用法第十六條及民事訴訟用印紙法第十六條ノ規定ニ依ル

第三十五條 抵當證券ノ所持人カ第三十一條又ハ第三十二條ノ規定ニ依リ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲サントスルトキハ競賣代金ヲ受取リタル日又ハ第三十二條ノ許可ヲ得タル日ヨリ五日内ニ各裏書人ニ對シ償還ノ請求ヲ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三十六條 抵當證券ノ所持人ノ裏書人ニ對スル通知ハ證券ニ記載シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

第三十七條 抵當證券ノ所持人カ第二十九條第一項又ハ第三十五條ノ規定スル通知ヲ發セザリシトキハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第三十八條 抵當證券ノ所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人ハ左ノ金額中支拂アラザリシモノニ付其ノ前者又ハ債務者ニ對シ償還又ハ支拂ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一 元本及支拂ノ請求ヲ爲シタル日迄ノ利息

二 支拂ノ請求ヲ爲シタル日後ノ元本ニ對スル法定利率ニ依リ利息但シ約定利率カ法定利率ニ超ユルトキハ約定利率ニ依リ利息

三 第二十七條第二項ノ規定ニ依リ證明書作成ノ費用其ノ他ノ費用

第三十九條 抵當證券ノ所持人ノ其ノ前者ニ對スル償還請求權ハ競賣代金ヲ受取リタル日又ハ第三十二條第一項ノ許可ヲ得タル日ヨリ一年、裏書人ノ其ノ前者ニ對スル償還請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第四十條 民法第四百七十七條、第四百七十二條、商法第二百七十八條第二項、第二百七十九條、第二百八十一條、第四百三十七條、

第四百三十八條、第四百四十條、第四百四十一條、第四百五十九條、第四百六十二條、第四百六十四條(第一項但書ヲ除ク)第四百八十三條、第四百八十八條ノ四、第四百九十五條及民法施行法第五十七條ノ規定ハ抵當證券ニ付之ヲ準用ス

第四十一條 不動産登記法第十條、第十二條、第十三條、第二十一條、第四十四條、第四十五條、第七十七條、第五十條乃至第五十四條第一項、第五十五條、第五十六條、第六條、第五十八條及第五十九條ノ規定ハ抵當證券ニ付之ヲ準用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四項乃至第九項ノ規定ヲ除クノ外本法施行ノ地域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ニ關シ必要ナル規定ハ司法大臣之ヲ定ム

耕地整理法第二條中「登記シタル權利ヲ有スル者」ノ下(「抵當證券ノ發行ニアリタルトキハ其ノ所持人」)ヲ加フ

耕地整理法第二十五條中「第四十四條第二項」ヲ「第四十四條第三項」ニ「前項」ヲ「第一項」ニ「前二項」ヲ「第一項又ハ第三項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

同一所有者ニ屬スル數筆ノ土地ヲ目的トスル抵當權ニ付抵當證券ノ發行アリタル場合

抵當證券法施行細則

(昭和六年七月十八日 司法省令第二十二號)

抵當證券法施行細則左ノ通相定ム

第一章 抵當證券ニ關スル帳簿

- 第一條 登記所ニハ左ノ帳簿ヲ備フ
 - 一 抵當證券控綴込帳
 - 二 事件簿
 - 三 備付簿
 - 四 共同證券受託簿
 - 五 共同證券受託簿
 - 六 受領證券原符簿
 - 七 還納證券綴込帳
 - 八 贖本抄本交付簿
 - 九 難申請書類綴込帳
- 前項ノ帳簿ハ年毎ニ別冊ト爲スヘシ但シ分冊スルコトヲ妨ケス
- 登記所ニハ第一項ノ帳簿ノ外必要ナル帳簿ヲ備フルコトヲ得
- 第二條 申請書、囑託書、通知書、立會調書其ノ他抵當證券交付ニ關スル書類ハ本令ニ

別段ノ定アルモノヲ除クノ外總テ交付申請又ハ作成囑託アリタル毎ニ一ノ事件記録トシテ之ヲ編綴スヘシ但シ抵當證券法第三條第一項第二號第三號ノ書面ノミハ別ニ之ヲ保管スヘシ

第三條 事件簿ハ附録第三號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第四條 備付簿ハ附録第四號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條 共同證券受託簿ハ附録第五號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第六條 共同證券受託簿ハ附録第六號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七條 受領證券原符簿ハ附録第七號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第八條 贖本抄本交付簿ハ附録第八號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第九條 抵當證券ノ記載變更ノ申請、抵當證券控ノ閱覽若ハ贖本抄本交付ノ申請又ハ附屬書類ノ閱覽申請ニ關スル書類其ノ他第二條ニ掲ケル以外ノ書類、難申請書類綴込帳ニ綴込ムヘシ

第十條 抵當證券控ノ贖本若ハ抄本ノ交付又ハ抵當證券控若ハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ヲ提出スヘシ代理人カ前項ノ請求ヲ爲ストキハ申請書ニ其ノ權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

ニ於テハ本項ノ規定ニ依リ供託スヘキ第三十條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ拂渡金額ノ計算ニ付テハ其ノ數筆ノ土地ヲ一筆ノ土地ト看做ス但シ其ノ土地ニ付當該抵當權以外ノ本項ニ掲ケル權利アル場合ニ於テ其ノ權利者ノ同意ヲ得サルトキハ此ノ限ニ在ラス

耕地整理法第四十三條第一項中「建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者」ノ次ニ(「抵當證券ノ發行アリタルトキハ其ノ所持人」)ヲ加ヘ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ抵當證券ノ所持人ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ地方長官ノ認可ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

耕地整理法第四十四條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前條第二項ノ規定ハ前項本文ノ場合ニ於テ抵當證券ノ所持人ノ同意ニ付之ヲ準用ス

耕地整理法第八十七條中「第四十四條第二項」ヲ「第四十四條第三項」ニ改ム

都市計畫法第十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十五條ノ二 土地區劃整理ニ付テハ耕地整理法第四十三條ノ規定ニ拘ラス建物アル宅地ヲ土地區劃整理施行地區ニ編入スルコトヲ得

第十一條 前條ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人記名捺印スヘシ

- 一 贈本若ハ抄本ノ交付又ハ閲覧ノ目的タル抵當證券及ハ附屬書類ノ表示但シ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ請求スル部分ヲ明示スヘシ
- 二 閲覧ヲ請求スル場合ニ於テハ利害ノ關係アル事由
- 三 手数料ノ金額
- 四 登記所ノ表示
- 五 年月日

第十二條 抵當證券法第四十一條ニ依リ準用セラルル不動産登記法第二十一條第二項ノ郵送料ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第十三條 抵當證券控ノ贈本ハ抵當證券控ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作り其ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ登記官吏ノ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ捺捺スヘシ

此ノ贈本ハ抵當證券控ニ依リ之ヲ作り茲ニ抵當證券控ト相違ナキコトヲ認證ス

抵當證券控ノ贈本ニ餘白アルトキハ其ノ部分ニ朱線ヲ交又スヘシ

前二項ノ規定ハ抵當證券控ノ抄本ニ之ヲ準用ス但シ抄本用紙ハ半紙野紙ヲ用フヘシ

第十四條 抵當證券及ハ附屬書類ノ閲覧ハ登記官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第十五條 抵當證券控及帳簿及事件記録ハ三十年間之ヲ保存スヘシ

事件簿、還納證券帳及帳簿申請書類及帳簿ハ十年間之ヲ保存スヘシ

借借簿、共同證券簿、共同證券受託簿、受領證券符元簿及贈本抄本交付簿ハ三年間之ヲ保存スヘシ

前三項ノ帳簿ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ、事件記録ノ保存期間ハ事件完結ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十六條 登記所ニ於テ前條ノ帳簿又ハ事件記録ヲ廢毀セントスルトキハ目録ヲ作り地方裁判所長ニ申報スヘシ但シ區裁判所出張所ノ申報ハ區裁判所ヲ經由スヘシ

第二章 抵當證券交付申請手續

第十七條 抵當證券法施行地域外ニ跨リテ築造セラレタル建物ヲ目的トスル抵當權ニ付テハ左ノ場合ニ限り抵當證券交付ノ申請ヲ爲スコトヲ得

- 一 其ノ建物ノ存スル場所カ同一登記所ノ管轄ニ屬スルトキ
- 二 其ノ建物ノ存スル場所カ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テ不動産登記法第八條第二項ノ規定ニ依リ指定セラレタル登記所ノ管轄區域内ニ抵當證券法施行地域カ存スルトキ

第十八條 抵當證券交付ノ申請書ニハ手数料ノ金額ヲモ記載スヘシ

第十九條 申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ申請人カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル

第二十條 抵當權ノ目的タル物件カ五個以上ナルトキ又ハ抵當證券法第三條第一項第三號ノ手影アルトキハ抵當證券法第六條ノ規定ニ依リ發スヘキ催告書ノ數ニ應シ物件目録又ハ手影ノ寫本ヲ提出セシムルコトヲ得

第二十一條 抵當證券法第四十一條ニ依リ準用セラルル不動産登記法第四十四條ノ場合ニハ申請書ニ登記簿力減失シタル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ提出スヘキ保證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ保證人署名捺印スヘシ

- 一 抵當權ノ表示
- 二 申請人ノ人達ナキコト
- 三 證券交付ノ申請ヲ受ケタル登記所ニ於テ保證人カ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及年月日又ハ登記番號
- 四 保證人ノ住所及年齡
- 五 年月日

前項ノ保證書ハ一通ヲ提出スルヲ以テ足ル

第二十二條 法人又ハ外國會社ノ代表者カ抵

當證券交付ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ法人又ハ外國會社ノ登記ヲ受ケタル登記所ト申請ヲ受ケタル登記所ト申請ヲ受ケタル登記所ト同一ナルトキハ申請書ニ抵當證券第三條第一項第五號ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス

前項ノ場合ニ於テハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第二十三條 法人又ハ外國會社ノ登記ヲ受ケタル登記所ト抵當證券交付ノ申請ヲ受ケタル登記所ト異ナル場合ト雖同時ニ數個ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ抵當證券法第三條第一項第五號ノ書面ハ一個ノ申請書ノミニ一通ヲ添附スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ他ノ各申請書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第二十四條 抵當證券法第三條第三項ノ規定ニ依リ提出スヘキ登記簿贈本ハ不動産登記法施行細則第三十五條ノ二但書ノ規定ニ依リ作成シタルモノヲ以テ足ル

第二十五條 抵當證券法第三條第三項ノ規定ニ依リ提出スヘキ附屬書類ノ寫本ニハ申請人原本ト相違ナキ旨ヲ記載シ且記名捺印スヘシ

第二十六條 申請書ニ添附シタル書面ノ原本ノ還付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ且之ニ其ノ原本ト相違ナキ旨ヲ記載シタル贈本ヲ添附スヘシ

登記官吏カ書面ノ原本ヲ還付スルトキハ其ノ贈本ニ原本還付ノ旨ヲ記載シ捺印スヘシ

第三章 抵當證券交付手續

第二十七條 登記官吏カ申請書ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク申請ニ關スル總テノ事項ヲ調査スヘシ

第二十八條 登記官吏カ申請ヲ受附ケタルトキハ事件簿ニ受附ノ月日、事件、番號申請人ノ住所氏名、債權額及抵當權ノ目的ノ表示ヲ記載シ且附錄第七號様式ニ依リ受領證券符元簿ニ相當ノ記載ヲ爲シ其ノ受領證券申請人ニ交付スヘシ

前項ノ記載ヲ爲ス場合ニ於テ申請人カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノ住所氏名及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル抵當權ノ目的カ多數ナルトキ亦之ニ準ス

第二十九條 第二十一條ノ規定ニ依リ申請ヲ受理シタル場合ニ於テハ登記官吏ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ申請人ニ通知スヘシ

第三十條 抵當證券法第五條第二項ノ規定ニ依リ贈本ヲ爲ス場合ニ於テハ登記官吏ハ共同證券簿ニ共同證券簿番號、事件番號、受託登記所ノ名稱及囑託ノ月日ヲ記載シ且事件簿ニ共同證券簿番號ヲ記載

第三十一條 受託登記所ノ登記官吏カ前條ノ規定ニ依リ囑託ヲ受ケタル場合ニ於テハ新ニ抵當證券交付ノ申請ヲ受ケタル場合ノ例ニ依リ事件簿ニ第二十八條ノ規定ニ依リ記載ヲ爲シ尙其ノ事件番號欄ニ「何登記所ヨリ受託」ト附記スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ共同證券受託簿ニ共同證券受託簿番號、事件番號、囑託登記所ノ名稱、受託ノ月日及他ノ受託登記所アルトキハ其ノ名稱ヲ記載シ且事件簿ニ共同證券受託簿番號ヲ記載スヘシ

第三十二條 共同證券簿及共同證券受託簿ノ記載ハ一事件毎ニ各欄ヲ貫通シタル縦線ヲ劃シテ之ヲ爲スヘシ

第三十三條 抵當證券法第六條ノ規定ニ依リ催告ヲ爲シタル後催告書ニ記載スヘキ事項ニ付申請ノ變更又ハ更正アリタルトキハ登記官吏ハ更ニ一定ノ期間ヲ定メ異議ノ追加催告ヲ爲スヘシ

前項ノ追加催告書ニハ前ニ爲シタル催告ニ對シ過失ナクシテ異議ヲ申立ツルコト能ハサリシ事由及其ノ催告期間後ニ生シタル事由ニ付テモ異議ヲ申立ツヘキ旨ヲ記載スヘシ

第三十四條 登記官吏異議ノ催告ヲ爲シタルトキハ催告書ニ催告番號、事件番號、被催

告人ノ住所氏名及催告ノ月日ヲ記載シ且事
件簿ニ催告番號ヲ記載スヘシ
前條ノ規定ニ依リ異議ノ追加催告ヲ爲シタ
ルトキハ前項ノ記載ノ外催告簿ノ備考欄ニ
追加催告ナル旨及前ニ爲シタル催告ノ番號
ヲ記載シ同時ニ前ニ爲シタル催告ノ備考欄
ニ追加催告ノ番號ヲ記載スヘシ
被催告人ノ住所不明等ノ爲催告ヲ爲スコト
能ハサリシトキハ備考欄ニ其ノ旨ヲ記載ス
ヘシ

第三十五條 異議ノ催告ハ執達吏若ハ郵便ニ
依ル送達又ハ書留配達證明郵便ヲ以テ之ヲ
スヘシ

第三十六條 第二十條ノ規定ニ依リ物件目錄
又ハ手形ノ寫本ヲ提出セシメタル場合ニハ
之ヲ催告書ニ添附シテ其ノ記載ニ代フルコ
トヲ得

第三十七條 異議ノ申立アリタルトキハ催告
簿ニ其ノ受附ノ年月日ノ記載ヲ爲シタル上
異議申立書ニ事件登錄ヲ添ヘテ管轄區裁判
所ニ送付スヘシ

催告ヲ受クヘキ者ヨリ催告前ニ異議ノ申立
アリタル場合ニ於テモ催告ヲ爲シタル上
前項ノ手續ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ事件登錄ヲ管轄區裁判
所ニ送付シタルトキハ催告簿ニ其ノ年月日
ヲ記載スヘシ

第三十八條 數個ノ登記所ニ於テ共同證券ヲ
作成スヘキ場合ニ其ノ一ノ登記所ニ期間内
ニ異議ノ申立アリタルトキハ登記官吏ハ直
ニ其ノ旨ヲ總テノ關係登記所ニ通知スヘシ
一ノ登記所ニ於テ抵當證券ノ發行ヲ妨クル
事由アルコトヲ發見シタルトキ亦同シ

第三十九條 異議ノ申立アリタル後登記官吏
カ抵當證券交付ノ申請ヲ却下シタルトキハ
遲滞ナク其ノ旨ヲ管轄區裁判所ニ通知スヘ
シ抵當證券交付申請ノ取下アリタルトキ亦
同シ

第四十條 異議ニ關スル裁判確定シタルトキ
ハ第一審裁判所ヨリ遲滞ナク其ノ結果及確
定ノ年月日ヲ總テノ關係登記所ニ通知シ且
邊付ヲ受ケタル事件記録ヲ各登記所ニ返送
スヘシ異議ノ取下アリタルトキ又之ニ準ズ
第四十一條 數個ノ登記所ニ於テ共同證券ヲ
作成スヘキ場合ニ囑託登記所ノ登記官吏カ
證券交付申請ヲ却下シタルトキハ總テノ受
託登記所ニ對シ遲滞ナク其ノ旨及年月日ヲ
通知シ且邊付ヲ受ケタル證券アルトキハ之
ヲ返送スヘシ證券交付申請ノ取下アリタル
トキ亦同シ

第四十二條 第三十八條、第四十條若ハ前條
ノ通知又ハ不動産登記法第二百六條ノ四
第二項前段ノ囑託ヲ受ケタル登記所ノ登記
官吏ハ共同證券囑託簿又ハ共同證券受託簿

ニ其ノ旨並ニ第三十八條ノ通知及第四十條
ノ通知中異議ノ却下又ハ取下ノ通知ニ付テ
ハ其ノ通知ヲ受ケタル年月日、其ノ他ノ通
知又ハ囑託ニ付テハ通知又ハ囑託ノ事由發
生ノ年月日ヲ夫夫記載スヘシ
自ラ申立ヲ受理シタル異議ニ付テ第四十條
ノ通知ヲ受ケタル登記所ノ登記官吏ハ催告
簿ニモ其ノ旨及登錄ノ返還ヲ受ケタル年月
日ヲ記載スヘシ

第四十三條 受託登記所ノ登記官吏ハ登記ヲ
作成シテ囑託登記所ニ送付シタル場合及申
請ノ却下又ハ取下アリタルニ因リ之カ返付
ヲ受ケタル場合ニハ共同登記受託簿ニ其ノ
年月日ヲ記載スヘシ

囑託登記所ノ登記官吏ハ受託登記所ヨリ證
券ノ送付ヲ受ケタル場合及申請ノ却下又ハ
取下アリタルニ因リ之ヲ受託登記所ニ返付
シタル場合ニハ共同證券囑託簿ニ其ノ年月
日ヲ記載スヘシ

第四十四條 抵當證券ハ附錄第一號様式ニ依
リ調製シタル用紙ヲ用ヒ之ヲ作成スヘシ
證券番號ハ其ノ登記所ニ於ケル證券作成ノ
順序ニ從ヒ之ヲ附スヘシ

證券用紙中表面上半部力餘白ナキニ至リタ
ルトキハ附錄第一號(ハ)ノ様式ニ依リ繼續
用紙、目的ノ提示欄力餘白ナキニ至リタル
トキハ同號(ロ)ノ様式ニ依リ繼續用紙ヲ之

ニ編綴シ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ
目的ノ表示欄ニ記載ヲ爲スニハ日的一個毎
ニ縱線ヲ劃スヘシ

證券用紙表面上半部中或欄ニ記載ヲ爲スヘ
キモノナキトキハ墨線ヲ以テ其ノ欄ノ印刷
文字ヲ抹消シ捺印スヘシ

目的ノ表示欄又ハ豫備欄ニ餘白アルトキハ
其ノ餘白ニ墨線ヲ交又スヘシ

受託登記所ニ於テ作成スル證券ノ裏書欄及
元本又ハ利息ノ受領欄ニハ墨線ヲ交又スヘ
シ

第四十五條 抵當證券ヲ作成スルニ當リ左ノ
各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ登記官吏
ハ附錄第十號様式ニ依リ印ヲ夫夫證券ニ押
捺スヘシ

一 抵當權ノ移轉又ハ民法第三百七十五
條第一項ニ掲クル處分ノ假登記アルト
キ

二 抵當權ノ目的タル土地、建物又ハ地
上權ニ付抵當權設定登記前ニ爲サレタ
ル移轉ノ假登記又ハ假差押、處分禁止
ノ假處分、競賣申立若ハ滞納處分ニ因
ル差押ノ登記アルトキ

三 被催告人所在不明等ノ爲之ニ對シ異
議ノ催告ヲ爲スコト能ハサリシトキ

第四十六條 前條第一號及第二號ノ登記力後
日抹消セラレタル場合ニ於テ登記所持人ノ

請求アリタルトキハ登記官吏ハ前條ノ印ヲ
朱抹シ捺印スヘシ

第四十七條 數個ノ登記所ニ於テ共同證券ヲ
作成スル場合ニハ囑託登記所ニ在リテハ附
錄第十一號(イ)ノ様式ニ依リ印ヲ、受託登
記所ニ在リテハ同號(ロ)ノ様式ニ依リ印ヲ
夫夫其ノ作成ニ係ル證券ニ捺捺スヘシ

囑託登記所ノ登記官吏カ前項ノ證券ヲ一括
スルニハ其ノ作成ニ係ル證券ノ最表面ト爲
シテ各證券ヲ編綴シ每葉 綴目ニ契印スヘ
シ

第四十八條 登記官吏ハ申請人ヨシテ第二十
八條ノ規定ニ依リ交付シタル受領證ノ裏面
ニ抵當證券(及抵當證券法第十三條ノ規定
ニ依リ還付書面アルトキハ其ノ書面)受領
ノ旨並ニ年月日ヲ記載シ且署名捺印セシメ
タル上之ト引換ニ抵當證券(及還付書面)ア
ルトキハ其ノ書面)ヲ交付スヘシ

第四十九條 抵當證券法第十三條ノ規定ニ依
リ還付スル書面ニハ附錄第十五號様式ニ依
リ印及登記所ノ印ヲ捺捺スヘシ但シ交付ス
ヘキ證券ガ共同證券ナル場合ニハ右ノ印ニ
ハ囑託登記所作成ノ證券ノ番號ノミヲ記入
シ之ニ(共)ナル文字ヲ冠スヘキモノトス

第五十條 登記官吏抵當證券ヲ作成シタルト
キハ附錄第二號様式ニ依リ抵當證券控用紙
ニ其ノ抵當證券ノ記載ト同一ノ記載ヲ爲シ

且事件番號ヲ附記シ證券番號順ニ依リ之ヲ
抵當證券番號順ニ依リ之ヲ抵當證券控綴込
帳ニ綴込ムヘシ

第五十一條 事件番號、催告番號、共同證券
囑託簿番號、共同證券受託簿番號及受領證
原符番號ハ年毎ニ更新スヘシ

第四章 抵當證券ノ記載
ノ變更、廢棄及再
製ノ手續

第五十二條 登記官吏カ抵當證券ノ記載ノ變
更ヲ爲スニハ變更欄ニ變更ノ事項(變更ノ
年月日ヲ含ム)及年月日ヲ記載シ其ノ末尾
ニ捺印シ且變更前ノ記載事項ヲ朱抹スヘシ
但シ一證券ノ(共同證券ナルトキハ各證券
毎ニ其ノ)抵當權ノ全部力消滅スルニ至リ
タル場合(但シ債權全部ノ消滅ニ因ル場合
ヲ除ク)ニ於テハ其ノ證券ニ附錄第十二號
様式ニ依リ印ヲ捺捺シテ朱抹ニ代フヘシ

前項但書ノ印ヲ捺捺シタル證券ノ抵當權ノ
全部又ハ一部ノ記載ヲ復活スルニハ變更欄
ニ變更ノ記載ヲ爲スノ外右ノ印ヲ朱抹シ傍
ニ附錄第十三號様式ニ依リ印ヲ捺捺スヘク
一部復活ノ場合ニハ復活セサル部分ノ目的
ノ記載ヲ登記スヘシ

變更欄力記載ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタ

ルトキハ登記官吏ハ繼續用紙ヲ編綴シ毎葉ノ綴目ニ契印スヘシ
 變更ノ記載ヲ爲スニハ一事項毎ニ綴線ヲ劃スヘシ
 第五十三條 抵當證券ノ記載ノ變更ヲ申請スルニハ申請書、抵當證券及代理人ニ依リテ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面ヲ提出スヘシ
 抵當證券法第十七條前段ノ規定ニ依リ前項ノ申請ヲ爲スニハ變更ニ付利害關係ヲ有スル者ノ承諾書ヲ提出スヘシ
 第一項ノ申請ハ申請人(代理人ニ依リテ申請スルトキハ其ノ代理人) 證券ヲ作成シタル登記所ニ出頭シテ之ヲ爲スヘシ
 第二十二條、第二十三條及第二十六條ノ規定ハ本條ノ申請ニ付之ヲ準用ス
 第五十四條 前條ノ規定ニ依リ登記書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ記名捺印スヘシ
 一 申請人ノ氏名及住所
 二 代理人ニ依リテ申請スルトキハ其ノ氏名及住所
 三 抵當證券ノ番號
 四 變更スヘキ事項(變更ノ年月日ヲ含ム)
 五 登記所ノ表示
 六 年月日
 第五十五條 登記官吏ハ抵當證券ノ記載ノ變更ノ申請力左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ但シ申請ノ欠缺ヲ補正スルコトヲ得ヘキモナルトキハ此ノ限ニ在ラス
 一 其ノ登記所ノ管轄ニ屬セサルトキ
 二 申請書ニ記載シタル事項力登記簿ト符合セサルトキ
 三 申請人カ出頭セサルトキ
 四 申請書カ方式ニ適合セサルトキ
 五 必要ナル書面ヲ提出セサルトキ
 第五十六條 債權全部ノ消滅ニ因リ抵當權ノ抹消登記ヲ爲シタル場合ニハ登記官吏ハ抵當證券ニ附録第十四號様式ニ依リ印ヲ捺捺シタル上之ヲ還納證券總帳ニ綴込ムヘシ前項ノ場合ニ於テ證券力共同證券ナルトキハ登記官吏ハ其ノ作製ニ係ル證券ノミニ前項ノ印ヲ捺捺シ最後ニ右印ヲ捺捺シタル登記官吏ハ其ノ編綴ヲ解キ各證券ヲ其ノ作製登記所ニ送付シ作製登記所ニ於テ還納證券總帳ニ綴込ムヘシ
 第五十七條 前條ノ規定ハ不動産登記法施行細則第四十四條ノ十八ノ申請ニ因リ抵當證券交付ノ附記登記ヲ抹消シタル場合又ハ不動産登記法第二百二十六條ノ四第二項後段ノ嘱托ニ因リ抵當證券作製ノ附記登記ヲ抹消シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條 登記官吏抵當證券ノ記載ノ變更ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ抵當證券控ニ同一變更ノ記載ヲ爲スヘシ前二條ノ規定ニ依リ抵當證券ニ附録第十四號様式ニ依リ印ヲ捺捺シタルトキ亦之ニ準ス
 第五十九條 抵當證券法第二十三條ノ規定ニ依リ作製スヘキ抵當證券ニハ變更還納ヲ受ケタル證券ノ記載ト同一ノ記載(登記所ノ印、登記官吏ノ印及附録第十四號様式ニ依リ印ヲ捺捺ク)ヲ爲シ之ニ同條ノ規定ニ依リテ作製スルモノナル旨、年月日及登記所ノ提示ヲ記載シタル上登記官吏記名捺印シ且登記所ノ印ヲ捺捺スヘシ但シ一證券ノ(共同證券ナルトキハ各證券毎ニ其ノ) 抵當權ノ目的中回復登記ヲ爲ササルモノアル場合ニハ其ノ部分ノ表示ハ之ヲ抹消シ變更欄ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ裏書及抵當證券法第二十五條ノ記載ハ登記官吏之ヲ爲シ末尾ニ「以上何證券ヨリ轉寫ス」ナル文字ヲ記載シ登記スヘシ
 第六十條 前條ノ證券力共同證券ナル場合ニ於テハ回復登記ヲ爲シタル登記官吏ハ前條ノ規定ニ依リ作製シタル證券ヲ舊證券交付ノ登記所ニ送付スヘシ
 舊證券交付ノ登記所カ前項ノ規定ニ依リ證券ノ送付ヲ受ケタルトキ又ハ自ら回復登記

第六十一條 前條ノ規定ニ依リ證券ノ送付ヲ受ケタル登記所又ハ證券作製ノ受ケタル登記所又ハ證券作製ノ嘱托ヲ受ケタル登記所ニ於テ抵當權ノ回復登記ノ申請ナキトキハ第五十九條ノ規定ニ依リ作製シタル證券ニ附録第十二號様式ニ依リ印ヲ捺捺シ變更欄ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ
 第六十二條 第五十九條ノ證券力共同證券ナルトキハ舊證券交付ノ登記所ノ登記官吏ハ其ノ作製ニ係ル證券ノミニ前項ノ印ヲ捺捺シ最後ニ右印ヲ捺捺シタル登記官吏ハ其ノ編綴ヲ解キ各證券ヲ其ノ作製登記所ニ送付シ作製登記所ニ於テ還納證券總帳ニ綴込ムヘシ
 第六十三條 再交付ノ證券ニハ舊證券ノ證券番號ノミヲ記載スヘシ
 前項ノ證券ニ付テハ第五十九條ノ規定ヲ準用ス但シ抵當證券再交付規則第六條ノ規定ニ依リ證券ヲ作製スル場合ヲ除ク外抵當證券法第二十五條及裏書ノ記載ノ末尾ニハ「以上申請書ニ基キ記載ス」ナル文字ヲ記載スヘシ
 抵當證券再交付規則第二項ノ事項ハ變更欄ニ之ヲ記載スヘシ
 第六十四條 證券ノ汚損ニ因リ再交付ノ申請ニ基キ證券ヲ再交付シタル場合ニハ汚損シタル證券ニ付第五十六條ノ規定ヲ準用ス

第六十五條 抵當證券法第二十三條ノ規定ニ依リ作製シタル證券又ハ再交付ノ證券ニ付テハ登記官吏ハ第五十條ノ規定ニ依リ新ニ證券控(此ノ證券控ニハ抵當證券法第二十五條及裏書ニ關スル記載ヲモ記載スベシ)ヲ作製シ抵當證券總帳ニ之ヲ綴込ミ且其ノ直前ニ綴込マレタル證券控ノ番號ヲ舊證券控ニ記入スヘシ
 第六十六條 登記官吏又ハ其ノ妻若ハ四親等内ノ親族カ證券交付ノ申請人又ハ證券ノ所持人ナル場合ニ抵當證券ヲ作製シ又ハ其ノ記載ヲ變更スルニ付必要ナル調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 申請人又ハ所持人ノ氏名及住所
 二 申請人又ハ所持人カ登記官吏ナルコト又ハ登記官吏ノ妻若ハ四親等内ノ親族ナルコト
 三 證券ノ番號
 四 立會人ノ氏名、住所及年齢
 五 立會人カ其ノ登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及年月日又ハ登記番號

第六十七條 抵當證券再交付規則第六條並ニ本令第二十九條及第三十八條乃至第四十一條ノ通知ハ郵便其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 第六十八條 抵當證券法第十條第三項ノ公告ハ官報及登記事項ノ公告ヲ掲載スヘキ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 第六十九條 共同證券ノ裏書及抵當證券法第二十五條ノ記載ハ第四十七條第二項ノ規定ニ依リテ編綴セラレタル最表面ノ證券ニ之ヲ爲スヘシ
 第七十條 抵當證券中裏書欄又ハ元本又ハ利息ノ受領欄カ記載ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ裏書人又ハ所持人ハ之ニ補箋ヲ貼附シ其ノ接目ニ契印スヘシ
 第七十一條 抵當證券法第二十七條第二項ノ規定ニ依リ證明書ハ附録第九號様式ニ依リ作製シ公證人又ハ執達吏署名捺印シタル上之ヲ抵當證券ニ貼附シ其ノ接目ニ契印スヘシ
 第七十二條 公證人又ハ執達吏カ前條ノ證明書ヲ作製シタルトキハ謄本ヲ作り之ヲ其ノ役場ニ備へ置クヘシ
 前項ノ證明書類滅失シタルトキハ利害關係人ハ其ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
 第七十三條 抵當證券法第三十條第二項又ハ

第六十七條 抵當證券再交付規則第六條並ニ本令第二十九條及第三十八條乃至第四十一條ノ通知ハ郵便其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 第六十八條 抵當證券法第十條第三項ノ公告ハ官報及登記事項ノ公告ヲ掲載スヘキ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 第六十九條 共同證券ノ裏書及抵當證券法第二十五條ノ記載ハ第四十七條第二項ノ規定ニ依リテ編綴セラレタル最表面ノ證券ニ之ヲ爲スヘシ
 第七十條 抵當證券中裏書欄又ハ元本又ハ利息ノ受領欄カ記載ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ裏書人又ハ所持人ハ之ニ補箋ヲ貼附シ其ノ接目ニ契印スヘシ
 第七十一條 抵當證券法第二十七條第二項ノ規定ニ依リ證明書ハ附録第九號様式ニ依リ作製シ公證人又ハ執達吏署名捺印シタル上之ヲ抵當證券ニ貼附シ其ノ接目ニ契印スヘシ
 第七十二條 公證人又ハ執達吏カ前條ノ證明書ヲ作製シタルトキハ謄本ヲ作り之ヲ其ノ役場ニ備へ置クヘシ
 前項ノ證明書類滅失シタルトキハ利害關係人ハ其ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
 第七十三條 抵當證券法第三十條第二項又ハ

同法第三十二條ノ規定ニ依ル許可ハ裁判アリタル場合ニ於テ所持人カ其ノ前者ヨリ償還ヲ受クルトキハ抵當證券ト共ニ其ノ裁判ノ正本ヲモ交付スヘシ

第七十四條 抵當證券ノ抵當權ノ目的ノ全部又ハ一部ノ落ニ因ル配當ヲ實施シタル裁判所カ其ノ抵當權ノ抹消登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ當該賣價ノ申立又ハ配當金受領等ノ爲提出セラレタル抵當證券アルトキハ第五十二條又ハ第五十六條ノ手續ヲ爲サシムル爲之ヲ登記所ニ送付スヘシ抹消登記關後配當金受領ノ爲抵當證券ノ提出アリタルトキ亦同シ共同證券ニ關シ數個ノ登記所ニ前項ノ抹消登記ノ囑託ヲ爲ス場合又ハ爲シタル場合ニハ其ノ一ノ登記所ニ證券ヲ送付シ其ノ登記所ヨリ順次他ノ登記所ニ之ヲ轉送スヘキ旨ヲ囑託スヘシ

附則 本令ハ昭和六年八月一日ヨリ之ヲ施行ス (附錄様式略ス)

抵當證券法ノ施行期日及施行地域ニ關スル件

(昭和六年七月十八日 勅令第八十三號)

抵當證券法ノ施行期日及施行地域ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
抵當證券法ハ昭和六年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
抵當證券法附則第二項ノ規定ニ依ル施行地域ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 東京府
 - 荏原郡ノ内
 - 品川町、大崎町、目黒町、荏原町、入新井町、大井町、大森町
 - 豊多摩郡ノ内
 - 中野町、大久保町、戸塚町、落合町、淀橋町、代々木町、千駄ヶ谷町、澁谷町
 - 北豊島郡ノ内
 - 板橋町、巢鴨町、瀧野川町、日暮里町、三河島町、南千住町、尾久町

- 王子町、長崎町、高田町、西巢鴨町
- 南足立郡ノ内
 - 千住町
- 南葛飾郡ノ内
 - 吾嬬町、隅田町、寺島町、龜戸町、大島町、砂町
- 埼玉縣
 - 北足立郡ノ内
 - 浦和町

抵當證券法ヲ樺太豊原郡豊原町ニ施行スルノ件
(昭和六年七月十八日 勅令第八十四號)

抵當證券法ヲ樺太豊原郡豊原町ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
抵當證券法ハ昭和六年八月一日ヨリ樺太豊原郡豊原町ニ之ヲ施行ス

農業動産信用法

(昭和八年三月二十九日 法律第三十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農業動産信用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
農業動産信用法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ農業トハ耕作、養畜又ハ養蠶ノ業務及之ニ附隨スル業務ヲ謂フ
水産動植物ノ採捕若ハ養殖又ハ薪炭生産ノ業務及之ニ附隨スル業務ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ農業ト看做ス

第二條 本法ニ於テ農業用動産トハ農業ノ經營ノ用ニ供スル動産ヲ謂フ
前項ノ農業用動産ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 本法ノ先取特權又ハ農業用動産ノ抵當權ヲ取得スルコトヲ得ル者ハ信用組合及勅令ヲ以テ定ムル法人ニ限ル

第二章 農業經營資金貸付ノ先取特權

第四條 信用組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人カ農業ヲ爲ス者ニ對シ左ニ掲クル行爲ヲ爲ス

農業動産信用法 總則 農業經營資金貸付ノ先取特權

爲スニ必要ナル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキハ其ノ債權ノ元本及利息ニ付債務者ノ特定動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 農業用動産又ハ農業生産物ノ保存
- 二 農業用動産ノ購入
- 三 種苗又ハ肥料ノ購入
- 四 蠶種又ハ桑葉ノ購入
- 五 薪炭原木ノ購入
- 六 命令ヲ以テ定ムル水産養殖用ノ種苗又ハ餌料ノ購入

前項ノ法人カ農事實行組合、養蠶實行組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人ニ對シ其ノ農業用動産ヲ保存シ又ハ購入スル爲ニ必要ナル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同シ

第五條 農業用動産保存資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ保存シタル農業用動産ノ上ニ存在ス
農業生産物保存資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ保存シタル農業生産物ノ上ニ存在ス

第六條 農業用動産購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル農業用動産ノ上ニ存在ス

第七條 種苗又ハ肥料ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル種苗又ハ肥料ヲ用ヒタル後一年內ニ之ヲ用ヒタル土地ヨリ生シタル果實ノ上ニ存在ス尙桑樹ノ肥料購入資金貸付ノ先取特權ニ在リテハ其ノ果實タル桑葉ヨリ生シタル物ノ上ニモ亦存在ス

第八條 蠶種又ハ桑葉ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル蠶種又ハ桑葉ヨリ生シタル物ノ上ニ存在ス

第九條 薪炭原木購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル薪炭原木ヨリ生産シタル薪炭ノ上ニ存在ス
第十條 水産養殖用種苗購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル種苗ヲ養殖シタル物ノ上ニ存在ス
水産養殖用餌料購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル餌料ヲ用ヒテ養殖シタル物ノ上ニ存在ス

第十一條 先取特權ノ優先權ノ順位ニ付テハ農業用動産又ハ農業生産物ノ保存資金貸付ノ先取特權ハ動産保存ノ先取特權ト、農業用動産又ハ薪炭原木ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ動産購買ノ先取特權ト、種苗若ハ肥料蠶種若ハ桑葉又ハ水産養殖用ノ種苗若ハ

飼料ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ種苗肥料供給ノ先取特權ト看做ス

第三章 農業用動産ノ抵當權

第十二條

農業用動産ハ農業ヲ爲ス者又ハ農業實行組合、養蠶實行組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人カ信用組合又ハ勅令ヲ以テ定ムル法人ニ對シテ負擔スル債務ヲ擔保スル場合ニ限リ之ヲ目的トシテ抵當權ヲ設定スルコトヲ得

農業用動産ノ抵當權ニハ本法ハ他ノ法令別段ノ定アルモノノ外不動産ノ抵當權ニ關スル定ヲ準用ス但シ民法第三百七十八條乃至第三百八十七條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 農業用動産ノ抵當權ノ得喪及變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ又ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十四條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者カ之ヲ讓渡セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ讓受人ニ對シテ抵當權ノ存

在スル旨ヲ告知スルコトヲ要ス

第十五條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者カ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ債務ノ擔保ニ供シタル場合ニ於テハ遲滞ナク前條ノ告知ヲ爲シタル旨ヲ抵當權者ニ告知スルコトヲ要ス

第十六條 先取特權ト農業用動産ノ抵當權ト競合スル場合ニ於テハ抵當權者ハ民法第三百三十條ニ掲ケル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第十七條 農業用動産ノ抵當權ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 抵當權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ損傷シ又ハ隱匿シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ所有者ノ意思ニ反シテ損傷シタル者ニ於テハ刑法ニ依ル

第十九條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所

在スル旨ヲ告知スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ他ノ債務ノ擔保ニ供セントスルトキニ之ヲ準用ス

第十五條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者カ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ債務ノ擔保ニ供シタル場合ニ於テハ遲滞ナク前條ノ告知ヲ爲シタル旨ヲ抵當權者ニ告知スルコトヲ要ス

第十六條 先取特權ト農業用動産ノ抵當權ト競合スル場合ニ於テハ抵當權者ハ民法第三百三十條ニ掲ケル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第十七條 農業用動産ノ抵當權ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 抵當權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ損傷シ又ハ隱匿シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ所有者ノ意思ニ反シテ損傷シタル者ニ於テハ刑法ニ依ル

第十九條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所

在スル旨ヲ告知スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ他ノ債務ノ擔保ニ供セントスルトキニ之ヲ準用ス

第十五條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者カ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ債務ノ擔保ニ供シタル場合ニ於テハ遲滞ナク前條ノ告知ヲ爲シタル旨ヲ抵當權者ニ告知スルコトヲ要ス

第十六條 先取特權ト農業用動産ノ抵當權ト競合スル場合ニ於テハ抵當權者ハ民法第三百三十條ニ掲ケル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第十七條 農業用動産ノ抵當權ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 抵當權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ損傷シ又ハ隱匿シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ所有者ノ意思ニ反シテ損傷シタル者ニ於テハ刑法ニ依ル

第十九條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所

在スル旨ヲ告知スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ他ノ債務ノ擔保ニ供セントスルトキニ之ヲ準用ス

第十五條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者カ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ債務ノ擔保ニ供シタル場合ニ於テハ遲滞ナク前條ノ告知ヲ爲シタル旨ヲ抵當權者ニ告知スルコトヲ要ス

第十六條 先取特權ト農業用動産ノ抵當權ト競合スル場合ニ於テハ抵當權者ハ民法第三百三十條ニ掲ケル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第十七條 農業用動産ノ抵當權ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 抵當權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ損傷シ又ハ隱匿シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ所有者ノ意思ニ反シテ損傷シタル者ニ於テハ刑法ニ依ル

第十九條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所

在スル旨ヲ告知スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ他ノ債務ノ擔保ニ供セントスルトキニ之ヲ準用ス

第十五條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者カ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ債務ノ擔保ニ供シタル場合ニ於テハ遲滞ナク前條ノ告知ヲ爲シタル旨ヲ抵當權者ニ告知スルコトヲ要ス

第十六條 先取特權ト農業用動産ノ抵當權ト競合スル場合ニ於テハ抵當權者ハ民法第三百三十條ニ掲ケル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第十七條 農業用動産ノ抵當權ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 抵當權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ損傷シ又ハ隱匿シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ所有者ノ意思ニ反シテ損傷シタル者ニ於テハ刑法ニ依ル

第十九條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所

在スル旨ヲ告知スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ他ノ債務ノ擔保ニ供セントスルトキニ之ヲ準用ス

第十五條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者カ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ債務ノ擔保ニ供シタル場合ニ於テハ遲滞ナク前條ノ告知ヲ爲シタル旨ヲ抵當權者ニ告知スルコトヲ要ス

第十六條 先取特權ト農業用動産ノ抵當權ト競合スル場合ニ於テハ抵當權者ハ民法第三百三十條ニ掲ケル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第十七條 農業用動産ノ抵當權ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 抵當權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ損傷シ又ハ隱匿シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ所有者ノ意思ニ反シテ損傷シタル者ニ於テハ刑法ニ依ル

第十九條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所

在スル旨ヲ告知スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ他ノ債務ノ擔保ニ供セントスルトキニ之ヲ準用ス

農業動産信用法施行令

(昭和八年十一月二十九日勅令第三百七號)

農業動産信用法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農業動産信用法施行令

第一條 農業動産信用法ノ農業用動産ノ範圍左ノ如シ但シ第五號ニ掲ケルモノハ同法第三章ノ農業用動産ノ範圍ヨリ之ヲ除ク

一 石油發動機(揮發油發動機、燈油發動機、輕油發動機及重油發動機)ニ限ル、電動機、水力原動機(タービン)

水車及螺旋水車ニ限ル、畜力原動機、(トラクタ)貨物自動車、汽罐、木炭

瓦斯發生機、カルチヴエーター、揚水機(渦卷唧筒及縱型唧筒ニ限ル)、穀物

火力乾燥機、製茶機械(鶴鑪釜、蒸葉機、粗揉機、揉捻機、精揉機及乾燥機

ニ限ル)、肥料飼料又ハ餌料ノ調製加工機(粉碎機、粉末機及配合機ニ限ル)、

牛乳殺菌機、牛乳冷却機、牛乳分離機、(チャーニー)、孵卵器、乾燥機、練練機、

生絲水分検査機及臺秤

二 噴霧機、脱穀機、麥摺機、粗糶機、

精米機、精麥機、製粉機及製麵仕上機

ニシテ原動機ニ依リ運轉セラレルモノ

三 牛及馬

四 總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石

未滿ノ漁船但シ總噸數五噸未満又ハ積

石數五十石未滿ノ漁船ニ在リテハ發動

機ノ備附アルモノ又ハ長サ七メートル

以上ノモノ

五 羊、豚、鶏及あひる

第二條 農業動産信用法ノ先取特權及農業用

動産ノ抵當權ヲ取得スルコトヲ得ル法人左

ノ如シ

一 信用組合聯合會

二 漁業法第四十三條ノ二第一項第四號ノ事業ヲ行フ漁業組合

第三條 農業動産信用法第四條第一項第六號ノ水産養殖用ノ種苗又ハ餌料ハ一定ノ區域内ニ於テ垂下用懸垂柵若ハ築ヲ建設シテ爲ス養殖業又ハ土、石、竹、木等ノ圍障ニ依リ境界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業ニ用フル種苗又ハ餌料ニシテ左ニ掲グルモノトス

一 種苗ニ在リテハかき、のり、うなぎ、

こひ、ます(陸封性ノモノ)、ぼら、わ

かさぎ、あゆ、はまち及えび

二 餌料ニ在リテハ蠶ノさなぎ、いさぎ

第四條 (別名こませ)、小麦粉及いかし

第五條 農業動産信用法第四條第二項ニ規定

スル貸付ヲ受クルコトヲ得ル法人又ハ同法

第十二條ニ規定スル抵當權ニ依リ擔保セラ

ル債務ヲ負擔スルコトヲ得ル法人左ノ如

一 擔保權ノ目的タル農業用動産ノ所有者ノ讓渡セントスルトキハ其ノ讓受人ニ對シテ左ニ掲ケル事項ヲ告知スルコトヲ要ス

一 擔該動産カ抵當權ノ目的タルコト

二 抵當權者ノ名稱及事務所

三 債務ノ金額、利率、償還方法、發生

ノ時期及辨濟期

四 農業用動産ノ所有者カ債務者ニ非サル

ルトキハ債務者ノ氏名又ハ名稱及住所

又ハ事務所

前項ノ規定ハ抵當權ノ目的タル農業用動産

ヲ他ノ債務ノ擔保ニ供セントスル場合ニ於

附則 本令ハ農業動産信用法施行ノ日ヨリ之ヲ施行

ス(昭和八年勅令第三百六號ヲ以テ同年十二

月一日ヨリ施行ス)但シ第二條第二號ノ規定

ハ昭和八年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ

施行ス

二二五

金銭債務臨時調停法

(昭和七年九月七日)
法律第二十六號

改正昭和九一法律四一

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル金銭債務臨時調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

金銭債務臨時調停法

第一條 負債ノ整理ニ依リ誠實ナル債務者ヲ更生セシムル爲メ債權者債務者ノ互讓ヲ必要トスルトキハ當事者ハ本法ニ依リ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二條 調停ノ申立ハ私法上ノ金銭債務ニシテ金額千圓ヲ超過セザルモノニ付之ヲ爲スコトヲ得但シ小作料其ノ他小作關係ヨリ生シタルモノ及地代、家賃其ノ他借地借家關係ヨリ生シタルモノニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ金額ニハ附帶ノ利息、違約金、費用又ハ手数料ノ額ヲ算ハセス元本ニ組入レタル此等ノモノニ付亦同シ

第一項ノ金額ヲ超過スル債務ニ付調停ノ申立アリタル場合ト雖モ裁判所調停ヲ爲スヲ相當ニ認メ且相手方ニ異議ナキトキハ調停ヲ爲スコトヲ得相手方期日ニ出頭シテ事件

ノ内容ニ付陳述ヲ始メタルトキハ異議ナキモノト看做ス

第三條 調停ノ申立ハ相手方ノ住所、居所、營業所若ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ當事者ノ合意ニ依リテ定ムル區裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

調停ノ申立ヲ受ケタリ裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所力調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四條 本法ノ調停ニ關シテハ借地借家調停法第二條、第四條ノ二、第六條乃至第二十三條及第二十六條乃至第三十二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 事件ノ性質上調停ヲ爲スニ適セス又ハ當事者不審ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタルト認ムルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ調停ノ申立ヲ却下ス第七條第二項ニ該當スルトキ其ノ他調停ヲ爲スニ適當ナラサル事情存スルトキ亦同シ

調停委員會前項ノ事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲サズ

第六條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟ガ繫屬スルトキ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ事件力調停ニ付セラレタルトキハ受訴裁判

所ハ決定ヲ以テ調停ノ終了又ハ第七條ノ規定ニ依リ裁判確定ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ供セシメスシテ強制執行手續又ハ競賣法ニ依リ競賣手續ヨリ民事訴訟法第百十二條、第百十三條、第百十五條及第百十六條ノ規定ハ前項ノ擔保ニ之ヲ準用ス

第一項及第二項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七條 調停委員會ニ於テ調停成ラサル場合ニ裁判所相當ト認ムルトキハ職權ヲ以テ調停委員ノ意見ヲ聽キ當事者雙方ノ利益ヲ衡平ニ考慮シ其ノ資力、業務ノ性質既ニ債務者ノ支拂ヒタル利息手数料内入金等ノ額其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ調停ニ代ヘ利息、期限其ノ他債務關係ノ變更ヲ命スル裁判ヲ爲スコトヲ得此ノ裁判ニ於テハ債務ノ履行其ノ他財産上ノ給付ヲ命スルコトヲ得

銀行其ノ他官廳ノ監督ヲ受ケテ金融業務ヲ取扱フ者ノ債權ニ付テハ其ノ業務ノ機構ヲ害スル虞アルトキハ前項ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 前條ノ規定ニ依リ裁判ハ調停事件ノ

金銭債務臨時調停ノ手数料等ニ關スル件

(昭和七年九月二十二日)
勅令第二百五十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル金銭債務臨時調停ノ手数料等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 金銭債務臨時調停ノ申立ノ手数料ハ左ノ區別ニ從フ

調停ノ請求ムル債務ノ金額五十圓迄	二十錢
同 百圓迄	三十錢
同 二百五十圓迄	五十錢
同 五百圓迄	一圓
同 千圓迄	二圓
同 千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ一圓ヲ加フ	

第二條 大正十一年勅令第三百二十九號第二條乃至第四條ノ規定ハ記録ノ閱覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ請求ムル手数料並ニ調停委員及調停ノ補助ヲ爲シタル者ノ旅費、日當及止宿料ニ付之ヲ準用ス

附則 本令ハ金銭債務臨時調停法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

身元保證ニ關スル法律

(昭和八年四月一日)
法律第四十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル身元保證ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 引受保證其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ期間ヲ定メシテ被用者ノ行爲ニ因リ被用者ノ受ケタル損害ヲ賠償スルコトヲ約スル身元保證契約ハ其ノ成立ノ日ヨリ三年間其ノ效力ヲ有ス但シ商工業見習者ノ身元保證契約ニ付テハ之ヲ五年トス

第二條 身元保證契約ノ期間ハ五年ヲ超ユルトキハ其ノ期間ハ之ヲ五年ニ短縮ス

身元保證契約ハ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ更新ノ時ヨリ五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 使用者ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク身元保證人ニ通知スヘシ

一 被用者ニ業務上不適任又ハ不誠實ナル事跡アリテ之ヲ爲身元保證人ノ責任ヲ惹起スル虞アルコトヲ知リタルトキ

二 被用者ノ任務又ハ任地ヲ變更シ之ヲ爲身元保證人ノ責任ヲ加重シ又ハ其ノ

緊要スル裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

第九條 第七條ノ規定ニ依リ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ之ヲ二週間トス

前項ノ即時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第十條 第七條ノ規定ニ依リ裁判確定シタルトキハ其ノ裁判ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條 調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク評議ノ期末又ハ調停主任、調停委員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和七年勅令第二百四十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス)

附則 本法ハ當分ノ内其ノ效力ヲ有ス

附則 (昭和九年法律第四十一號) 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和九年勅令第九十三號ヲ以テ同年四月二十一日ヨリ施行ス)

監督ヲ困難ナラシムルトキ
第四條 身元保証人前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ將來ニ向テ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

身元保証人自ラ前條第一號及第二號ノ事實アリタルコトヲ知りタルトキ亦同シ

第五條 裁判所ハ身元保証人ノ損害賠償ノ責任及其ノ金額ヲ定ムルニ付被用者ノ監督ニ關スル使用者ノ過失ノ有無、身元保証人カ

身元保証ヲ爲スニ至リタル事由及之ヲ爲スニ當リ用キタル注意ノ程度、被用者ノ任務又ハ身上ノ變化其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌ス

第六條 本法ノ規定ニ反スル特約ニシテ身元保証人ニ不利益ナルモノハ總テ之ヲ無効トス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和八年勅令第二百四十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス)

本法ハ本法施行前ニ成立シタル身元保証契約ニモ之ヲ適用ス但シ存續期間ノ定ナキ契約ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算シ第一條ノ規定ニ依ル期間其ノ效力ヲ有ス存續期間ノ定アル契約ニ付テハ本法施行當時ニ於ケル残存期間ヲ約定期間トス若シ此ノ期間カ五年ヲ超ユルトキハ之ヲ五年ニ短縮ス

不正競争防止法

(昭和九年三月二十七日法律第十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル不正競争防止法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公引セシム

不正競争防止法

第一條 不正ノ競争ノ目的ヲ以テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ハ被害者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任ス

一 本法施行ノ地域内ニ於テ取引上廣ク認識セラルル他人ノ氏名、商號、商標、商品ノ容器包装其ノ他他人ノ金品タルコトヲ示ス表示ト同一若シ類似ノモノヲ使用シ又ハ之ヲ使用シタル商品ヲ販賣若ハ擴布シテ他人ノ商品ト混同ヲ生セシムル行為

二 假設若ハ偽ノ商號ニ附加シテ商品ニ虛偽ノ原產地ノ表示ヲ爲シ又ハ之ヲ表示シタル商品ヲ販賣若ハ擴布シテ原產地ノ誤認ヲ生セシムル行為

三 他人ノ商品ノ信用ヲ害スル虛偽ノ事實ヲ陳述シ又ハ之ヲ流布スル行為

前項ノ行為ヲ爲シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ代ヘ又ハ

損害賠償ト共ニ其ノ行為ノ差止ヲ命スルコトヲ得

第一項第三號ノ行為ヲ爲シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ商品ノ信用ヲ回復スルニ必要ナル處置ヲ命スルコトヲ得

第二條 商品ノ普通名稱若ハ取引上普通ニ同種ノ商品ニ慣用セララルル地名其ノ他ノ表示ヲ使用スル行為又ハ之ヲ使用シタル商品ヲ販賣若ハ擴布スル行為ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

第三條 外國人ニシテ本法施行ノ地域内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサルモノハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アル場合ヲ除クニ外第一條ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 外國ノ國ノ紋章、旗章其ノ他ノ徽章ニシテ主務大臣ノ指定スルモノト同一又ハ類似ノモノハ其ノ國ノ當該官廳ノ許可ナクシテ之ヲ商標トシテ使用シ又ハ之ヲ商標トシテ使用シタル商品ヲ販賣若ハ擴布スルコトヲ得ス

前項ノ紋章ハ其ノ國ノ當該官廳ノ許可ナクシテ商品ノ原產地ノ誤認ヲ生セシムル方法ニ依リ取引上之ヲ使用シ又ハ之ヲ使用シタル商品ヲ販賣若ハ擴布スルコトヲ得ス

外國ノ官ノ監督用又ハ證明用ノ印章又ハ記號ニシテ主務大臣ノ指定スルモノト同一又

ハ類似ノモノハ其ノ國ノ當該官廳ノ許可ナクシテ之ヲ同一若ハ類似ノ商品ノ商標トシテ使用シ又ハ之ヲ使用シタル商品ヲ販賣若ハ擴布スルコトヲ得ス

帝國ノ紋章、旗章其ノ他ノ徽章又ハ官ノ監督用若ハ證明用ノ印章若ハ記號ノ使用ノ許可ヲ當該官廳ヨリ受ケタルトキハ外國ノ國ノ紋章、旗章其ノ他ノ徽章又ハ官ノ監督用若ハ證明用ノ印章若ハ記號ト同一又ハ類似ノモノナル場合ト雖モ前三項ノ規定ヲ適用セス

第五條 前條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 第一條第一項第一號第二號及第四條第一項乃至第三項ノ規定ハ特許法、實用新案法、意匠法又ハ商標法ニ依リ權利ノ行使ト認メラルル行為ニハ之ヲ適用セス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和九年勅令第三百四十一號ヲ以テ同年一月一日ヨリ施行ス)

不正競争防止法

不正競争防止法

ノ地域ニ於テ振出し朝鮮ニ於テ支拂フヘキ小切手ノ呈示期間ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ伸長スルコトヲ得

第十六條 地方法院ニ於テ合議シテ裁判ヲ爲スヘキ事件ニ付テハ第一條ノ法律中其ノ事件ニ付定メタル地方裁判所ノ裁判手續ニ關スル規定ヲ準用シ其ノ他ノ事件ニ付テハ區裁判所ノ裁判手續ニ關スル規定及非訟事件手續法中地方裁判所ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條 外區裁判所又ハ地方裁判所ニ關スル規定ハ之ヲ地方法院ニ、區裁判所判事ニ關スル規定ハ之ヲ地方法院判事ニ準用ス

第十八條 地方法院判事ハ事件カ朝鮮總督府裁判所令第四條第一項但書ニ該當スト認ムルトキハ決定ヲ以テ其ノ事件ヲ合議部ニ移付スヘシ

第十九條 朝鮮總督府裁判所令第四條第一項第一號ノ訴訟物ノ價額ハ訴ヲ以テ主張スル利益ニ依リテ之ヲ算定ス

第二十條 價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ハ千圓ヲ超過スルモノト看做ス

第二十一條 檢事ハ民事事件ニ付必要ト認ムルトキハ裁判所ノ通知ヲ求メ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十二條 裁判所又ハ裁判長カ職權ヲ以テ訴訟代理人又ハ訴訟ノ承繼人ヲ選定スヘキ場

合ニ於テハ辯護士ニ非サル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二十一條 當事者ハ合議裁判所ニ於テモ許可ヲ得テ辯護士ニ非サル者ヲ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

第二十二條 (削除)

第二十三條 (削除)

第二十四條 裁判所書記其ノ廳内ニ於テ送達ヲ受クヘキ者ニ書類ヲ交付シ受取證ヲ徵シタルトキハ送達ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第二十五條 民事訴訟法第七十八條第一項ノ事由アル場合ニ於テハ申立ナキモ裁判長ノ許可ヲ得テ公示送達ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 訴訟關係人カ裁判長ノ定メタル期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シタルトキハ期日呼出ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生ス

第二十七條 (削除)

第二十八條 (削除)

第二十九條 當事者雙方カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲ササルトキハ裁判長ハ更ニ期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出スヘシ

第三十條 前項ノ新期日又ハ其ノ後ノ期日ニ當事者雙方

方カ出頭セス又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲ササルトキハ訴ノ取下アリタルモノト看做ス

第三十一條 當事者カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ前項ノ期日ニ出頭スルコト能ハサルシ場合ニ於テハ其ノ事由ノ止ミタル後一週内ニ限り期日指定ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 前項ノ規定ハ準備手續及上訴審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス但シ上訴審ニ於テハ上訴ノ取下ト看做ス

第三十三條 (削除)

第三十四條 (削除)

第三十五條 裁判所ノ開廷ニ關シテハ裁判所構成法第四條乃至第一百十三條ノ規定ニ依ル

第三十六條 裁判所ノ通譯官、通譯生又ハ書記ヲ通事ト爲ス場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ要セス

第三十七條 地方法院ニ於テ判事單獨ニ裁判ヲ爲ス事件ニ付原告又ハ被告カ最初ニ爲スヘキ口頭辯論ノ期日ニ出頭スルモ辯論ヲ爲ササルトキハ出頭シタル當事者ノ陳述ヲ聽キ裁判長ヲ以テ相手方ノ敗訴ヲ言渡スコトヲ得

第三十八條 裁判長ノ言渡ハ口頭辯論終結後直ニ之ヲ爲ス場合ニ限り其ノ主文ヲ作ラサル前ト雖之ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 裁判所ノ決定ニ對シテハ關席者ヨリ

故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得

故障ノ申立ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ一週内ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ期間前申立テタル故障ノ效力ヲ妨ケス

第三十七條 故障ノ申立ハ故障申立書ヲ關席判決ヲ爲シタル裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

故障申立書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 當事者及法定代理人

二 關席判決ノ表示及其ノ判決ニ對シ故障ノ申立ヲ爲ス旨

第三十八條 民事訴訟法第二百二十八條ノ規定ハ故障申立書ニ之ヲ準用ス

第三十九條 二 不合法ナル故障ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十八條ノ三 前二條ノ場合ヲ除クノ外裁判所ハ故障申立書ヲ相手方ニ送達シ且故障ニ付口頭辯論期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出スヘシ

第三十八條ノ四 故障ヲ申立テタル原告又ハ被告カ前條ノ口頭辯論期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲ササルトキハ故障ノ取

下アリタルモノト看做ス

第二十九條 第三項ノ規定ハ故障ヲ申立テタル原告又ハ被告カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ前項ノ期日ニ出頭スルコト能ハサルシ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 五 適法ナル故障ノ申立アリタルトキハ訴訟ハ關席前ノ程度ニ復ス

第三十一條 規定ハ前項ノ規定ニ依リ關席前ノ程度ニ復シタル訴訟ニ付之ヲ適用セス

第三十二條 六 故障後ニ爲スヘキ判決カ關席判決ト符合スルトキハ關席判決ヲ維持シ符合セサルトキハ關席判決ヲ廢棄スヘシ

第三十三條 七 控訴權ノ拋棄及控訴ノ取下ニ關スル規定ハ故障ヲ爲ス權利ノ拋棄及故障ノ取下ニ之ヲ準用ス

第三十四條 八 關席判決ニ對シテハ關席者ヨリ控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第三十五條 九 民事訴訟法第五百條ノ規定ハ假執行ノ宣言ヲ附シタル關席判決ニ對シ故障ヲ申立テタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條 當事者ハ證人、鑑定人、通事又ハ其ノ他ノ顧問ヲ裁判長ニ請求スヘシ

第三十七條 受命判事又ハ受託判事ハ檢證ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ證人ヲ訊問スルコトヲ得

第三十八條 朝鮮總督證人ナルトキハ其ノ現

在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

第四十二條 (削除)

第四十三條 (削除)

第四十四條 財產權上ノ請求ニ關スル判決ニ對シテハ控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ價額カ五十圓ヲ超過セサル場合ニ於テハ再審ノ事由アルニ非サレハ控訴ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ訴訟ノ目的ノ價額カ五十圓ヲ超過スル事件ニ付裁判所カ訴訟ノ一部ニ付爲シタル判決ニハ之ヲ適用セス

第四十五條 第一項ノ價額ハ控訴提起ノ時ノ標準トシテ之ヲ定ム

控訴審ニ於テ擴張シタル請求ノ價額ハ第一項ノ價額ニ之ヲ算入セス

第四十六條 第一項ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ハ五十圓ヲ超過スルモノト看做ス

民事訴訟法第二十三條第一項ノ規定ハ第一項ノ價額ノ算定ニ之ヲ準用ス

第四十七條 損害賠償、違約金又ハ費用ノ請求カ訴訟ノ附帶ノ目的ナルトキハ控訴提起ノ時迄ニ生シタルモノニ限り其ノ價額ヲ第一項及第二項ノ價額ニ算入ス

第四十八條 被控訴人ハ附帶控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ價額カ五十圓ヲ超過セサル場

合ニ於テモ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得
 第四十六條 控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ原裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス
 第四十七條 控訴狀カ民事訴訟法第三百六十條第二項ノ規定ニ違背スル場合及法令ノ規定ニ從ヒ控訴狀ニ印紙ヲ貼用セサル場合ニ於テハ原裁判所ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ欠缺ヲ補正スヘキコトヲ命スルコトヲ得
 控訴人カ欠缺ノ補正ヲ爲ササルトキハ原裁判所ハ決定ヲ以テ控訴狀ヲ却下スヘシ
 不適法ナル控訴ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ原裁判所ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得
 前二項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 控訴狀却下ノ決定ニ對スル抗告狀ニハ其ノ控訴狀ヲ添附スヘシ
 第四十八條 (削除)
 第四十九條 (削除)
 第五十條 民事訴訟法第四百十二條第三項ノ適用ニ付テハ大審院ハ高等法院ニ該當ス
 第五十一條 第四十四條乃至第四十七條ノ規定ハ上告ニ之ヲ準用ス
 第五十二條 (削除)
 第五十三條 (削除)

第五十四條 (削除)
 第五十五條 民事訴訟法第六百四十三條第一項第二號ノ證書ハ左ノ書面ノ一ヲ以テ之ヲ充ツ
 一 不動産證明簿ニ債務者ノ所有トシテ記載シタル不動産ニ付テハ證明官吏ノ認證書タル證明簿ノ抄本
 二 不動産證明簿ニ記載シアラサル土地ニ付テハ稅務署長、建物ニ付テハ府尹又ハ郡守ニ於テ債務者ノ所有タルコトヲ證明シタル書面
 同條第一項第三號及第四號ノ證書ハ左ノ書面ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
 一 土地ニ付テハ稅務署長ニ於テ其ノ所在地名、地番號(字號、四標等)、種目、面積(反別、坪數又ハ斗落、卜數等、價額)及其ノ土地ニ付納ムヘキ一年ノ公課ヲ證明シタル書面
 二 建物ニ付テハ府尹又ハ郡守ニ於テ其ノ所在地名、敷地番號(字號、四標等)、戶番號、種類、構造、建坪、價額及其ノ建物ニ付納ムヘキ一年ノ公課ヲ證明シタル書面
 前項ノ書面ニハ其ノ土地又ハ建物ノ圖面ヲ添付スヘシ
 第五十六條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テ

ハ不動産證明簿ニ記載シタル典當權者ハ之ヲ登記簿ニ記入アル不動産上權利者ト看做ス
 第五十七條 民事訴訟法第六百五十一條乃至第六百五十三條、第六百五十五條、第六百八十九條第一項、第六百九十五條、第六百九十七條、第七百零六條、第七百零七條、第七百零九條、第七百一十條、第七百一十一條及第七百五十八條第三項ノ適用ニ付テハ不動産證明簿ハ登記簿ニ證明官吏ノ登記ニ證明官吏ハ登記簿ニ準ス
 第五十八條 執達吏ノ職務ヲ行フ者必要ト認ムルトキハ利害關係人ノ申立ナシト雖モ裁判人ニ對シ民事訴訟法第六百六十四條ノ保證ヲ立ツヘキコトヲ命スルコトヲ得
 第五十九條 民事訴訟法第六百八十八條第五項ノ規定ニ依リ前執達吏ノ召喚ニ歸シタル金額ハ同法第六百六十四條又ハ前條ノ規定ニ依リ預リタル保證金又ハ有價證券ノ賣却代金ノ中ヨリ之ヲ徵收シ不動産ノ賣却代金ニ加フ
 前項ノ有價證券ノ賣却ニ付テハ民事訴訟法第五百八十一條乃至第五百八十三條ノ規定ヲ準用ス
 第一項ノ規定ニ依リ處分シタル保證金又ハ有價證券ノ賣却代金ノ殘額ハ保證ヲ立テタル者ニ之ヲ返還スヘシ
 第六十條 前二條ノ規定ニ依リ爲シタル手續

ハ調査ニ記載シテ之ヲ明確ニスヘシ
 第六十一條 前三條ノ規定ハ入札拂ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第六十二條 交通至難ノ地ニ在ル不動産ノ強制賣却ニ付テハ裁判所ハ開始決定ノ送達及民事訴訟法第六百五十一條第一項ノ規定ニ依リ手續ヲ爲シタル後不動産ノ所在地ヲ管轄スル郡守ニ執行記録ヲ送付シテ其ノ後ノ手續ヲ囑託スルコトヲ得但シ該賣却手續ヲ取消ス裁判及配當異議ノ訴ニ對スル裁判ハ此ノ限ニ在ラス
 前項ノ囑託アリタル場合ニ於テハ第九條ノ規定ニ依リ外通常ノ手續ニ從フ
 第六十三條 執行裁判所及配當裁判所ニ屬スル職務ハ郡守ニ行フ
 第六十四條 郡守ハ民事訴訟法第六百五十三條及第六百五十六條ノ規定ニ依リ該賣却手續ヲ取消スヘキモノト認メタルトキハ執行記録ヲ裁判所ニ返還スヘシ
 裁判所配當異議ノ訴ヲ受理シタルトキハ郡守ニ通知シテ執行記録ヲ送付ヲ求ムヘシ
 第六十五條 執達吏ノ職務ヲ行フヘキ者ハ郡守其ノ屬ノ吏員中ニ就キ之ヲ命ス
 第六十六條 該賣、該落、代金支拂及配當ノ期日ハ郡廳ニ於テ之ヲ開ク
 第六十七條 該賣期日ノ公告ハ郡廳ノ揭示場及適當ノ場所ニ、其ノ他ノ公告ハ郡廳ノ揭示場

示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス
 第六十八條 民事訴訟法第六百六十八條ノ規定ニ依リ裁判所書記ニ渡スヘキ調査、金額又ハ有價證券ハ之ヲ郡守ニ渡スヘシ
 第六十九條 民事訴訟法第六百六十九條ノ適用ニ付テハ執行裁判所ノ所在地ハ郡廳ノ所在地ニ該當ス
 第七十條 民事訴訟法第六百八十條ノ抗告ニ付テハ囑託ヲ爲シタル裁判所ヲ以テ抗告裁判所トス
 前項ノ抗告裁判所ノ裁判ニ對スル抗告ニ付テハ覆審法院ヲ以テ終審トス
 第七十一條 執行手續ヲ完結シタルトキハ郡守ハ執行記録ヲ裁判所ニ返還スヘシ
 第七十二條 前十七條ノ規定ハ不動産ノ任意賣却ニ之ヲ準用ス
 第七十三條 人事訴訟手續法第十條及第十一條ノ規定ハ人事ニ關スル訴訟ニシテ人事訴訟手續法ニ規定ナキモノニ付テ之ヲ準用ス
 前項ノ訴訟ニ付テハ裁判所ハ當事者ノ提出セサル事實ト雖之ヲ斟酌スルコトヲ得
 第七十四條 檢事ハ前條ノ訴訟ニ付事實及證據方法ヲ提出スルコトヲ得
 第七十五條 非訟事件手續法中外國會社及外國法人ノ登記ニ關スル規定ハ朝鮮ニ在リテ有スル會社其ノ他ノ法人カ朝鮮ニ支店又ハ事務所ヲ設ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十六條 民事訴訟費用法第十四條ノ規定ハ裁判所ノ通譯官及通譯生カ檢證ノ爲實地檢査ヲ爲ス場合ニ於ケル旅費及滞在費ニ之ヲ準用ス
 附則
 第七十七條 本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第七十八條 左ノ法令ハ之ヲ廢止ス
 一 統監府裁判所司法事務取扱令
 二 明治四十二年勅令第二百三十八號(韓國人ニ係ル司法ニ關スル件)
 三 手形條例
 四 民事訴訟規則
 五 民事訴訟期限規則
 六 民事訴訟費用規則
 七 隆熙三年法律第十五號
 八 非訟事件手續規則(民事證據調費用ニ關スル件)
 第七十九條 本令施行前法令ニ依リ爲シタル裁判、命令、處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス
 第八十條 本令施行前既ニ着手シタル強制執行ハ舊法ニ從ヒ之ヲ完結ス
 第八十一條 本令施行前ニ生シタル事項ニ付テハ朝鮮人ノ外關係者ナキ場合ニ限り民法施行法及商法施行法中民法及商法ノ施行前ニ生シタル事項ニ關スル規定ヲ準用シ其ノ

規定ニ依リ舊法ヲ適用スヘキ場合ニ於テハ朝鮮ニ於ケル從來ノ例ニ依ル

附則 (大正七年制令第八號) 本令ハ公布ノ日(大正七年六月十一日)ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十年制令第十四號)

本令ハ大正十年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス 本令施行前生シタル事項ニ付テハ民法施行法及商法施行法中無能力者、親權、後見及保佐人ニ關スル規定ヲ準用シ其ノ規定ニ依リ舊法ヲ適用スヘキ場合ニ於テハ朝鮮ニ於ケル從來ノ例ニ依ル

本令施行前ヨリ獨立シテ商業ヲ營ム未成年者ハ本令施行ノ日ヨリ其ノ商業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

附則 (大正十一年制令第一號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス 朝鮮民事訴訟法印刷紙令ハ之ヲ廢止ス

附則 (大正十一年制令第十三號)

本令施行ノ期日ハ各條ニ付朝鮮總督之ヲ定ム (大正十一年十二月府令第五百二十二號ヲ以テ) 大正十二年一月一日ヨリ第一條、第三十八條及第七十二條ノ改正ニ關スル規定施行、大正十二年三月府令第六十四號ヲ以テ、同年七月一日ヨリ第十一條乃至第十一條ノ九及第七十三條第一項ノ改正ニ關スル規定施行

本令施行前生シタル事項ニ付テハ民法施行法中離婚、相続ノ承認及財産ノ分離ニ關スル規定ヲ準用ス

附則 (昭和四年五月七日制令第六號) 本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附則 (昭和四年六月府令第四十八號) 本令施行前生シタル事項ニ付テハ民事訴訟法中改正法律施行法ヲ準用シ其ノ規定ニ依リ舊法ヲ適用スヘキ場合ニ於テハ朝鮮ニ於ケル從來ノ例ニ依ル

本令施行ノ際現ニ繫屬スル訴訟ニ付言渡シタル判決ニ對シテハ上訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ價額カ五十圓ヲ超過セサル場合ニ於テモ上訴ヲ爲スコトヲ得

附則 (昭和六年制令第九號) 本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附則 (昭和六年府令第一四號ヲ以テ) 昭和六年十二月一日ヨリ施行

附則 (昭和八年制令第二十三號) 本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附則 (昭和八年府令第一四五號ヲ以テ) 別和八年一月一日ヨリ之ヲ施行

附則 (昭和九年制令第十四號) 本令ハ別和九年五月一日ヨリ之ヲ施行ス、本令施行前從前ノ規定ニ依リ土地ニ付府尹又

ハ郡守ノ爲シタル證明ハ之ヲ改正規定ニ依リ稅務署長ノ爲シタルモノト看做ス 附則 (昭和十年制令第十號) 本令ハ公布ノ日(別和十年八月二日)ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮戶籍令 (大正十一年十二月府令第五百十四號)

第一章 總則

第一條 朝鮮人ノ戶籍ニ關シテハ朝鮮民事令ノ規定ニ依ルノ外本令ノ定ムル所ニ依ル 第二條 地方法院支廳ノ一人ノ判事又ハ上席判事ハ地方法院長ノ命ヲ承ク其ノ事務取扱區域内ニ於ケル戶籍事務ヲ監督ス

第二章 戶籍簿 第三條 戶籍ハ府又ハ面ノ區域内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付戶主トシテ一戶毎ニ之ヲ編製ス

第四條 戶籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編製シテ帳簿ト爲ス

一ノ府又ハ面内ニ於ケル各區劃ノ順序ハ府尹又ハ面長之ヲ定ム

第五條 戶籍ハ正副二本ヲ設ク

正本ハ之ヲ府廳又ハ面事務所ニ備ヘ副本ハ監督裁判所之ヲ保存ス

第六條 新ニ戶籍ヲ編製シタルトキハ府尹又ハ面長ハ遲滞ナク其ノ副本ヲ監督裁判所ニ

送付スヘシ

第七條 戶籍簿ハ事變ヲ避ケル爲ニスル場合ヲ除クノ外府廳又ハ面事務所外ニ之ヲ持出スコトヲ得ス

第八條 戶籍簿ヲ閱覽シ又ハ戶籍ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ手数料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

第九條 戶籍簿ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

府尹又ハ面長ハ正當ノ理由アル場合ニ限リ前二項ノ請求ヲ拒ムコトヲ得此ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ請求者ニ告知スヘシ

謄本又ハ抄本ハ府尹又ハ面長之ヲ作り原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ且之ニ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺捺スヘシ

第九條 戶主相續、繼承家其ノ他ノ事由ニ因リ戶籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ其ノ戶籍ハ之ヲ戶籍簿ヨリ除キ別ニ編製シ除籍簿トシテ之ヲ保存ス

第十條 第七條及第八條ノ規定ハ除籍簿及除カレタル戶籍ニ付之ヲ準用ス

第三章 戶籍ノ記載手續 第十一條 戶籍ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 戶主及家族ノ姓名及本貫或前戶主ノ姓名

二 戶主ノ本籍

三 戶主又ハ家族カ朝鮮貴族ナルトキハ其ノ旨 四 戶主及家族ノ出生ノ年月日 五 戶主又ハ家族ト爲リタル原因及年月日 六 戶主及家族ノ實父母ノ姓名及戶主及家族ト實父母トノ續柄 七 戶主又ハ家族カ養子ナルトキハ其ノ養親及實父母ノ姓名及養親及實父母トノ續柄 八 戶主ト前戶主及家族トノ續柄 九 家族ノ配偶者又ハ家族ヲ經テ戶主ト親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其ノ家族トノ續柄 十 他家ヨリ入りテ家族ト爲リタル者カ他ノ家族トノ親族關係ヲ有スルトキハ其ノ續柄 十一 他家ヨリ入りテ戶主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其ノ原籍、原籍ノ戶主ノ姓名及其ノ戶主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄 十二 後見人又ハ保佐人アル者ニ付テハ後見人又ハ保佐人ノ姓名、本籍或其ノ就職及任務終了ノ年月日 十三 其ノ他戶主又ハ家族ノ身分ニ關スル事項 第十二條 戶主及家族ノ姓名ノ記載ハ左ノ順序ニ依ル

第一 戶主

第二 直系尊屬

第三 戶主ノ配偶者

第四 戶主ノ直系尊屬及其ノ配偶者

第五 戶主ノ傍系親及其ノ配偶者

第六 戶主ノ親族ニ非サル者

第七 直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系尊屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

戶籍ヲ編製シタル後家族ト爲リタル者ニ付テハ戶籍ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ

第十三條 戶籍ノ記載ハ届出、報告若ハ申請、證書若ハ航海日誌ノ謄本又ハ裁判ニ依リ之ヲ爲ス

第十四條 戶籍ニハ第十一條ニ掲ケルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 届出又ハ申請ノ受附ノ年月日、事件ノ本人ニ非サル者ノ届出又ハ申請ニ係ル場合ニ於テハ届出人又ハ申請人ノ資格及姓名、他ノ府尹、面長又ハ官廳ヨリ届書又ハ申請書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ受附ノ年月日及發送者ノ職氏名

二 報告ノ受附ノ年月日及報告者ノ職氏名

三 證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ受附ノ年月日及證書又ハ航海日誌ノ作製者或謄本ノ發送者ノ職氏名

四 戶籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及

裁判所ノ名稱

第十五條 府尹又ハ面長カ屆書、報告書其ノ他ノ書類ヲ受理シタルトキハ其ノ書類ニ受附ノ番號及年月日ヲ記載スヘシ

本籍地ノ府尹又ハ面長ハ前項ノ手續ヲ爲シタル後遲滞ナク戸籍ノ記載ヲ爲スヘシ

第十六條 戶主相續、戶主相續回復其ノ他戶主ノ變更ヲ生スヘキ事項ニ付届出又ハ申請アリタルトキハ其ノ届出又ハ申請及前戶主又ハ戶主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ依リテ新戶籍ヲ編製スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前戶主又ハ戶主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ之ヲ抹消スヘシ

第十七條 一戸ノ全員又ハ一戸内ノ一人若ハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキトキハ事由ヲ記載シテ戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スヘシ

除籍セラレヘキ者ノ本籍カ他ノ府又ハ面ニ轉屬スル場合ニ於テハ前項ノ手續ハ入籍ノ通知ヲ受ケタル後之ヲ爲スヘシ但シ入籍地ノ府尹又ハ面長カ届出ヲ受理シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ一家創立ノ届出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第十八條 戸籍ノ記載ヲ爲スニハ字畫ヲ明瞭ニシ略字又ハ符號ヲ用フヘカラス

年月日ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ文字ヲ用

ウヘシ

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ府尹又ハ面長之ニ認印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ尙明カニ讀得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

第十九條 戸籍ノ記載ヲ爲ス毎ニ府尹又ハ面長ハ其ノ文末ニ認印スヘシ

第二十條 戸籍用紙中ノ一部分ヲ用キ畫シタルトキハ掛紙ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ府尹又ハ面長ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スヘシ

第二十一條 届出事件ノ本人ノ本籍カ一ノ府又ハ面ヨリ他ノ府又ハ面ニ轉屬スル場合ニ於テハ届出ヲ受理シタル府尹又ハ面長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後遲滞ナク戸籍ノ一通ヲ他ノ府尹又ハ面長ニ送付スヘシ

第二十二條 前條ノ場合ヲ除クノ外他ノ府尹又ハ面長カ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ必要アル場合ニ於テハ届出ヲ受理シタル府尹又ハ面長ハ遲滞ナク戸籍ノ一通ヲ他ノ府尹又ハ面長ニ送付スヘシ

第二十三條 本籍分明ナラザル者又ハ本籍ナキ者ニ付届出ヲ受理シタル後其ノ者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨又ハ其ノ者カ本籍ヲ有スルニ至リタル旨ノ届出アリタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ハ其ノ届書及前ニ受理シ

タル届書ニ之ヲ適用ス

第二十四條 前三條ノ規定ハ届書ニ非サル書面ニ依リ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ府尹又ハ面長ハ其ノ受附ケタル書面ノ謄本ヲ作り之ヲ送付スヘシ

第二十五條 届出事件ノ本人ノ本籍カ他ノ府又ハ面ニ轉屬スル場合ニ於テハ入籍地ノ府尹又ハ面長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後除籍地ノ府尹又ハ面長ニ入籍ノ通知ヲ爲スヘシ但シ入籍地ノ府尹又ハ面長カ届出ヲ受理シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ府尹又ハ面長カ一家創立ノ届出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第二十六條 戸籍ノ記載手續ヲ完了シタルトキハ届書其ノ他受理シタル書類ハ本籍人及非本籍人ニ區別シ本籍人ニ關スルモノハ戸籍編製ノ順序ニ從ヒテ之ヲ編製シ非本籍人ニ關スルモノハ事件ノ種類ニ依リ各別ニ之ヲ編製シ且各目錄ヲ附スヘシ

戸籍ノ記載ヲ要セザル事項ニ付受理シタル書類ハ之ヲ合綴シ且目錄ヲ附スヘシ

第二十七條 前條第一項ノ書類ハ一月毎ニ遲滞ナク之ヲ監督裁判所ニ送付スヘシ

第二十八條 戸籍ノ記載カ法律上許スルカラサルモノ又ハ其ノ記載ニ錯誤若ハ遺漏アル

コトヲ發見シタル場合ニ於テハ府尹又ハ面長ハ遲滞ナク届出人又ハ届出事件ノ本人ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ但シ其ノ錯誤又ハ遺漏カ府尹又ハ面長ノ過誤ニ出テタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ通知ヲ爲シタルモ戸籍訂正ノ申請ヲ爲ス者ナキトキハ府尹又ハ面長ハ監督裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ得前項但書ノ場合亦同シ

裁判所其ノ他ノ官廳、檢察又ハ吏員カ其ノ職務上戸籍ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク届出事件ノ本人ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第二十九條 同一ノ事件ニ付數人ノ届出義務者ヨリ各別ニ届出アリタル場合ニ於テ後ニ受理シタル届出ニ因リテ戸籍ノ記載ヲ爲シタルトキハ前ニ受理シタル届出ニ基キ其ノ戸籍ノ訂正ヲ爲スヘシ

第三十條 行政區畫又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ハ訂正セラレタルモノト看做ス但シ其ノ記載ヲ更正スルコトヲ妨グス

地番號ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ヲ更正スヘシ

第三十一條 府又ハ面ノ區域ノ變更アリタル

トキハ戸籍及之ニ關スル書類ハ之ヲ當該府又ハ面ニ引續クヘシ

第三十二條 第二十一條乃至第二十四條又第二十五條第一項ノ規定ハ共通法第三條ノ規定ニ依リテ朝鮮ノ家ヲ去リタル者及他ノ地域ノ家ヲ去リテ朝鮮ノ家ニ入りタル者ノ戸籍ノ記載手續ニ付之ヲ準用ス

第四節 届出

第一節 通則

第三十三條 届出ハ届出事件ノ本人ノ本籍地又ハ届出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十四條 本籍分明ナラザル者又ハ本籍ナキ者ニ付届出アリタル後其ノ者ノ本籍カ分明ト爲リタルトキ又ハ其ノ者カ本籍ヲ有スルニ至リタルトキハ届出人又ハ届出事件ノ本人ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ届出事件ヲ表示シテ届出ヲ受理シタル府尹又ハ面長ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第三十五條 届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人ノ署名、捺印スヘシ

一 届出事件

二 届出ノ年月日

三 届出人ノ出生ノ年月日及本籍

届出事件ニ因リ届出事件ノ本人ニ隨ヒテ家ヲ去リ、他家ニ入り其ノ他身分ニ變更ヲ生

スル者アル場合ニ於テハ届書ニ其ノ者ノ姓名、出生ノ年月日及本籍並身分變更ノ事由ヲ記載スヘシ

第三十七條 届出人ト届出事件ノ本人ト異ルトキハ届書ニ其ノ續柄ヲ記載スヘシ

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戶主ノ姓名及届出人ト戶主トノ續柄ヲ記載スヘシ

第三十八條 届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス但シ出生、死亡其ノ他單純ノ事實ニ關スル届出ハ未成年者又ハ禁治産者亦之ヲ爲スコトヲ得

親權ヲ行フ者又ハ後見人カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 届出ヲ爲スヘキ者ノ姓名、出生ノ年月日及本籍

二 無能力ノ原因

三 届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人ナルコト

第三十九條 無能力者カ其ノ法定代理人ノ同意ヲ得シテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ付テハ無能力者之ヲ届出ツヘシ

禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出事件ノ性質及效果ヲ理解スルニ足ルヘキ能力ヲ有スルコトヲ證スヘキ診斷書ヲ添附スヘシ

第四十條 届出ニ證人ヲ要スル場合ニ於テハ

證人ハ屆書ニ出生ノ年月日及本籍ヲ記載シテ署名、捺印スヘシ

第四十一條 届出人、届出事件ノ本人又ハ證人カ本籍ニ在ラサルトキハ屆書ニ其ノ所在ヲ記載スヘシ

第四十二條 屆書ニ記載スヘキ事項ニシテ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ但シ府尹又ハ面長ハ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル屆書ヲ受理スルコトヲ得ス

第四十三條 屆書ニハ本令其ノ他ノ法令ニ定メタル事項ノ外戸籍ニ記載スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナルモノハ之ヲ記載スヘシ

第四十四條 第十八條第一項及第三項ノ規定ハ屆書ニ付之ヲ準用ス

第四十五條 二以上ノ府廳又ハ面事務所ニ於テ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ府廳又ハ面事務所ノ數ト同數ノ屆書ヲ提出スヘシ

本籍地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ前項ノ規定ニ依ルモノノ外尙一通ノ屆書ヲ提出スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ相當ト認ムルトキハ府尹又ハ面長ハ届出ノ謄本ヲ作り之ヲ以テ屆書ニ代フルコトヲ得

第四十六條 口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ府廳又ハ面事務所ニ出頭シ屆書ニ記載スヘキ事項ヲ陳述スヘシ

府尹又ハ面長ハ届出人ノ陳述ヲ筆記シ届出ノ年月日ヲ記載シテ届出人ニ讀聞カセ且届出人ヲシテ其ノ書面ニ署名、捺印セシムヘシ

届出人カ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ以テ届出ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 届出事件ニ付戸主、父母、後見人、親族會其ノ他ノ者ノ同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ屆書ニ其ノ同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ同意又ハ承諾ヲ爲シタル者ヲシテ屆書ニ其ノ旨ヲ附記シ署名捺印セシムルヲ以テ足ル

届出事件ニ付官廳ノ許可ヲ要スルトキハ屆書ニ許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第四十八條 屆書ニ關スル規定ハ第四十六條第二項及前條第一項ノ書面ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 外國ニ在ル朝鮮人カ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ本令ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタルトキハ府尹又ハ面長ニ届出ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十條 外國ニ在ル朝鮮人ハ其ノ國ノ方式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ一月内ニ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ其ノ證書ノ謄本ヲ提出スヘシ

出スヘシ

前項ノ手續ヲ爲スコト能ハサルトキハ一月内ニ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ證書ノ謄本ヲ發送スヘシ

第五十一條 届出期間ハ届出事件發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ裁判カ送達又ハ交付前確定シタルトキハ其ノ送達又ハ交付ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第五十二條 府尹又ハ面長カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ届出義務者ニ對シ其ノ期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ府尹又ハ面長ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

第二十八條第二項ノ規定ハ前二項ノ催告ヲ爲スコト能ハサル場合及催告ヲ爲スモ届出ヲ爲ササル場合ニ、同條第三項ノ規定ハ裁判所其ノ他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十三條 府尹又ハ面長カ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ屆書ニ欠缺アル爲戸籍ノ記載ヲ爲スコト能ハサルトキハ届出義務者ヲシテ其ノ追完ヲ爲サシムヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第五十四條 届出期間經過後ノ届出ト雖府尹又ハ面長ハ之ヲ受理スヘシ

第五十五條 届出人ハ届出ノ受理又ハ不受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得但シ受理ノ證明書ヲ請求スル場合ニ於テハ手数料ヲ納付スヘシ

利害關係人ハ手数料ヲ納付シテ第二十六條ノ書類ノ閱覽ヲ請求シ又ハ其ノ書類ニ記載シタル事項ニ付證明書ヲ請求スルコトヲ得

第八條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

利害關係人ハ特別ノ理由アル場合ニ限り第二十七條ノ書類ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第五十六條 届出人其ノ他ノ者カ署名、捺印スヘキ場合ニ於テ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ姓名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ姓名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ書面ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第二節 出生

第五十七條 出生ノ届出ハ十四日内ニ之ヲ爲スヘシ

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 子ノ姓名、本質及男女ノ別

二 子カ私生子又ハ庶子ナルトキハ其ノ旨

三 出生ノ年月日時及場所

四 父母ノ姓名、本籍及職業

五 子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ姓名及本籍

六 子カ一家ヲ創立スルトキハ其ノ旨及創立ノ原因及場所

第五十八條 出生ノ届出ハ出生地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第五十九條 汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ到着地ニ於テ届出ヲ爲スコトヲ得

第六十條 届出子出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ母之ヲ爲スヘシ

庶子出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母之ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘキ者カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲タル者ハ其ノ順序ニ從ヒ届出ヲ爲スヘシ

第一 戸主

第二 同居者

第三 分産ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆

第四 分娩ヲ介抱シタル者

第六十一條 届出子否認ノ訴ヲ提起シタルトキト雖出生ノ届出ヲ爲スヘシ

第六十二條 航海中ニ出生アリタルトキハ船長ハ二十四時内ニ第五十七條第二項ニ掲ク

ル事項ヲ航海日誌ニ記載シテ署名、捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタル後船舶カ朝鮮ノ港ニ著シタルトキハ船長ハ遲滞ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其ノ他ノ地ノ府尹又ハ面長ニ發送スヘシ

第六十三條 病院、監獄其ノ他ノ公設所ニ於テ出生アリタル場合ニ於テ父母共ニ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ公設所ノ長又ハ管理人届出ヲ爲スヘシ

第六十四條 出生ノ届出前ニ子カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ出生ノ届出ヲ爲スヘシ

第六十五條 棄兒ヲ發見シタル者又ハ棄兒發見ノ申告ヲ受ケタル警察官ハ二十四時間内ニ其ノ旨ヲ府尹又ハ面長ニ申出ツヘシ

前項ノ申出アリタルトキハ府尹又ハ面長ハ姓名ヲ命シ本籍ヲ定メ且附屬品發見ノ場所、年月日時其ノ他ノ狀況及姓名、男女ノ別、出生ノ推定年月日並本籍ヲ調査ニ記載スヘシ其ノ調査ハ之ヲ屆書ト看做ス

第六十六條 父又ハ母カ棄兒ヲ引取ルトキハ一月内ニ第五十七條第二項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シ且戸籍ノ訂正ヲ申請スヘシ

第六十七條 第六十五條第一項又ハ前條ノ手續ヲ爲ス前ニ棄兒カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第三節 認 知

第六十八條 私生子認知ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 子ノ姓名、男女ノ別、出生ノ年月日及本籍
- 二 死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日
- 三 父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ姓名及本籍並父ノ職業
- 四 子カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名、本籍及戸主ト子トノ續柄

第六十九條 胎内ニ在ル子ヲ認知スル場合ニ於テハ届書ニ其ノ旨、母ノ姓名及本籍ヲ記載シ認知者ノ本籍地ニ於テ之ヲ届出ツヘシ

第七十條 父カ庶子出生ノ届出ヲ爲シタルトキハ其ノ届出ハ認知届出ノ效力ヲ有ス民法第八百三十六條第二項ノ規定ニ依リ嫡出子タルヘキ者ニ付父母カ嫡出子出生ノ届出ヲ爲シタルトキ亦同シ

第七十一條 認知ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第六十八條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘシ其ノ届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第七十二條 遺言ニ依リ認知ノ場合ニ於テハ遺言執行者ハ其ノ就職ノ日ヨリ十日内ニ認知ニ關スル遺言ノ謄本又ハ遺言アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附シ第六十八條又ハ第六十九條ノ規定ニ從ヒテ其ノ届出ヲ爲スヘシ

トヲ證スル書面ヲ添附シ第六十八條又ハ第六十九條ノ規定ニ從ヒテ其ノ届出ヲ爲スヘシ

第七十三條 認知セラレタル胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ出生届出義務者ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十四日内ニ認知ノ届出地ニ於テ其ノ旨ヲ届出ツヘシ但シ遺言執行者カ前條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者其ノ届出ヲ爲スヘシ

第七十四條 第四十六條第三項ノ規定ハ第六十八條及第六十九條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第四節 養子縁組

第七十五條 縁組ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 當事者ノ姓名、本貫、出生ノ年月日、本籍及職業
- 二 養子ノ實父母ノ姓名及本籍
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名、本籍及戸主トノ續柄
- 四 新ニ家ヲ立テタル者カ養子ト爲ルトキハ其ノ旨

前項ノ届出ハ當事者雙方及成年ノ證人二人以上ヨリ之ヲ爲スヘシ

第七十六條 父母其ノ他ノ者カ養子ト爲ルヘキ者ニ代リテ縁組ノ意思ヲ表示シタル場合又ハ死後養子ノ場合ニ於テハ届出ハ其ノ意思表示ヲ爲シタル者又ハ養子ノ選定ヲ爲シタル者之ヲ爲スヘシ

第七十七條 遺言ニ依リ縁組ニ付テハ遺言執行者及養子ト爲ルヘキ者ハ遺言カ效力ヲ生シタル後遲滞ナク縁組ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ縁組ニ關スル遺言ノ謄本又ハ遺言アリタルコトヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スヘシ

第七十八條 縁組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第七十九條 第四十六條第三項ノ規定ハ縁組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第五節 養子縁離

第八十條 縁離ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 當事者ノ姓名、本貫、本籍及職業
- 二 養子ノ實父母ノ姓名及本籍
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍
- 四 養子ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ姓名及本籍
- 五 養子カ一家ヲ創立スルトキハ其ノ旨並創立ノ原因及場所但シ實家ヲ再興スルトキハ其ノ旨及再興ノ場所

第七十五條第二項ノ規定ハ前項ノ届出ニ付之ヲ適用ス

第一項ノ届出ヲ爲シタル後養子カ復籍スル

キ家ノ絶家ニ因リ一家ヲ創立シタルコトヲ知リタルトキハ十日内ニ絶家ノ戸主ノ姓名本籍及絶家ノ年月日ヲ届書ニ記載シ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第八十一條 父母其ノ他ノ者カ養子ニ代リテ縁離ノ協議ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ其ノ協議ヲ爲シタル者之ヲ爲スヘシ養親カ死亡シタル後縁離ヲ爲ス場合ニ於ケル届出ニ付亦同シ

第八十二條 縁離ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第八十條第一項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘシ其ノ届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第八十三條 第四十六條第三項ノ規定ハ第八十條第一項及第八十一條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第六節 婚 姻

第八十四條 婚姻ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 當事者ノ姓名、本貫、出生ノ年月日、本籍及職業
- 二 父母ノ姓名及本籍
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名、本籍及戸主トノ續柄
- 四 招婿ナルトキハ其ノ旨

當事者ノ一方カ婚家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケル事項ノ外實家ノ戸主ノ姓名及本籍ヲ記載スヘシ

第七十五條第二項ノ規定ハ第一項ノ届出ニ付之ヲ適用ス

第八十五條 婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ招婿ノ場合ニ於テハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ届出ヲ爲スヘシ

第八十六條 第四十六條第三項ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第七節 離 婚

第八十七條 離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 當事者ノ姓名、本貫、本籍及職業
- 二 父母ノ姓名及本籍
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍
- 四 婚家ヲ去ル者ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ姓名及本籍
- 五 婚家ヲ去ル者カ一家ヲ創立スルトキハ其ノ旨並創立ノ原因及場所但シ實家ヲ再興スルトキハ其ノ旨及再興ノ場所

第七十五條第二項ノ規定ハ前項ノ届出ニ付之ヲ適用ス

第一項ノ届出ヲ爲シタル後婚家ヲ去リタル者カ復籍スヘキ家ノ絶家ニ因リ一家ヲ創立シタルコトヲ知リタルトキハ十日内ニ絶家

ノ戸主ノ姓名、本籍及絶家ノ年月日ヲ届書ニ記載シ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第八十八條 離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ前條第一項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘシ其ノ届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第八十九條 第四十六條第三項ノ規定ハ第八十七條第一項ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節 親權及後見

第九十條 父カ親權又ハ管理權ノ喪失ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ母其ノ權利ヲ行フトキハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其ノ旨ヲ届出ツヘシ其ノ届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第九十一條 失權宣告取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其ノ旨ヲ届出ツヘシ其ノ届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第九十二條 後見開始ノ届出ハ後見人其ノ就職ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヘシ

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 後見人及被後見人ノ姓名、出生ノ年月日及本籍
- 二 被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍

三 後見開始ノ原因及年月日

第九十三條 後見人更迭ノ場合ニ於テハ後任者ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第九十四條 遺言ニ依ル後見人指定ノ場合ニ於テハ指定ニ關スル遺言ノ原本又ハ遺言アリタルコトヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スヘシ

第九十五條 後見終了ノ届出ハ後見人十日内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十六條 前四條ノ届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ後見人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第九十七條 後見人ニ關スル本節ノ規定ハ保佐人ニ付之ヲ準用ス

第九十八條 死亡及失踪

第九十八條 死亡ノ届出ハ届出義務者カ死亡ノ事實ヲ知リタル日ヨリ七日内ニ診斷書若ハ檢察書又ハ檢視調書ノ原本ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

二 死亡ノ年月日時及場所

第九十九條 死亡ノ届出ハ死亡地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第一百條 水難、火災其ノ他ノ事變ニ因リ死亡シタル者アル場合ニ於テハ其ノ取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ死亡ノ報告ヲ爲スヘシ

第一百一條 死亡ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遲滞ナク監獄所在地ノ府尹又ハ面長ニ死亡ノ報告ヲ爲スヘシ

第一百二條 前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者ノ引取人ナキ場合ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ報告書ニ診斷書又ハ檢察書ヲ添附スヘシ

第一百三條 前二條ノ報告書ニハ第九十八條第二項ニ掲ケル事項ヲ記載スヘシ

第一百四條 届出者ノ本籍分明ナラス又ハ届出者ヲ認識スルコト能ハサル場合ニ於テハ警察官ハ檢視調書ヲ作り之ヲ添附シテ遲滞ナク

ク届出地ノ府尹又ハ面長ニ死亡ノ報告ヲ爲スヘシ

死亡者ノ本籍地分明ナルニ至リ又ハ死亡者ヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ報告スヘシ

第一項ノ報告アリタル後第九十九條第一號及第二號ニ掲ケル者カ死亡者ヲ認識シタルトキハ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スヘシ

第一百五條 第五十九條、第六十二條及第六十三條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ付之ヲ準用ス

第一百六條 失踪宣告ノ届出ハ其ノ宣告ヲ請求シタル者裁判ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ原本ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

第一百七條 失踪者ノ姓名及本籍

一 失踪者ノ姓名及本籍

二 民法第三十條ニ定ムル期間満了ノ日

三 失踪者カ家族ナルトキハ戶主ノ姓名及戶主ト失踪者トノ續柄

第一百八條 戶主相續ノ原因及戶主ト爲リタル年月日

第一百九條 戶主相續ノ届出ハ戶主ト爲リタル者相續ノ事實ヲ知リタル日ヨリ一月内ニ之ヲ爲スヘシ

第二十條 戶主相續ノ原因及戶主ト爲リタル年月日

第二十一條 戶主相續ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 就籍ノ届出ハ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 就籍許可ノ裁判ヲ得タル者カ就籍ノ届出ヲ爲ササルトキハ戶主之ヲ爲スヘシ

第二十四條 轉籍及就籍

第二十五條 轉籍セムト欲スルトキハ本籍ノ府尹又ハ面長ニ轉籍ノ届出ヲ爲スヘシ

第二十六條 轉籍ノ届出ハ轉籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 本籍ヲ有セサル者ハ其ノ就籍セムト欲スル地ヲ管轄スル裁判所ノ許可ヲ得テ十日内ニ就籍ノ届出ヲ爲スヘシ

第二十八條 就籍ノ届出ハ其ノ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 就籍ノ届出ハ其ノ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十條 就籍ノ届出ハ其ノ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 就籍ノ届出ハ其ノ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 就籍ノ届出ハ其ノ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 就籍ノ届出ハ其ノ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 就籍ノ届出ハ其ノ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 就籍ノ届出ハ其ノ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 就籍ノ届出ハ其ノ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 就籍ノ届出ハ其ノ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 就籍ノ届出ハ其ノ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 就籍ノ届出ハ其ノ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第四十條 就籍ノ届出ハ其ノ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 就籍ノ届出ハ其ノ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

ハ三月内ニ届書ヲ發送スルヲ以テ足ル

第九十八條 戶主相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ裁判ノ原本ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スヘシ

第九十九條 前二條ノ届出ハ被相續人ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第一百條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第一百一條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第一百二條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第一百三條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第一百四條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第一百五條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第一百六條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第一百七條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第一百八條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第一百九條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二百條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二十一條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二十二條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二十三條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二十四條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二十五條 親族ノ届出ハ其ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二百二十四條 第二百二十一條ノ規定ハ確定判決ニ因リテ就籍ノ届出ヲ爲スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ判決ノ謄本ヲ届書ニ添付スヘシ

第五章 戸籍ノ訂正 第二百二十五條 戸籍ノ訂正ニ付許可ノ裁判アリタルトキハ一月内ニ其ノ謄本ヲ添付シ訂正ノ申請ヲ爲スヘシ

第二百二十六條 確定判決ニ因リ本籍ノ訂正ヲ爲スヘキトキハ訴ヲ提起シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一月内ニ判決ノ謄本ヲ添付シ訂正ノ申請ヲ爲スヘシ

第二百二十七條 第三十三條、第三十五條乃至第三十九條、第四十一條乃至第四十八條及第五十一條乃至第五十六條ノ規定ハ本籍訂正ノ申請ニ付之ヲ準用ス

附則 第二百二十八條 本令ハ大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第十一條乃至第十一條ノ改正ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十二年三月府令第六十四號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)

民籍法、明治四十四年朝鮮總督府令第四百四十八號及大正十年朝鮮總督府令第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二百二十九條 本令施行前生シタル事項ノ申告又ハ届出ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

第二百三十條 本令ノ規定ハ前條ノ申告又ハ届出及本令施行前ノ申告又ハ届出其ノ他ノ事由ニ因リ戸籍ノ記載手續ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニ亦之ヲ適用ス

第三百一十一條 本令施行前共通法第三條ノ規定ニ依リ朝鮮ノ家ヲ去リ又ハ他ノ地域ノ家ヲ去リテ朝鮮ノ家ニ入りタル場合ニ於テ民籍法又ハ本籍法ニ從ヒ申告又ハ届出アリタルモノニ付テハ府尹又ハ面長ハ本令ノ定ムル所ニ準シ入籍、除籍其ノ他ノ手續ヲ爲スヘシ

第三百一十二條 從前ノ規定ニ依ル民籍ハ本令ニ依ル戸籍トシテ其ノ效力ヲ有ス

第三百一十三條 府尹又ハ面長ハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ從前ノ規定ニ依リ全戸除籍シタルモノヲ除クノ外前條ノ規定ニ依ル民籍ノ副本ヲ作り之ヲ監督裁判所ニ送付スヘシ

朝鮮戸籍手数料規則

(大正十一年十二月 府令第五百十六號)

第一條 戸籍簿、除籍簿又ハ朝鮮戸籍令第二十六條ノ書類ノ閱覽ニ付テノ手数料ハ一回

ニ付十錢トス 第二條 戸籍又ハ除カレタル戸籍ノ謄本又ハ抄本ノ交付ニ付テノ手数料ハ一枚ニ付十錢トス一枚ニ滿タサルトキ亦同シ

第三條 届出若ハ申請ノ受理又ハ朝鮮戸籍令第二十六條ノ書類ニ記載シタル事項ノ證明書ノ交付ニ付テノ手数料ハ一件ニ付十錢トス

第四條 官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ以テ戸籍簿若ハ除籍簿ノ閱覽又ハ戸籍若ハ除カレタル戸籍ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ手数料及郵送料ヲ要セス

第五條 第一條乃至第三條ノ手数料ハ之ヲ府又ハ面ノ收入トス

附則 本令ハ大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第十一條乃至第十一條ノ改正ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十二年府令第六十四號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)

朝鮮不動産登記令

(明治四十五年三月十八日 制令第九號)

改正 大正三十一制一五 大正一〇一制一〇 昭和九一四制一五 昭和九一四制一五

第一條 不動産ニ關スル權利ノ登記ニ付テハ

本令其ノ他ノ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外不動産登記法ニ依ル但シ同法第十一條中百年トアルハ二十年トス

前項ノ法律ノ適用ニ付テハ典當權ハ其ノ性質ニ從ヒ之ヲ不動産質權又ハ抵當權ト看做シ林野臺帳ハ之ヲ土地臺帳ト看做ス

第二條 不動産登記法ノ適用ニ付テハ司法大臣ハ朝鮮總督ニ、地方裁判所ハ覆審法院ニ、地方裁判所長ハ地方法院長ニ、區裁判所又ハ其ノ出張所ハ地方法院、其ノ支廳又ハ出張所ニ、府縣ハ道ニ、郡ハ郡ニ、市ハ府ニ、町村ハ邑面ニ、華族世襲財產ハ朝鮮貴族世襲財產ニ、華族世襲財產法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依ル管理財產ハ朝鮮貴族世襲財產法第五條ノ規定ニ依リ準用スル華族世襲財產法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依ル管理財產ニ該當ス

第三條 各種ノ登記簿ハ府又ハ邑面毎ニ別冊ト爲ス但シ登記事件夥多ナル府又ハ邑面ニ在リテハ町洞其ノ他ノ區劃ニ從ヒ別冊ト爲スコトヲ得

第二條ノ三 土地調査令又ハ朝鮮林野調査令ニ依ル調査ヲ行ハサル未登記ノ土地ノ所有權ノ登記ハ稅務署長ノ認證ニ依リ其ノ所有權ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第二條ノ四 宗中、門中其ノ他法人ニ非サル社團又ハ財團ニシテ朝鮮總督ノ定ムルモノ

朝鮮民事 朝鮮朝鮮小作調停令

ニ屬スル不動産ノ登記ニ付テハ其ノ社團又ハ財團ヲ以テ登記權利者又ハ登記義務者ト看做ス

前項ノ登記ハ其ノ社團又ハ財團ノ名ヲ以テ其ノ代表者又ハ管理人ヨリ之ヲ申請スヘシ

第三條 申請書其ノ他ノ附屬書類ハ檢事ノ屬託アリタルトキモ之ヲ登記所外ニ持出スコトヲ得

第四條 送達ニ付テハ朝鮮民事令ノ規定ヲ準用ス

附則 第五條 本令施行ノ地域及期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第六條 (削除) 第七條 本令施行前不動産登記法又ハ朝鮮不動産證明令ニ依リ爲シタル登記又ハ證明ハ本令ニ依リ爲シタル登記ト看做ス

第八條 本令施行前登記又ハ證明ヲ爲シタル不動産ニ付登記ヲ爲スヘキトキハ第九條ノ場合ヲ除クノ外舊登記簿、證明簿又ハ證明臺帳ノ用紙中本令ノ規定ニ依リ必要ナル事項ヲ登記簿ニ移記シタル後登記ヲ爲シ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

前項ノ移記ヲ爲スニハ登記番號欄ニ登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記又ハ證明ノ番號ヲ附記シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當區ノ順位番號欄及

事項欄ニ舊登記簿、證明簿又ハ證明臺帳ノ用紙中抹消ニ係ラサル番號及事項ヲ移スヘシ

前項ノ場合ニ於テ同一ノ不動産ニ關シ登記ト證明ト並存スルトキハ所有權其ノ他ニ關スル事項ニ付テハ登記及證明ヲ通シテ日附ノ順序ニ依リ之ヲ移記シ移記ノ順序ヲ追ヒテ新ニ順位番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記又ハ證明ノ順位番號ヲ附記スヘシ但シ同一事項ニ付テハ日附ノ早キモノノミヲ移記スヘシ

第八條ノ二 本令施行前登記及證明ヲ爲シタル不動産ニ付登記ヲ申請シタル場合ニ於テ登記ト證明ト抵觸スルトキハ登記官吏ハ假ニ登記ヲ爲シ其ノ旨ヲ記載スヘシ但不動産ノ表示ノミカ抵觸スル場合ニ於テ同一不動産ナルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ申請書ニ添付シタルトキハ前條ノ規定ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ初テ假ニ登記ヲ爲ス場合ニハ前條第一項及第二項ノ規定ニ準シ登記及證明ヲ各別ニ移記シタル後之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ舊登記簿、證明簿又ハ證明臺帳ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

抵觸スル登記又ハ證明ノ抹消アリタルトキハ第一項ノ規定ニ依リ假ニ爲シタル登記ハ其ノ登記ノ日ヨリ之ヲ本登記ト看做ス此ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ假ニ爲シタル登記

ノ餘白ニ本登記ト爲リタル旨及其ノ事由年月日ヲ記載シ第一項ノ登記申請者ニ之ヲ通知スヘシ

第九條 本令施行前登記又ハ證明ヲ爲シタル不動産ニ付滅失又ハ抹消ノ登記ヲ爲スヘキトキハ從前ノ例ニ依リ舊登記簿、證明簿又ハ證明臺帳ニ滅失又ハ抹消ノ記入ヲ爲スヘシ

第十條 本令施行地域内ニ在ル不動産ノ證明ニ關スル帳簿書類又ハ其ノ謄本ハ不動産登記法第九條ノ規定ニ準シ管轄登記所ニ之ヲ移送スヘシ

附則 (昭和二年制令第四號) 本令ハ朝鮮貴族世襲財產令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和二年府令第一二九號ヲ以テ同年一月一日ヨリ施行)

附則 (昭和五年制令第十號) 本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム(昭和六年八月府令第一〇五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

附則 (昭和九年制令第十五號) 本令ハ昭和九年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ規定ニ依リ府尹又ハ郡守ノ爲シタル認證ハ之ヲ改正規定ニ依リ稅務署長

ノ爲シタルモノト看做ス

朝鮮利息制限令

(明治四十四年十一月) 制令第十三號

第一條 金貨貸借ニ關スル契約上ノ利息ハ左ノ制限ニ依ル

元金百圓未満 年三割以下
元金百圓以上千圓未満 年二割五分以下
元金千圓以上 年二割以下

質屋營業者ノ貸借元金五十圓未満及市場ニ於ケル貸借元金三十圓未満ノ利息ニ付テハ前項第一號ノ規定ヲ適用セス

第二條 契約上ノ利息ニシテ前條ニ定メタル制限ヲ超過シタルトキハ其ノ超過部分ヲ無効トス

第三條 禮金、割引金、手数料、引去金、借替金其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス金貨ノ貸借ニ關シ債權者ノ受クルモノハ之ヲ利息ト看做ス

第四條 裁判所ハ當事者力金銀ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ付豫定シタル賠償額ヲ不當ト認ムルトキハ相當ノ額込之ヲ減少スルコトヲ得

附則 本令ハ明治四十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行

ス

朝鮮小作調停令

昭和七年十二月十日制令第五號 改正昭和九年五月一日制令一六號和一制令二

第一條 小作料其ノ他小作關係ニ付爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル地方法院又ハ地方法院支廳ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二條 調停事件ハ地方法院又ハ地方法院支廳ノ判事單獨ニ之ヲ取扱フ

第三條 當事者不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第四條 調停ノ申立ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル府尹、郡守又ハ島司ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ得

第五條 前條第一項ノ申立アリタル場合ニ於テ爭議ノ目的タル土地力數府郡ニ互ルトキハ調停ノ申立ヲ受ケタル府尹又ハ郡守ハ遲滯ナク關係府尹又ハ郡守ニ申立アリタル旨ヲ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第六條 裁判所直接ニ調停ノ申立ヲ受ケタル

トキハ遲滯ナク之ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル府尹、郡守又ハ島司ニ通知スルコトヲ要ス但シ第九條第一項ノ規定ニ依リ事件ヲ移送スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スヘシ

第八條 調停ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第九條 爭議ノ目的タル土地力數箇ノ裁判所ノ管轄區域内ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケタル地方法院又ハ地方法院支廳相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方法院又ハ地方法院支廳ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所力調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

第十條 小作關係ノ爭議ニ付訴訟力關係スルトキハ受訴裁判所ハ職權ヲ以テ事件ヲ調停

第十一條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付裁判所ハ決定ヲ以テ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第十二條 裁判所事情ニ依リ府郡島小作委員會其ノ他適當ト認ムル者ヲシテ勸解ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 勸解成リタルトキハ當事者又ハ總代ハ一年内ニ限り裁判所ニ對シ勸解ノ認否ニ付決定ヲ求ムルコトヲ得

第十四條 勸解認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第十五條 裁判所ハ期日ヲ定メ當事者又ハ總代ヲ呼出スコトヲ要ス

第十六條 調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ調停ニ參加スルコトヲ得

第十六條 總代ノ選任ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス總代ノ解任ハ之ヲ裁判所ニ届出ツルニ非サレハ其ノ効ナシ

第十七條 裁判所ハ期日ヲ定メ當事者又ハ總代ヲ呼出スコトヲ要ス

第十八條 呼出ヲ受ケタル當事者又ハ總代ハ正當ノ事由ナクシテ出頭ヲ拒ムコトヲ得

第十九條 呼出ヲ受ケタル申立人タル當事者又ハ其ノ總代力正當ノ事由ナクシテ調停期日ニ引續キ二回出頭セサルトキハ其ノ調停ノ申立ヲ取下ケタルモノト看做ス

第二十條 調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ調停ニ參加スルコトヲ得

第二十一條 勸解成リタルトキハ當事者又ハ總代ハ一年内ニ限り裁判所ニ對シ勸解ノ認否ニ付決定ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條 勸解認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第二十三條 勸解認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第二十四條 勸解認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第二十五條 勸解認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第二十六條 勸解認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

トヲ得
 裁判所ハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得
 第十七條 當事者、總代及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシメ又ハ輔佐人ヲ同伴スルコトヲ得
 裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得
 第十八條 爭議ノ目的タル土地ノ所在地又ハ當事者ノ住所地ヲ管轄スル府尹、郡守、島司又ハ警察署長ハ裁判所ニ對シ事件ノ經過ニ付陳述ヲ爲スコトヲ得
 第十九條 裁判所必要アリト認ムルトキハ小作官、前條ノ府尹、郡守、島司又ハ警察署長其ノ他適當ト認ムル者ニ對シ意見ヲ求ムルコトヲ得
 第二十條 小作官ハ期日ニ出席シテ又ハ期日外ニ於テ裁判所ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得
 第二十一條 裁判所必要アリト認ムルトキハ事實ノ調査ヲ小作官ニ囑託スルコトヲ得
 第二十二條 調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聽ヲ許スコトヲ得
 第二十三條 裁判所ハ費用ヲ要スル行爲ニ付

當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得
 第二十四條 申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得
 口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス
 第二十五條 調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス
 第二十六條 裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル措置ヲ爲スコトヲ得
 第二十七條 調停條項中ニ費用ノ負擔ニ關スル定メ爲ササルトキハ各當事者ハ其ノ支出シタル費用ヲ自ラ負擔ス
 第二十八條 期日ニ調停成ラサル場合ニ於テ裁判所相當ト認ムルトキハ職權ヲ以テ府尹、島小作委員會又ハ小作官ノ意見ヲ聽キ爭議ノ實情其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ調停ニ代ヘ小作關係ノ維持又ハ變更ノ裁判ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ規定ニ依ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ之ヲ二週間トス
 第二十九條 調停及認可ノ決定アリタル勸解ハ訴訟上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス
 第三十條 調停事件終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ結果ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル府尹、郡守、又ハ島司ニ通知スルコトヲ要ス

第三十一條 當事者又ハ利害關係人ハ手数料ヲ納付シテ記録ノ閲覧若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者力事件ノ關係中記録ノ閲覧又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス
 第三十二條 前條ノ手数料ノ額ハ朝鮮總督之ヲ定ム
 第三十三條 第十五條第一項ノ規定ニ依ル呼出ヲ受ケタル者正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ五圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得
 朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス
 附 則
 本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム（昭和八年一月二十七日府令第八號ヲ以テ昭和八年二月一日ヨリ施行）
 附 則
 本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム（昭和九年九月十四日府令第九十一號ヲ以テ昭和九年十月二十日ヨリ施行）
 附 則
 本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム（昭和十一年二月二十六日府令第十二號ヲ以テ同年三月

月二十日ヨリ施行）
 本令施行ノ際現ニ裁判所ニ繫屬スル調停事件ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

朝鮮小作調停令第三十條ノ手数料ニ關スル件

（昭和七年十二月十日府令第二百二十四號）
 朝鮮小作調停令第三十一條ノ手数料ハ各一件ニ付二十錢トス
 前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ
 附 則
 本令ハ朝鮮小作調停令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

商
法

商
法

商法目次

商法(明三十一法四八)
(昭三十一法七二改正)

第一編 總則	第一章 法令	一
	第二章 商人	一
	第三章 商業登記	一
	第四章 商號	一
	第五章 商業帳簿	一
	第六章 商業使用人	一
	第七章 代理商	一
第二編 會社	第一章 總則	四
	第二章 合名會社	三
	第一節 設立	三
	第二節 會社ノ内部關係	三
	第三節 會社ノ外部關係	三
	第四節 社員ノ退社	三
	第五節 解散	三
	第六節 清算	三
	第三章 合資會社	九
	第四章 株式會社	二
	第一節 設立	二
	第二節 株式	二
	第三節 會社ノ機關	二

商法目次

第一節 株主總會	一六
第二款 取締役	一〇
第三款 監査役	三
第四節 會社ノ計算	三
第五節 社債	三
第一款 總則	三
第二款 社債權者集會	三
第六節 定款ノ變更	六
第七節 會社ノ整理	三
第八節 解散	三
第九節 清算	三
第一款 總則	三
第二款 特別清算	三
第三款 株式合資會社	三
第五節 外國會社	三
第六節 外國會社	三
第七節 外國會社	三
第三編 商行爲	四
第一章 總則	四
第二章 買賣	四
第三章 交互計算	四
第四章 匿名組合	四
第五章 仲立營業	四
第六章 問屋營業	四
第七章 運送取扱營業	四
第八章 運送營業	四
第一節 物品運送	四

第二節 旅客運送	五一
第九章 寄託	五一
第一節 總則	五一
第二節 倉庫營業	五二
第十章 保險	五二
第一節 損害保險	五二
第一款 總則	五二
第二款 火災保險	五二
第三款 運送保險	五二
第二款 生命保險	五二
第四編 海商	五九
第一章 船舶及船舶所有者	五九
第一節 船員	五九
第二節 船長	六〇
第三章 運送	六三
第一節 物品運送	六三
第一款 總則	六三
第二款 船荷證券	六三
第二章 旅客運送	六六
第四章 海損	六七
第五章 海難救助	六八
第六章 保險	六九
第七章 船舶債權者	七二

商法中改正法律施行法
(昭三十一法七三)

有限會社法(昭一三一法七四)

第一章 總則……………七九

第二章 設立……………七九

第三章 社員ノ權利義務……………七九

第四章 會社ノ管理……………七九

第五章 定款ノ變更……………八二

第六章 合併及組織變更……………八二

第七章 解散……………八三

第八章 外國會社……………八四

第九章 罰則……………八四

第十章 雜則……………八六

商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律(明三三一法一七)

……………八六

小商人ノ範圍ニ關スル件(明三二一勅二七)

……………八六

商事調停法(大五一法四二)

……………八六

商事調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件(大五一勅三三)

……………八六

商事調停ノ手数料等ニ關スル件(大五一勅三三)

……………八六

商業登記取扱手續(明三二一司一三)

……………八九

第一章 取引所ノ設立……………八九

第二章 取引所ノ組織……………八九

第三章 取引所ノ役員及取引員……………八九

第四章 取引所ノ役員及商議員會……………八九

第五章 取引所ノ買賣取引……………八九

第六章 取引所ノ監督……………八九

第七章 罰則……………八九

保險業法(明三三一法六九)

……………一〇〇

第一章 總則……………一〇〇

第二章 株式會社……………一〇〇

第三章 相互會社……………一〇〇

第一節 設立……………一〇〇

第二節 社員ノ權利義務……………一〇〇

第三節 會社ノ機關……………一〇〇

第四節 會社ノ計算……………一〇〇

第五節 定款ノ變更……………一〇〇

第六節 社員ノ退社……………一〇〇

第七節 解散……………一〇〇

第八節 清算……………一〇〇

第九節 補則……………一〇〇

第十章 計算……………一〇〇

第十一章 罰則……………一〇〇

銀行法(昭二一法二一)

……………一一五

貯蓄銀行法(大一一〇一法七四)……………一一五

無盡業法(昭六一法四二)……………一一八

公益質屋法(昭二一法三五)……………一一三

公益質屋法施行規則(昭二一內三四)……………一一三

信託業法(大一一一法六五)……………一二四

擔保附社債信託法(明三八一法五二)……………一二四

手形法(昭七一法二〇)

……………一二五

第一編 爲替手形……………一二五

第一章 爲替手形ノ振出及方式……………一二五

第二章 裏書……………一二五

第一章 總則……………一二七

第二章 信託證書……………一二七

第三章 社債募集……………一二七

第四章 債券……………一二七

第五章 社債原簿……………一二七

第六章 社債權者集會……………一二七

第七章 信託契約ノ效力……………一二七

第八章 信託事務ノ承繼及終了……………一二七

第九章 罰則……………一二七

第三章 引受……………一四〇

第四章 保證……………一四一

第五章 滿期……………一四一

第六章 支拂……………一四一

第七章 引受拒絶又ハ支拂拒絶ニ因ル勸求……………一四一

第八章 參加……………一四一

第一節 通則……………一四一

第二節 參加引受……………一四一

第三節 參加支拂……………一四一

第九章 複本及贖本……………一四一

第一節 複本……………一四一

第二節 贖本……………一四一

第十章 變造……………一四一

第十一章 時效……………一四一

第十二章 通則……………一四一

第二編 約束手形……………一四一

小切手法(昭八一法五七)

第一章 小切手ノ振出及方式……………一四九

第二章 讓渡……………一五〇

第三章 保證……………一五二

第四章 呈示及支拂……………一五二

第五章 線引小切手……………一五三

第六章 支拂拒絶ニ因ル勸求……………一五三

第七章 複本……………一五三

第八章 變造……………一五三

第九章 時效……………一五五

第十章 支拂保證……………一五五

第十一章 通則……………一五五

拒絕證書令(昭八一勅三一六)……………一五五

小切手ノ呈示期間ノ特例ニ關スル件(昭八一勅三一七)……………一五五

不正競争防止法(昭九一法一四)……………一五五

貿易調節及通商擁護ニ關スル法律(昭九一法四五)……………一五五

朝鮮金融組合令(大三一制二二)……………一六〇

第一章 總則……………一六〇

第二章 設立……………一六〇

第三章 組合員ノ權利義務……………一六〇

第四章 管理……………一六〇

第五章 加入及脫退……………一六〇

第六章 監督……………一六〇

第七章 解散……………一六〇

第八章 清算……………一六〇

第九章 登記……………一六〇

第十章 金融組合聯合會……………一六〇

第十一章 罰則……………一六〇

朝鮮信託業令(昭六一制八)……………一六六

商法 第一編 總則 第一章 法例 第二章 商人 第三章 商業登記 第四章 商號

商法 第一編 總則 第一章 法例 第二章 商人 第三章 商業登記 第四章 商號

商法 第一編 總則 第一章 法例 第二章 商人 第三章 商業登記 第四章 商號

商法

(明治三十三號) (法律四十八號)

(改正明治四十四號) (法律七三)

(大正一一一號) (法律七二)

(昭和一一一號) (法律七二)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法律第七十二號(昭和十三年四月四日)

商法中左ノ通改正ス

第一編及第二編(第一條乃至第二百六十二條ノ三)ヲ左ノ如ク改メ第四編ヲ削リ第五編ヲ第四編トス

第一章 總則

第一條 法例

第一條 商事ニ關シ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習法ヲ適用シ商慣習法ナキトキハ民法ヲ適用ス

第二條 公法人ノ商行爲ニ付テハ法令ニ別段ノ定ナキトキニ限リ本法ヲ適用ス

第三條 當事者ノ一方ノ爲ニ商行爲タル行爲ニ付テハ本法ヲ雙方ニ適用ス

當事者ノ一方ガ數人アル場合ニ於テ其ノ一人ノ爲ニ商行爲タル行爲ニ付テハ本法ヲ其ノ全員ニ適用ス

第二章 商人

第一編 總則 第一章 法例

第二章 商人

第三章 商業登記

第四章 商號

第二章 商人

第三章 商業登記

第四章 商號

第四條 本法ニ於テ商人トハ自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

店舖其ノ他之ニ類似スル設備ニ依リテ物品ノ販賣ヲ爲スヲ業トスル者又ハ鑛業若ハ砂鑛業ヲ營ム者ハ商行爲ヲ爲スヲ業トセザルモ之ヲ商人ト看做ス第五十二條第二項ノ會社亦同シ

第五條 未成年者又ハ妻ガ前條ノ營業ヲ爲ストキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六條 會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者又ハ妻ハ社員タル資格ニ基ク行爲ニ關シテハ之ヲ能力者ト看做ス

第七條 法定代理人ガ親族會ノ同意ヲ得テ無能力者ノ爲ニ第四條ノ營業ヲ爲ストキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八條 法定代理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第九條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ當事者ノ請求ニ依リ其ノ營業所ノ所在地ヲ管轄スル裁判所ニ備ヘタル商業登記簿ニ之ヲ登記ス

第十條 本店ノ所在地ニ於テ登記スベキ事項ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記スルコトヲ要ス

第十一條 登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第十二條 登記ト相違スルトキハ公告ナカリシモノト看做ス

第十三條 登記スベキ事項ハ登記及公告ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ登記及公告ノ後ト雖モ第三者ガ正當ノ事由ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキ亦同シ

第十四條 支店ノ所在地ニ於テ登記スベキ事項ヲ登記セザリシトキハ前條ノ規定ハ其ノ支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テノミ之ヲ適用ス

第十五條 故意又ハ過失ニ因リ不實ノ事項ヲ登記シタル者ハ其ノ事項ノ不實ナルコトヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十六條 登記シタル事項ニ變更ヲ生ジ又ハ其ノ事項ガ消滅シタルトキハ當事者ハ遲滯ナク變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十七條 商人ハ其ノ氏、氏名其ノ他ノ名稱ヲ以テ商號ト爲スコトヲ得

第十八條 會社ノ商號中ニハ其ノ種類ニ從ヒ合名會社、合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ナル文字ヲ用フルコトヲ要ス

第十八條 會社ニ非ズシテ商號中ニ會社タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同ジ前項ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條 他人ガ登記シタル商號ハ同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲ニテ登記スルコトヲ得ズ

第二十條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテ其ノ使用ヲ止ムベキコトヲ請求スルコトヲ得但シ損害賠償ノ請求ヲ妨ゲズ

第二十一條 何人ト雖モ不正ノ目的ヲ以テ他人ノ營業ナリト誤認セシムベキ商號ヲ使用スルコトヲ得ズ

第二十二條 不正ノ競争ノ目的ヲ以テ第二十一條第一項ノ商號ヲ使用シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス前條第一項ノ規定ニ違反シタル者亦同ジ

第二十三條 自己ノ氏、氏名又ハ商號ヲ使用シテ營業ヲ爲スコトヲ他人ニ許諾シタル者ハ自己ノ營業主ナリト誤認シテ取引ヲ爲シタル者ニ對シテ其ノ取引ニ因リテ生ジタル債務ニ付テ其ノ他人ト連帶シテ辨濟ノ責任ヲ負フ

第二十四條 商號ハ營業ト共ニスル場合又ハ營業ヲ廢止スル場合ニ限りテ之ヲ讓渡スルコトヲ得

第二十五條 商號ノ讓渡ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第二十六條 營業ヲ讓渡シタル場合ニ於テ當事者ガ別段ノ意思ヲ表示セザリシトキハ讓渡人ハ同市町村及隣接市町村内ニ於テ二十年間同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十七條 讓渡人ガ同一ノ營業ヲ爲サザル特約ヲ爲シタルトキハ其ノ特約ハ同府縣及隣接府縣内且三十年ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ノ効力ヲ有ス

第二十八條 讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十九條 營業ヲ讓渡人ガ讓渡人ノ商號ヲ續用スル場合ニ於テハ讓渡人ノ營業ニ因リテ生ジタル債務ニ付テハ讓渡人モ亦其ノ辨濟ノ責任ヲ負フ

第三十條 前項ノ規定ハ營業ノ讓渡後遲滞ナク讓受人ガ讓渡人ノ債務ニ付責ニ任ゼザル旨ヲ登記シタル場合ニハ之ヲ適用セズ營業ノ讓渡後

第五章 商業帳簿

第三十二條 商人ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ日ノ取引其ノ他財產ニ影響ヲ及ボスベキ一切ノ事項ヲ整然且明瞭ニ記載スルコトヲ要ス但シ家事費用ハ一月毎ニ其ノ總額ヲ記載スルヲ以テ足ル

第三十三條 商人ハ開業ノ時及毎年一回一定ノ時期ニ於テ動產、不動產、債權、債務其ノ他ノ財產ノ總目録及貸借方ノ對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第三十四條 會社ニ在リテハ成立ノ時及毎決算期ニ前項ノ書類ヲ作ルコトヲ要ス

第三十五條 財產目録及貸借對照表ハ之ヲ編綴シ又ハ特ニ設ケタル帳簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十六條 財產目録及貸借對照表ニ署名スルコトヲ要ス

第三十七條 權其ノ他ノ財產ニ價額ヲ附シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス其ノ價額ハ財產目録編綴ノ時ニ於ケル價格ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十八條 營業用ノ固定財產ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ取得價額又ハ製作價額ヨリ相當ノ減損額ヲ控除シタル價額ヲ附スルコトヲ得

第三十五條 裁判所ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ訴訟ノ當事者ニ商業帳簿又ハ其ノ一部分ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第三十六條 商人ハ十年間其ノ商業帳簿及其ノ營業ニ關スル重要書類ヲ保存スルコトヲ要ス

第三十七條 前項ノ期間ハ商業帳簿ニ付テハ其ノ帳簿閉鎖ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六章 商業使用人

第三十七條 商人ハ支配人ヲ選任シ本店又ハ支店ニ於テ其ノ營業ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十八條 支配人ハ營業主ニ代リテ其ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十九條 支配人ハ番頭、手代其ノ他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得

第四十條 代理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四十一條 代理權ヲ行使スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得

第四十二條 前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シタル意思表示ハ營業主ニ對シテ其ノ効力ヲ生ズ

第四十三條 支配人ノ選任及其ノ代理權ノ消滅ハ之ヲ置キタル本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ營業主之ヲ登記スルコトヲ要ス前條第一

項ニ定ムル事項及人其ノ變更亦同ジ

第四十一條 支配人ハ營業ノ許諾アルニ非ザレバ營業ヲ爲シ、自己若ハ第三者ノ爲ニ營業主ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員、取締役若ハ他ノ商人ノ使用人ト爲ルコトヲ得ズ

第四十二條 支配人ガ前項ノ規定ニ違反シテ自己ノ爲ニ取引ヲ爲シタルトキハ營業主ハ之ヲ以テ自己ノ爲ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

第四十三條 前項ニ定ムル權利ハ營業主ガ其ノ取引ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行使セザルトキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同ジ

第四十四條 本店又ハ支店ノ營業ノ主任者タルコトヲ示スベキ名稱ヲ附シタル使用人ハ之ヲ其ノ本店又ハ支店ノ支配人ト同一ノ權限ヲ有スルモノト看做ス但シ裁判上ノ行為ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十五條 前項ノ規定ハ相手方ガ惡意ナリシ場合ニハ之ヲ適用セズ

第四十六條 番頭、手代其ノ他營業ニ關スル或種類又ハ特定ノ事項ノ委任ヲ受ケタル使用人ハ其ノ事項ニ關シ一切ノ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第四十七條 第三十八條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第四十八條 物品ノ販賣ヲ目的トスル店舗ノ

使用人ハ其ノ店舗ニ在ル物品ノ販賣ニ關スル權限ヲ有スルモノト看做ス
第四十二條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第四十五條 本章ノ規定ハ營業主ト商業使用人トノ間ノ雇傭關係ニ付民法ヲ適用スルコトヲ妨グズ

第七章 代理商

第四十六條 代理商トハ使用人ニ非ズシテ一定ノ商人ノ爲ニ平常其ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者ヲ謂フ
第四十七條 代理商ガ取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク本人ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
第四十八條 代理商ハ本人ノ許諾アルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ本人ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルコトヲ得ズ
第四十九條 物品ノ販賣又ハ其ノ媒介ノ委託ヲ受ケタル代理商ハ賣買ノ目的物ノ瑕疵又ハ數量ノ不足其ノ他賣買ノ履行ニ關スル通知ヲ受ケル權限ヲ有ス

第五十條 當事者ガ契約ノ期間ヲ定メザリシトキハ各當事者ハ二月前ニ豫告ヲ爲シテ其ノ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
當事者ガ契約ノ期間ヲ定メタルト否トヲ問ハズ巴ムコトヲ得ザル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ其ノ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
第五十一條 代理商ハ取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リテ生ジタル債權ガ辨濟期ニ在ルトキハ其ノ辨濟ヲ受ケル迄本人ノ爲ニ占有スル物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但シ別段ノ意志表示アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二編 會社

第一章 總則

第五十二條 本法ニ於テ會社トハ商行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ設立シタル社團ヲ謂フ
營業ノ目的トスル社團ニシテ本編ノ規定ニ依リ設立シタルモノハ商行爲ヲ爲スヲ業トセザルモノ之ヲ會社ト看做ス
第五十三條 會社ハ合名會社、合資會社、株式會社及株式合資會社ノ四種トス
第五十四條 會社ハ之ヲ法人トス
會社ノ住所ハ其ノ本店ノ所在地ニ在ルモノトス

第五十五條 會社ハ他ノ會社ノ無限責任社員トナルコトヲ得ズ
第五十六條 會社ハ合併ヲ爲スコトヲ得
合併ヲ爲ス會社ノ一方又ハ雙方ガ株式會社又ハ株式合資會社ナルトキハ合併後存スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ株式會社又ハ株式合資會社ナルコトヲ要ス
合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各會社ニ於テ選任シタル設立委員共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
第九十八條 第一項、第三百四十三條及第四百六十七條ノ規定ハ前項ノ選任ニ之ヲ準用ス

第五十七條 會社ハ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス
第五十八條 會社ガ正當ノ事由ナクシテ其ノ成立後一年內ニ開業ヲ爲サズ又ハ一年以上營業ヲ休止シタルトキハ裁判所ハ利害關係人若ハ檢事ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ解散ヲ命ズルコトヲ得
會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役又ハ監査役ガ法令又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ會社ノ存立ヲ許スベカラザル事由アルトキ亦前項ニ同ジ

第四項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ解散ノ命令前ト雖モ利害關係人若ハ檢事ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ管理ノ人ノ選任其ノ他會社財產ノ保全ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
第五十九條 利害關係人ガ前條第一項又ハ第二項ノ請求ヲ爲シタルトキハ會社ノ請求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
第六十條 利害關係人ノ爲シタル第五十八條第一項又ハ第二項ノ請求ガ却下セラレタル場合ニ於テ其ノ者ニ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ會社ニ對シテ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ
第六十一條 本編ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第二章 合名會社

第一節 設立

第六十二條 合名會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス
第六十三條 合名會社ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ各社員之ニ署名スルコトヲ要ス
一 目的
二 商號
三 社員ノ氏名及住所

第四 本店及支店ノ所在地
五 社員ノ出資ノ目的及其ノ價格又ハ評價ノ標準
第六十四條 合名會社ノ設立ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス
一 前條第一號乃至第三號ニ掲グル事項
二 本店及支店
三 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
四 社員ノ出資ノ目的、財產ノ目的トスル出資ニ付テハ其ノ價格及履行ヲ爲シタル部分

五 社員ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名
六 數人ノ社員ガ共同シ又ハ社員ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定
會社ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後二週間內ニ支店ノ所在地ニ於テ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス
第六十五條 會社ノ成立後支店ヲ設ケタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間內ニ支店ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ支店ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ前條第一項ニ掲グル事項ヲ登記シ他ノ支店ノ所在地ニ於テハ同期間內ニ其ノ支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス

本店又ハ支店ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域內ニ於テ新ニ支店ヲ設ケタルトキハ其ノ支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル
第六十六條 會社ガ其ノ本店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間內ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ三週間內ニ第六十四條第一項ニ掲グル事項ヲ登記シ其ノ支店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間內ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四週間內ニ第六十四條第一項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス
同一ノ登記所ノ管轄區域內ニ於テ本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ以テ足ル
第六十七條 第六十四條第一項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二節 會社ノ内部ノ關係

第六十八條 會社ノ内部ノ關係ニ付テハ定款又ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用ス
第六十九條 社員ガ債權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ債務者ガ辨濟期ニ辨濟ヲ爲サザリシトキハ社員ハ其ノ辨濟ノ責ニ

任ズ此ノ場合ニ於テハ其ノ利息ヲ支拂フ外
 尙損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス
 第七十條 各社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキ
 ハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ
 負フ
 第七十一條 支配人ノ選任及解任ハ特ニ業務
 執行社員ヲ定メタルトキト雖モ社員ノ過半
 數ヲ以テ之ヲ決ス
 第七十二條 定款ノ變更其ノ他會社ノ目的ノ
 範圍内ニ在ラザル行爲ヲ爲スニハ總社員ノ
 同意アルコトヲ要ス
 第七十三條 社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非
 ザレバ其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓
 渡スコトヲ得ズ
 第七十四條 社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非
 ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ營業ノ
 部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ
 目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員若ハ取
 締役ト爲ルコトヲ得ズ
 社員ガ前項ノ規定ニ違反シテ自己ノ爲ニ取
 引ヲ爲シタルトキハ他ノ社員ハ過半數ノ決
 議ニ依リ之ヲ以テ會社ノ爲ニ爲シタルモノ
 ト看做スコトヲ得
 前項ニ定ムル權利ハ他ノ社員ノ一人ガ其ノ
 取引ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行使セザ
 ルトキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ經過シ
 タルトキ亦同ジ

第七十五條 社員ハ他ノ社員ノ過半數ノ決議
 アリタルトキニ限り自己又ハ第三者ノ爲ニ
 會社ト取引ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ
 ハ民法第八條ノ規定ヲ適用セズ
 第三節 社ノ外部ノ關係
 第七十六條 業務ヲ執行スル社員ハ各自會社
 ヲ代表ス但シ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ
 業務執行社員中特ニ會社ヲ代表スベキ者ヲ
 定ムルコトヲ妨ゲズ
 第七十七條 會社ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ
 以テ數人ノ社員ガ共同シ又ハ社員ガ支配人
 ト共同シテ會社ヲ代表スベキ旨ヲ定ムルコ
 トヲ得
 第三十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之
 ヲ準用ス
 第七十八條 會社ヲ代表スベキ社員ハ會社ノ
 營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行
 爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
 民法第四十四條第一項及第五十四條ノ規定
 ハ合名會社ニ之ヲ準用ス
 第七十九條 會社ガ社員ニ對シ又ハ社員ガ會
 社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テ其ノ訴ニ
 付會社ヲ代表スベキ社員ナキトキハ他ノ社
 員ノ過半數ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ
 要ス
 第八十條 會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済

スルコト能ハザルトキハ各社員連帶シテ其
 ノ辨濟ノ責ニ任ズ
 會社財産ニ對スル強制執行ガ其ノ効ヲ奏セ
 ザルトキ亦前項ニ同ジ
 前項ノ規定ハ社員ガ會社ニ辨濟ノ實力アリ
 且執行ノ容易ナルコトヲ證明シタルトキハ
 之ヲ適用セズ
 第八十一條 社員ハ會社ニ屬スル抗辯ヲ以テ
 會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得
 會社ガ其ノ債權者ニ對シ相殺權、取消權又
 ハ解除權ヲ有スル場合ニ於テハ社員ハ其ノ
 者ニ對シ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得
 第八十二條 會社ノ成立後加入シタル社員ハ
 其ノ加入前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付テモ
 亦責任ヲ負フ
 第八十三條 社員ニ非ザル者ニ自己ヲ社員ナ
 リト誤認セシムベキ行爲アリタルトキハ其
 ノ者ハ誤認ニ基キテ會社ト取引ヲ爲シタル
 者ニ對シ社員ト同一ノ責任ヲ負フ
 第四節 社員ノ退社
 第八十四條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定
 メザリシトキ又ハ或社員ノ終身間會社存続
 スベキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ營業
 年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但シ六
 月前ニ其ノ豫告ヲ爲スコトヲ要ス
 會社ノ存立時期ヲ定メタルトキ否ト問ハズ

己ムコトヲ得ザル事由アルトキハ各社員ハ
 何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得
 第八十五條 前條及第九十一條第一項ニ定ム
 ル場合ノ外社員ハ左ノ事由ニ因リ退社ス
 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
 二 總社員ノ同意
 三 死亡
 四 破産
 五 禁治産
 六 除名
 第八十六條 社員ニ付左ノ事由アルトキハ會
 社ハ他ノ社員ノ過半數ノ決議ヲ以テ其ノ社
 員ノ除名又ハ業務執行權若ハ代表權ノ喪失
 ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
 一 出資ノ義務ヲ履行セザルコト
 二 第七十四條第一項ノ規定ニ違反シタル
 コト
 三 業務ヲ執行スルニ當リ不正ノ行爲ヲ爲
 シ又ハ權利ナクシテ業務ノ執行ニ干與シ
 タルコト
 四 會社ヲ代表スルニ當リ不正ノ行爲ヲ爲
 シ又ハ權利ナクシテ會社代表シタルコト
 五 其ノ他重要ナル義務ヲ盡サザルコト
 社員ガ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ
 著シク不適任ナルトキハ會社ハ前項ノ規定
 ニ從ヒ其ノ社員ノ業務執行權又ハ代表權ノ
 喪失ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得

社員ノ除名又ハ業務執行權若ハ代表權ノ喪
 失ノ判決確定シタルトキハ本店及支店ノ所
 在 地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第八十七條 除名セラレタル社員ト會社トノ
 間ノ計算ハ除名ノ訴ヲ提起シタル時ニ於ケ
 ル會社財産ノ狀況ニ從ヒテ之ヲ爲シ且其ノ
 時ヨリ法定利息ヲ附スルコトヲ要ス
 第八十八條 第八十六條ノ訴ハ本店ノ所在地
 ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス
 第八十九條 退社員ハ勞務又ハ信用ヲ以テ出
 資ノ目的ト爲シタルトキト雖モ其ノ持分ノ
 拂戻ヲ受クルコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定
 アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第九十條 社員ノ持分ノ差押ハ社員ガ將來利
 益ノ配當及持分ノ拂戻ヲ請求スル權利ニ對
 シテモ亦其ノ効力ヲ有ス
 第九十一條 社員ノ持分ヲ差押ヘタル債權者
 ハ營業年度ノ終ニ於テ其ノ社員ヲ退社セシ
 ムルコトヲ得但シ會社及其ノ社員ニ對シ六
 月前ニ其ノ豫告ヲ爲スコトヲ要ス
 前項但書ノ豫告ハ社員ガ辨濟ヲ爲シ又ハ相
 當ノ擔保ヲ供シタルトキハ其ノ効力ヲ失フ
 第九十二條 會社ノ商號中ニ退社員ノ氏又ハ
 氏名ヲ用ヒタルトキハ退社員ノ氏又ハ
 氏名ノ使用ヲ止ムベキコトヲ請求スルコト
 ヲ得
 第九十三條 退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退

社ノ登記ヲ爲ス前ニ生ジタル會社ノ債務ニ
 付責任ヲ負フ
 前項ノ責任ハ前項ノ登記後二年内ニ請求又
 ハ請求ノ豫告ヲ爲サザル會社ノ債權者ニ對
 シテハ登記後二年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 前項ノ規定ハ持分ヲ讓渡シタル社員ニ之ヲ
 準用ス
 第五節 解散
 第九十四條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス
 一 存立時期ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル
 事由ノ發生
 二 總社員ノ同意
 三 會社ノ合併
 四 社員ガ一人ト爲リタルコト
 五 會社ノ破産
 六 解散ヲ命ズル裁判
 第九十五條 前條第一號又ハ第二號ノ場合ニ
 於テハ社員ノ全部又ハ一部ノ同意ヲ以テ會
 社ヲ繼續スルコトヲ得但シ同意ヲ爲サザリ
 シ社員ハ退社シタルモノト看做ス
 前條第四號ノ場合ニ於テハ新ニ社員ヲ加入
 セシメテ會社ヲ繼續スルコトヲ得
 第九十六條 會社ガ解散シタルトキハ合併及
 破産ノ場合ヲ除ク外本店ノ所在地ニ於テ
 ハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内
 ニ解散ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九十七條 會社ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後ト雖モ第九十五條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スルコトヲ妨グズ此ノ場合ニ於テハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ繼續ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九十八條 會社ガ合併ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス

解散後ノ會社ハ存立中ノ會社ヲ存続スル會社トスル場合ニ限リ合併ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目録及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第一百條 會社ハ前條ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ合併ニ異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ述ブベキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ

債權者ガ前項ノ期間内ニ異議ヲ述ベザリシトキハ合併ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者ガ異議ヲ述ベタルトキハ會社ハ辨濟ヲ爲シ若ハ相當ノ擔保ヲ供シ又ハ債權者ニ辨濟ヲ受ケシムルコトヲ目的トシテ信託會社ニ相當ノ財産ヲ信託スルコトヲ要ス

第一百一條 會社ガ合併ヲ爲シタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ合併後存続スル會社ニ付

テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ消滅スル會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ第六十四條ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第一百二條 會社ノ合併ハ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ其ノ本店ノ所在地ニ於テ前條ノ登記ヲ爲スニ因リテ其ノ効力ヲ生ズ

第一百三條 合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼ス

第一百四條 會社ノ合併ハ無効ハ訴ヲ以テノミ之ヲ主張スルコトヲ得

前項ノ訴ハ各會社ノ社員清算人破産管財人又ハ合併ヲ承認セザル債權者ニ限り之ヲ提起スルコトヲ得

第一百五條 前條第一項ノ訴ハ合併ノ日ヨリ六月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

口頭辯論ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ開始スルコトヲ得ズ

數個ノ訴ガ同時ニ繫屬スルトキハ辯論及裁判ハ併合シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

訴ノ提起アリタルトキハ會社ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第一百六條 債權者ガ第四百四條第一項ノ訴ヲ提起シタルトキハ會社ノ請求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

起シタルトキハ會社ノ請求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第一百七條 第四百四條第一項ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ合併ノ無効ノ原因タル瑕疵ガ補完セラレタルトキ又ハ會社ノ現況其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ合併ヲ無効トスルコトヲ不當ト認ムルトキハ裁判所ハ請求ヲ棄却スルコトヲ得

第一百八條 合併ヲ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ本店及支店ノ所在地ニ於テ合併後存続スル會社ニ付テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ因リテ消滅シタル會社ニ付テハ回復ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第一百九條 合併ヲ無効トスル判決ハ第三者ニ對シテモ其ノ効力ヲ有ス

原告ガ敗訴シタル場合ニ於テ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ

第一百十條 合併ヲ無効トスル判決ハ合併後存続スル會社、又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社其ノ社員及第三者ノ間ニ生ジタル權利義務ニ影響ヲ及ボサズ

第一百十一條 合併ヲ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ合併ヲ爲シタル會社ハ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ負擔合併後負擔シタル債務ニ付連帶シ

テ辨濟ノ責ニ任ズ

合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ合併後取得シタル財産ハ合併ヲ爲シタル會社ノ共有ニ屬ス

前二項ノ場合ニ於テハ各會社ノ負擔部分又ハ持分ハ其ノ協議ヲ以テ之ヲ定ム協議調ハザルトキハ裁判所ハ請求ニ依リ合併ノ時ニ於ケル各會社ノ財産ノ額其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第一百二條 已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ各社員ハ會社ノ解散ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第八十八條及社百九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一百三條 合名會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ或社員ヲ有限責任社員ト爲シ又ハ新ニ有限責任社員ヲ加入セシメテ之ヲ合資會社ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ第九十五條第二項ノ規定ニ依リ會社ヲ繼續スル場合ニ之ヲ準用ス

第一百四條 合名會社ガ前條ノ規定ニ依リ其ノ組織ヲ變更シタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ合名會社ニ付テハ解散ノ登記、合資會社ニ付テハ第四百九條第一項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第一百五條 第四百十三條第一項ノ場合ニ於テ

從前ノ社員ニシテ有限責任社員ト爲リタルモノハ本店ノ所在地ニ於テ前條ノ登記ヲ爲ス前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付テハ無限責任社員ノ責任ヲ免ルルコトヲ得

第九十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六節 清算

第一百六條 會社ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存続スルモノト看做ス

第一百七條 解散ノ場合ニ於ケル會社財産ノ處分方法ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ解散ノ日ヨリ二週間内ニ財産目録及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ會社ガ第九十四條第四號又ハ第六號ノ事由ニ因リテ解散シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一百八條 規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二項ノ場合ニ於テ社員ノ持分ヲ差押ヘタル者アルトキハ其ノ者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第一百八條 會社ガ前條第三項ノ規定ニ違反シテ其ノ財産ヲ處分シタルトキハ會社ノ債權者ハ其ノ處分ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但シ其ノ處分ガ會社ノ債權者ヲ害

セザルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

民法第四百二十四條第一項但書、第四百二十五條及第四百二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一百九條 會社ガ第十七條第四項ノ規定ニ違反シテ其ノ財産ヲ處分シタルトキハ社員ノ持分ヲ差押ヘタル者ハ會社ニ對シ其ノ持分ニ相當スル金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第二十條 第七十七條第一項ノ規定ニ依リテ會社財産ノ處分方法ヲ定メザリシトキハ合併及破産ノ場合ヲ除ク外第三百二十一條乃至第三百三十五條ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條 清算ハ業務執行社員之ヲ爲ス但シ社員ノ過半数ヲ以テ別ニ清算人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 會社ガ第九十四條第四號又ハ第六號ノ事由ニ因リテ解散シタルトキハ裁判所ハ利害關係人若ハ檢事ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任ス

第二十三條 業務執行社員ガ清算人ト爲リタルトキハ解散ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ三週間、支店ノ所在地ニ於テハ四週間内ニ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 清算人ノ氏名及住所

二 清算人ニシテ會社ヲ代表セザル者アル

第五十四條 有限責任社員ハ無限責任社員
 全員ノ承諾アルトキハ其ノ持分ノ全部又ハ
 一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得持分ノ讓渡ニ
 件ヒ定款ノ變更ヲ生ズルトキト雖モ亦同ジ
第五十五條 有限責任社員ガ自己若ハ第三
 者ノ爲ニ會社ノ營業ノ部類ニ關スル取引ヲ
 爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社
 ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルニハ他ノ
 社員ノ承諾アルコトヲ要セズ
第五十六條 有限責任社員ハ會社ノ業務ヲ
 執行シ又ハ會社ヲ代表スルコトヲ得ズ
第五十七條 有限責任社員ハ其ノ出資ノ價
 額ヲ限度トシテ會社ノ債務ヲ辨濟スル責ニ
 任ズ但シ既ニ會社ニ對シ履行ヲ爲シタル出
 資ノ價額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 前項但書ノ規定ノ適用ニ付テハ會社ニ利益
 ナキニ拘ラズ配當ヲ受ケタル金額ハ之ヲ控
 除シテ其ノ出資ノ價額ヲ定ム
第五十八條 有限責任社員ハ出資ノ減少後
 ト雖モ本店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲ス
 前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付テハ從前ノ責
 任ヲ免ルルコトナシ
第五十九條 有限責任社員ニ自己ヲ無限責
 任社員ナリト誤認セシムベキ行爲アリタル
 トキハ其ノ社員ハ誤認ニ基キテ會社ト取引

ヲ爲シタル者ニ對シ無限責任社員ト同一ノ
 責任ヲ負フ
 前項ノ規定ハ有限責任社員ニ其ノ責任ノ限
 度ヲ誤認セシムベキ行爲アリタル場合ニ之
 ヲ準用ス
第六十條 第八十二條ノ規定ハ有限責任社
 員ガ無限責任社員ト爲リタル場合、第九十
 三條ノ規定ハ無限責任社員ガ有限責任社員
 ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス
第六十一條 有限責任社員ガ死亡シタルト
 キハ其ノ相続人ノ代リテ社員ト爲ル
第六十二條 有限責任社員ノ死亡シタルト
 キハ其ノ相続人ノ代リテ社員ト爲ル
第六十三條 有限責任社員ノ死亡シタルト
 キハ其ノ相続人ノ代リテ社員ト爲ル
第六十四條 有限責任社員ノ死亡シタルト
 キハ其ノ相続人ノ代リテ社員ト爲ル
第六十五條 有限責任社員ノ死亡シタルト
 キハ其ノ相続人ノ代リテ社員ト爲ル
第六十六條 有限責任社員ノ死亡シタルト
 キハ其ノ相続人ノ代リテ社員ト爲ル
第六十七條 有限責任社員ノ死亡シタルト
 キハ其ノ相続人ノ代リテ社員ト爲ル

第四節 株式會社
第一節 設立
第六十五條 株式會社ノ設立ニハ七人以上
 ノ發起人アルコトヲ要ス
第六十六條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ
 事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス
 一 目的
 二 商號
 三 資本ノ總額
 四 一株ノ金額
 五 本店及支店ノ所在地
 六 會社ガ公告ヲ爲ス方法
 七 發起人ノ氏名及住所
 會社ノ公告ハ官報又ハ時事ニ關スル事項ヲ
 掲載スル日刊新聞紙ニ掲ゲテ之ヲ爲スコト
 ヲ要ス
第六十七條 定款ハ公證人ノ認證ヲ受ケル

ニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ
第六十八條 左ノ事項ハ之ヲ定款ニ記載ス
 ルニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ
 一 存立時期又ハ解散ノ事由
 二 數種ノ株式ノ發行及ニ其ノ各種ノ株式
 ノ内容及數
 三 株式ノ額面以上ノ發行
 四 發起人ガ受クベキ特別ノ利益及之ヲ受
 クベキ者ノ氏名
 五 現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目的
 六 現物出資ノ價格及之ニ對シテ與フ
 ル株式ノ種類及數
 七 會社ノ成立後ニ讓受クルコトヲ約シタ
 ル財產、其ノ價格及讓渡人ノ氏名
 八 會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用及發起
 人ガ受クベキ報酬ノ額
第六十九條 各發起人ハ書面ニ依リテ株式
 ノ引受ヲ爲スコトヲ要ス
第七十條 發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケタ
 ルトキハ遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ
 爲シ且取締役及監査役ヲ選任スルコトヲ要
 ス
 前項ノ選任ハ發起人議決權ノ過半數ヲ以テ
 之ヲ決ス此ノ場合ニ於テハ第二百四十一條
 第一項ノ規定ヲ準用ス
第七十一條 株式發行ノ價額ハ券面額ヲ下

ルコトヲ得ズ
 第一回拂込ノ金額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ル
 コトヲ得ズ
 額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルト
 キハ其ノ額面ヲ超ユル金額ハ第一回ノ拂込
 ト同時ニ之ヲ拂込ムコトヲ要ス
第七十二條 現物出資者ハ第一回ノ拂込ノ
 期日ニ出資ノ目的タル財產ノ全部ヲ給付ス
 ルコトヲ要ス但シ登記、登錄其ノ他權利ノ
 設立又ハ移轉ヲ以テ第三三者ニ對抗スル爲必
 要ナル行爲ハ會社成立後ニ之ヲ爲スコトヲ
 妨ゲズ
第七十三條 取締役ハ其ノ選任後遲滞ナク
 第六十八條第一項第四號乃至第七號ニ掲
 グル事項並ニ前三條ノ規定ニ依リ拂込及現
 物出資ノ給付アリタルヤ否ヤヲ調査セシム
 ル爲検査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコト
 ヲ要ス
 裁判所ハ検査役ノ報告ヲ聽キ第六十八條
 第一項第四號乃至第七號ニ掲グル事項ヲ不
 當ト認メタルトキハ之ニ變更ヲ加ヘテ各發
 起人ニ通告スルコトヲ得
 前項ノ變更ニ服セザル發起人ハ其ノ株式ノ
 引受ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ定
 款ヲ變更シテ設立ニ關スル手續ヲ履行スル
 コトヲ妨ゲズ
 通告後二週間内ニ株式ノ引受ヲ取消シタル

者ナキトキハ定款ハ通告ニ從ヒ變更セラレ
 タルモノト看做ス
第七十四條 發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケ
 ザルトキハ株主ヲ募集スルコトヲ要ス
第七十五條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者
 ハ株式申込證ニ通シ其ノ引受クベキ株式ノ
 數及住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス
 株式申込證ハ發起人之ヲ作り之ニ左ノ事項
 ヲ記載スルコトヲ要ス
 一 定款ノ認證ノ年月日及其ノ認證ヲ爲シ
 タル公證人ノ氏名
 二 第六十六條第一條及第六十八條第
 一項ニ掲グル事項
 三 各發起人ガ引受ケタル株式ノ數
 四 第一回拂込ノ金額
 五 株式ノ讓渡ノ制限株券ノ裏書ノ禁止又
 ハ株主ノ議決權ノ制限ヲ定メタルトキハ
 其ノ規定
 六 株金ノ拂込ヲ取扱フベキ銀行又ハ信託
 會社及其取扱ノ場所
 七 一定ノ時期迄ニ創立總會ガ終結セザル
 トキハ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ベキ
 コト
 數種ノ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申
 込人ハ株式申込證ニ其ノ引受クベキ株式ノ
 種類ヲ記載シ額面以上價額ヲ以テ株式ヲ發
 行スル場合ニ於テハ其ノ引受價額ヲ記載ス

ルコトヲ要ス
 民法第九十三條但書ノ規定ハ株式ノ申込ニハ之ヲ適用セズ
 第七十六條 株式ノ申込ヲ爲シタル者ハ發起人ノ判官テタル株式ノ數ニ應ジテ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ
 第七十七條 株式總數ノ引受アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス
 前項ノ拂込ハ株式申込證ニ記載シタル株金拂込ノ取扱場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 第七十一條及第七十二條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第七十八條 株金ノ拂込ヲ取扱フ銀行若ハ信託會社ヲ變更シ又ハ拂込金ノ保管替ヲ爲スニハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス
 第七十九條 株式引受人ガ第七十七條ノ規定ニ依ル拂込ヲ爲サザルトキハ發起人ハ期日ヲ定メ其ノ期日迄ニ拂込ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フベキ旨ヲ其ノ株式引受人ニ通知スルコトヲ得但シ其ノ通知ハ期日ノ二週間前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
 發起人ガ前項ノ通知ヲ爲シタルモ株式引受人ガ拂込ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テ發起人ハ其ノ者ガ引受ケタル株式ニ付更ニ株主ヲ募集スルコトヲ得
 前二項ノ規定ハ株式引受人ニ對スル損害賠償

債ノ請求ヲ妨グズ
 第八十條 第七十七條ノ規定ニ依ル拂込及現物出資ノ給付アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スルコトヲ要ス
 創立總會ニハ株式引受人ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ヲ引受ケタル者出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス
 第二百三十二條第一項第二項、第二百三十三條第二項、第二百三十九條第一項、第二百四十條、第二百四十一條第一項、第二百四十二條、第二百四十三條、第二百四十四條、第二百四十七條乃至第二百五十三條及第三百四十五條ノ規定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス
 第八十一條 定款ヲ以テ第六十八條第一項第四號乃至第七號ニ掲グル事項ヲ定メタルトキハ發起人ハ之ニ關スル調査ヲ爲サシムル爲メ検査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス
 前項ノ検査役ノ報告書ハ之ヲ創立總會ニ提出スルコトヲ要ス
 第八十二條 發起人ハ會社ノ創立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス
 第八十三條 創立總會ニ於テハ取締役及監査役ヲ選任スルコトヲ要ス
 第八十四條 取締役及監査役ハ左ノ事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス
 一 株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ

二 第七十七條ノ規定ニ依ル拂込及現物出資ノ給付アリタルヤ否ヤ
 取締役及監査役ハ第八十一條第二項ノ報告書ヲ調査シ創立總會ニ其ノ意見ヲ報告スルコトヲ要ス
 取締役及監査役中發起人ヨリ選任セラレタル者アルトキハ創立總會ハ特ニ検査役ヲ選任シ前二項ノ調査及報告ヲ爲サシムル事ヲ得
 第八十五條 創立總會ニ於テ第六十八條第一項第四號乃至第七號ニ掲グル事項ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得
 第七十三條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第八十六條 前項ノ規定ハ發起人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨グズ
 第八十七條 創立總會ニ於テハ定款ノ變更及ハ設立ノ廢止ノ決議ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ決議ハ召集ノ通知ニ其ノ旨ヲ記載ナカリシトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ妨グズ
 第八十八條 株式會社ノ設立ノ登記ハ發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ第七十三條ノ手續終了ノ日、發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケザリシトキハ創立總會終結ノ日又ハ第八十五條ノ手續終了ノ日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第六十六條第一項第一號乃至第四號及第六號ニ掲グル事項
 二 本店及支店
 三 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
 四 數種ノ株式ヲ發行シタルトキハ其ノ各種ノ株式ノ内容及數
 五 各株ニ付拂込ミタル株金額
 六 株式ノ譲渡ノ制限又ハ株券ノ裏書ノ禁止ヲ定メタルトキハ其ノ規定
 七 開業前ニ利息ヲ配當スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定
 八 株主ニ配當スベキ利益ヲ以テ株式ヲ消却スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定
 九 取締役及監査役ノ氏名及住所
 十 取締役ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名
 十一 數人ノ取締役ガ共同シ又ハ取締役ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定
 第六十四條第二項及第六十五條乃至第六十七條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス
 第七十九條 株金ノ拂込ヲ取扱ヒタル銀行又ハ信託會社ハ發起人又ハ取締役ノ請求ニ依リ拂込金ノ保管ニ關シ證明ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ノ銀行又ハ信託會社ハ其ノ證明シタル

拂込金額ニ付拂込ナカリシコト又ハ其ノ返還ニ關スル制限ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ズ
 第九十條 株式ノ引受ニ因ル權利ノ讓渡ハ會社ニ對シ其ノ效力ヲ生ゼズ
 發起人ハ前項ノ權利ヲ讓渡スルコトヲ得ズ
 第九十一條 株式ヲ引受ケタル者ハ會社ノ成立後ハ錯誤若ハ株式申込證ノ要件ノ欠缺ヲ理由トシテ其ノ引受ノ無効ヲ主張シ又ハ詐欺若ハ強迫ヲ理由トシテ其ノ引受ヲ取消スコトヲ得但シ創立總會ニ出席シテ其ノ權利ヲ行使シタルトキ亦同ジ
 第九十二條 引受ナキ株式又ハ第七十條ノ拂込ノ未済ナル株式アルトキハ發起人ハ連帶シテ其ノ株式ノ引受又ハ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込方取消サレタルトキ亦同ジ
 第九十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第九十三條 發起人ガ會社ノ設立ニ關シ其ノ任務ヲ怠リタルトキハ其ノ發起人ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負フ
 發起人ニ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ其ノ發起人ハ第三者ニ對シテモ亦連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負フ
 第九十四條 會社ガ成立セザル場合ニ於テハ發起人ハ會社ノ設立ニ關シテ爲シタル行

爲ニ付連帶シテ其ノ責任ヲ負フ
 前項ノ場合ニ於テ會社ノ設立ニ關シテ支出シタル費用ハ發起人ノ負擔トス
 第九十五條 取締役又ハ監査役ガ第八十條第一項及第二項ニ定ムル任務ヲ怠リタルニ因リ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負ベキ場合ニ於テ發起人モ亦其ノ發起人ハ之ヲ連帶債務者トス
 第九十六條 發起人、取締役又ハ監査役ガ會社ノ設立ニ關シ會社ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負ベキ場合ニ於テハ其ノ責任ハ會社成立ノ日ヨリ三年ヲ經過シタル後ニ於テ第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルニ非ザレバ之ヲ免除スルコトヲ得ズ
 第九十七條 株主總會ニ於テ發起人ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ會日ノ三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ガ訴ヲ提起シテ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス
 第二百六十七條第二項、第二百六十八條第二項乃至第五項及第二百七十七條第一項但書第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第九十八條 發起人ニ非ズシテ株式申込證目論見書、株式募集ノ廣告其ノ他株式募集

ニ關スル文書ニ自己ノ氏名及會社ノ設立ヲ
贊助スル旨ノ記載ヲ爲スコトヲ承諾シタル
者ハ自己ヲ發起人ナリト誤認シテ株式ノ申
込ヲ爲シタル者ニ對シ發起人ト同一ノ責任
ヲ負フ

第二節 株式

第九十九條 株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ
分ツコトヲ要ス

第一百條 株式ノ責任ハ其ノ引受又ハ讓受ケ
タル株式ノ金額、額面以上ノ價額ヲ以テ株
式ヲ發行シタル場合ニ於テハ引受價額ヲ限
度トス

株式ハ株金ノ拂込ニ付相殺ヲ以テ會社ニ對
抗スルコトヲ得ズ

第二十一條 假設人ノ名義ヲ以テ株式ヲ引受
ケ又ハ讓受ケタル者ハ株式引受人又ハ株主
タル責任ヲ負フ他人ノ承諾ヲ得ズシテ其ノ
名義ヲ以テ株式ヲ引受ケ又ハ讓受ケタル者
亦同ジ

他人ト通ジテ其ノ名義ヲ以テ株式ヲ引受ケ
又ハ讓受ケタル者ハ其ノ他人ト連帶シテ株
金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第二十二條 株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要
ス
株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ズ但シ
一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムベキ場合ニ限り

之ヲ二十圓迄ニ下スコトヲ得

第二十三條 株式ガ數人ノ共有ニ屬スルトキ
ハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行使スベキ其一人
ヲ定ムルコトヲ要ス

株主ノ權利ヲ行使スベキ者ナキトキハ共有
者ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ是ル

共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金ノ拂込ヲ
爲ス義務ヲ負フ

第二十四條 株式ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ
得但シ定款ヲ以テ其ノ讓渡ノ制限ヲ定ムル
コトヲ妨ゲズ

株式ノ發行前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ會社
ニ對シ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十五條 記名株式ノ讓渡ハ株券ノ裏書ニ
依リテ之ヲ爲スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ
定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

手形法第十二條、第十三條及第十四條第二
項ノ規定ハ株券ノ裏書ニ之ヲ準用ス

第二十六條 株券ノ裏書ニ依リ記名株式ノ移
轉ハ取得者ノ氏名反住所ヲ株主名簿ニ記載
スルニ非ザレバ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコ
トヲ得ズ

前項ノ場合ヲ除クノ外記名株式ノ移轉ハ取
得者ノ氏名及住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其
ノ氏名ヲ株券ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以
テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

及住所、株券ノ番號並ニ通知事項ヲ公告ス
ルコトヲ要ス

第二十七條 會社ガ前條第一項及第二項ニ
定ムル手續ヲ踐ミタルモ株主ガ拂込ヲ爲サ
ザルトキハ會社ハ株式ヲ競賣スルコトヲ要
ス但シ裁判所ノ許可ヲ得テ他ノ方法ニ依リ
之ヲ賣却スルコトヲ妨ゲズ

會社ハ株式ノ處分ニ依リテ得タル金額ヨリ
滯納金額及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ額
ヲ控除シタル金額ヲ從前ノ株主ニ拂戻スコ
トヲ要ス

株式ノ處分ニ依リテ得タル金額ガ滯納金額
ニ滿タザル場合ニ於テハ會社ハ從前ノ株主
ニ對シ不足額ノ辨濟ヲ請求シ若シ從前ノ株
主ガ二週間内ニ之ヲ辨濟セザルトキハ讓渡
人ニ對シテ其ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 會社ハ前條第一項ノ處分ニ著
手スル日ノ二週間前ニ株式ノ讓渡人ニシテ
第二十九條ノ規定ニ依リテ責任ヲ負フ者
ニ對シ其ノ處分ヲ爲スベキ旨ノ通知ヲ發ス
ルコトヲ要ス

讓渡人ガ株式ノ處分ニ先チ滯納金額及定款
ヲ以テ定メタル違約金ノ額以上ノ金額ヲ提
供シテ株式ノ買受ヲ申出デタルトキハ會社
ハ其ノ讓渡人ニ對シ申出價額ヲ以テ株式ヲ
讓渡スコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用

株金ノ滯納アル株式ニ付テハ會社ハ前二項
ノ名義書換ヲ拒ムコトヲ得

第二十七條 記名株式ヲ以テ質權ノ目的ト爲
スニハ株券ヲ交付スルコトヲ要ス

質權者ハ繼續シテ株券ヲ占有スルニ非ザレ
バ其ノ質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ
得ズ

第二十八條 株式ノ消却、併合又ハ轉換アリ
タルトキハ從前ノ株式ヲ目的トスル質權ハ
消却、併合又ハ轉換ニ因リテ株主ガ受クベ
キ金額又ハ株式ノ上ニ存在ス

第二十九條 第一項又ハ第二十五條第二
項ノ規定ニ依ル株式ノ處分アリタルトキハ
其ノ株式ヲ以テ目的トスル質權ハ從前ノ株
主ガ第二十四條第二項ノ規定ニ依リテ拂
戻ヲ受クベキ金額ノ上ニ存在ス

第三十條 記名株式ヲ以テ質權ノ目的ト爲
シタル場合ニ於テ會社ガ質權設定者ノ請求
ニ依リ質權者ノ氏名及住所ヲ株主名簿ニ記
載シ且其ノ氏名ヲ株券ニ記載シタルトキハ
質權者ハ會社ヨリ利益若ハ利息ノ配當、殘
餘財産ノ分配又ハ前條ノ金額ノ支拂ヲ受ケ
他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ニ充
ツルコトヲ得

民法第三百六十七條第三項ノ規定ハ前項ノ
場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ質權者ハ會社ニ對シ前條第一項ノ
株主ノ受クベキ株式ノ引渡ヲ請求スルコト

第二十六條 第二十四條第一項ノ規定ニ
依リ株式ノ競賣ヲ爲シタルモ其ノ結果ヲ得
ザルトキハ會社ハ資本減少ノ規定ニ從ヒテ
其ノ株式ヲ消却スルコトヲ得此ノ場合ニ於
テハ第二十四條第三項ノ規定ヲ準用ス

第二十七條 前條ノ規定ハ會社ガ損害賠
償及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲
スコトヲ妨ゲズ

第二十八條 株主ガ第二十三條第二項ノ
期日迄ニ株金ノ拂込ヲ爲サザルトキハ會社
ハ其株主及株主名簿ニ記載アル質權者ニ對
シ二週間内ニ株券ヲ會社ニ提出スベキ旨ヲ
通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナ
キ株券ハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ遲滞ナク失効シ
タル株券ノ番號並ニ其ノ株主ノ氏名及住所
ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十九條 第二十四條第三項ニ定ムル
讓渡人ノ責任ハ株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記
載シタル後二年内ニ會社ガ第二十三條第
一項ノ規定ニ依リ拂込ノ催告ヲ發シタル株
金ニ關スルモノニ限ル

發起人ガ會社ノ設立ニ際シテ引受ケタル株
式ニ付會社ノ成立後五年内ニ拂込ノ催告ヲ
發シタル株金ニ關シテハ發起人ハ前項ノ規
定ニ拘ラズ第二十四條第三項ニ定ムル讓

渡人ノ責任ハ株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記
載シタル後二年内ニ會社ガ第二十三條第
一項ノ規定ニ依リ拂込ノ催告ヲ發シタル株
金ニ關スルモノニ限ル

第二十條 會社ハ左ノ場合ヲ除クノ外自己
ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ
受クルコトヲ得ズ

一 株式ノ消却ノ爲ニスルトキ
二 合併又ハ他ノ會社ノ營業全部ノ讓受ニ
因ルトキ
三 會社ノ權利ノ實行ニ當リ其ノ目的ヲ達
スル爲ニ必要ナルトキ

第二十一條 前條第一號ノ場合ニ於テハ會
社ハ遲滞ナク株式失効ノ手續ヲ爲シ第二號
及第三號ノ場合ニ於テハ相當ノ時期ニ株式
又ハ質權ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第二十二條 株式ハ資本減少ノ規定ニ從フ
ニ非ザレバ之ヲ消却スルコトヲ得ズ但シ定
款ノ規定ニ基キ株主ニ配當スベキ利益ヲ以
テスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十七條 規定ハ株式ヲ消却スル場
合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 株金ノ拂込ハ其ノ期日ノ二週
週前ニ之ヲ各株主ニ催告スルコトヲ要ス

株主ガ拂込ヲ爲サザルトキハ會社ハ更ニ期
日ヲ定メ其ノ期日迄ニ拂込ヲ爲サザルトキ
ハ會社ニ於テ株式ノ處分スベキ旨ヲ其ノ株
主及株主名簿ニ記載アル質權者ニ通知スル
コトヲ得但シ其ノ通知ハ期日ノ二週間前ニ
之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ其ノ株主ノ氏名

渡人ノ責任ヲ負フ
第二百二十條 株式ノ讓渡人ガ第二百十四條
第三項ノ不足額ヲ辨濟シタルトキハ株券又
ハ株主名簿ニ記載アル後者全員ニ對シ償還
ノ請求ヲ爲スコトヲ得

ノ番號
三 各株ニ付拂込ミタル株金額及拂込ノ年
月日
四 各株式ノ取得ノ年月日
五 無記名ノ株券ヲ發行シタルトキハ其ノ
數、番號及發行ノ年月日

第二百二十六條 株券ハ會社ノ成立後ニ非ザ
レバ之ヲ發行スルコトヲ得ズ
前項ノ規定ニ違反シテ發行シタル株券ハ無
効トス但シ株券ヲ發行シタル者ニ對スル損
害賠償ノ請求ヲ妨グズ

第二百三十一條 總會ハ本法ニ別段ノ定アル
場合ヲ除クノ外取締役之ヲ招集ス
第二百三十二條 總會ヲ招集スルニハ會日ヨ
リ二週間前ニ各株主ニ對シテ其ノ通知ヲ發
スルコトヲ要ス

招集スルニハ各其ノ過半数ノ決議アルコト
ヲ要ス
第二百三十七條 資本ノ十分ノ一以上ニ當ル
株主ハ會議ノ目的タル事項及招集ノ理由ヲ
記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ
招集ヲ請求スルコトヲ得

使スルコトヲ得ザル決議權ノ數ハ同條第一
項ノ決議權ノ數ニ之ヲ算入セズ
第二百四十一條 各株主ハ一株ニ付一個ノ議
決權ヲ有ス但シ定款ヲ以テ十一株以上ヲ有
スル株主ノ議決權ヲ制限シ又ハ株式ノ讓受
ヲ株主名簿ニ記載シタル後六月ヲ超エザル
株主ニ議決權ナキモノトスルコトヲ得

記載シ議長並ニ出席シタル取締役及監査役
之ニ署名スルコトヲ要ス

第二百四十五條 會社ガ左ノ行爲ヲ爲スニハ
第二百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ
要ス

一 營業ノ全部又ハ一部ノ讓渡
二 營業上ノ損益全部ヲ共通ニスル契約其
ノ他之ニ準ズル契約ノ締結變更又ハ解約
三 他ノ會社ノ營業全部ノ讓受
四 第二百六十六條又ハ第二百八十條ノ規
定ニ依ル取締役又ハ監査役ノ責任ノ免除
第二百六十八條又ハ第二百七十九條ノ規定
ハ前項第四號ノ決議アリタル場合ニ之ヲ準
用ス

第二百四十六條 前條第一項ノ規定ハ會社ガ
其ノ成立後二年內ニ其ノ成立前ヨリ存在ス
ル財産ニシテ營業ノ爲ニ繼續シテ用スベキ
モノヲ資本ノ二十分ノ一以上ニ當ル對價ヲ
以テ取得スル契約ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十七條 總會招集ノ手續又ハ其ノ決
議ノ方法ガ法令若ハ定款ニ違反シ又ハ著シ
ク不正ナルトキハ株主、取締役又ハ監査
役ハ訴ヲ以テ決議ノ取消ヲ請求スルコトヲ
得決議ガ第三百四十三條ノ規定ニ違反シテ
爲サレタルトキ亦同シ

第八十八條、第百五條第三項第四項及第百

九條ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二百四十八條 決議取消ノ訴ハ決議ノ日ヨ
リ一月內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

口頭辯論ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後ニ非
ザレバ之ヲ開始スルコトヲ得ズ

第二百四十九條 株主ガ決議取消ノ訴ヲ提起
シタルトキハ會社ノ請求ニ依リ相當ノ擔保
ヲ供スルコトヲ要ス但シ其ノ株主ガ取締役
又ハ監査役ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二百五十條 決議シタル事項ノ登記アリタ
ル場合ニ於テ決議取消ノ判決ガ確定シタル
トキハ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記
ヲ爲スコトヲ要ス

第二百五十一條 決議取消ノ訴ノ提起アリタ
ル場合ニ於テ決議ノ内容、會社ノ現況其ノ
他一切ノ事情斟酌シテ其ノ取消ヲ不適當ト
認ムルトキハ裁判所ハ請求ヲ棄却スルコト
ヲ得

第二百五十二條 第八十八條、第百五條第三
項第四項、第百九條、第二百四十九條及第
二百五十條ノ規定ハ總會ノ決議ノ内容ガ法
令又ハ定款ニ違反スルコトヲ理由トシテ決
議ノ無効ノ確認ヲ請求スル訴ニ之ヲ準用ス

第二百五十三條 株主ガ第三百二十九條第四
項ノ規定ニ依リ決議取消ノ行使スルコトヲ得
ザリシ場合ニ於テ決議取消ノ行使スルコトヲ得
其ノ株主ガ決議取消ノ行使シタルトキハ之ヲ

表権ヲ有セザル場合ト雖モ善意ノ第三者ニ
對シテ其ノ責ニ任ズ

第二百六十三條 取締役ハ定款及總會ノ議事
録ヲ本店及支店ニ、株主名簿及社債原簿ヲ
本店ニ備置クキトヲ要ス

株主及會社ノ債權者ハ營業時間內何時ニテ
モ前項ニ掲グル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ
得

第二百六十四條 取締役ハ株主總會ノ認許ア
ルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ
營業ノ全部又ハ一部ヲ取引ヲ爲シ又ハ同種ノ
營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員
若ハ取締役ト爲ルコトヲ得ズ

取締役ガ前項ノ規定ニ違反シテ自己ノ爲ニ
取引ヲ爲シタルトキハ株主總會ハ之ヲ以テ
會社ノ爲ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得
前項ニ定ムル權利ハ監査役ノ一人ガ其ノ取
引ヲ知りタル時ヨリ二月間之ヲ行使セザル
トキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ經過シタ
ルトキ亦同シ

第二百六十五條 取締役ハ監査役ノ承認ヲ得
タルトキニ限り自己又ハ第三者ノ爲ニ會社
ト取引ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民
法第百八條ノ規定ヲ適用セズ

第二百六十六條 取締役ガ其ノ任務ヲ怠リタ
ルトキハ其ノ取締役ハ會社ニ對シ連帶シテ
損害賠償ノ責ニ任ズ

阻止スルコトヲ得ベカリシモノナルニ於テ
ハ其ノ株主ハ訴ヲ以テ決議ノ取消又ハ變更
ヲ請求スルコトヲ得

第八十八條、第百五條第三項第四項、第百
九條及第二百四十八條乃至第二百五十條ノ
規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二款 取締役

第二百五十四條 取締役ハ株主總會ニ於テ之
ヲ選任ス

會社ト取締役トノ間ノ關係ハ委任ニ關スル
規定ニ從フ

第二百五十五條 取締役ハ三人以上タルコト
ヲ要ス

第二百五十六條 取締役ノ任期ハ三年ヲ越ユ
ルコトヲ得ズ但シ定款ヲ以テ任期中ノ最終
ノ決算期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ル迄
其ノ任期ヲ延長スルコトヲ妨グズ

第二百五十七條 取締役ハ何時ニテモ株主總
會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得但シ
任期ノ定アル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシ
テ其ノ任期ノ滿了前ニ之ヲ解任シタルトキ
ハ其ノ取締役ハ會社ニ對シ解任ニ因リテ生
ジタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第二百五十八條 法律又ハ定款ニ定メタル取
締役ノ員數ノ缺クニ至リタル場合ニ於テハ
任期ノ滿了又ハ辭任ニ因リテ退任シタル取

取締役ガ法令又ハ定款ニ違反スル行爲ヲ爲
シタルトキハ株主總會ノ決議ニ依リタル場
合ト雖モ其ノ取締役ハ第三者ニ對シ連帶シ
テ損害賠償ノ責ニ任ズ

第二百六十七條 株主總會ニ於テ取締役ニ對
シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキハ
會社ハ決議ノ日ヨリ一月內ニ之ヲ提起スル
コトヲ要ス

前項ノ訴ニ付テハ株主總會ノ決議ニ依ルニ
非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲ス
コトヲ得ズ

商法 第二編 會社 第四章 株式會社

第二百六十八條 株主總會ニ於テ取締役ニ對
シテ訴ヲ提起スルコトヲ否決シタル場合ニ
於テ會日ノ三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ
一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ガ訴ノ提起
ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ請求ノ
日ヨリ一月內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス
前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月內ニ之
ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ訴ニ付テハ訴提起ノ請求ヲ爲シタ
ル株主ノ議決權ノ過半數ノ同意アルニ非ザ
レバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコト
ヲ得ズ

第一項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ監査役ノ請
求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
會社ガ敗訴シタルトキハ請求ヲ爲シタル株
主ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ズ

取締役ハ新ニ選任セラレタル取締役ノ就職ス
ル迄仍舊取締役ノ權利義務ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ
裁判所ハ監査役其ノ他利害關係人ノ請求ニ
依リ一時取締役ノ職務ヲ行フベキ者ヲ選任
スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本店及支店
ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

商法 第二編 會社 第四章 株式會社

取締役ハ新ニ選任セラレタル取締役ノ就職ス
ル迄仍舊取締役ノ權利義務ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ
裁判所ハ監査役其ノ他利害關係人ノ請求ニ
依リ一時取締役ノ職務ヲ行フベキ者ヲ選任
スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本店及支店
ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二百六十九條 定款ヲ以テ取締役ノ有スベ
キ株式ノ數ヲ定メタル場合ニ於テ別段ノ定
キキトキハ取締役ハ其ノ員數ノ株券ヲ監査
役ニ供託スルコトヲ要ス

第二百七十條 會社ノ業務執行ハ定款ニ別段
ノ定キキトキハ取締役ノ過半數ヲ以テ之ヲ
決ス支配人ノ選任及解任亦同シ

第二百七十一條 取締役ハ各自會社ヲ代表ス
前項ノ規定ハ定款若ハ株主總會ノ決議ヲ以
テ會社ヲ代表スベキ取締役ヲ定メ、數人ノ
取締役ガ共同シ若ハ取締役ガ支配人ト共同
シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メ又ハ定款
ノ規定ニ基キ取締役ノ互選ヲ以テ會社ヲ代
表スベキ取締役ヲ定ムルコトヲ妨グズ

商法 第二編 會社 第四章 株式會社

第二百七十二條 社長、副社長、事務取締役
常務取締役其ノ他會社ヲ代表スル權限ヲ有
スルモノト認ムベキ名稱ヲ附シタル取締役
ノ爲シタル行爲ニ付テハ會社ハ其ノ者ガ代

表権ヲ有セザル場合ト雖モ善意ノ第三者ニ
對シテ其ノ責ニ任ズ

第二百七十三條 取締役ハ定款及總會ノ議事
録ヲ本店及支店ニ、株主名簿及社債原簿ヲ
本店ニ備置クキトヲ要ス

株主及會社ノ債權者ハ營業時間內何時ニテ
モ前項ニ掲グル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ
得

第二百七十四條 取締役ハ株主總會ノ認許ア
ルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ
營業ノ全部又ハ一部ヲ取引ヲ爲シ又ハ同種ノ
營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員
若ハ取締役ト爲ルコトヲ得ズ

第二百六十九條 取締役が受クベキ報酬ハ定款ニ其ノ額ヲ定メザリシトキハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

取締役又ハ監査役亦同ジ 第二百七十條 第二項第三項及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百七十條 取締役ノ選任決議ノ無効又ハ取消ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ本案ノ管轄裁判所ハ當事者ノ申立ニ依リ假處分ヲ以テ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止シ又ハ之ヲ代行スル者ヲ選任スルコトヲ得本案ノ繫屬前ト雖モ急迫ナル事情アルトキ亦同ジ

第三款 監査役 第二百七十三條 監査役ノ任期ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ズ

前二項ノ處分アリタルトキハ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二百七十四條 監査役ハ何時ニテモ取締役ニ對シテ營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

命令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外會社ノ常務ニ屬セザル行爲ヲ爲スコトヲ得但シ特ニ本案ノ管轄裁判所ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二百七十五條 監査役ハ取締役ガ株主總會ニ提出セントスル書類ヲ調査シ株主總會ニ其ノ意見ヲ報告スルコトヲ要ス

職務代行者前項ノ規定ニ違反シタルトキト雖モ會社ハ善意ノ第三者ニ對シテ其ノ責任ヲ免ズ

第二百七十六條 監査役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼ヌルコトヲ得但シ取締役中ニ缺員アルトキハ取締役及監査役ノ協議ヲ以テ監査役中ヨリ一時取締役ノ職務ヲ行フベキ者ヲ定ムルコトヲ得

第二百七十二條 急迫ナル事情アルトキハ第二百三十七條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル

第二百七十七條 會社ガ取締役ニ對シ又ハ取締役ガ會社ニ對シテ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其ノ訴ニ付テハ監査役會社ヲ代表ス但シ株主總會ハ他人ヲシテ之ヲ代行セシムルコトヲ得

第二百七十一條 前條ノ職務代行者ハ假處分命令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外會社ノ常務ニ屬セザル行爲ヲ爲スコトヲ得但シ特ニ本案ノ管轄裁判所ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二百七十八條 監査役ガ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負フベキ場合ニ於テ取締役モ亦其ノ責任ヲ負フベキトキハ其ノ監査役及取締役ハ之ヲ連帶債務者トス

職務代行者前項ノ規定ニ違反シタルトキト雖モ會社ハ善意ノ第三者ニ對シテ其ノ責任ヲ免ズ

第二百七十九條 株主總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ會日ノ三日前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ガ訴ノ提起ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第二百七十二條 急迫ナル事情アルトキハ第二百三十七條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル

第二百八十條 會社ハ損失ヲ填補シ且第二百八十八條第一項ノ準備金ヲ控除シタル後ニ非ザレバ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ

第二百七十一條 前條ノ職務代行者ハ假處分命令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外會社ノ常務ニ屬セザル行爲ヲ爲スコトヲ得但シ特ニ本案ノ管轄裁判所ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二百八十一條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ開業ヲ爲スコトヲ能ハザルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二百七十二條 急迫ナル事情アルトキハ第二百三十七條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル

第二百八十二條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ開業ヲ爲スコトヲ能ハザルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二百七十二條 急迫ナル事情アルトキハ第二百三十七條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル

第二百八十三條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ開業ヲ爲スコトヲ能ハザルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二百七十二條 急迫ナル事情アルトキハ第二百三十七條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル

第二百八十四條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ開業ヲ爲スコトヲ能ハザルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二百七十二條 急迫ナル事情アルトキハ第二百三十七條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル

第二百八十五條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ開業ヲ爲スコトヲ能ハザルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二百七十二條 急迫ナル事情アルトキハ第二百三十七條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル

第二百八十六條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ開業ヲ爲スコトヲ能ハザルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二百七十二條 急迫ナル事情アルトキハ第二百三十七條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル

第二百八十七條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ開業ヲ爲スコトヲ能ハザルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二百七十二條 急迫ナル事情アルトキハ第二百三十七條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル

第二百八十八條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ開業ヲ爲スコトヲ能ハザルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二百七十二條 急迫ナル事情アルトキハ第二百三十七條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル

第二百八十九條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ開業ヲ爲スコトヲ能ハザルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二百七十二條 急迫ナル事情アルトキハ第二百三十七條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル

第二百九十條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ開業ヲ爲スコトヲ能ハザルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二百七十二條 急迫ナル事情アルトキハ第二百三十七條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル

第二百九十一條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ開業ヲ爲スコトヲ能ハザルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二百七十二條 急迫ナル事情アルトキハ第二百三十七條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル

第二百九十二條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ開業ヲ爲スコトヲ能ハザルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

場合ニ於テハ新株ニ對シテモ亦利息ヲ配當スルコトヲ要ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ配當ヲ爲ス場合ニ於テハ配當期間ヲ伸長スルコトヲ得

前條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百九十三條 利益又ハ利息ノ配當ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應ジテ之ヲ爲ス但シ第二百二十二條第一項ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第二百九十四條 會社ノ業務ノ執行ニ關シ不正ノ行爲又ハ法令若ハ定款ニ違反スル重大ナル事實アルコトヲ疑フベキ事由アルトキハ三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ裁判所ニ検査役ノ選任ヲ請求スルコトヲ得

第二百九十五條 身元保證金ノ返還ヲ目的トスル債權其ノ他會社ト使用人トノ間ノ雇傭關係ニ基キ生ジタル債權ヲ有スル者ハ會社

第十三 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額

第十四 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社アルトキハ其ノ商號

第十五 社債ノ應募額ガ總額ニ達セザル場合ニ於テ前號ノ會社ガ其ノ殘額ヲ引受ケベキコトヲ約シタルトキハ其ノ旨

第二百九十六條 社債ハ第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルニ非ザレバ之ヲ募集スルコトヲ得ズ

ノ總財産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ノ順位ハ民法第三百六條第一號ニ掲グル先取特權ニ次グ

第五節 社員

第二百九十六條 社債ハ第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルニ非ザレバ之ヲ募集スルコトヲ得ズ

第二百九十七條 社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二百九十八條 會社ハ前ニ募集シタル社債ノ總額ヲ拂込ミタル後ニ非ザレバ更ニ社債ヲ募集スルコトヲ得ズ

第二百九十九條 各社債ノ金額ハ二十圓ヲ下ルコトヲ得ズ

第三百一十條 社債ノ募集シタル場合ニ於テ登記ノ事項ガ外國ニ於テ生ジタルトキハ外國ニ於テ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ登記ノ事項ガ外國ニ於テ生ジタルトキハ

第三百一十一條 債權者ハ社債全額ノ拂込アリタル後ニ非ザレバ之ヲ發行スルコトヲ得ズ

第三百一十二條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ其ノ正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ社債ノ發行シタル會社又ハ社債權者集會ノ請求ニ依リテ之ヲ解任スルコトヲ得

均一ナルカ又ハ最低額ヲ以テ整除シ得ベキモノナルコトヲ要ス

第三百一十三條 社債權者ニ償還スベキ金額ガ券面額ヲ超ユベキコトヲ定メタルトキハ其ノ超過額ハ各社債ニ付同率ナルコトヲ要ス

第三百一十四條 前二條ノ場合ニ於テ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ニ至リタルトキハ社債ヲ發行シタル會社及社債權者集會ノ一致ヲ以テ其ノ事務ノ承繼者ヲ定ムルコトヲ得

第三百一十五條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ニ於テ前號ノ規定ハ其ノ旨ニ依リテ之ヲ準用ス

第三百一十六條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ニ於テ前號ノ規定ハ其ノ旨ニ依リテ之ヲ準用ス

第三百一十七條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ニ於テ前號ノ規定ハ其ノ旨ニ依リテ之ヲ準用ス

第三百一十八條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ニ於テ前號ノ規定ハ其ノ旨ニ依リテ之ヲ準用ス

第三百一十九條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ニ於テ前號ノ規定ハ其ノ旨ニ依リテ之ヲ準用ス

第三百二十條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ニ於テ前號ノ規定ハ其ノ旨ニ依リテ之ヲ準用ス

第三百二十一條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ニ於テ前號ノ規定ハ其ノ旨ニ依リテ之ヲ準用ス

人ハ事務承繼者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第三百十五條 無記名社債ヲ償還スル場合ニ於テ欠缺セリ利札アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ償還額ヨリ控除ス但シ既ニ支拂期ノ到來シタル利札ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ前項ノ利札ノ所持人ハ何時ニテモ之ト引換ニ控除金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第三百十六條 社債ノ償還請求權ハ十年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百十七條 社債ノ請求權亦前項ニ同ジ利息及前條第二項ノ請求權ハ五年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百十七條 社債原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 社債權者ノ氏名及住所
- 二 債券ノ番號
- 三 第三百一一條第二項第二號乃至第七號及第十四號ニ掲グル事項
- 四 各社債ニ付拂込ミタル金額及拂込ノ年月日
- 五 債券發行ノ年月日
- 六 各社債ノ取得ノ年月日
- 七 無記名式ノ債券ヲ發シタルトキハ其ノ數、番號及發行ノ年月日

第三百十八條 第二百二十四條第一項及第二項ノ規定ハ社債應募者又ハ社債權者ニ對ス

ル通知及催告ニ之ヲ準用ス

第三百十九條 規定ハ社債數人ノ共有ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス

第二款 社債權者集會

第三百十九條 社債權者集會ハ本法ニ規定アル場合ヲ除ク外裁判所ノ許可ヲ得テ社債權者ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有スル事項ニ決議ヲ爲スコトヲ得

第三百二十條 社債權者集會ハ社債ヲ發行シタル會社又ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社之ヲ召集ス

社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債權者ハ會議ノ目的タル事項及招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ前項ノ會社ニ提出シテ社債權者集會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

第三百二十七條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ供託スルニ非ザレバ前二項ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ズ

第三百二十一條 各社債權者ハ社債ノ最低額毎ニ一個ノ議決權ヲ有ス

無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ債券ヲ供託スルニ非ザレバ其ノ議決權ヲ行使スルコトヲ得ズ

第三百二十二條 社債ヲ發行シタル會社又ハ

社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ其ノ代表者ヲ社債權者集會ニ出席セシメ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述ブルコトヲ得

社債權者集會ノ招集ハ前項ノ會社ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第三百二十二條 第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第三百二十三條 社債權者集會又ハ其ノ招集者ハ必要アリト認ムルトキハ社債ヲ發行シタル會社ニ對シ其ノ代表者ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

第三百二十四條 第三百四十三條第一項乃至第三項及第三百四十四條第二項第三項ノ規定ハ社債權者集會ノ決議ニ之ヲ準用ス

第三百四十二條 乃至第三百四十四條及前條ノ同意又ハ請求ハ前項ノ規定ニ拘ラズ出席シタル社債權者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スルコトヲ得

第三百二十五條 社債權者集會ノ招集者ハ決議ノ日ヨリ一週間内ニ決議ノ認可ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第三百二十六條 裁判所ハ左ノ場合ニ於テハ社債權者集會ノ決議ヲ認可スルコトヲ得ズ

- 一 社債權者集會招集ノ手續又ハ其ノ決議ノ方法が法令又ハ社債募集ノ目論見書ノ記載ニ違反スルトキ
- 二 決議が不當ノ方法ニ依リテ成立スルニ

至リタルトキ

三 決議ガ著シク不正ナルトキ

四 決議ガ社債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決議ノ内容其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ決議ヲ認可スルコトヲ妨グズ

第三百二十七條 社債權者集會ノ決議ハ裁判所ノ認可ニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

社債權者集會ノ決議ハ總社債權者ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第三百二十八條 社債權者集會ノ決議ニ對シ認可又ハ不認可ノ決定エリタルトキハ社債ヲ發行シタル會社ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百二十九條 社債權者集會ハ社債總額ノ五分ノ一以上ヲ有スル社債權者ノ中ヨリ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ其ノ決議スベキ事項ノ決定ヲ之ニ委任スルコトヲ得

代表者數人アルトキハ前項ノ決定ハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第三百三十條 社債權者集會ノ決議ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、若シ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ナキトキハ前條ノ代表者之ヲ執行ス但シ社債權者集會ノ決議ヲ以テ別ニ執行者ヲ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三百三十一條 第三百十條ノ規定ハ代表者又ハ執行者數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十二條 第三百九條、第三百十一條及第三百十六條第二項ノ規定ハ代表者又ハ執行者ガ社債ノ償還ニ關スル決議ヲ執行スル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十三條 社債權者集會ハ何時ニテモ代表者若ハ執行者ヲ解任シ又ハ委任シタル事項ヲ變更スルコトヲ得

第三百三十四條 會社ガ社債ノ利息ノ支拂ヲ怠リタルトキ又ハ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スベキ場合ニ於テ其ノ償還ヲ怠リタルトキハ社債權者集會ノ決議ニ依リ會社ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ辨濟ヲ爲スベキ旨及其ノ期間内ニ之ヲ爲サザルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フベキ旨ヲ通知スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ル事ヲ得ズ

前項ノ通知ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

會社ガ第一項ノ期間内ニ辨濟ヲ爲サザルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フ

第三百三十五條 前條ノ規定ニ依リ會社ガ期限ノ利益ヲ失ヒタルトキハ前條第一項ノ決議ヲ執行スル者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公告シ且知レタル社債權者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第三百三十六條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル

會社、代表者又ハ執行者ニ對シテ與フベキ報酬及其ノ事務處理ノ爲ニ要スル費用ハ社債ヲ發行シタル會社トノ契約ニ其ノ定アル場合ヲ除ク外裁判所ノ許可ヲ得テ會社ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、代表者又ハ執行者ハ償還ヲ受ケタル金額ヨリ社債權者ニ先テ前項ノ報酬及費用ノ辨濟ヲ受ケルコトヲ得

第三百三十七條 社債權者集會ニ關スル費用ハ社債ヲ發行シタル會社ノ負擔トス

第三百三十七條 第三項ノ規定ハ第三百二十條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リテ社債權者集會ヲ招集シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十五條ノ請求ニ關スル費用ハ會社ノ負擔トス但シ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ全部又ハ一部ニ付別ニ負擔者ヲ定ムルコトヲ得

第三百三十八條 數種ノ社債ヲ發行シタル場合ニ於テハ社債權者集會ハ各種類ノ社債ニ付之ヲ招集スルコトヲ要ス

第三百三十九條 第二百三十二條、第二百三十九條第三項第四項、第二百四十條、第二百四十一條第二項、第二百四十三條及第二百四十四條ノ規定ハ社債權者集會ニ之ヲ準用ス

社債權者集會ノ議事録ハ社債ヲ發行シタル

會社其ノ本店ニ之ヲ備置クコトヲ要ス
社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社及社債權者
ハ營業時間内何時ニテモ前項ノ議事録ノ閱
覽ヲ求ムルコトヲ得

第三百四十條 會社ガ或社債權者ニ對シテ爲
シタル辨濟、和解其ノ他ノ行爲ガ著シク不
公正ナルトキハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル
會社ハ訴ヲ以テ其ノ行爲ノ取消ヲ請求スル
コトヲ得

前項ノ訴ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社
ガ取消ノ原因タル事實ヲ知りタル時ヨリ六
月、行爲ノ時ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコ
トヲ要ス

第八十八條 民法第四百二十四條第一項
但書及第四百二十五條ノ規定ハ第一項ノ訴
ニ之ヲ準用ス

第三百四十一條 社債權者集會ノ決議アルト
キハ代表者又ハ執行者モ亦前條第一項ノ訴
ヲ提起スルコトヲ得但シ行爲ノ時ヨリ一年
内ニ限ル

第六節 定款ノ變更
第三百四十二條 定款ノ變更ヲ爲スニハ株主
總會ノ決議アルコトヲ要ス
定款ノ變更ニ關スル議案ノ要領ハ第二百三
十二條ニ定ムル通知及公告ニ之ヲ記載スル
コトヲ要ス

四 新株ノ引受權ヲ與フベキ者及其ノ權利
ノ內容
第三百四十九條 會社ガ特定ノ者ニ對シ將來
其ノ資本ヲ增加スル場合ニ於テ新株ノ引受
權ヲ與フベキコトヲ約スルニハ第三百四十
三條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス

第三百五十條 株式申込證ハ取締役之ヲ作リ
之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 會社ノ商號
二 增加スベキ資本ノ額
三 資本増加ノ決議ノ年月日
四 第一回拂込ノ金額
五 第七十五條第二項第五號第六號及第
三百四十八條第一號乃至第三號ニ掲グル
事項

六 數種ノ株式アルトキ又ハ異種類ノ株式
ヲ發行スルトキハ新ニ發行スル株式ノ內
容及數
七 一定ノ時期迄ニ第三百五十一條ノ總會
終結セザルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコ
トヲ得ベキコト

第三百五十一條 資本増加ノ場合ニ於テ各新
株ニ付第七十七條ノ規定ニ依ル拂込及現
物出資ノ給付アリタルトキハ取締役ハ遲滯
ナク株主總會ヲ召集シテ之ニ新株ノ募集ニ
關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス

新株ノ引受人ハ前項ノ總會ニ於テ株主ト同

第三百四十三條 前條第一項ノ決議ハ總株主
ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當ル株
主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲
ス

前項ニ定ムル員數ノ株主ガ出席セザルトキ
ハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ
假決議ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各
株主ニ對シテ其ノ假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發
シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其
ノ趣旨ヲ公告シ更ニ一月内ニ第二回ノ株主
總會ヲ召集スルコトヲ要ス

第二回ノ株主總會ニ於テハ出席シタル株主
ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決
ス
前二項ノ規定ハ會社ノ目的タル事業ヲ變更
スル場合ニハ之ヲ適用セズ
第三百四十四條 前條第一項ノ規定ノ適用ニ
付テハ議決權ナキ株主ハ之ヲ總株主ノ員數
ニ、其ノ有スル株式ノ金額ハ之ヲ資本ノ額
ニ算入セズ
第二百三十九條第二項ノ規定ニ依リテ株券
ヲ供託セザル者ハ之ヲ總株主ノ員數ニ算入
セズ
第二百四十條ノ規定ハ前條第一項乃至第三
項ノ議決權ニ之ヲ準用ス
第三百四十五條 會社ガ數種ノ株式ヲ發行シ
タル場合ニ於テ定款ノ變更ガ或種類ノ株主

一ノ權利ヲ有ス
第三百五十二條 新株ノ引受人ハ株金ノ拂込
期日ヨリ利益又ハ利息ノ配當ニ付株主ト同
一ノ權利ヲ有ス
第三百五十三條 會社ノ成立後二年内ニ其ノ
資本ヲ增加スル決議ヲ爲シ又ハ資本ヲ倍額
以上ニ増加スル場合ニ於テ第三百四十八條
第二號又ハ第三號ニ掲グル事項ヲ定メタル
トキハ取締役ハ之ニ關スル調査ヲ爲サシム
ル爲検査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコト
ヲ要ス
第三百八十一條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ
之ヲ準用ス
第三百五十四條 監査役ハ左ノ事項ヲ調査シ
之ヲ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス
一 新株總數ノ引受アリタルヤ否ヤ
二 第七十七條ノ規定ニ依ル拂込及現物
出資ノ給付アリタルヤ否ヤ
監査役ハ前條第一項ノ検査役ノ報告書ヲ調
査シ株主總會ニ其ノ意見ヲ報告スルコトヲ
要ス
株主總會ハ第一項ノ調査及報告ヲ爲サシム
ル爲特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得
第三百五十五條 第三百五十三條第一項ノ場
合ニ於テハ第三百五十一條ノ株主總會ノ決
議ハ第三百四十三條ノ規定ニ依ルニ非ザレ
バ之ヲ爲スコトヲ得ズ

ニ損害ヲ及ボスベキトキハ株主總會ノ決議
ノ外其ノ種類ノ株主ノ總會ノ決議アルコト
ヲ要ス
或種類ノ株主ノ總會ノ決議ハ其ノ種類ノ株
主ノ半數以上ニシテ株金總額ノ半額以上ニ
當ル株主出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上
ノ多數ヲ以テ之ヲ爲ス
株主總會ニ關スル規定ハ議決權ナキ種類ノ
株式ニ關スルモノヲ除クノ外第一項ノ總會
ニ之ヲ準用ス

第三百四十六條 前條ノ規定ハ第二百二十二
條第二項ノ決議ヲ爲ス場合及會社ノ合併ニ
因リテ或種類ノ株主ニ損害ヲ及ボスベキ場
合ニ之ヲ準用ス

第三百四十七條 第二百二十二條第二項及前
二條ノ規定ハ同種類ノ株式中ニ拂込額ヲ異
ニスル二種以上ノモノアル場合ニ之ヲ準用
ス

第三百四十八條 左ノ事項ハ定款ニ定ナキト
キト雖モ資本増加ノ決議ニ於テ之ヲ定ムル
コトヲ得
一 新株ノ額面以上ノ發行
二 現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目的
タル財產、其ノ價格並ニ之ニ對シテ與フ
ル株式ノ種類及數
三 資本ノ増加後ニ讓受クルコトヲ約シタ
ル財產、其ノ價格及讓渡人ノ氏名

第三百五十六條 引受ナキ株式又ハ第七十
七條ノ規定ニ依ル拂込ノ未済ナル株式アル
トキハ取締役ハ連帶シテ其ノ株式ノ引受又
ハ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込ヲ取消
サレタルトキ亦同ジ
第三百九十二條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ
之ヲ準用ス

第三百五十七條 會社ハ第三百五十一條ノ株
主總會終結ノ日又ハ第三百五十五條第二項
ノ手續終了ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ
二週間、支店ノ所在地ニ於テハ二週間、支
店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ資本増加ノ
登記ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スル
コトヲ要ス
一 増加シタル資本ノ額
二 資本増加ノ決議ノ年月日
三 各新株ニ付拂込ミタル株金額
四 數種ノ株式アルトキ又ハ異種類ノ株式
ヲ發行スルトキハ新ニ發行スル株式ノ內
容及數
第六十七條ノ規定ハ第一項ノ登記ニ之ヲ準
用ス
第三百五十八條 資本ノ増加ハ本店ノ所在地
ニ於テ前條第一項ノ登記ヲ爲スニ因リテ其

第三百五十九條 會社ガ特定ノ者ニ對シ將來
其ノ資本ヲ增加スル場合ニ於テ新株ノ引受
權ヲ與フベキコトヲ約スルニハ第三百四十
三條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス
第三百五十條 株式申込證ハ取締役之ヲ作リ
之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 會社ノ商號
二 增加スベキ資本ノ額
三 資本増加ノ決議ノ年月日
四 第一回拂込ノ金額
五 第七十五條第二項第五號第六號及第
三百四十八條第一號乃至第三號ニ掲グル
事項
六 數種ノ株式アルトキ又ハ異種類ノ株式
ヲ發行スルトキハ新ニ發行スル株式ノ內
容及數
七 一定ノ時期迄ニ第三百五十一條ノ總會
終結セザルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコ
トヲ得ベキコト
第三百五十一條 資本増加ノ場合ニ於テ各新
株ニ付第七十七條ノ規定ニ依ル拂込及現
物出資ノ給付アリタルトキハ取締役ハ遲滯
ナク株主總會ヲ召集シテ之ニ新株ノ募集ニ
關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス
新株ノ引受人ハ前項ノ總會ニ於テ株主ト同

ノ効力ヲ生ズ
資本増加ノ年月日ハ之ヲ新株券ニ記載スルコトヲ要ス

第三百五十九條 資本増加ノ場合ニ於テハ定款ヲ以テ株主ガ其ノ引受ケタル新株券他ノ種類ノ株式ニ轉換スルコトヲ請求シ得ベキ旨ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ轉換ヲ請求シ得ベキ期間及轉換ニ因リテ受ケベキ株式ノ内容ヲ定ムルコトヲ要ス

第三百六十條 前條ノ場合ニ於テハ株式申込證、株券及株主名簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 株式ヲ他ノ種類ノ株式ニ轉換スルコトヲ得ベキコト
- 二 轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ内容
- 三 轉換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ベキ期間

資本増加ノ登記ニ在リテハ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第三百六十一條 轉換ヲ請求スル者ハ請求書ニ通ニ株券ヲ添附シテ之ヲ會社ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ請求書ニハ轉換セントスル株式ノ數及請求ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

第三百六十二條 轉換ハ其ノ請求ヲ爲シタル時ノ屬スル營業年度ノ終ニ於テ其ノ効力ヲ生ズ

第三百六十三條 轉換ニ因リテ生ジタル各種ノ株式ノ數ノ増減ハ每營業年度ノ終ヨリ一月内ニ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十四條 第二項ノ規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三百六十四條 社債募集ノ場合ニ於テハ社債權者ガ社債ヲ株式ニ轉換スルコトヲ請求シ得ベキ旨且轉換ノ限度ニ於テ資本ヲ増加スベキ旨ヲ決議スルコトヲ得

前項ノ決議ニ於テハ轉換ノ條件、轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ内容及轉換ヲ請求シ得ベキ期間ヲ定ムルコトヲ要ス

第三百六十五條 轉換ニ因リテ發行スベキ株式ハ全額拂込済ノモノトス

轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ金額ハ轉換スベキ社債ノ發行價額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三百六十六條 轉換社債ニ付テハ社債申込證、債券及社債原簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 社債ヲ株式ニ轉換スルコトヲ得ベキコト
- 二 轉換ノ條件

三 轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ内容

四 轉換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ベキ期間

社債ノ登記ニ在リテハ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第三百六十七條 轉換ヲ請求スル者ハ請求書ニ通ニ債券ヲ添附シテ之ヲ會社ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ請求書ニハ轉換セントスル社債ヲ表示シ請求ノ年月日ヲ記載シテ之ニ署名スルコトヲ要ス

第三百六十八條 第二百八條第一項及第三百六十二條ノ規定ハ社債ノ轉換ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百六十九條 轉換ニ因リテ生ジタル資本ノ増加及社債ノ減少ハ每營業年度ノ終ヨリ一月内ニ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十四條 第二項ノ規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三百七十條 第七十五條第一項第三項第四項、第七十六條乃至第七十九條、第八十條、第九十條、第九十條第一項及第九十條第一條ノ規定ハ資本増加ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十條 第二項ノ規定ハ取締役及監査役ニ之ヲ準用ス

第二百二十六條ノ規定ハ新株ノ發行ニ之ヲ準用ス

第三百七十一條 資本増加ノ無効ハ第三百五十七條又ハ第三百六十九條ノ規定ニ依リ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル日ヨリ一月内ニ訴ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得前項ノ訴ハ株主、取締役又ハ監査役ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

第三百七十二條 第八十八條、第九十五條第二項乃至第四項、第九十七條、第九十九條、第三百七十七條及第二百四十九條ノ規定ハ前條ノ訴ニ之ヲ準用ス

第三百七十三條 資本ノ増加ヲ無効トスル判決ヲ確定シタルトキハ資本ノ増加ニ因リテ發行シタル新株ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ還滯ナク其ノ旨及一定ノ期間ニ株券ヲ會社ニ提出スベキ旨ヲ公告シ且株主及株主名簿ニ記載アル債權者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得ズ

第三百七十四條 前條第一項ノ場合ニ於テハ會社ハ新株ノ株主ニ對シ其ノ拂込ミタル株金ニ相當スル金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要ス前項ノ金額ガ前條第一項ノ判決確定ノ時ニ

於ケル會社財産ノ狀況ニ照シ著シク不相當ナルトキハ裁判所ハ會社又ハ前項ノ株主ノ請求ニ依リ前項ノ金額ノ増減又ハ未拂込株金額ノ拂込ヲ命ズルコトヲ得

第二百八十八條 第一項及第二百九條第一項第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百七十五條 第二百四十五條第一項ノ規定ハ會社ガ資本ノ増加後二年内ニ其ノ増加前ヨリ存在スル財産ニシテ營業ノ爲ニ繼續シテ使用スベキモノヲ増加資本ノ二十分ノ一以上ニ當ル對價ヲ以テ取得スル契約ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三百七十六條 資本減少ノ場合ニ於テハ其ノ決議ニ於テ減少ノ方法ヲ定ムルコトヲ要ス

第九十九條及第一百條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス

社債權者ガ異議ヲ述ブルニハ社債權者集會ノ決議ニ依ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ依リ社債權者ノ爲ニ異議ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第三百七十七條 株式ノ併合ヲ爲サントスルトキハ會社ハ其ノ旨一定ノ期間内ニ株券ヲ會社ニ提出スベキ旨ヲ公告シ且株主及株主名簿ニ記載アル債權者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得ズ

株式ノ併合ハ前項ノ期間満了ノ時、若シ第百條ノ手續ガ未ダ終了セザルトキハ其ノ終了ノ時ニ於テ其ノ効力ヲ生ズ

第三百七十八條 株式ノ併合アリタル場合ニ於テ舊株券ヲ提出スルコト能ハザル者アルトキハ會社ハ其ノ若シ請求ニ依リ利害關係人ニ對シ異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ述ブベキ旨ヲ公告シ其ノ期間經過後ニ於テ新株券ヲ交付スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得

前項ノ公告ノ費用ハ之ヲ請求者ノ負擔トス

第三百七十九條 併合ニ適セザル株式アルトキハ其併合ニ適セザル部分ニ付新ニ發行シタル株式ヲ發賣シ且株數ニ應ジテ其ノ代金ヲ從前ノ株主ニ交付スルコトヲ要ス

第二百四十四條 第一項但書及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ無記名式ノ株券ニシテ第三百七十七條第一項ノ規定ニ依リ提出ナカリシモノニ之ヲ準用ス

第三百八十條 資本減少ノ無効ハ本店ノ所在地ニ於テ資本減少ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ六月内ニ訴ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

前項ノ訴ハ株主、取締役、監査役、清算人、破産管財人又ハ資本ノ減少ヲ承認セザル債權者ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

第八十八條、第五百五條第二項乃至第四項、第六條、第七條、第九條、第十條、第三十七條及第二百四十九條ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第七節 會社ノ整理

第三百八十一條 會社ノ現況其ノ他ノ事情ニ依リ支拂不能又ハ債務超過ニ陥ルノ虞アリト認めルトキハ裁判所ハ取締役、監査役、三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主又ハ拂込株金額ノ十分ノ一以上ニ當ル債權者ノ申立ニ依リ會社ニ對シ整理ノ開始ヲ命ズルコトヲ得會社ニ支拂不能又ハ債務超過ノ疑アリト認めルトキ亦同ジ

第三百八十三條 整理開始ノ申立又ハ通告アリタル場合ニ於テ必要アリト認めルトキハ裁判所ハ破産手續及和議手續ノ中止ヲ命ズルコトヲ得

整理開始ノ命令アリタルトキハ破産若ハ和議ノ申立又ハ會社財産ニ對スル強制執行、假差押若ハ假處分ヲ爲スコトヲ得破産手續、和議手續並ニ既ニ爲シタル強制執行、假差押及假處分ハ之ヲ中止ス

第一號ノ業務ノ制限ノ處分ヲ爲シタルトキ亦同ジ
前條第一項第一號又ハ第九號ノ處分ニシテ登記又ハ登錄ヲ爲スベキ財産ニ關スルモノニ付テハ裁判所ハ直ニ其ノ登記又ハ登錄ヲ囑託スルコトヲ得

第三百九十條 検査役ハ發起人、取締役、監査役支配人其ノ他ノ使用人ニ對シ會社ノ業務及財産ノ狀況ニ付報告ヲ求メ會社ノ帳簿書類、金銀其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

確定ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス
第三百九十三條 取締役ハ前條ノ承認又ハ確定アリタル事項ニ基キ株主表ヲ作ルコトヲ要ス

號ノ監督ハ裁判所ノ選任シタル監督員之ヲ爲ス
 取締役ガ裁判所ノ指定シタル行爲ヲ爲スニハ監督員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
 第三百九十條 第一項ノ規定ハ監督員ニ之ヲ準用ス
 第三百九十八條 第三百八十六條第一項第十號ノ管理ハ裁判所ノ選任シタル管理人ノ之ヲ爲ス
 會社ノ代表、業務ノ執行並ニ財產ノ管理及處分ヲ爲ス權利ハ管理人ニ專屬ス第二百四十七條、第三百七十一條、第三百八十條、第四百十五條及第四百二十八條ノ規定ニ依ル取締役ノ權利亦同ジ
 第三百九十九條ノ規定ハ管理人ニ之ヲ準用ス
 第三百九十九條 整理ガ終了シ又ハ整理ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ第三百八十一條第一項ニ掲グル者、検査役、整理委員、監督員又ハ管理人ノ申立ニ依リ整理終結ノ決定ヲ爲スコトヲ得
 第四百條 第三百八十二條及第三百八十七條ノ規定ハ整理終結ノ決定又ハ整理開始ノ命令ヲ取消ス決定ガ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス
 第四百一條 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ債權者ノ一般ノ利益ノ爲必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ和議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

ヲ認可スルコトヲ得
 裁判所前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ和議法ニ從ヒ和議手續ヲ爲スコトヲ要ス
 第四百二條 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ整理ノ見込ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ破産法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス
 第四百三條 破産法第四百條ノ規定ハ整理ノ場合ニ之ヲ準用ス
 破産法第六十三條乃至第六十六條ノ規定ハ検査役、整理委員、監督員及管理人ニ之ヲ準用ス
 第八節 解散
 第四百四條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス
 一 第九十四條第一號第三號、第五號、及第六號ニ掲グル事由
 二 株主總會ノ決議
 三 營業全部ノ讓渡
 第四百五條 解散ノ決議ハ第三百四十三條ノ規定ニ依リニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ
 第四百六條 會社ガ存立時期ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生又ハ株主總會ノ決議ニ因リテ解散シタル場合ニ於テハ第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依リテ會社ヲ繼續スルコトヲ得
 第四百七條 會社ガ解散シタルトキハ破産ノ

場合ヲ除クノ外取締役ハ選任ナク株主ニ對シテ其ノ旨ノ通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ之ヲ公告スルコトヲ要ス
 第四百八條 會社ガ合併ヲ爲スニハ合併契約書ヲ作り株主總會ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス合併契約書ノ要領ハ第二百三十二條ニ定ムル通知及公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス
 第四百九條 合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ合併後存續スル場合ニ於テハ合併契約書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 一 存續スル會社ノ増加スベキ資本ノ額
 二 存續スル會社ノ發行スベキ新株ノ種類數及拂込金額並ニ合併ニ因リテ消滅スル會社ノ株主ニ對スル新株ノ割當ニ關スル事項
 三 合併ニ因リテ消滅スル會社ノ株主ニ支拂ヲ爲スベキ金額ヲ定メタルトキハ其ノ規定
 四 各會社ニ於テ前條第一項ノ決議ヲ爲スベキ株主總會ノ期日
 五 合併ヲ爲スベキ時期ヲ定メタルトキハ其ノ規定
 第四百十條 合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ合併契約書ニ左ノ事項ヲ記載ス

ルコトヲ要ス
 一 合併ニ因リテ設立スル會社ノ目的、商號、資本ノ總額、一株ノ金額及本店ノ所在地
 二 合併ニ因リテ設立スル會社ノ發行スベキ株式ノ種類、數及拂込金額並ニ各會社ノ株主ニ對スル株式ノ割當ニ關スル事項
 三 各會社ノ株主ニ支拂ヲ爲スベキ金額ヲ定メタルトキハ其ノ規定
 第四百一十一條 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ガ株式會社ナル場合ニ於テ合併ヲ爲ス會社ノ一方又ハ雙方ガ合名會社又ハ合資會社ナルトキハ總社員ノ同意ヲ得テ合併契約書ヲ作ルコトヲ要ス
 前二條ノ規定ハ前項ノ合併契約書ニ之ヲ準用ス
 第四百十二條 合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ合併後存續スル場合ニ於テハ其ノ取締役ハ第四百一十條ノ手續ノ終了後、合併ニ因ル株式會社ノ合併アリタルトキハ其ノ效力ヲ生ジタル後、併合ニ適セザル株式アリタルトキハ合併後存續スル會社ニ於テ第三百七十九條ノ處分ヲ爲シタル後選任ナク株主總會ヲ召集シテ之ニ合併ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス
 第三百五十一條 第二項ノ規定ハ前項ノ株主總會ニ關シ之ヲ準用ス

第四百十三條 合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ設立委員ハ第四百條ノ手續ノ終了後、合併ニ因ル株式會社ノ合併アリタルトキハ其ノ效力ヲ生ジタル後、併合ニ適セザル株式アリタルトキハ第三百七十九條ノ處分ヲ爲シタル後選任ナク株主總會ヲ召集スルコトヲ要ス
 創立總會ニ於テハ定款變更ノ決議ヲモ爲スコトヲ得但シ合併契約ノ趣旨ニ反スルコトヲ得ズ
 第四百十四條 第二項、第三百八十二條、第三百八十三條及第三百八十七條第二項ノ規定ハ第一項ノ創立總會ニ之ヲ準用ス
 第四百十五條 會社ガ合併ヲ爲シタルトキハ第四百二條ノ株主總會又ハ前條ノ創立總會ノ終結ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ合併後存續スル會社ニ付テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ消滅スル會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ第四百八十八條ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス
 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ合併ニ因リテ社債ヲ承繼シタルトキハ前項ノ登記ト同時ニ社債ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第四百十五條 合併ノ無効ノ訴ハ各會社ノ株

主、取締役、監査役、清算人、破産管財人又ハ合併ヲ承認セザル債權者ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得
 第四百十六條 第九十六條、第九十七條、第九十八條、第九十九條、第一百條、第一百一條、第一百二條、第一百三條、第一百四條第一項第三項及第一百五條乃至第一百一十一條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス
 第三百七十六條第三項ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三百七十七條乃至第三百七十九條ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル株式會社ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第二百八條第一項及第二百九條第三項ノ規定ハ株式會社ガ合併セザル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅スル會社ノ株式ヲ目的トスル買權ニ之ヲ準用ス
 第九節 清算
 第四百十七條 會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外取締役其ノ清算人ト爲ル但シ定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ株主總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ依リ清算人

第四百十八條 清算人ハ其ノ就職ノ日ヨリ二週内ニ左ノ事項ヲ裁判所ニ届出ゾルコトヲ要ス

一 解散ノ事由及其ノ年月日
二 清算人ノ氏名及住所

第四百十九條 清算人ハ就職ノ後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及貸借對照表ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

清算人ハ前項ノ承認ヲ得タル後遲滞ナク財産目録及貸借對照表ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

第四百二十條 清算人ハ財産目録、貸借對照表及事務報告書ヲ作り定時總會ノ會日ヨリ二週間前ニ之ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

第四百二十一條 清算人ハ其ノ就職ノ日ヨリ二月内ニ少クモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ債權ヲ申出ゾベキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ公告ニハ債權者ガ期間内ニ申出ヲ爲サザルトキハ清算ヨリ除斥セラレベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第四百二十二條 清算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其ノ債權ノ申出ヲ催告スルコトヲ要ス

第十四條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス
第二百三十一條、第二百三十六條乃至第二百三十八條、第二百四十四條第二項、第二百四十五條第一項第四號第二項、第二百四十七條、第二百四十九條、第二百五十四條第二項、第二百五十八條、第二百六十一條、第二百六十三條、第二百六十五條乃至第二百七十二條、第二百七十四條乃至第二百七十九條及第二百八十二條乃至第二百八十四條ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

第二款 特別清算

第四百三十一條 清算ノ進行ニ著シキ支障ヲ來スベキ事情アリト認ムルトキハ裁判所ハ債權者、清算人、監査役若ハ株主ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ會社ニ對シ特別清算ノ開始ヲ命ズルコトヲ得會社ニ債務超過ノ疑アリト認ムルトキ亦同ジ

會社ニ債務超過ノ疑アルトキハ清算人ハ前項ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス

第四百三十二條 特別清算開始ノ申立又ハ通告アリタルトキハ裁判所ハ其ノ開始前ト雖モ前條第一項ニ掲グル者ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ第四百五十四條第一項第一號、第二號又ハ第六號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

要ス
知レタル債權者ハ之ヲ清算ヨリ除斥スルコトヲ得ズ

第四百二十三條 清算人ハ第四百二十一條第一項ノ債權申出ノ期間内ハ債權者ニ對シテ遲延ニ因ル損害賠償ノ責任ヲ免ルルコトナシ

清算人ハ前項ノ規定ニ拘ラズ裁判所ノ許可ヲ得テ少額ノ債權及擔保アル債權其ノ他之ヲ辨濟スルモ他ノ債權者ヲ害スルノ虞ナキ債權ニ付辨濟ヲ爲スコトヲ得

第四百二十四條 清算ヨリ除斥セラレタル債權者ハ未ダ分配セザル殘餘財産ニ對シテノ一部ノ株主ニ對シ既ニ分配ヲ爲シタル場合ニ於テハ他ノ株主ニ對シ之ト同一ノ割合ヲ以テ分配ヲ爲スニ要スル財産ハ之ヲ前項ノ殘餘財産ヨリ控除ス

第四百二十五條 殘餘財産ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應ジテ之ヲ株主ニ分配スルコトヲ要ス但シ第二百二十二條第一項ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第四百二十六條 清算人ハ裁判所ノ選任シタルモノヲ除クノ外何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第四百三十三條 第三百八十二條乃至第三百八十五條ノ規定ハ特別清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百三十四條 特別清算ノ場合ニ於テハ清算人ハ會社、株主及債權者ニ對シ公平且誠實ニ清算事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第四百三十五條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

清算人ガ缺ケタルトキ又ハ其ノ増員ノ必要アルトキハ裁判所ノ選任ス

第四百三十六條 裁判所ハ何時ニテモ清算事務及財産ノ狀況ノ報告ヲ命ジ其ノ他清算ノ監督上必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得

第四百三十七條 清算ノ監督上必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ第四百五十四條第一項第一號、第二號又ハ第六號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第四百三十八條 會社ノ債務ハ其ノ債權額ノ割合ニ應ジテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

第四百三十九條 清算ノ實行上必要アリト認ムルトキハ清算人ハ債權者集會ヲ招集スルコトヲ得

申出ヲ爲シタル債權者其ノ他會社ニ知レタル債權者ノ總債權ノ十分ノ一以上ニ當ル債權ヲ有スル者ハ會議ノ目的タル事項及招集

ハ三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ノ請求ニ依リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第四百二十七條 清算事務ガ終リタルトキハ清算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

前項ノ承認アリタルトキハ會社ハ清算人ニ對シテ其ノ責任ヲ解除シタルモノト看做ス但シ清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四百二十八條 會社ノ設立ノ無効ハ其ノ成立ノ日ヨリ二年内ニ訴ヲ以テノミ之ヲ主張スルコトヲ得

前項ノ訴ハ株主、取締役又ハ監査役ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四百二十九條 會社ノ帳簿並ニ其ノ營業及清算ニ關スル重要書類ハ本店ノ所在地ニ於テ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其ノ保存者ハ清算人其ノ他ノ利害關係人ノ請求ニ依リ裁判所ノ選任ス

第四百三十條 第一百六條、第二百二十二條乃至第二百二十六條、第二百二十八條、第二百三十九條第二項第三項、第三百一十一條及第三百三十一條ノ規定ハ特別清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

破産ノ場合ニ於テ別除權ヲ行使スルコトヲ得ベキ債權者ガ其ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコトヲ得ベキ債權額ハ第二項ノ債權額ニ之ヲ算入セズ

第四百十條 前條第四項ノ債權者ハ別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコトヲ得ベキ債權額ニ付テハ債權者集會ニ於テ議決權ヲ行使スルコトヲ得

債權者集會ノ招集ハ前項ノ債權者ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

債權者集會又ハ其ノ招集者ハ第一項ノ債權者ノ出席ヲ求メテ其ノ意見ヲ徵スルコトヲ得

第四百四十一條 債權者集會ニ於テ議決權ヲ行使セシムベキヤ否ヤ及如何ナル金額ニ付之ヲ行使セシムベキヤハ各債權ニ付清算人ノ前項ノ定ニ付異議アルトキハ裁判所ノ選任

第四百四十二條 第二百三十二條第一項第二項、第二百三十九條第三項、第二百四十三條、第二百四十四條、第三百二十一條第二項及破産法第七十九條ノ規定ハ債權者集

會ニ之ヲ準用ス
 第二百三十二條第一項及第二項ノ規定ハ第
 四百四十條第二項ノ通知ニ之ヲ準用ス
 第四百四十三條 清算人ハ會社ノ業務及財產
 ノ狀況ノ調査書、財產目錄並ニ貸借對照表
 ヲ債權者集會ニ提出シ且清算ノ實行ノ方針
 及見込ニ關シ意見ヲ述ブルコトヲ要ス
 第四百四十四條 債權者集會ハ監査委員ヲ選
 任スルコトヲ得
 監査委員ハ何時ニモ債權者集會ノ決議ヲ
 以テ之ヲ解任スルコトヲ得
 前二項ノ決議ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ
 要ス
 第四百四十五條、第三百九十條第一項及第
 四百三條第二項ノ規定ハ監査委員ニ之ヲ準
 用ス
 第四百四十五條 清算人左ノ行爲ヲ爲スニハ
 監査委員ノ同意、若シ監査委員ナキトキハ
 債權者集會ノ決議アルコトヲ要ス但シ三千
 圓以上ノ價額ヲ有スルモノニ關セザルトキ
 ハ此ノ限ニ在ラズ
 一 會社財產ノ處分
 二 借財
 三 訴ノ提起
 四 和解及仲裁契約
 五 權利ノ拋棄
 債權者集會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テ急迫

ナル事情アルトキハ清算人ハ裁判所ノ許可
 ヲ得テ前項ニ掲グル行爲ヲ爲スコトヲ得
 清算人前二項ノ規定ニ違反シタルトキト雖
 モ會社ハ善意ノ第三者ニ對シテ其ノ責ニ任
 ズ
 第四百四十五條ノ規定ハ特別清算ノ場合ニ
 ハ之ヲ準用セズ
 第四百四十六條 清算人ハ競賣ニ依リテ財產
 ヲ換價スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條
 第一項ノ規定ヲ適用セズ
 第四百四十七條 清算人ハ監査委員ノ意見ヲ
 聽キ債權者集會ニ對シテ協定ノ申出ヲ爲ス
 コトヲ得
 第四百四十八條 協定ノ條件ハ各債權者ノ間
 ニ平等ナルコトヲ要ス但シ少額ノ債權ニ付
 別段ノ定メ爲シ其ノ他債權者間ニ差等ヲ設
 クルモ衡平ヲ害セザル場合ハ此ノ限ニ在ラ
 ズ
 一 般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ハ前項
 ノ條件ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルコトヲ要
 ス
 第四百四十九條 協定案ノ作成ニ當リ必要ア
 リト認ムルトキハ清算人ハ第四百三十九條
 第四項ノ債權者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得
 第四百五十條 協定ヲ可決スルニハ議決權ヲ
 行使スルコトヲ得ベキ出席債權者ノ過半數
 ニシテ議決權ヲ行使スルコトヲ得ベキ債權

者ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ當ル債權ヲ有
 スルモノノ同意アルコトヲ要ス
 前項ノ決議ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要
 ス
 破産法第三百二十一條及第三百二十六條ノ
 規定ハ協定ニ之ヲ準用ス
 第四百五十一條 協定ノ實行上必要アルトキ
 ハ協定ノ條件ヲ變更スルコトヲ得此ノ場合
 ニ於テハ前四條ノ規定ヲ準用ス
 第四百五十二條 會社財產ノ狀況ニ依リ必要
 アリト認ムルトキハ裁判所ハ清算人、監査
 委員、監査委員、三月前ヨリ引續キ資本ノ十
 分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主若ハ申
 出ヲ爲シタル債權者其ノ他會社ニ知レタル
 債權者ノ總債權ノ十分ノ一以上ニ當ル債權
 ヲ有スル者ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ會
 社ノ業務及財產ノ検査ヲ命ズルコトヲ得
 第三百八十八條、第三百九十條及第四百三
 十九條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準
 用ス
 第四百五十三條 検査役ハ調査ノ結果殊ニ左
 ノ事項ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス
 一 發起人、取締役、監査役又ハ清算人ニ
 對シテ第四百二十二條、第四百三十三條、第二百六
 十六條、第二百八十條、第三百五十六條
 又ハ第四百三十條第二項ノ規定ニ依リテ
 責ニ任ズベキ事實アルヤ否ヤ

二 會社財產ノ保全處分ヲ爲ス必要アルヤ
 否ヤ
 三 會社ノ損害賠償請求權ニ付發起人、取
 締役、監査役又ハ清算人ノ財產ニ對シ保
 全處分ヲ爲ス必要アルヤ否ヤ
 第四百五十四條 前條ノ報告ヲ受ケタル場合
 ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ左
 ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 一 會社財產ノ保全處分
 二 株主ノ名義書換ノ禁止
 三 發起人、取締役、監査役又ハ清算人ノ
 責任ノ免除ノ禁止
 四 發起人、取締役、監査役又ハ清算人ノ
 責任ノ免除ノ取消但シ特別清算ノ開始ヨ
 リ一年前ニ爲シタル免除ニ付テハ不正ノ
 目的ニ出デタルモノニ限ル
 五 發起人、取締役、監査役又ハ清算人ノ
 責任ニ基ク損害賠償請求權ノ査定
 六 前號ノ損害賠償請求權ニ付發起人、取
 締役、監査役又ハ清算人ノ財產ニ對シテ
 爲ス保全處分
 第三百八十七條第二項ノ規定ハ前項第一號
 又ハ第六號ノ處分アリタル場合ニ之ヲ準用
 ス
 第三百九十四條乃至第三百九十六條ノ規定
 ハ第一項第五號ノ査定アリタル場合ニ之ヲ
 準用ス

特別清算開始ノ命令アリタ
 ル場合ニ於テ協定ノ見込ナキトキハ裁判所
 ハ職權ヲ以テ破産法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ爲
 スコトヲ要ス協定ノ實行ノ見込ナキトキ亦
 同ジ
 第四百五十六條 第三百九十二條、第三百九
 十三條、第三百九十九條及第四百四條ニ破
 産法第四百四條、第二百三條及第二百四條ノ
 規定ハ特別清算ノ場合ニ之ヲ準用ス
 破産法第六十五條及第六十六條ノ規定
 ハ清算人ニ之ヲ準用ス

一 第六十六條第一項第一號、第二號及
 第四號乃至第六號ニ掲グル事項
 二 株金ノ總額
 三 無限責任社員ノ氏名及住所
 四 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ目的
 及其ノ價格又ハ評價ノ標準
 第四百六十條 無限責任社員ハ株主ヲ募集ス
 ルコトヲ要ス
 株式申込證ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ
 要ス
 一 第六十八條第一項、第七十五條第
 二項第一號第四號乃至第七號及前條ニ掲
 グル事項
 二 無限責任社員ガ株式ヲ引受ケタルトキ
 ハ其ノ各自ガ引受ケタル株式ノ種類及數
 第四百六十一條 創立總會ニ於テハ監査役ヲ
 選任スルコトヲ要ス
 無限責任社員ハ監査役ト爲ルコトヲ得ズ
 第四百六十二條 無限責任社員ハ創立總會ニ
 出席シテ其ノ意見ヲ述ブルコトヲ得但シ株
 式ヲ引受ケタルトキト雖モ議決權ヲ有セズ
 前項ノ規定ハ株主總會ニ之ヲ準用ス
 第四百六十三條 監査役ハ第八十四條第一
 項及第四百五十九條第四號ニ掲グル事項並
 ニ第八十一條第二項ノ報告書ヲ調査シ之
 ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス
 第四百六十四條 創立總會ガ定款ノ變更ヲ決

議シタル場合ニ於テ其ノ決議ノ日ヨリ一週
 間内ニ無限責任社員ノ一致ナキトキハ設立
 ノ廢止ヲ決議シタルモノト看做ス
 第四百六十五條 株式合資會社ノ設立ノ登記
 ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス
 一 第六十六條第一項第一號第二號第四
 號第六號及第八十八條第二項第二號乃
 至第八號ニ掲グル事項
 二 株金ノ總額
 三 無限責任社員ノ氏名及住所
 四 監査役ノ氏名及住所
 五 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ目的
 六 財產ヲ目的トスル出資ニ付テハ其ノ價格
 及履行ヲ爲シタル部分
 七 無限責任社員ニシテ會社ヲ代表セザル
 者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名
 七 無限責任社員ノ共同シテ又ハ無限
 責任社員ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表
 スベキコトヲ定メタルキハ其ノ規定
 第四百六十六條 會社ヲ代表スベキ無限責任
 社員ニハ株式會社ノ取締役ニ關スル規定ヲ
 準用ス但シ第二百五十四條乃至第二百五
 九條、第二百六十四條及第二百六十九條乃
 至第二百七十二條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ
 第四百六十七條 株式會社ニ於テ第三百四十
 三條ニ定ムル決議ヲ要スル事項又ハ合資會

社ニ於テ總社員ノ同意ヲ要スル事項ニ付テ
 ハ株主總會ノ決議ノ外無限責任社員ノ一致
 アルコトヲ要ス
 第三百四十三條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ
 準用ス
 第四百六十八條 監査役ハ無限責任社員ヲシ
 テ株主總會ノ決議ヲ執行セシムル責ニ任ズ
 第四百六十九條 株式合資會社ハ合資會社ト
 同一ノ事由ニ因リテ解散ス營業全部ノ讓渡
 アリタルトキ亦同ジ
 第四百七十條ノ規定ハ株式合資會社ニハ之ヲ
 適用セズ
 第四百七十一條 無限責任社員ノ全員ガ退社シ
 タル場合ニ於テハ株主ハ第三百四十三條ニ
 定ムル決議ニ依リ株式會社トシテ會社ヲ繼
 續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ株式會社
 ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要
 ス
 第四百七十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用
 ス
 第四百七十三條 無限責任社員ガ株式ノ全部
 ヲ取得シタル場合ニ於テハ其ノ一致ヲ以テ
 合名會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得株
 式全部ノ消却アリタル場合亦同ジ
 前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用
 ス
 第四百七十二條 會社ガ解散シタルトキハ合

併、破産又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シ
 タル場合ヲ除ク外清算ハ業務執行社員ノ
 全員又ハ無限責任社員ノ選任シタル者及株
 主總會ニ於テ選任シタル者之ヲ爲ス但シ定
 款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 無限責任社員ガ清算人ヲ選任スルトキハ其
 ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
 株主總會ニ於テ選任スル清算人ハ業務執行
 社員ノ全員又ハ無限責任社員ノ選任スル者
 ト同數ナルコトヲ要ス
 第四百七十三條 無限責任社員ハ何時ニテモ
 其ノ選任シタル清算人ヲ解任スルコトヲ得
 前條第二項ノ規定ハ清算人ノ解任ニ之ヲ準
 用ス
 第四百七十四條 第四百四十四條ノ規定ハ株式
 合資會社ノ無限責任社員ニ之ヲ準用ス
 第四百七十五條 清算人ハ第四百十九條、第
 四百二十條及第四百二十七條ニ定ムル計算
 ニ付株主總會ノ承認ノ外無限責任社員全員
 ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス
 第四百七十六條 株式合資會社ハ第四百六十
 七條ノ規定ニ從ヒ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ
 株式會社ト爲スコトヲ得
 第四百七十七條 前條ノ場合ニ於テハ株主總
 會ハ直ニ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ
 決議スルコトヲ要ス此ノ總會ニ於テハ無限
 責任社員モ亦其ノ引受クベキ株式ノ數ニ應

ジテ決議ヲ行使スルコトヲ得
 第四百七十四條及第四百七十五條ノ規定ハ前項ノ場
 合ニ之ヲ準用ス
 第四百七十八條 第四章七節及第九節第二款
 ノ規定ハ株式合資會社ニハ之ヲ適用セズ
第六章 外國會社
 第四百七十九條 外國會社ガ日本ニ支店ヲ設
 ケタルトキハ日本ニ成立スル同種ノモノ又
 ハ最モ之ニ類似スルモノト同一ノ登記及公
 告ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ノ外國會社ハ其ノ日本ニ於ケル代表者
 ヲ定メ且支店設置ノ登記ト同時ニ其ノ氏名
 及住所ヲ登記スルコトヲ要ス
 第七十八條ノ規定ハ外國會社ノ代表者ニ之
 ヲ準用ス
 第四百八十條 前條第一項及第二項ノ規定ニ
 依リ登記スベキ事項ガ外國ニ於テ生シタル
 トキハ登記ノ期間ハ其ノ通知ノ到達シタル
 時ヨリ之ヲ起算ス
 第四百八十一條 外國會社ガ始メテ日本ニ支
 店ヲ設ケタルトキハ其ノ支店ノ所在地ニ於
 テ登記ヲ爲ス迄ハ第三者ハ其ノ會社ノ成立
 ヲ否認スルコトヲ得
 第四百八十二條 日本ニ本店ヲ設ケ又ハ日本
 ニ於テ營業ヲ爲スヲ以テ主タル目的トスル
 會社ハ外國ニ於テ設立スルモノト雖モ日本

ニ於テ設立スル會社ト同一ノ規定ニ從フコ
 トヲ要ス
 第四百八十三條 第二百四條乃至第二百七條
 第二項、第二百九條第一項、第二百二十
 六條、第二百二十七條第一項、第三百六十
 六條、第三百七條、第三百八條及第三百
 七十七條第三項ノ規定ハ日本ニ於テスル外國
 會社ノ株券又ハ債券ノ發行及其ノ株式ノ移
 轉若ハ質入又ハ社債ノ移轉ニ之ヲ準用ス此
 ノ場合ニ於テハ始メテ日本ニ設ケタル支店
 ヲ以テ本店ト看做ス
 第四百八十四條 外國會社ガ日本ニ支店ヲ設
 ケタル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ支店
 設置ノ登記ヲ爲シタル後一年內ニ營業ヲ開
 始セズ若ハ一年以上營業ヲ休止シタルトキ
 又ハ支拂ヲ停止シタルトキハ裁判所ハ利害
 關係人若ハ檢事ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以
 テ其ノ支店ノ閉鎖ヲ命ズルコトヲ得
 外國會社ノ代表者若ハ他支店ニ於テ業務ヲ
 執行スル者ガ法令又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ
 風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ
 同ジ
 第四百八十五條 第五十九條及第六十條
 ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第四百八十五條 前條第一項又ハ第二項ノ場
 合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ依
 リ又ハ職權ヲ以テ日本ニ在ル會社財產ノ全

部ニ付清算ノ開始ヲ命ズルコトヲ得此ノ場
 合ニ於テハ清算人ハ裁判所之ヲ選任ス
 第四百二十一條乃至第四百二十四條及第四
 百三十條乃至第四百五十六條ノ規定ハ其ノ
 性質ノ許サザルモノヲ除ク外前項ノ清算
 ニ之ヲ準用ス
 前二項ノ規定ハ外國會社ガ其ノ支店ヲ閉鎖
 シタル場合ニ之ヲ準用ス
第七章 罰則
 第四百八十六條 發起人、取締役、株式合資
 會社ノ業務ヲ執行スル無限責任社員、監査
 役又ハ株式會社若ハ株式合資會社ノ第二
 百五十八條第二項、第二百七十條第一項、第
 百七十二條第一項、第二百八十條ノ職務
 代行者若ハ支配人其ノ他營業ニ關スル職務
 類若ハ特定ノ事項ノ委任ヲ受ケタル使用人
 自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ會社ヲ害センコ
 トヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ會社ノ財產上ノ
 損害ヲ加ヘタルトキハ七年以下ノ懲役又ハ
 一萬圓以下ノ罰金ニ處ス
 整理委員、監督員、第三百九十八條第一項
 ノ管理員又ハ株式會社若ハ株式合資會社ノ
 清算人若ハ第四百三十條第二項ノ職務代行
 者前項ニ掲グル行爲ヲ爲シタルトキ亦前項
 ニ同ジ
 第四百八十七條 社債權者集會ノ代表者又ハ

其ノ決議ヲ執行スル者自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ社債権者ヲ害センコトヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ社債権者ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百八十八條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四百八十九條 第四百八十六條第一項ニ掲グル者又ハ検査役ハ左ノ場合ニ於テハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 會社ノ設立又ハ資本増加ノ場合ニ於テ株式總數ノ引受、株金ノ拂込若ハ現物出資ノ給付ニ付又ハ第六十八條第一項第四號乃至第七號若ハ第三百四十八條第二號第三號ニ掲グル事項ニ付裁判所又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ會社ノ計算ニ於テ不正ニ其ノ株式ヲ取得シ又ハ實權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

三 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益又ハ利息ノ配當ヲ爲シタルトキ

四 會社ノ營業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲ニ會社財産ヲ處分シタルトキ

第四百九十條 第四百八十六條第一項ニ掲グル者、外國會社ノ代表又ハ株式若ハ社債ノ募集ノ委託ヲ受ケタル者株式又ハ社債ノ募集ニ當リ重要ナル事項ニ付不實ノ記載アル

株式申込證、社債申込證目論見書、株式又ハ社債ノ募集ノ廣告其ノ他株式又ハ社債ノ募集ニ關スル文書ヲ行使シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス株式又ハ社債ノ賣出ヲ爲ス者其ノ賣出ニ關スル文書ニシテ重要ナル事項ニ付不實ノ記載アルモノヲ行使シタルトキ亦前項ニ同ジ

第四百九十一條 第四百八十六條第一項ニ掲グル者株金ノ拂込ヲ假裝スル爲メ預合ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス預合ニ應ジタル者亦同ジ

第四百九十二條 前六條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第四百九十三條 第四百八十六條若ハ第四百八十七條ニ掲グル者、検査役又ハ監査委員其ノ職務ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第四百九十四條 左ニ掲グル事項ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 創立總會、株主總會、社債権者集會又

ハ債権者集會ニ於ケル發言又ハ議決權ノ行使

二 第四章又第五章ニ定ムル訴ノ提起又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主若ハ社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債権者ノ權利ノ行使

三 第三百八十一條第一項、第四百三十一條第一項、第四百三十九條第二項第三項及第四百五十二條第一項ニ定ムル權利ノ行使

前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第四百九十五條 第四百九十三條第一項又ハ前條第一項ノ場合ニ於テ犯人ノ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコトハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第四百九十六條 第四百九十三條第二項又ハ第四百九十四條第二項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四百九十七條 株金拂込ノ責任ヲ免ルル目的ヲ以テ他人又ハ假設人ノ名義ヲ用ヒテ株式ヲ引受ケ若ハ讓受ケタル者又ハ株式ノ讓渡ヲ假裝シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百九十八條 發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監

査役、検査役、清算人、整理委員、監督員、第三百九十八條第一項ノ管理員、監査委員、社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、其ノ事務ノ承繼者、社債権者集會ノ代表者、其ノ決議ヲ執行スル者又ハ株式會社若ハ株式合資會社ノ第二百五十八條第二項、第二百七十七條第一項、第二百七十二條第二項、第二百七十八條若ハ第四百三十條第二項ノ職務代行若ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ五千圓以下ノ科料ニ處ス但シ其ノ行為ニ付刑科トキベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 本編ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 本編ニ定ムル公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ

三 本編ノ規定ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ書類ノ閲覧又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ拒ミタルトキ

四 本編ニ定ムル検査又ハ調査ヲ妨ゲタルトキ

五 官廳、總會、社債権者集會又ハ債権者集會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

六 第九十九條、第一百條、第一百七條第三項、第三百七十六條第二項又ハ第四百三十六條第一項ノ規定ニ違反シテ合併、會社

財産ノ處分又ハ資本ノ減少ヲ爲シタルトキ

七 第二百二十四條第三項若ハ第四百三十條第一項ノ規定ニ違反シテ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ第四百三十一條第二項ノ規定ニ違反シテ特別清算開始ノ申立ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

八 第三百三十一條又ハ第四百三十條第一項ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ分配シタルトキ

九 第三百七十五條第二項、第三百一一條第二項、第三百五十五條、第三百六十條第一項、第三百六十六條第一項又ハ第四百六十條第二項ノ規定ニ違反シテ株式申込證又ハ社債申込證ヲ作ラズ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

十 第九十條第二項又ハ第三百七十條第二項ノ規定ニ違反シテ株式ノ引受ニ因ル權利ノ讓渡ヲ爲シタルトキ

十一 正當ノ事由ナクシテ株券ノ名義書換ヲ爲サザルトキ

十二 第二百一十一條ノ規定ニ違反シテ株式失効ノ手續又ハ株式若ハ質權ノ處分ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

十三 第二百一十二條第一項ノ規定ニ違反シテ株式ノ消却ヲ爲シタルトキ

十四 株券又ハ債券ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

十五 第二百二十六條第一項、第三百七十七條第三項又ハ第四百八十三條ノ規定ニ違反シテ株券ヲ發行シタルトキ

十六 第二百二十七條第一項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ無記名式ト爲シタルトキ

十七 第二百三十四條ノ規定又ハ第二百九十四條第三項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シテ株主總會ヲ召集セズ又ハ定款ニ定メタル地以外ノ地ニ於テ若ハ第二百三十三條ノ規定ニ違反シテ株主總會ヲ召集シタルトキ

十八 法律又ハ定款ニ定メタル取締役又ハ監査役ノ員數ヲ缺クニ至リタル場合ニ於テ其ノ選任手續ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

十九 定款、株主名簿、社債原簿、議事録、財産目録、貸借對照表、營業報告書、事務報告書、損益計算書、準備金及利益若ハ利息ノ配當ニ關スル議案、株主表、決算報告書、第三十二條第一項ノ帳簿又ハ第四百四十三條ノ調査書ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

二十 第二百六十三條第一項、第二百八十二條第一項、第三百三十九條第二項又ハ

第四百三十條第二項ノ規定ニ違反シテ帳
 帳又ハ書類ヲ備置カザルトキ
 二十一 第二百八十八條又ハ第二百八十九
 條ノ規定ニ違反シテ準備金ヲ積立テズ又
 ハ之ヲ使用シタルトキ
 二十二 第二百九十七條ノ規定ニ違反シテ
 社債ヲ募集シ又ハ舊社債ノ償還ヲ爲サザ
 ルトキ
 二十三 第三百六條第一項又ハ第四百八十
 三條ノ規定ニ違反シテ債券ヲ發行シタル
 トキ
 二十四 第三百八十六條、第四百三十二條、
 第四百三十七條又ハ第四百五十四條第一
 項ノ規定ニ依ル裁判所ノ財産保全ノ處分
 ニ違反シタルトキ
 二十五 裁判所ノ選任シタル管理人又ハ清
 算人ニ事務ノ引渡ヲ爲サザルトキ
 二十六 清算ノ終了ヲ遅延セシムル目的ヲ
 以テ第四百七條第三項又ハ第四百二十一
 條第一項ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ
 二十七 第四百二十三條又ハ第四百三十八
 條ノ規定ニ違反シテ債務ノ辨濟ヲ爲シタ
 ルトキ
 二十八 第四百四十五條第一項又ハ第二項
 ノ規定ニ違反シタルトキ
 二十九 第四百八十四條第一項又ハ第二項
 ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタル

トキ
 第四百九十九條、第四百八十六條、第四百八
 十七條、第四百八十九條乃至第四百九十一
 條又ハ第四百九十三條第一項ニ掲グル者ガ
 法人ナルトキハ本章ノ罰則ハ其ノ行爲ヲ爲
 シタル取締役其ノ他業務ヲ執行スル役員又
 ハ支配人ニ之ヲ適用ス
 第五百條 第五十六條第三項ノ設立委員ハ本
 章ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ發起人ト看做
 ス

第三編 商行爲
第一章 總則
 第五百一條 左ニ掲ゲタル行爲ハ之ヲ商行爲
 トス
 一 利益ヲ得テ讓渡ス意思ヲ以テスル動
 産不動産若クハ有價證券ノ有價取得又
 ハ其取得シタルモノノ讓渡ヲ目的トス
 ル行爲
 二 他人ヨリ取得スベキ動産又ハ有價證
 券ノ供給契約及ビ其履行ノ爲メニスル
 有價取得ヲ目的トスル行爲
 三 取引所ニ於テスル取引
 四 手形其他ノ商業證券ニ關スル行爲
 第五百二條 左ニ掲ゲタル行爲ハ營業トシテ
 之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス但專ラ賃金

ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服
 スル者ノ行爲ハ此限ニ在ラズ
 一 賃貸スル意思ヲ以テスル動産若クハ
 不動産ノ有價取得若クハ賃借又ハ其取
 得若クハ賃借シタルモノノ賃貸ヲ目的
 トスル行爲
 二 他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ關
 スル行爲
 三 電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行爲
 四 運送ニ關スル行爲
 五 作業又ハ勞務ノ請負
 六 出版、印刷又ハ攝影ニ關スル行爲
 七 客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引
 八 兩替其他ノ銀行取引
 九 保險
 十 寄託ノ引受
 十一 仲立又ハ取次ニ關スル行爲
 十二 商行爲ノ代理ノ引受
 第五百三條 商人ガ其營業ノ爲メニスル行爲
 ハ之ヲ商行爲トス
 第五百四條 商人ノ行爲ハ其營業ノ爲メニスルモノト推
 定ス
 第五百四條 商行爲ノ代理人ガ本人ノ爲メニ
 スルトコトヲ示サザルトキト雖モ其行爲ハ本
 人ニ對シテ其效力ヲ生ズ但相手方ガ本人ノ
 爲メニスルトコトヲ知ラザリシトキハ代理人
 ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第五百五條 商行爲ノ受任者ハ委任ノ本旨ニ
 反セザル範圍内ニ於テ委任ヲ受ケ爲ザル行
 ヲ爲スコトヲ得
 第五百六條 商行爲ノ委任ニ因ル代理權ハ本
 人ノ死亡ニ因リテ消滅セズ
 第五百七條 對話者間ニ於テ契約ノ申込ヲ受
 ケタル者ガ直ニ承諾ヲ爲サザルトキハ申
 込ハ其效力ヲ失フ
 第五百八條 隔地者間ニ於テ承諾期間ノ定テ
 タシテ契約ノ申込ヲ受ケタル者ガ相當ノ期
 間内ニ承諾ノ通知ヲ發セザルトキハ申込ハ
 其效力ヲ失フ
 民法第五百二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ
 之ヲ準用ス
 第五百二十三條 遅延シタル承諾ハ申込
 者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做スコトヲ
 得
 第五百九條 商人ガ平常取引ヲ爲ス者ヨリ其
 營業ノ部類ニ關スル契約ノ申込ヲ受ケタル
 トキハ遲滞ナク諾否ノ通知ヲ發スルコトヲ
 要ス若シ之ヲ發スルコトヲ怠リタルトキハ
 申込ヲ承諾シタルモノト看做ス
 第五百十條 商人ガ其營業ノ部類ニ關スル契
 約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ申込ト共ニ
 受取リタル物品アルトキハ其申込ヲ拒絶シ
 タルトキト雖モ申込者ノ費用ヲ以テ其物品
 ヲ保管スルコトヲ要ス但其物品ノ價額ガ其

費用ヲ償フニ足ラザルトキ又ハ商人ガ其保
 管ニ困リテ損害ヲ受クベキトキハ此限ニ在
 ラズ
 第五百十一條 數人ガ其一人又ハ全員ノ爲メ
 ニ商行爲タル行爲ニ因リテ債務ヲ負擔シタ
 ルトキハ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス
 保證人アル場合ニ於テ債務ガ主タル債務者
 ノ商行爲ニ因リテ生ジタルトキ又ハ保證人
 ノ商行爲タルトキハ主タル債務者及ビ保證人
 ガ各別ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキ
 ト雖モ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス
 第五百十二條 商人ガ其營業ノ範圍内ニ於テ
 他人ノ爲メニ或行爲ヲ爲シタルトキハ相當
 ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得
 第五百十三條 商人間ニ於テ金錢ノ消費貸借
 ヲ爲シタルトキハ貸主ハ法定利息ヲ請求ス
 ルコトヲ得
 商人ガ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ
 金錢ノ立替ヲ爲シタルトキハ其立替ノ日以
 後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得
 第五百十四條 商行爲ニ因リテ生ジタル債務
 ニ關シテハ法定利率ハ年六分トス
 第五百十五條 民法第三百四十九條ノ規定ハ
 商行爲ニ因リテ生ジタル債權ヲ擔保スル爲
 メニ設定シタル質權ニハ之ヲ適用セズ
 第三百四十九條 質權設定者ハ設定行爲
 又ハ債務ノ辨濟期前ノ契約ヲ以テ質權者

ニ辨濟トシテ質物ノ所有權ヲ得セシメ其
 他法律ニ定メタル方法ニ依ラズシテ質物
 ヲ處分セシムルコトヲ約スルコトヲ得ズ
 第五百十六條 商行爲ニ因リテ生ジタル債務
 ノ履行ヲ爲スベキ場所カ其行爲ノ性質又ハ
 當事者ノ意思表示ニ因リテ定マラザルトキ
 ハ特定物ノ引渡ハ行爲ノ當時其物ノ存在セ
 シ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ履行ハ債權者
 ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其
 住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 指圖債權及ビ無記名債權ノ辨濟ハ債權者ノ
 現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住
 所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ其支店ヲ
 以テ營業所ト看做ス
 第五百十七條 指圖債權又ハ無記名債權ノ債
 務者ハ其履行ニ付キ期限ノ定アルトキト雖
 モ其期限ガ到來シタル後所持人ガ其證券ヲ
 呈示シテ履行ノ請求ヲ爲シタル時ヨリ遲滞
 ノ責ニ任ズ
 第五百十八條 金錢其他ノ物又ハ有價證券ノ
 給付ヲ目的トスル有價證券ノ所持人ガ其證
 券ヲ喪失シタル場合ニ於テ公示催告ノ申立
 ヲ爲シタルトキハ債務者ヲシテ其債務ノ目
 的物ヲ供託セシメ又ハ相當ノ擔保ヲ供シテ
 其證券ノ趣旨ニ從ヒ履行ヲ爲サシムルコト
 ヲ得

第五百十九條 手形法第十二條乃至第十四條第二項並ニ小切手法第五條第二項、第十九條及第二十條ノ規定ハ金銀其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ之ヲ準用ス

第五百二十條 法令又ハ習慣ニ依リ取引時間ノ定アルトキハ其取引時間内ニ限リ債務ノ履行ヲ爲シ又ハ其履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百二十一條 商人間ニ於テ其雙方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生ジタル債權ガ辨濟期ニ在ルトキハ債權者ハ辨濟ヲ受クルマデ其債務者トノ間ニ於ケル商行爲ニ因リテ自己ノ占有ニ歸シタル債務者所有ノ物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラズ

第五百二十二條 商行爲ニ因リテ生ジタル債權ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除外五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス但他ノ法令ニ之ヨリ短キ時効期間ノ定アルトキハ其規定ニ從フ

第五百二十三條 第五百十二條第二項ニ定メタル會社ノ行爲ニハ商行爲ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百二十四條 商人間ノ買賣ニ於テ買主ガ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハザルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百二十五條 買賣ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的一方力履行ヲ爲サシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ直チニ其履行ヲ請求スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百二十六條 商人間ノ買賣ニ於テ買主ガ其目的物ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク之ヲ検査シ若シ之ニ瑕疵アルコト又ハ其數量ニ

第二章 買賣

第五百二十七條 前條ノ場合ニ於テ買主ハ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ賣主ノ費用ヲ以テ賣買ノ目的物ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス但其物ニ付キ滅失又ハ毀損ノ虞アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス

第五百二十八條 前條ノ規定ハ賣主ヨリ買主ニ引渡シタル物品力注文シタル物品ト異ナリタル場合ニ之ヲ準用ス其物品力注文シタル數量ヲ超過シタル場合ニ於テ其超過額ニ付キ亦同シ

第五百二十九條 交互計算ハ商人間又ハ商人ト商人ニ非サル者トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其殘額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百三十條 手形其他ノ商業證券ヨリ生シタル債權債務ヲ交互計算ニ組入レタル場合ニ於テ證券ノ債務者ガ辨濟ヲ爲サザリシトキハ當事者ハ其債務ニ關スル項目ヲ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得

第五百三十一條 當事者ガ相殺ヲ爲スヘキ期間ヲ定メザリシトキハ其期間ハ之ヲ六個月トス

第五百三十二條 當事者ガ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ノ承認ヲ爲シタルトキハ其各項目ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得ス但錯誤又ハ脱漏アリタルトキハ此限ニ在ラズ

第五百三十三條 相殺ニ因リテ生シタル殘額ニ付テハ債權者ハ計算閉鎖ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

第五百三十四條 各項當事者ハ何時ニモ交互計算ノ規定ハ各項目ヲ交互計算ニ組入レタル日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨ケス

第三章 交互計算

第五百三十五條 匿名組合契約ハ當事者ノ一方力相手方ノ營業ノ爲メニ出資ヲ爲シ其營業ヨリ生スル利益ヲ分配スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百三十六條 匿名組合員ノ出資ハ營業者ノ財產ニ歸ス

第五百三十七條 匿名組合員カ其氏名若クハ氏名ヲ營業者ノ商號中ニ用キ又ハ其商號ヲ營業者ノ商號トシテ用ユルコトヲ許諾シタルトキハ其使用以後ニ生シタル債務ニ付テハ營業者ト連帶シテ其責ニ任ス

第五百三十八條 出資力損失ニ因リテ減シタルトキハ其填補ノ後ニ非サレハ匿名組合員ハ利益ノ配當ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百三十九條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メザリシトキ又ハ或當事者ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各當事者ハ營業年度ノ終ニ於テ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但六個月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第四章 匿名組合

第五百四十條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 組合ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

二 營業者ノ死亡又ハ禁治產

三 營業者又ハ匿名組合員ノ破產

第五百四十一條 組合契約ガ終了シタルトキハ營業者ハ匿名組合員ニ其出資ノ價額ヲ返還スルコトヲ要ス但出資力損失ニ因リテ減シタルトキハ其殘額ヲ返還スルヲ以テ足ル

第五百四十二條 第五百十條、第五百十三條及ビ第五百十六條ノ規定ハ匿名組合員ニ之ヲ準用ス

第五百五條 有限責任社員ハ金銀其他ノ財產ノミヲ以テ其出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第五百十三條 有限責任社員ハ營業年度ノ終ニ於テ營業時間内ニ限リ會社ノ財產目錄及ビ貸借對照表ノ閱覽ヲ求メ且會社ノ業務及ビ會社財產ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ有限責任社員ノ請求ニ因リ何時ニモ會社ノ業務及ビ會社財產ノ狀況ノ検査ヲ許スコト

第五百四十六條 有限責任社員ハ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルコトヲ得ス

第五百四十七條 仲立人ハ其帳簿ニ前條第一項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第五百五十三條 問屋ハ委託者ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ付キ相手方力債務ヲ履行セサル場合ニ於テ自ラ其履行ヲ爲ス責ニ任ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第五百四十三條 仲立人トハ他人間ノ商行爲ノ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第五百四十八條 當事者カ其氏名又ハ商號ヲ相手方ニ示ササルヘキ旨ヲ仲立人ニ命シタルトキハ仲立人ハ第五百四十六條第一項ノ書面及ビ前條第二項ノ謄本ニ其氏名又ハ商號ヲ記載スルコトヲ得ス

第五百五十四條 問屋カ委託者ノ指定シタル金額ヨリ廉價ニテ販賣ヲ爲シ又ハ高價ニテ買入ヲ爲シタル場合ニ於テ自ラ其差額ヲ負擔スルトキハ其販賣又ハ買入ハ委託者ニ對シテ其效力ヲ生ス

第五百四十五條 仲立人カ其媒介スル行爲ニ付キ見本ヲ受取リタルトキハ其行爲力完了スルマテ之ヲ保管スルコトヲ要ス

第五百四十九條 仲立人カ當事者ノ一方ノ氏名又ハ商號ヲ其相手方ニ示サザリシトキハ之ニ對シテ自ラ履行ヲ爲ス責ニ任ス

第五百五十五條 問屋カ取引所ノ相場アル物品ノ販賣又ハ買入ノ委託ヲ受ケタルトキハ自ラ買主又ハ賣主ト爲ルコトヲ得此場合ニ於テハ賣買ノ代價ハ問屋カ買主又ハ賣主ト爲リタルコトノ通知ヲ受ケタル時ニ於ケル取引所ノ相場ニ依テ之ヲ定ム

第五百四十六條 當事者間ニ於テ行爲力成立シタルトキハ仲立人ハ遲滞ナク各當事者ノ氏名又ハ商號、行爲ノ年月日及ヒ其要領ヲ記載シタル書面ヲ作り署名ノ後之ヲ各當事者ニ交付スルコトヲ要ス

第五百五十條 仲立人ハ第五百四十六條ノ手續ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百五十六條 問屋カ買入ノ委託ヲ受ケタル場合ニ於テ委託者カ買入レタル物品ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ第五百二十四條ノ規定ヲ準用ス

第五百四十七條 當事者ノ一方カ書面ヲ前二項ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ書面ヲ受領セス又ハ之ニ署名セザルトキハ仲立人ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百五十一條 問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第五百五十七條 第四百七條及ヒ第五十一條ノ規定ハ問屋ニ之ヲ準用ス

第五百四十八條 仲立人ハ其媒介シタル行爲ニ付キ當事者ノ爲メニ支拂其他ノ給付ヲ受クルコトヲ得ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第五百五十二條 問屋ハ他人ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ因リ相手方ニ對シテ自ラ權利ヲ得義務ヲ負フ

第五百五十八條 第五百七十八條及ヒ第五百八十三條ノ規定ハ運送取扱營業ニ之ヲ準用ス

第五百四十九條 仲立人カ當事者ノ一方ノ氏名又ハ商號ヲ其相手方ニ示サザリシトキハ之ニ對シテ自ラ履行ヲ爲ス責ニ任ス

第五百五十三條 問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第五百五十九條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百五十一條 代理商ハ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リテ生シタル債權ニ付キ本人ノ爲メニ占有スル物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス

第五百五十四條 數人相次テ運送ノ取次ヲ爲ス場合ニ於テハ後者ハ前者ニ代ハリテ其權利ヲ行使スル義務ヲ負フ

第五百六十條 運送人トハ陸上又ハ湖川、港灣ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第五百五十二條 問屋ハ他人ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ因リ相手方ニ對シテ自ラ權利ヲ得義務ヲ負フ

第五百五十五條 問屋カ取引所ノ相場アル物品ノ販賣又ハ買入ノ委託ヲ受ケタルトキハ自ラ買主又ハ賣主ト爲ルコトヲ得此場合ニ於テハ賣買ノ代價ハ問屋カ買主又ハ賣主ト爲リタルコトノ通知ヲ受ケタル時ニ於ケル取引所ノ相場ニ依テ之ヲ定ム

第五百六十一條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百五十三條 問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第五百五十八條 本條ノ規定ハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ販賣又ハ買入ニ非サル行爲ヲ爲スヲ業トスル者ニ之ヲ準用ス

第五百六十二條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百五十四條 數人相次テ運送ノ取次ヲ爲ス場合ニ於テハ後者ハ前者ニ代ハリテ其權利ヲ行使スル義務ヲ負フ

第五百六十三條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百六十四條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百五十五條 問屋カ取引所ノ相場アル物品ノ販賣又ハ買入ノ委託ヲ受ケタルトキハ自ラ買主又ハ賣主ト爲ルコトヲ得此場合ニ於テハ賣買ノ代價ハ問屋カ買主又ハ賣主ト爲リタルコトノ通知ヲ受ケタル時ニ於ケル取引所ノ相場ニ依テ之ヲ定ム

第五百五十九條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百六十條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百五十六條 問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第五百六十五條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百六十一條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百五十七條 第四百七條及ヒ第五十一條ノ規定ハ問屋ニ之ヲ準用ス

第五百六十六條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百六十七條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百五十八條 本條ノ規定ハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ販賣又ハ買入ニ非サル行爲ヲ爲スヲ業トスル者ニ之ヲ準用ス

第五百六十八條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百六十九條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百五十九條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百七十條 荷送人ハ運送人ノ請求ニ因リ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

第五百七十一條 運送人ハ荷送人ノ請求ニ因リ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

第五百六十條 運送取扱人ハ自己又ハ其使用人カ運送品ノ受取、引渡、保管、運送人又ハ他ノ運送取扱人ノ選擇其他運送ニ關スル注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルコトヲ得ス

第五百六十一條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人ニ引渡シタルトキハ直チニ其報酬ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十二條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百六十二條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百六十三條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百六十四條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百六十五條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百六十六條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百六十七條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百六十八條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百六十九條 運送取扱人ハ運送品ニ關シテ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百七十條 荷送人ハ運送人ノ請求ニ因リ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

三 運送貨
 四 貨物引換證ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日
 第五百七十二條 貨物引換證ヲ作りタルトキハ運送ニ關スル事項ハ運送人ト所持人トノ間ニ於テハ貨物引換證ノ定ムル所ニ依ル
 第五百七十三條 貨物引換證ヲ作りタルトキハ運送品ニ關スル處分ハ貨物引換證ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 第五百七十四條 貨物引換證ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但貨物引換證ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス
 第五百七十五條 貨物引換證ニ依リ運送品ヲ受取ルコトヲ得ヘキ者ニ貨物引換證ヲ引渡シタルトキハ其引渡ハ運送品ノ上ニ行使スル權利ノ取得ニ付キ運送品ノ引渡ト同一ノ效力ヲ有ス
 第五百七十六條 運送品ノ全部又ハ一部カ不
 可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ其運送貨ヲ請求スルコトヲ得ス若シ運送人カ既ニ其運送貨ノ全部又ハ一部ヲ受取リタルトキハ之ヲ返還スルコトヲ要ス
 運送品ノ全部又ハ一部カ其性質若クハ瑕疵又ハ荷送人ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ運送貨ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十七條 運送人ハ自己若クハ運送取扱人又ハ其使用人其他運送ノ爲メ使用シタル者カ運送品ノ受取、引渡、保管及ヒ運送ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルコトヲ得ス
 第五百七十八條 貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ荷送人カ運送ヲ委託スルニ當テリ其種類及ヒ價額ヲ明告シタルニ非サレハ運送ハ損害賠償ノ責ニ任セス
 第五百七十九條 數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ各運送人ハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス
 第五百八十條 運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アルヘカリシ日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム
 運送品ノ一部滅失又ハ毀損ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アリタル日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但延著ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス
 運送品ノ滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セサル運送貨其他ノ費用ハ前二項ノ賠償額ヨリ之ヲ控除ス
 第五百八十一條 運送品カ運送人ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ滅失、毀損又ハ延著シタルトキハ運送人ハ一切ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第五百八十二條 荷送人又ハ貨物引換證ノ所持人ハ運送人ニ對シ運送ノ中止、運送品ノ返還其他ノ處分ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ運送人ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應スル運送賃、立替金及ヒ其處分ニ因リテ生シタル費用ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得前項ニ定メタル荷送人ノ權利ハ運送品カ到達地ニ達シタル後荷送人カ其引渡ヲ請求シタルトキハ消滅ス
 第五百八十三條 運送品カ到達地ニ達シタル後ハ荷送人ハ運送契約ニ因リテ生シタル荷送人ノ權利ヲ取得ス
 荷送人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送人ニ對シ運送賃其他ノ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ
 第五百八十四條 貨物引換證ヲ作りタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非サレハ運送品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス
 第五百八十五條 荷送人ヲ確知スルコト能ハサルトキハ運送人ハ運送品ヲ供託スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ運送人カ荷送人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ運送品ノ處分ニ付キ指圖ヲ爲スヘキ旨ヲ警告スルモ荷送人カ其指圖ヲ爲ササルトキハ運送品ヲ競賣スルコトヲ得
 運送人カ前二項ノ規定ニ從ヒテ運送品ノ供託又ハ競賣ヲ爲シタルトキハ運送人ハ運送品ノ供託

人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
 第五百八十六條 前條ノ規定ハ運送品ノ引渡ニ關シテ爭アル場合ニ之ヲ準用ス
 運送人カ競賣ヲ爲スニハ豫メ荷送人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ運送品ノ受取ヲ催告シ其期間經過ノ後更ニ荷送人ニ對スル催告ヲ爲スコトヲ要ス
 運送人ハ運送ナク荷送人ニ對シテモ運送品ノ供託又ハ競賣ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
 第五百八十七條 第五百二十四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第五百二十四條第二項、第三項、損敗シ易キ物ハ前項ノ催告ヲ爲サスシテ之ヲ競賣スルコトヲ得
 前二項ノ規定ニ依リ賣主カ賣買ノ目的物ヲ競賣シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ得
 第五百八十八條 運送人ノ責任ハ荷送人カ留保ヲ爲サスシテ運送品ヲ受取リ且運送賃其他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但運送品ニ直チニ發見スルコト能ハサル毀損又ハ一部滅失アリタル場合ニ於テ引受人カ引渡ノ日ヨリ二週間内ニ運送人ニ對シテ其通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス
 前項ノ規定ハ運送人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五百八十九條 第五百六十二條、第五百六十三條、第五百六十六條及第五百六十七條ノ規定ハ運送人ニ之ヲ準用ス
 第二節 旅客運送
 第五百九十條 旅客ノ運送人ハ自己又ハ其使用人カ運送ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ旅客カ運送ノ爲メニ受ケタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルコトヲ得
 損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付テハ裁判所ハ被害者及ヒ其家族ノ情況ヲ斟酌スルコトヲ要ス
 第五百九十一條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケタル手荷物ニ付テハ特ニ運送貨ヲ請求セサルトキト雖モ物品ノ運送人ト同一ノ責任ヲ負フ
 手荷物カ到達地ニ達シタル日ヨリ一週間内ニ旅客カ其引渡ヲ請求セサルトキハ第五百二十四條ノ規定ヲ準用ス但住所又ハ居所ノ知レサル旅客ニハ催告及ヒ通知ヲ爲スコトヲ要セス
 第五百九十四條 商人間ノ賣買ニ於テ賣主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ運送ナク買主ニ對シテ其通知ヲ

發スルコトヲ要ス
 損敗シ易キ物ハ前項ノ催告ヲ爲サスシテ之ヲ競賣スルコトヲ得
 前二項ノ規定ニ依リ賣主カ賣買ノ目的物ヲ競賣シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス
 第五百九十二條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケサル手荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ自己又ハ其使用人ニ過失アル場合ヲ除ク外損害賠償ノ責ニ任セス
 第九章 寄託
 第一節 總則
 第五百九十三條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケサルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス
 第五百九十四條 旅店、飲食店、浴場其他客ノ來集ヲ目付タル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルコトヲ得ス
 客カ特ニ寄託セサル物品ト雖モ湯屋中ニ携帶シタル物品カ湯屋ノ主人又ハ其使用人ノ不注意ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ湯屋ノ主人ハ損害賠償ノ責ニ任ス

客ノ携帶品ニ付キ責任ヲ負ハサル旨ヲ告示シタルトキト雖モ湯屋ノ主人ハ前二項ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百九十五條 貨幣ノ有價證券其他ノ高價品ニ付テハ客カ其種類及ヒ價額ヲ明告シテ之ヲ前條ノ湯屋ノ主人ニ寄託シタルニ非サレハ其湯屋ノ主人ハ其物品ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セズ

第五百九十六條 前二條ノ責任ハ湯屋ノ主人カ寄託物ヲ返還シ又ハ客カ携帶品ヲ持去リタル後一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ物品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ客カ湯屋ヲ去リタル時ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ湯屋ノ主人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二節 倉庫營業

第五百九十七條 倉庫營業者トハ他人ノ爲ニ物品ヲ倉庫ニ保管スルヲ業トスル者ヲ謂フ

第五百九十八條 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求ニ因リ寄託物ノ預證券及ヒ質入證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第五百九十九條 預證券及ヒ質入證券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ倉庫營業者之ニ署名アルコトヲ要ス

一 受寄物ノ種類、品質、數量及ヒ其荷

二 造ノ種類、箇數及ニ記號

三 寄託者ノ氏名又ハ商號

四 保管ノ場所

五 保管ノ期間ヲ定メタルトキハ其期間

六 受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ保險金額、保險期間及ヒ保險者ノ氏名又ハ商號

七 證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第六百條 倉庫營業者カ預證券及ヒ質入證券ヲ寄託者ニ交付シタルトキハ其帳簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 前條第一號、第二號及ヒ第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項

二 證券ノ番號及ヒ其作成ノ年月日

第六百一條 預證券及ヒ質入證券ノ所持人ハ倉庫營業者ニ對シ寄託物ヲ分割シ且其各部分ニ對スル預證券及ヒ質入證券ヲ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ所持人ハ前ノ預證券及ヒ質入證券ヲ倉庫營業者ニ返還スルコトヲ要ス

前項ニ定メタル寄託物ノ分割及ヒ證券ノ交付ニ關スル適用ハ所持人ノ之ヲ負擔ス

第六百二條 預證券及ヒ質入證券ヲ作リタルトキハ寄託ニ關スル事項ハ倉庫營業者ト所持人トノ間ニ於テハ其證券ノ定ムル所ニ依リテ決ス

第六百三條 預證券及ヒ質入證券ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ質入スルコトヲ得但證券ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

預證券ノ所持人カ未タ質入ヲ爲サル間ハ預證券及ヒ質入證券ハ各別ニ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第六百四條 第五百七十三條及ヒ第五百七十四條ノ規定ハ預證券及ヒ質入證券ニ之ヲ準用ス

第五百七十三條 貨物引換證ヲ作リタルトキハ運送品ニ關スル處分ハ貨物引換證ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百七十五條 貨物引換證ニ依リ運送品ヲ受取ルコトヲ得ヘキ者ニ貨物引換證ヲ引渡シタルトキハ其引渡ハ運送品ノ上ニ行使スル權利ノ取得ニ付キ運送品ノ引渡ト同一ノ效力ヲ有ス

第六百五條 預證券又ハ質入證券カ滅失シタルトキハ其所持人ハ相當ノ擔保ヲ供シテ更ニ其證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ倉庫營業者ハ其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六百六條 質入證券第一ノ質入裏書ヲ爲スニハ債權額、其利息及ヒ辨濟期ヲ記載スルコトヲ要ス

第一ノ質權者カ前項ニ掲ケタル事項ヲ預證券ニ記載シテ之ニ署名スルニ非サレハ質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百七條 預證券ノ所持人ハ寄託物ヲ以テ頂證券ニ記載シタル債權額及ヒ利息ヲ辨濟スル義務ヲ負フ

第六百八條 質入證券所持人ノ債權ノ辨濟ハ倉庫營業者ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百九條 質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサルトキハ手形ニ關スル規定ニ從ヒテ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第六百十條 質入證券ノ所持人ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタル後ニ非サレハ寄託物ノ質賣ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百十一條 倉庫營業者ハ質賣代金ノ中ヨリ質賣ニ關スル費用、受寄物ニ課スヘキ租稅、保管料其他保管ニ關スル費用及ヒ立替金ヲ控除シタル後其剩額ヲ質入證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

質賣代金ノ中ヨリ前項ニ掲ケタル費用、租稅、保管料、立替金及ヒ質入證券所持人ノ債權額、利息、拒絕證書作成ノ費用ヲ控除シタル後剩額アルトキハ倉庫營業者ハ之ヲ預證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

第六百十二條 質賣代金ヲ以テ質入證券ニ記

載シタル債權ノ全部ヲ辨濟スルコト能ハザリシトキハ倉庫營業者ハ其支拂ヒタル金額ヲ質入證券ニ記載シテ其證券ヲ返還シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六百十三條 質入證券ノ所持人ハ先ツ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙不足アルトキハ其裏書人ニ對シテ不足額ヲ請求スルコトヲ得

手形法第四十五條第一項第三項第五項第六項第四十九條及ヒ第五十條第一項ノ規定ハ前項ニ定メタル不足額ノ請求ニ之ヲ準用ス

手形法第五十二條第三項ノ規定ハ不足額ノ請求ヲ受ケタル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ其請求ヲ爲ス者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト異ナル場合ニ於ケル債權額ノ算定ニ準用ス

第六百十四條 質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケザリシ場合ニ於テ拒絕證書ヲ作ラシメザリシトキ又ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ二週間内ニ寄託物ノ質賣ヲ請求セザリシトキハ裏書人ニ對スル請求權ヲ失フ

第六百十五條 質入證券所持人ノ預證券所持人ニ對スル請求權ハ辨濟期ヨリ一年質入證券裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケタル日ヨリ六個月質入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六百十六條 寄託者又ハ預證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢若クハ其見本ノ抽出ヲ求メ又ハ其保存ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得質入證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢ヲ求ムルコトヲ得

第六百十七條 倉庫營業者ハ自己又ハ其使用人カ受寄物ノ保管ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ其滅失又ハ毀損ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百十八條 倉庫營業者ハ受寄物出庫ノ時ニ非サレハ保管料及ヒ立替金其他受寄物ニ關スル費用ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

但受寄物ノ一部出庫ノ場合ニ於テハ割合ニ應シテ其支拂ヲ請求スルコトヲ得

第六百十九條 當事者カ保管ノ期間ヲ定メザリシトキハ倉庫營業者ハ受寄物入庫ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタル後ニ非サレハ其返還ヲ爲スコトヲ得但已ムコトヲ得サル事由アルトキハ此限ニ在ラス

第六百二十條 預證券及ヒ質入證券ヲ作リタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非サレハ寄託物ノ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第六百二十一條 預證券ノ所持人ハ質入證券ニ記載シタル債權ノ辨濟期前ト雖モ其債權ノ全額及ヒ辨濟期マテノ利息ヲ倉庫營業者

第六百二十二條 寄託物カ同種類ニシテ同一ノ品質ヲ有シ且分割スルコトヲ得ヘキ物ナ...

第六百二十三條 前二條ノ場合ニ於テ買入證券ノ所持人ノ權利ハ供託金ノ上ニ存在ス...

ヲ受取ルコト能ハサルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ...

第六百二十六條 寄託物ノ減失又ハ毀損ニ因リテ生シタル倉庫營業者ノ責任ハ出庫ノ日...

第六百二十七條 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求アルトキハ預證券及ビ買入證券ニ代ヘテ倉...

第六百二十九條 損害保險契約ハ當事者ノ一方カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生スルコ...

分ニ付テハ保險契約ハ無効トス 第六百三十二條 同一ノ目的ニ付キ同時ニ數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其保險...

シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム...

第六百四十三條 保險契約ノ全部又ハ一部カ無効ナル場合ニ於テ保險契約者及ビ被保險...

第六百四十六條 保險契約ノ當事者カ特別ノ危險ヲ斟酌シテ保險料ノ額ヲ定メタル場合ニ於テ保險期間中其危險カ消滅シタルトキハ保險契約者ハ將來ニ向テ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

第六百四十七條 保險契約ハ他人ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ保險契約者ハ保險者ニ對シテ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第六百四十八條 保險契約者カ委任ヲ受ケスシテ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨ヲ保險者ニ告ケサルトキハ其契約ハ無効トス若シ之ヲ告ケタルトキハ被保險者ハ當然其契約ノ利益ヲ享受ス

第六百四十九條 保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險証券ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百五十條 保險証券ニハ左ノ事項ヲ記載シ保險者之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 保險ノ目的
- 二 保險者ノ負擔シタル危險
- 三 保險價額ヲ定メタルトキハ其價額
- 四 保險金額
- 五 保險料及ヒ其支拂ノ方法
- 六 保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期
- 七 保險契約者ノ氏名又ハ商號
- 八 保險契約ノ年月日

九 保險証券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第六百五十條 被保險者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ同時ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルモノト推定ス

前項ノ場合ニ於テ保險ノ目的ノ讓渡カ著シク危險ヲ變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第六百五十一條 保險者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但し其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前項ノ規定ニ依リテ解除ヲ爲ササル保險契約ハ破産宣告ノ後三ヶ月ヲ經過シタルトキハ其效力ヲ失フ

第六百五十二條 他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險者ハ被保險者ニ對シテ保險料ヲ請求スルコトヲ得但し被保險者カ其權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百五十三條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テハ保險契約者ハ契約ノ全部又ハ一部ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百五十四條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ保險契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ因ラズシテ保險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付キ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險カ生セサルニ至

リタルトキハ保險者ハ保險料ノ全部又ハ一部ヲ返還スルコトヲ要ス

第六百五十五條 前二條ノ場合ニ於テハ保險者ハ其返還スヘキ保險料ノ半額ニ相當スル金額ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十六條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責任ニ歸スヘキ事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第六百五十七條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責任ニ歸スヘキ事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但し其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前項ノ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ危險ノ著シク變更又ハ増加シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク之ヲ保險者ニ通知スルコトヲ要ス若シ其通知ヲ怠リタルトキハ保險者ハ危險ノ變更又ハ増加ノ時ヨリ保險契約カ其效力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得

保險者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ危險ノ變更若クハ増加ヲ知リタル後遲滞ナク契約ノ解除ヲ爲ササルトキハ其契約ヲ承認シタルモノト看做ス

第六百五十八條 保險者ノ負擔シタル危險ノ發生ニ因リテ損害カ生シタル場合ニ於テ保

險契約者又ハ被保險者カ其損害ノ生シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百五十九條 保險ノ目的ニ付キ保險者ノ負擔スヘキ損害カ生シタルトキハ其後ニ至リ其目的カ保險者ノ負擔セサル危險ノ發生ニ因リテ滅失シタルトキト雖モ保險者ハ其損害ヲ填補スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百六十條 被保險者ハ損害ノ防止ヲカムルコトヲ要ス但シ之カ爲メニ必要又ハ有益ナリシ費用及ヒ填補額カ保險金額ニ超過スルトキト雖モ保險者之ヲ負擔ス

第六百六十一條 規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百六十二條 損害ノ目的ノ全部カ滅失シタル場合ニ於テ保險者カ保險金額ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ被保險者カ其目的ニ付キ有セリ權利ヲ取得ス但し保險者ノ權利ハ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ權利ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第六百六十三條 損害カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ヲ支拂ヒタルトキハ其支拂ヒタル金額ノ限度ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ第三者ニ對シ有セリ權利ヲ取得ス保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ノ一部ヲ

支拂ヒタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ノ權利ヲ侵害セサル範圍内ニ於テノミ前項ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第六百六十三條 保險金額支拂ノ義務及ヒ保險料返還ノ義務ハ二年保險料支拂ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リ消滅ス

第六百六十四條 本節ノ規定ハ相互保險ニ之ヲ準用ス但シ其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第二款 火災保險

第六百六十五條 火災ニ因リテ生シタル損害ハ其火災ノ原因如何ヲ問ハズ保險者之ヲ填補スル責任ニ任ス但第六百四十四條及ヒ第六百四十一條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第六百六十六條 消防又ハ避難ニ必要ナル處分ニ因リ保險ノ目的ニ付キ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責任ニ任ス

第六百六十七條 賃借人其他他人ノ物ヲ保管スル者カ其支拂フコトアルヘキ損害賠償ノ爲メ其物ヲ保險ニ付シタルトキハ所有者ハ保險者ニ對シテ直接ニ其損害ノ填補ヲ請求スルコトヲ得

第六百六十八條 火災保險証券ニハ第六百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 保險ニ付シタル建物ノ所在、構造及

二 動産ヲ保險ニ付シタルトキハ之ヲ納ムル建物ノ所在、構造及ヒ用方

第三款 運送保險

第六百六十九條 保險者ハ特約ナキトキハ運送人カ運送品ヲ受取リタル時ヨリ之ヲ荷受人ニ引渡ス時マテニ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スル責任ニ任ス

第六百七十條 運送品ノ保險ニ付テハ發送ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ到達地マテノ運送費其他ノ費用ヲ以テ保險價額トス

運送品ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益ハ特約アルトキニ限リ之ヲ保險價額中ニ算入ス

第六百七十一條 運送保險証券ニハ第六百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 運送ノ道筋及ヒ方法
- 二 運送人ノ氏名又ハ商號
- 三 運送品ノ受取及ヒ引渡ノ場所
- 四 運送期間ノ定アルトキハ其期間

第六百七十二條 保險契約ハ特約アルニ非サレハ運送上ノ必要ニ因リ一時運送ヲ中止シ又ハ運送ノ道筋若クハ方法ヲ變更シタルトキト雖モ其效力ヲ失ハス

第二款 生命保險

第六百七十三條 生命保險契約ハ當事者ノ一

方カ相手方又ハ第三者ノ生死ニ關シ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其効カヲ生ス

第六百七十四條 他人ノ死亡ニ因リテ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ定ムル保險契約ニハ其者ノ同意アルコトヲ要ス但被保險者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ナルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ保險契約ニ因リテ生シタル權利ノ讓渡ニハ被保險者ノ同意アルコトヲ要ス保險契約者カ被保險者ナル場合ニ於テ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ其權利ヲ讓渡ストキ又ハ第一項但書ノ場合ニ於テ權利ヲ讓渡ケタル者カ更ニ之ヲ讓渡ストキ亦同シ

第六百七十五條 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ第三者ナルトキハ其第三者ハ當然保險契約ノ利益ヲ享受ス但保險契約者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

前項但書ノ規定ニ依リ保險契約者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更スル權利ヲ有スル場合ニ於テ其權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ハ之ニ因リテ確定ス

第六百七十六條 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ニ非サル第三者ナル場合ニ於テ其者カ死亡シタルトキハ保險契約者ハ更ニ保

險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定スルコトヲ得保險契約者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ相続人ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス

第六百七十七條 保險契約者カ契約後保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更シタルトキハ保險者ニ其指定又ハ變更ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ保險者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百七十四條第一項ノ規定ハ前項ノ指定及ヒ變更ニ之ヲ準用ス

第六百七十八條 保險契約ノ當時保險契約者又ハ被保險者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重大ナル事實ヲ告ケタリ又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事實ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ヲ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其事ヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

第六百四十四條第二項及ヒ第六百四十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百七十九條 生命保險證券ニハ第六百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 保險契約ノ種類
- 二 被保險者ノ氏名
- 三 保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタル

トキハ其者ノ氏名

第六百八十條 左ノ場合ニ於テハ保險者ハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セス

- 一 被保險者カ自殺、決闘其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ
- 二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シメタルトキ但被保險者ノ死ニ致シメタルトキ但被保險者カ保險金額ノ一部ヲ受取ルヘキ場合ニ於テハ保險者ハ其殘額ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス
- 三 保險契約者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ

前項第一號及ヒ第二號ノ場合ニ於テハ保險者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ保險契約者ニ拂戻スコトヲ要ス

第六百八十一條 保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百八十二條 被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻ス義務ハ二年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六百八十三條 第六百四十條、第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十四條、第六百四十五條、第六百四十六條、第六百四十七條、第六百四十九條第一項、第六百五十一條乃至第六百五十三條、第六百五十六條、第六百五十七條、第六百六十三條

條及ヒ第六百六十四條規定ハ生命保險ニ之ヲ準用ス

第六百四十條、**第六百五十一條**、**第六百五十三條**、**第六百五十六條**及ヒ**第六百五十七條**ノ場合ニ於テ保險者カ保險金額ヲ支拂フコトヲ要セサルトキハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ保險契約者ニ拂戻スコトヲ要ス

第四編 海商

第一章 船舶及ヒ船舶所有者

第六百八十四條 本法ニ於テ船舶トハ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

本編ノ規定ハ端舟其他構體ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ構體ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第六百八十五條 船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其從物ト推定ス

第六百八十六條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第六百八十七條 船舶所有權ノ移轉ハ其登記

ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第六百八十八條 航海中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノトス

第六百八十九條 差押及ヒ假差押ハ發航ノ準備ヲ終ハリタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得

但船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百九十條 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行為又ハ船長其他ノ船員カ其ノ職務ヲ行フニ當リ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶、運送貨及ヒ船舶所有者カ其ノ船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其實ヲ免ルルコトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セス

第六百九十一條 登記シタル船舶ノ委付ハ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百九十二條 船舶所有者カ債權者ノ同意ヲ得シテ更ニ航海ヲ爲サシメタルトキハ第六百九十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ

得ス

第六百九十三條 船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第六百九十四條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應ジ船舶ノ利用ニ關スル費用ヲ負擔スルコトヲ要ス

第六百九十五條 船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シテ異議アル者ハ他ノ共有者ニ對シテ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日内ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラザリシ者ニ付テハ其決議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第六百九十六條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應ジ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ辨濟スル責ニ任ス

第六百九十七條 損益ノ分配ハ每航海ノ終ニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價格ニ應ジテ之ヲ爲ス

第六百九十八條 船舶共有者間ニ組合關係アルトキト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得シテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但船舶管理人ハ此限ニ在ラ

第六百九十九條 船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

第七百條 船舶管理人ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ除ク外船舶共有者ニ代ハリテ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第七百一條 船舶管理人ハ特ニ帳簿ヲ備ヘ之ニ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第七百二條 船舶共有者ノ時分ノ移轉又ハ其國籍喪失ニ因リテ船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失ス

第七百三條 船舶ノ賃借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第七百四條 船舶ノ賃借人カ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有權者ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第七百五條 船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ船舶所有權者、僱船者、荷送人其他ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得

第七百六條 船長カ特ニ委任ヲ受ケスシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出シ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有權者ハ船長ニ對シテ第六百九十九條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第七百七條 船長ハ船舶ノ航行ニ關スル一切ノ事項ヲ決定スル權限ヲ有ス

第七百八條 左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス

第七百九條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限

第七百十條 船長ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外自己ニ代ハリテ船舶ヲ指揮スルヘキ者ニ其職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ荷物ノ積積及ヒ旅客ノ乗込ノ時ヨリ荷物ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸ノ時マテ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得

第七百十一條 船長ハ航海ノ準備カ終ハリタルトキハ遲滞ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セシテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第七百十二條 船長ハ航海中最モ利害關係人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ積荷ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十三條 船長ハ行爲ニ因リ其積荷ニ付テ生シタル債權ノ爲メ之ヲ債權者ニ委付シテ其實ヲ免ルルコトヲ得但利害關係人ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十四條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限

スヘキキハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取リ又ハ其裁量ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第七百十五條 船長ハ船舶ノ修繕費、救助料其他航海ヲ繼續ルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得

第七百十六條 船長カ積荷ヲ賣却又ハ買入シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其積荷ノ到達スヘカリシ時ニ於ケル陸揚港ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但其價格中ヨリ支拂フコトヲ要セザリシ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第七百十七條 船長カ特ニ委任ヲ受ケスシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出シ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有權者ハ船長ニ對シテ第六百九十九條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第七百十八條 左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス

第七百十九條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限

第七百二十條 船長ハ行爲ニ因リ其積荷ニ付テ生シタル債權ノ爲メ之ヲ債權者ニ委付シテ其實ヲ免ルルコトヲ得但利害關係人ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百二十一條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限

第七百二十二條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限

第七百二十三條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限

第七百二十四條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限

第七百二十五條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限

第七百二十六條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限

第七百二十七條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限

第七百二十八條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限

第七百二十九條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限

船長ハ船舶所有權者ノ指圖ニ從ヒタルトキト雖モ船舶所有權者以外ノ者ニ對シテハ前項ニ定メタル責任ヲ免ルルコトヲ得

第七百三十條 海員カ其職務ヲ行フニ當リ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監督ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得

第七百三十一條 船長カ已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコト能ハサルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ船長ハ其選任ニ付キ船舶所有權者ニ對シテ其實ニ任ス

第七百三十二條 船長ハ發航前船舶ノ航海ニ支障ナキヤ否ヤ其他航海ニ必要ナル準備ノ整頓セルヤ否ヤヲ検査スルコトヲ要ス

第七百三十三條 船長ハ左ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス

一 船舶國籍證書
二 海員名簿
三 航海日誌
四 旅客名簿
五 運送契約及ヒ積荷ニ關スル書類
六 稅關ヨリ交付シタル書類
七 前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類ハ外

コト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地ニ到ルコト能ハサルトキ

二 修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユルトキ

前項第二號ノ價額ハ船舶カ航海中毀損シタル場合ニ於テハ其發航ノ時ニ於ケル價額トシ其他ノ場合ニ於テハ其毀損前ニ有セシ價額トス

第七百三十九條 船長ハ航海ヲ繼續スル爲メ必要ナルトキハ積荷ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ得此場合ニ於テハ第七百十五條第二項ノ規定ヲ準用ス

第七百四十條 船長ハ遲滞ナク航海ニ關スル重要ナル事項ヲ船舶所有權者ニ報告スルコトヲ要ス

船長ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ船舶所有權者ノ承認ヲ求メ又船舶所有權者ノ請求アルトキハ何時ニテモ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第七百四十一條 船舶所有權者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得但正當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船舶所有權者ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

船長カ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキ

コトヲ請求スルコトヲ得
船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ
運滞ナク他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シ
テ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
第七百二十二條 船長ノ船舶所有者ニ對スル
債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リ
テ消滅ス

第二節 海員

第七百二十三條 海員ハ其雇入ノ手續カ終ハ
リタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船
船ニ乗込ムコトヲ要ス
海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込
ミタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス
第七百二十四條 海員ノ服役中ノ食料ハ船舶
所有者ノ負擔トス
第七百二十五條 海員カ服役中不行跡其他重
大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷
病ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三ヶ月ヲ
超エサル期間内ノ治療及ヒ監護ノ費用ヲ負
擔ス
前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間
ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得但其職務
ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷病ヲ受ケ
タルトキハ其給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ
得
第七百二十六條 一航海ニ付キ給料ヲ定メテ

ル場合ニ於テ航海ノ日數ヲ延長シ又ハ不可
抗力ニ因ラスシテ其里程ヲ延長シタルトキ
ハ海員ハ其割合ニ應ジテ給料ノ増加ヲ請求
スルコトヲ得但航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮
シタルトキト雖モ給料ノ全額ヲ請求スルコ
トヲ得
第七百二十七條 海員カ就役ノ後死亡シタル
トキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ
支拂フコトヲ要ス
海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルト
キハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔トス
第七百二十八條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海
員ヲ雇止ムルコトヲ得
一 發航前航海員カ其職務ニ不適任ナルコ
トヲ認メタルトキ
二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職
務ニ關シテ之重大ナル過失アリタルト
キ
三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル
トキ
四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷病ヲ受ケ其
職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海
ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルト
キ
前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員
ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求ス

第七百二十七條 海員カ就役ノ後死亡シタル
トキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ
支拂フコトヲ要ス
海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルト
キハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔トス
第七百二十八條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海
員ヲ雇止ムルコトヲ得
一 發航前航海員カ其職務ニ不適任ナルコ
トヲ認メタルトキ
二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職
務ニ關シテ之重大ナル過失アリタルト
キ
三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル
トキ
四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷病ヲ受ケ其
職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海
ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルト
キ
前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員
ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求ス

第一款 總則

ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ
海員ヲ雇入レタルトキハ其期間ハ一年
ニ短縮ス
海員ノ雇入ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期
間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ超ユルコトヲ得ス
第七百三十三條 雇入期間ノ定ナキトキハ海
員ハ特約アル場合ヲ除ク外船舶カ安全ニ礙
泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸カ終ハリ
タル後ニ非サレハ其雇止ヲ請求スルコトヲ
得ス
第七百三十四條 海員ノ雇入契約ハ左ノ事由
ニ因リテ終了ス
一 船舶カ沈没シタルコト
二 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リ
タルコト
三 船舶カ捕獲セラレタルコト
前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マ
テノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スル
コトヲ得
第七百三十五條 海員カ雇入港マテノ送還ヲ
請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テハ送還ニ
代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得
第七百三十六條 第七百二十二條ノ規定ハ海
員ノ債權ニ之ヲ準用ス

第七百三十七條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ
運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ各當事者
ハ相手方ノ請求ニ因リ運送契約書ヲ交付ス
ルコトヲ要ス
第七百三十八條 船舶所有者ハ特約ヲ爲シタ
ルニ對シ發航ノ當時船舶カ安全ニ航海ヲ
爲スニ堪フルコトヲ擔保ス
第七百三十九條 船舶所有者ハ特約ヲ爲シタ
ルニ對シ自己ノ過失、船員其他ノ使用人
ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海
ニ堪ヘサルニ因リテ生シタル損害ヲ賠償ス
ル責ヲ免ルルコトヲ得ス
第七百四十條 法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラ
スシテ積積シタル運送品ハ船長ニ於テ何時
ニテモ之ヲ陸揚シ、若シ船舶又ハ積荷ニ危
害ヲ及ボス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコト
ヲ得但船長カ之ヲ運送スルトキハ其積積ノ
地及ヒ時ニ於ケル同種ノ運送品ノ最高ノ運
送賃ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ規定ハ船舶所有者其他ノ利害關係人
カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス
第七百四十一條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約
ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ積積
スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船
船所有者ハ運滞ナク積積者ニ對シテ其通知
ヲ發スルコトヲ要ス

第七百四十二條 船長カ第三者ヨリ運送品ヲ
受取ルヘキ場合ニ於テ其者ヲ確知スルコト
能ハサルトキ又ハ其者カ運送品ヲ積積セサ
ルトキハ船長ハ直チニ積積者ニ對シテ其通
知ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ積積
期間内ニ限り積積者ニ於テ運送品ヲ積積ス
ルコトヲ得
第七百四十三條 積積者ハ運送品ノ全部ヲ船
積セサルトキト雖モ船長ニ對シテ發航ノ請
求ヲ爲スコトヲ得
積積者カ前項ノ請求ヲ爲シタルトキハ運送
賃ノ全額ノ外運送品ノ全部ヲ積積セサルニ
因リテ生シタル費用ヲ支拂ヒ尙船舶所有者
ノ請求アルトキハ相當ノ擔保ヲ供スルコト
ヲ要ス
第七百四十四條 船積期間經過ノ後ハ積積者
カ運送品ノ全部ヲ積積セサルトキト雖モ船
長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得
前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用

第七百四十五條 發航前ニ於テハ儲船者ハ運送貨ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

往復航海ヲ爲スヘキ場合ニ於テ儲船者カ其歸航ノ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ三分ノ二ヲ支拂フコトヲ要ス他港ヨリ船積港ニ航行スヘキ場合ニ於テ儲船者カ其船積港ヲ發スル前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキ亦同シ

運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタル後前二項ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其船積及ヒ陸揚ノ費用ハ儲船者之ヲ負擔ス

儲船者カ船積期間内ニ運送品ノ船積ヲ爲ササリシトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百四十六條 儲船者カ前條ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ附隨ノ費用及ヒ立替金ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス

前條第二項ノ場合ニ於テハ儲船者ハ前項ニ掲ケタルモノノ外運送品ノ價格ニ應シ共同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百四十七條 發航後ニ於テハ儲船者ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フ外第七百五十三條第一

項ニ定メタル債務ヲ辨濟シ且陸揚ノ爲メニ生スヘキ損害ヲ賠償シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第七百四十八條 船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ儲船者カ他ノ儲船者及ヒ荷送人ト共同セシテ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船積所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ハ之ヲ控除ス

發航前ト雖モ儲船者カ既ニ運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタルトキハ他ノ儲船者及ヒ荷送人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

前七條ノ規定ハ船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百四十九條 箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船積ノ指圖ニ從ヒ運送品ヲ運送スルコトヲ要ス

荷送人カ運送品ノ船積ヲ煮リタルトキハ船積長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ荷送人ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船積所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ハ之ヲ控除ス

第七百五十條 第七百四十八條ノ規定ハ荷送人カ契約ノ解除ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第七百五十一條 儲船者又ハ荷送人ハ船積期間内ニ必要ナル書類ヲ船積ニ交付スルコトヲ要ス

第七百五十二條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ陸揚スルニ必要ナル準備力整頓シタルトキハ船積長ハ運送品ヲ荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

運送品ヲ陸揚スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス

箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船積長ノ指圖ニ從ヒ運送品ヲ運送スルコトヲ要ス

第七百五十三條 荷送人カ運送品ヲ受取りタルトキハ運送契約又ハ船積證書ノ趣旨ニ從ヒ運送貨ノ價格ニ應シ共同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

船積長ハ前項ニ定メタル金額ヲ支拂ト引換ニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ要セス

第七百五十四條 荷送人カ運送品ヲ受取ルコトヲ意リタルトキハ船積長ハ之ヲ供託スルコ

トヲ得但引渡ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキ又ハ第三者カ其占有ヲ取得シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十八條 船舶所有者カ前條ニ定メタル權利ヲ行ハサルトキハ儲船者又ハ荷送人ニ對スル請求權ヲ失フ但儲船者又ハ荷送人ハ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ヲ爲スコトヲ要ス

第七百五十九條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ儲船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタルトキハ其契約ノ履行カ船積長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船舶所有者ノミ其第三者ニ對シテ履行ノ責ニ任ス但第六百九十九條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第七百六十條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ其契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 第七百三十四條第一項ニ掲ケタル事由ニ運送品カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルコト

第七百三十四條第一項ニ掲ケタル事由カ航海中ニ生シタルトキハ儲船者ハ運送ノ割合ニ應シ運送品ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

航海又ハ運送力法令ニ反ス

第七百六十一條 航海又ハ運送力法令ニ反ス

第七百六十二條 第七百六十條第一項第二號及ヒ前條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキハ儲船者ハ船舶所有者ノ負擔ヲ重カラシメサル範圍内ニ於テ他ノ運送品ヲ船積スルコトヲ得

儲船者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハント欲スルトキハ運送品ヲ運送品ノ陸揚又ハ船積ヲ爲スコトヲ要ス若シ其陸揚又ハ船積ヲ怠リタルトキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百六十三條 第七百六十條及ヒ第七百六十一條ノ規定ハ船舶ノ一部又ハ箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百六十條第一項第二號及ヒ第七百六十一條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキト雖モ儲船者又ハ荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

トヲ得此場合ニ於テハ運送品ヲ荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

トヲ得此場合ニ於テハ運送品ヲ荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ船積長ハ運送品ヲ供託スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ運送品ヲ船積者又ハ荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第七百五十五條 運送品ノ重量又ハ容積ヲ以テ運送品ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品引渡ノ當時ニ於ケル重量又ハ容積ニ依リテ之ヲ定ム

第七百五十六條 期間ヲ以テ運送貨ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品ノ船積著手ノ日ヨリ其陸揚終了ノ日マテノ期間ニ依リテ之ヲ定ム但船舶カ不可抗力ニ因リテ發航港若クハ航海ノ途中ニ於テ船積ヲ修繕スヘキトキ又ハ航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ其期間ハ之ヲ算入セス第七百四十一條第二項又ハ第七百五十二條第二項ノ場合ニ於テ船積期間又ハ陸揚期間經過ノ後運送品ノ船積又ハ陸揚ヲ爲シタル日數亦同シ

第七百五十七條 船舶所有者ハ第七百五十三條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ受ケル爲メ裁判所ノ許可ヲ得テ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

船積長カ荷受人ニ運送品ヲ引渡シタル後ト雖モ船舶所有者ハ其運送品ノ上ニ權利ヲ行使

第七百五十八條 船舶所有者カ前條ニ定メタル權利ヲ行ハサルトキハ儲船者又ハ荷送人ニ對スル請求權ヲ失フ但儲船者又ハ荷送人ハ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ヲ爲スコトヲ要ス

第七百五十九條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ儲船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタルトキハ其契約ノ履行カ船積長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船舶所有者ノミ其第三者ニ對シテ履行ノ責ニ任ス但第六百九十九條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第七百六十條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ其契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 第七百三十四條第一項ニ掲ケタル事由ニ運送品カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルコト

第七百三十四條第一項ニ掲ケタル事由カ航海中ニ生シタルトキハ儲船者ハ運送ノ割合ニ應シ運送品ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百六十四條 船舶所有者ハ左ノ場合ニ於テハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第七百六十七條 船長ハ傭船者又ハ荷送人ノ請求ニ因リ運送品ノ船積後運送ナク一通又ハ敷通ノ船積後運送品ヲ交付スルコトヲ要ス

長ノ氏名 三 運送品ノ種類、重量若クハ容積及ヒ其荷造ノ種類、箇數並ニ記號

各所持人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス船長カ第七百七十一條ノ規定ニ依リテ運送品ノ一部ヲ引渡シタル後他ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタル場合ニ於テ其殘部ニ付亦同シ

第七百八十二條 旅客カ發航前ニ死亡、疾病其他一身ニ關スル不可抗力ニ因リテ航海ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルキハ船舶所有者ハ運送貨ノ四分ノ一ヲ請求スルコトヲ得

第七百八十八條 船長カ船舶及ヒ積荷ヲシテ共同ノ危險ヲ免レシムル爲メ船舶又ハ積荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リテ生シタル損害

ルコトヲ要セス
 甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害亦同
 シ但沿岸ノ小航海ニ在リテハ此限ニ在ラス
 前二項ニ掲ケタル積荷ノ利害關係人ト雖モ
 共同海損ヲ分擔スル責ヲ免ルルコトヲ得ス
 第七百九十四條 共同海損タル損害ノ額ハ到
 達ノ地及ヒ時ニ於ケル船舶ノ價格又ハ陸揚
 ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之
 ヲ定ム但積荷ニ付テハ其減失又ハ毀損ノ爲
 メ支拂フコトヲ要セザリシ一切ノ費用ヲ控
 除スルコトヲ要ス
 第五百七十八條ノ規定ハ共同海損ノ場合ニ
 之ヲ準用ス
 第七百九十五條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ
 評定スルニ足ルヘキ書類ニ積荷ノ實價ヨリ
 低キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ニ加ヘ
 タル損害ノ額ハ其記載シタル價額ニ依リテ
 之ヲ定ム
 積荷ノ實價ヨリ價額ヲ記載シタルトキ
 ハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル價額
 ニ應ジテ共同海損ヲ分擔ス
 前二項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ボス
 ヘキ事項ニ付キ虛偽ノ記載ヲ爲シタル場合
 ニ之ヲ準用ス
 第七百九十六條 第七百八十九條ノ規定ニ依
 リテ利害關係人ハ共同海損ヲ分擔シタル後
 船舶、其屬具若クハ積荷ノ全部又ハ一部カ

其所有者ニ復シタルトキハ其所有者ハ價金
 中ヨリ救助料及ヒ一部減失又ハ毀損ニ因リ
 テ生シタル損害ノ額ヲ控除シタルモノヲ返
 還スルコトヲ要ス
 第七百九十七條 船舶カ雙方ノ船員ノ過失ニ
 因リテ衝突シタル場合ニ於テ雙方ノ過失ノ
 輕重ヲ判定スルコト能ハサルトキハ其衝突
 ニ因リテ生シタル損害ハ各船舶ノ所有者平
 分シテ之ヲ負擔ス
 第七百九十八條 共同海損又ハ船舶ノ衝突ニ
 因リテ生シタル債權ハ一年ヲ經過シタルト
 キハ時効ニ因リテ消滅ス
 前項ノ期間ハ共同海損ニ付テハ其計算終了
 ノ時ヨリ之ヲ起算ス
 第七百九十九條 本章ノ規定ハ船舶カ不可抗
 カニ因リテ發航港又ハ航海ノ途中ニ於テ碇泊
 ヲ爲ス爲メニ要スル費用ニ之ヲ準用ス
 第五章 海難救助
 第八百條 船舶又ハ積荷ノ全部又ハ一部カ海
 難ニ遭セシ場合ニ於テ義務ナクシテ之ヲ
 救助シタル者ハ其結果ニ對シテ相當ノ救助
 料ヲ請求スルコトヲ得
 第八百一條 救助料ニ付キ特約ナキ場合ニ於
 テ其額ニ付キ爭アルトキハ危險ノ程度、救
 助ノ結果、救助ノ爲メニ要シタル努力及ヒ
 費用其他一切ノ事情ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ

第八百二條 海難ニ際シ契約ヲ以テ救助料ヲ
 定メタル場合ニ於テ其額カ著シク不相當ナ
 ルトキハ當事者ハ其增加又ハ減少ヲ請求ス
 ルコトヲ得此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準
 用ス
 第八百三條 救助料ノ額ハ特約ナキトキハ救
 助セラレタル物ノ價額ニ超ユルコトヲ得ス
 先順位ノ先取特權アルトキハ救助料ノ額ハ
 先取特權者ノ債權額ヲ控除シタル殘額ニ超
 ヲスルコトヲ得ス
 第八百四條 數人カ共同シテ救助ヲ爲シタル
 場合ニ於テ救助料分配ノ割合ニ付テハ第八
 百一條ノ規定ヲ準用ス
 人命ノ救助ニ從事シタル者モ亦前項ノ規定
 ニ從ヒテ救助料ノ分配ヲ受クルコトヲ得
 第八百四條 救助ニ從事シタル船舶カ汽船ナ
 ルトキハ救助料ノ三分ノ二、帆船ナルトキ
 ハ其二分ノ一ヲ船舶所有者ニ支拂ヒ其殘額
 ハ折半シテ之ヲ船長及ヒ海員ニ支拂フコト
 ヲ要ス
 前項ノ規定ニ依リテ海員ニ支拂フヘキ金額
 ノ分配ハ船長之ヲ行フ此場合ニ於テハ前條
 ノ規定ヲ準用ス
 前二項ノ規定ニ反スル契約ハ無効トス
 第八百六條 船長カ前條第二項ノ規定ニ依リ
 救助料ノ分配ヲ爲スニハ航海ヲ終ハルマテ

ニ分配案ヲ作り之ヲ海員ニ告示スルコトヲ
 要ス
 第八百七條 海員カ前條ノ分配案ニ對シテ異
 議ノ申立ヲ爲サントスルトキハ其告示アリ
 タル後異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル最初ノ
 港ノ管海官應ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
 管海官應ハ異議ノ理由アリトスルトキハ分
 配案ヲ更正スルコトヲ得
 船長ハ異議ノ落著前ニハ救助料ノ支拂ヲ爲
 スコトヲ得ス
 第八百八條 船長カ分配案ノ作成ヲ怠リタル
 トキハ管海官應ハ海員ノ請求ニ因リ船長ニ
 對シテ分配案ノ作成ヲ命スルコトヲ得
 船長カ前項ノ命令ニ從ハサルトキハ管海官
 應ハ分配案ヲ作ルコトヲ得
 第八百九條 左ノ場合ニ於テハ救助者ハ救助
 料ヲ請求スルコトヲ得ス
 一 故意又ハ過失ニ因リテ海難ヲ惹起シ
 タルトキ
 二 正當ノ事由ニ因リテ救助ヲ拒マレタ
 ルニ拘ハラヌ強ヒテ之ニ從事シタルト
 キ
 三 救助シタル物品ヲ隠匿シ又ハ蓋ニ之
 ヲ處分シタルトキ
 第八百十條 救助者ハ其債權ニ付キ救助シタ
 ル積荷ノ上ニ先取特權ヲ有ス
 前項ノ先取特權ニハ船舶債權者ノ先取特權

ニ關スル規定ヲ準用ス
 第八百十一條 船長ハ救助料ノ債務者ニ代ハ
 リテ其支拂ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判
 外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
 救助料ニ關スル訴訟ニ於テハ船長ハ自ラ原告
 又ハ被告ト爲ルコトヲ得但其所ニ付キ言渡
 シタル判決ハ救助料ノ債務者ニ對シテモ其
 效力ヲ有ス
 第八百十二條 積荷ノ所有者ハ救助セラレタ
 ル物ヲ以テ救助料ヲ支拂フ義務ヲ負フ
 第八百十三條 積荷ノ上ニ存スル先取特權ハ
 債務者カ其積荷ヲ第三取得者ニ引渡シタル
 後ハ其積荷ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス
 第八百十四條 救助料ノ請求權ハ救助ヲ爲シ
 タル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ
 因リテ消滅ス
 第六章 保險
 第八百十五條 海上保險契約ハ航海ニ關スル
 事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ノ填
 補ヲ以テ其目的トス
 海上保險契約ニハ本章ニ別段ノ定アル場合
 ヲ除ク外第三編第十章第一節第一款ノ規定
 ヲ適用ス
 第八百十六條 保險者ハ本章又ハ保險契約ニ
 別段ノ定アル場合ヲ除ク外保險期間中保險
 ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生

シタル一切ノ損害ヲ填補スル責任ニ任ス
 第八百十七條 保險者ハ被保險者カ支拂フヘ
 キ共同海損ノ分擔額ヲ填補スル責任ニ任ス但
 保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於
 テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ
 對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム
 第八百十八條 船舶ノ保險ニ付テハ保險者ノ
 責任カ始マル時ニ於ケル其價額ヲ以テ保險
 價額トス
 第八百十九條 積荷ノ保險ニ付テハ其船積ノ
 地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ船積立ニ保險
 ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス
 第八百二十條 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利
 益又ハ報酬ノ保險ニ付テハ契約ヲ以テ保險
 價額ヲ定メサリシトキハ保險金額ヲ以テ保
 險價額トシタルモノト推定ス
 第八百二十一條 一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ
 付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ荷物
 又ハ底荷ノ船積ニ著手シタル時ヲ以テ始マ
 ル
 荷物又ハ底荷ノ船積ヲ爲シタル後船舶ヲ保
 險ニ付シタルトキハ保險者ノ責任ハ契約成
 立ノ時ヲ以テ始マル
 前二項ノ場合ニ於テ保險者ノ責任ハ到達港
 ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚カ終了シタル時
 ヲ以テ終ハル但陸揚カ不可抗力ニ因ラス
 シテ遲延シタルトキハ其終了スヘカリシ時

ヲ以テ終ハル
第八百二十二條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ其積荷カ陸地ヲ離レタル時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其陸揚力終了シタル時ヲ以テ終ハル
前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百二十三條 海上保險證券ニハ第六百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ其船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船長ノ氏名及ヒ發航港、到達港又ハ寄航港ノ定アルトキハ其港名

二 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船積港及ヒ陸揚港
第八百二十四條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ航海ヲ變更シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ
保險者ノ責任カ始マリタル後航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但ヒ其變更力保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ

因リタルトキハ此限ニ在ラス
到達港ヲ變更シ其實行ニ著手シタルトキハ保險シタル航路ヲ離レサルトキト雖モ航海ヲ變更シタルモノト看做ス
第八百二十五條 被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコトヲ意リ又ハ航路ヲ變更シ其他著シク危險ヲ變更又ハ增加以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但ヒ其變更又ハ增加力事故ノ發生ニ影響ヲ及ボサザルシトキ又ハ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可抗力若クハ正當ノ理由ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第八百二十六條 保險契約中ニ船長ヲ指定シタルトキト雖モ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ボサズ
第八百二十七條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但ヒ其變更力保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス
第八百二十八條 保險契約ヲ爲スニ當リ荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メザリシ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其荷物ヲ積込ムタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者

ニ對シテ船舶ノ名稱及ヒ國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
第八百二十九條 保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セス
一 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
二 船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サズ又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害
三 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ積荷者、荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
四 水先案内料、入港料、燈臺料、檢疫料其他船舶又ハ積荷ニ付キ航海ノ爲メニ出タル通常ノ費用
第八百三十條 共同海損ニ非サル損害又ハ費用カ其計算ニ關スル費用ヲ算入セスシテ保險額ノ百分ノ二ヲ超エサルトキハ保險者ハ之ヲ填補スル責ニ任セス

受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス
第八百三十七條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス
委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但ヒ委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テノミ之ヲ爲スコトヲ得
保險額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ保險額ニ對スル割合ニ應ジテ之ヲ爲スコトヲ得
第八百三十八條 保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス
第八百三十九條 保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス
被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

第八百四十條 被保險者ハ委付ヲ爲スニ當テリ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約並ニ其負擔ニ關スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス
保險者ハ前項ノ通知ヲ受ケルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス
保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

超エタルトキハ保險者ハ其金額ヲ支拂フコトヲ要ス
前二項ノ規定ハ當事者カ契約ヲ以テ保險者ノ負擔セサル損害又ハ費用ノ割合ヲ定メタル場合ニ之ヲ準用ス
前二項ニ定メタル割合ハ各航海ニ付キ之ヲ計算ス
第八百三十一條 保險ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタルトキハ保險者ハ其積荷カ毀損シタル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セサル狀況ニ於テ有スヘカリシ價額ニ對スル割合ヲ以テ保險價額ノ一部ヲ填補スル責ニ任ス
第八百三十二條 航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ其賣却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送費其他ノ費用ヲ控除シタルモノト保險價額トノ差ヲ以テ保險者ノ負擔トス但ヒ保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ第六百三十六條ノ適用ヲ妨ケズ
前項ノ場合ニ於テ買主カ代價ヲ支拂ハサルトキハ保險者ハ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス但其支拂ヲ爲シタルトキハ被保險者ノ買主ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス
第八百三十三條 左ノ場合ニ於テハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金額ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

一 船舶カ沈没シタルトキ
二 船舶ノ行方カ知レサルトキ
三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ
四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ
五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六ヶ月間解放セラレサルトキ
第八百三十四條 船舶ノ存否カ六ヶ月間分明ナラサルトキハ其船舶ノ行方ノ知レサルモノトス
保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間内ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得但船舶カ保險期間内ニ滅失セザリシコトノ證明アリタルトキハ其委付ハ無効トス
第八百三十五條 第八百三十三條第三號ノ場合ニ於テ船長カ運送ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ヲ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ委付スルコトヲ得ス
第八百三十六條 被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三ヶ月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
前項ノ期間ハ第八百三十三條第一號、第三號及ヒ第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス
再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ

受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス
第八百三十七條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス
委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但ヒ委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テノミ之ヲ爲スコトヲ得
保險額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ保險額ニ對スル割合ニ應ジテ之ヲ爲スコトヲ得
第八百三十八條 保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス
第八百三十九條 保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス
被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス
第八百三十七條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス
委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但ヒ委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テノミ之ヲ爲スコトヲ得
保險額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ保險額ニ對スル割合ニ應ジテ之ヲ爲スコトヲ得
第八百三十八條 保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス
第八百三十九條 保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス
被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

第八百四十一條 保險者カ委付ヲ承認セサルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

第七章 船舶債權者

第八百四十二條 左ニ掲ケタル債權ヲ有スル者ハ船舶、其屬具及ヒ未タ受取ラサル運送賃ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 船舶並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費
- 二 最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費
- 三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅
- 四 水先案内料及ヒ挽船料
- 五 救助料及ヒ船舶ノ負擔ニ履スル共同海損
- 六 航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權
- 七 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權
- 八 船舶カ其賣買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合ニ於テ其賣買又ハ製造並ニ修繕ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ修繕、食料並ニ燃料ニ關スル債權
- 九 第二號、第四號乃至第六號及ヒ前號

ニ掲ケタルモノヲ除ク外第六百九十條ノ規定ニ依リ委付ヲ許シタル債權

第八百四十三條 船舶債權者ノ先取特權ハ運送賃ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送賃ノ上ニノミ存在ス

第八百四十四條 船舶債權者ノ先取特權カ五ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第八百四十二條ニ掲ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ノ債權間ニ在リテハ後ニ生シタルモノノ前ニ生シタルモノニ先ツ同順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應ジテ辨濟ヲ受ク但第八百四十二條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セサリシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノノ前ニ先取特權カ數回ノ航海ニ付テ生シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラス後ノ航海ニ付テ生シタルモノノ前ノ航海ニ付テ生シタルモノノ先ツ

先取特權者カ前項ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲ササリシトキハ其先取特權ハ消滅ス

第八百四十七條 船舶債權者ノ先取特權ハ其發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第八百四十八條 先取特權ハ船舶ノ發航ニ因リテ消滅ス

第八百四十九條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

船舶ノ抵當權ハ其屬具ニ及フ

船舶ノ抵當權ニハ不動産ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス

第八百五十條 船舶ノ先取特權ハ抵當權ニ先テ之ヲ行フコトヲ得

第八百五十一條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得

第八百五十二條 本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(明治四十四年勅令二百十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

商法中改正法律 施行法

(法律第七十三號 昭和十三年四月四日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法中改正法律施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本法ニ於テ新法トハ昭和十三年商法中改正法律ニ依リ改正規定ヲ謂ヒ舊法トハ從前ノ規定ヲ謂フ

第二條 新法ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外新法施行前ニ生シタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但シ舊法ニ依リテ生シタル效力ヲ妨グズ

第三條 新法第八條ノ小商人トハ資本金額二千圓ニ滿タザル商人ニシテ會社ニ非ザル者ヲ謂フ

第四條 新法第十一條第二項ノ規定ハ新法施行前ニ登記シタル事項ニ付新法施行後公告ヲ爲ス場合ニモ之ヲ適用ス

第五條 新法第十九條、第二十條第二項、第二十五條第一項及第五百二十七條第三項ニ掲グル市町村ハ市制又ハ町村制ヲ施行セザル地方ニ在リテハ之ニ準ズル區域トス

新法第十九條、第二十條第二項及第二十五條第一項ニ掲グル市ハ東京市、京都市、大阪市、横浜市、神戸市及名古屋市ニ在リテ

ハ其ノ各區トス

第六條 新法第二十二條ノ規定ハ新法施行前ニ商號ヲ使用シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第七條 新法第二十五條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ北海道及樺太ハ各之ヲ一府縣ト看做ス

第八條 新法第二十六條ノ規定ハ新法施行前ニ營業ノ讓渡アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第九條 新法第三十條ノ規定ハ商號ノ登記ヲ爲シタル者ガ新法施行前ヨリ商號ヲ使用セザル場合ニ於テハ新法施行ノ前後ノ期間ヲ通算シテ之ヲ適用ス

第十條 新法第五十八條第一項ノ規定ハ會社ガ新法施行前ヨリ開業ヲ爲サズ又ハ營業ヲ休止シタル場合ニ於テハ新法施行ノ前後ノ期間ヲ通算シテ之ヲ適用ス

第十一條 會社ガ新法施行前ニ成立シタル場合ニ於テハ其ノ設立ノ登記ニ付テハ舊法ヲ適用ス

前項ノ規定ハ新法施行前ニ支店ノ設置、本店若ハ支店ノ移轉、登記事項ノ變更又ハ會社ノ解散アリタル場合ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十二條 新法施行前ニ舊法ニ依リテ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ハ新法施行ノ日ヨリ六月内ニ、新法施行後舊法ニ依リテ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ハ登記ノ日ヨリ六月内ニ

會社ノ設立ニ付新法ニ依リ新ニ登記スベキモノト爲リタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ會社ノ業務ヲ執行スル社員又ハ取締役ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十三條 新法第八十六條乃至第八十八條ノ規定ハ新法施行前ニ生シタル事由ニ基キ合名會社ノ社員ノ除名又ハ業務執行權若ハ代表權ノ喪失ノ宣告ヲ請求スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 新法第九十條及第九十一條ノ規定ハ新法施行前ニ合名會社ノ社員ノ持分ヲ差押ヘタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十五條 新法第九十五條又ハ第四百六條ノ規定ハ合名會社又ハ株式會社ガ新法施行前ニ解散シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ合資會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

新法第九十七條ノ規定ハ合名會社ガ新法施行前ニ解散ノ登記ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第十六條 合併ヲ爲ス會社ノ全部ガ新法施行前ニ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ合併ニ付テハ舊法ヲ適用ス

第十七條 新法第百條第一項若ハ第四百二十一條又ハ其ノ準用規ニ依リ爲スベキ公告ハ裁判所ガ爲スベキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十八條 新法施行前ニ爲シタル合併ニ付テハ新法施行ノ日ヨリ六月内ニ、新法施行後舊法ニ依リテ爲シタル合併ニ付テハ本店ノ所在地ニ於テ合併ニ關スル登記ヲ爲シタル日ヨリ六月内ニ限り合併無効ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第十九條 新法第百四條第三項、第百五條第三項第四項及第百六條乃至第百一十一條ノ規定ハ新法第百四條第一項ニ掲グル者ガ新法施行前ニ提起シタル合併ノ無効確認ノ訴ニ適用ス但シ其ノ訴ニ付爲シタル判決ガ新法施行前ニ確定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 規定ハ合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十一條 規定ハ新法第百四十五條ニ掲グル者ガ新法施行前ニ提起シタル合併ノ無効確認ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二十二條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十三條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十四條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十五條 規定ハ株式合資會社、株式會社及株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十六條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十七條 規定ハ新法第百四十九條第二項ノ規定ハ新法施行前ニ登記アリタル事項ニ付新法施行後公告ヲ爲ス場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十八條 新法第百六十二條第一項但書ノ規定ハ合資會社ガ新法施行前ニ解散シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 株式會社ガ新法第百六十六條第二項ニ定ムル公告方法ト異ル定ヲ爲シタル

第三十條 新法施行後ハ裁判所ハ舊法ニ依リ會社ノ解散ニ代ヘテ或社員ヲ除名スルコトヲ得ズ

第三十一條 規定ハ合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十二條 規定ハ株式合資會社及株式合資會社ガ新法施行前ニ組織變更ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ組織變更ニ付テハ舊法ヲ適用ス

第三十三條 會社ガ新法施行前ニ解散シタル場合ニ於テハ其ノ清算ニ付テハ舊法ヲ適用ス

第三十四條 株式會社ノ解散ノ場合ニ於テ債權申出ノ期間ガ新法施行後ニ互ルトキハ新法施行前ニ舊法ニ依リテ爲シタル手續ヲ除クノ外其ノ清算ニ付テハ新法ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ清算人ハ新法施行後選任ナク新法第百四十八條及第百四十九條第二項ニ定ムル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三十五條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十六條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十七條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十八條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十九條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十一條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十二條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十三條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十四條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

場合ニ於テハ新法施行前ニ成立シタル會社ニ在リテハ新法施行ノ日ヨリ六月内ニ、新法施行後舊法ニ依リテ成立シタル會社ニ在リテハ成立ノ日ヨリ六月内ニ其ノ定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第三十條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十一條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十二條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十三條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十四條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十五條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十六條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十七條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十八條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三十九條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十一條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十二條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十三條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十四條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十五條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十六條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十七條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十八條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第四十九條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第五十條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第五十一條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第五十二條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第五十三條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第五十四條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第五十五條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第五十六條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第五十七條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第五十八條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第五十九條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第六十條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第六十一條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第六十二條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第六十三條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第六十四條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第六十五條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第六十六條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第六十七條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第六十八條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第六十九條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第七十條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第七十一條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第七十二條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第七十三條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第七十四條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第七十五條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第七十六條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第七十七條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第七十八條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第七十九條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第八十條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第八十一條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第八十二條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第八十三條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第八十四條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第八十五條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第八十六條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第八十七條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第八十八條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第八十九條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第九十條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第九十一條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第九十二條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第九十三條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第九十四條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第九十五條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第九十六條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第九十七條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第九十八條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第九十九條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第一百條 規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

ノ請求ハ新法ハ新法施行ノ日ヨリ三月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
 新法第二百六十八條第三項ノ規定ハ新法施行前ニ提起シタル訴ニモ亦之ヲ適用ス
 第四十五條 前二條ノ規定ハ監査役又ハ清算人ニ對シテ提起スル訴ニ之ヲ適用ス
 第四十六條 新法施行前ノ假處分ニ因リ新法施行ノ際職務ヲ執行スル者ニ付テハ新法第二百七十條第三項ノ規定ニ依リ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ノ規定ハ新法施行ノ際職務ヲ執行スル者ニ付テハ新法第二百七十條第三項ノ規定ニ依リ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第四十七條 新法第二百七十一條ノ規定ハ新法施行前ニ選任シタル取締役ノ職務代行者ニモ亦之ヲ適用ス
 前項ノ規定ハ清算人ノ職務代行者ニ之ヲ適用ス
 第四十八條 新法施行ノ際舊法第八十四條第一項但書ノ規定ニ依リ取締役ノ職務ヲ行フ監査役ニ付テハ新法施行ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ新法第二百七十六條第二項ノ規定ニ依リ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ノ規定ハ新法施行ノ際清算人ノ職務ヲ行フ監査役ニ之ヲ適用ス

第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ會社ノ取締役其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス第二項ノ規定ニ違反シタルトキ其ノ會社ノ清算人及其ノ職務ヲ行フ監査役ニ付亦同ジ
 第四十九條 株式會社ノ財産目録、貸借對照表及損益計算書ノ記載方法其ノ他ノ様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十條 新法第二百八十一條又ハ第四百二十條ニ掲グル書類ハ新法施行前ニ株主總會招集ノ通知ヲ發シタル場合ニ於テハ舊法ニ依リ之ヲ提出スルヲ以テ足ル
 第五十一條 新法第二百八十一條又ハ第四百二十條ニ掲グル書類及監査役ノ報告書ハ新法施行前ニ株主總會招集ノ通知ヲ發シタル場合ニ於テハ舊法ニ依リ之ヲ備置クヲ以テ足ル
 第五十二條 株式會社ガ新法施行前ニ新法第二百八十六條ニ掲グル金額又ハ稅額ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上シタル場合ニ於テハ新法施行ノ日ヨリ五年内ニ、若シ新法施行後利息ノ配當ヲ止メタルトキハ之ヲ止メタル後五年内ニ同條ノ規定ニ依リ償却ヲ爲スコトヲ要ス
 第五十三條 株式會社ガ新法施行前ニ新法第二百八十七條ノ差額又ハ新法第二百九十一條ノ配當金額ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計

上シタル場合ニ於テハ新法第二百八十七條又ハ第二百九十一條第三項ノ規定ニ依リ償却ヲ爲スコトヲ要ス
 第五十四條 新法第二百九十五條ノ規定ハ新法施行前ニ生ジタル債權ニモ亦之ヲ適用ス
 第五十五條 株式會社ガ新法施行前ニ社債ノ募集ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ社債ノ募集ニ付テハ舊法ヲ適用ス
 第五十六條 銀行又ハ信託會社ニ非ザレバ社債募集ノ委託ヲ受ケ又ハ新法第三百十四條ノ事務承繼者ト爲ルコトヲ得ズ
 前項ノ規定ハ新法施行前ニ社債募集ノ委託ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ
 第五十七條 新法第三百九條乃至第三百十四條ノ規定ハ新法施行前ニ社債募集ノ委託ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ
 第五十八條 新法第三百十六條ノ規定ハ新法施行前ニ生ジタル債權ニモ亦之ヲ適用ス
 第五十九條 新法第二編第四章第五節第二款ノ規定ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル者ノ事務處理ニ關スルモノヲ除クノ外舊法ニ依リテ募集シタル社債ニモ亦之ヲ適用ス
 第六十條 新法第三百二十條第四項若ハ三百二十一條第二項又ハ其ノ準用規定ニ依リ爲スベキ供託ハ供託局ニ之ヲ爲サザル場合ニ於テハ司法大臣ノ指定スル銀行又ハ信託會社ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十一條 社債權者集會ノ招集、償還額ノ支拂又ハ償還ニ關スル社債權者集會ノ決議ノ執行ニ當リ爲スベキ公告ハ社債ヲ發行シタル定款ニ定ムル公告方法ニ依ルコトヲ要ス
 第六十二條 新法施行前ニ資本増加ノ爲株式ノ募集ニ着手シタル場合ニ於テハ其ノ資本増加ニ付テハ舊法ヲ適用ス
 第六十三條 株式會社ガ新法施行前ニ資本減少ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ資本減少ニ付テハ舊法ヲ適用ス
 新法第三百七十六條第三項ノ規定ハ舊法ニ依リ資本減少ニ於テ債權者ノ異議ヲ述ブベキ期間ガ新法施行後ニ互ル場合ニモ亦之ヲ適用ス
 第六十四條 新法施行前ニ爲シタル資本ノ増加又ハ減少ニ付テハ新法施行ノ日ヨリ六月内ニ、新法施行後舊法ニ依リテ爲シタル資本ノ増加又ハ減少ニ付テハ本店ノ所在地ニ於テ資本ノ増加又ハ減少ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ六月内ニ限リ其ノ無効ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
 第六十五條 新法第三百七十二條乃至第三百七十四條又ハ第三百八十條第三項ノ規定ハ新法第三百七十一條第二項又ハ第三百八十八條第二項ニ掲グル者ガ新法施行前ニ提起シタル資本ノ増加又ハ減少ノ無効確認ノ訴ニ

モ亦之ヲ適用ス但シ其ノ訴ニ付爲シタル判決ガ新法施行前ニ確定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第六十六條 第六十三條第二項ノ規定ハ株式會社ノ合併ノ場合ニ之ヲ適用ス
 第六十七條 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ニ新法施行ノ際合併ニ因リテ承繼シタル社債アルトキハ新法施行ノ日ヨリ一月内ニ新法第四百十四條第二項ノ規定ニ依リ社債ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ會社ノ取締役ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス
 第六十八條 第二十九條乃至前條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テ取締役トアルハ業務ヲ執行スル社員トス
 第六十九條 新法第四百七十一條ノ規定ハ株式會社ガ新法施行前ニ解散シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス
 第七十條 新法第四百八十四條第一項ノ規定ハ外國會社ノ日本ニ於ケル支店ガ新法施行前ヨリ開業ヲ爲サズ又ハ營業ヲ休止シタル場合ニ於テハ新法施行ノ前後ノ期間ヲ通算シテ之ヲ適用ス
 第七十一條 新法第四百八十五條ノ規定ハ新法施行前ニ外國會社ノ支店ニ對シテ其ノ閉鎖ヲ命ジ又ハ外國會社ガ其ノ支店ヲ閉鎖シ

タル場合ニモ亦之ヲ適用ス
 第七十二條 新法施行前ニ舊法第十八條第二項及第二編第七章ノ規定ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ新法施行後ト雖モ其ノ規定ヲ適用ス
 新法施行後舊法ニ依ルベキ場合ニ於テ舊法第二編第七章ノ規定ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ新法第二編第七章ノ規定ヲ適用ス
 附則
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 商法施行法第七條、第十四條、第十六條及第三十三條ノ規定ハ之ヲ削除ス

有限會社法

(昭和十三年四月四日)
法律第七十四號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル有限會社法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ有限會社トハ商行爲其ノ他ノ營利行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ本法ニ依リ設立シタル社團ヲ謂フ

第二條 有限會社ハ法人トス

第三條 有限會社ノ商行爲ヲ爲スヲ業トセザルモノ之ヲ商人ト看做ス

第四條 有限會社ノ商號中ニハ有限會社ナル文字ヲ用フルコトヲ要ス

第五條 有限會社ニ非ザル者ハ商號中 有限會社タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ 有限會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同シ

第六條 商法第五十四條第二項、第五十五條及第五十七條乃至第六十一條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第二章 設立

第七條 有限會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス

商法第六十七條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第六條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ各社員之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 目的
 - 二 商號
 - 三 資本ノ總額
 - 四 出資一口ノ金額
 - 五 社員ノ氏名及住所
 - 六 各社員ノ出資ノ口數
 - 七 本店及支店ノ所在地
- 第七條 左ノ事項ハ之ヲ定款ニ記載スルニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ
- 一 存立時期又ハ解散ノ事由
 - 二 現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目
 - 三 現物出資ノ其ノ價格及之ニ對シテ與タル財產、其ノ價格及之ニ對シテ與タル財產、其ノ價格及之ニ對シテ與タル財產、其ノ價格及之ニ對シテ與タル財產
 - 四 會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用
 - 五 會社ノ財產、其ノ價格及讓渡人ノ氏名
 - 六 社員ノ總數ハ五十人ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ裁判所ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 - 七 前項ノ規定ハ遺產相續又ハ遺贈ニ因リ社員ノ數ニ變更ヲ生ズル場合ニハ之ヲ適用セズ
 - 八 資本ノ總額ハ一萬圓ヲ下ルコトヲ得

第十條 出資一口ノ金額ハ均一トシ百圓ヲ下ルコトヲ得ズ

第十一條 定款ヲ以テ取締役ヲ定メザルトキハ會社成立前社員總會ヲ開キ之ヲ選任スルコトヲ要ス

第十二條 前項ノ社員總會ハ各社員之ヲ招集スルコトヲ得

第十三條 取締役ハ社員ヲシテ出資全額ノ拂込又ハ現物出資ノ目的タル財產全部ノ給付ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第十四條 商法第七十二條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 有限會社ノ設立ノ登記ハ前條ノ拂込又ハ給付アリタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十六條 前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 第六條第一號乃至第四號ニ掲ル事項
- 二 本店及支店
- 三 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
- 四 取締役ノ氏名及住所
- 五 取締役ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名
- 六 數人ノ取締役ガ共同シ又ハ取締役ガ

第四章 會社ノ管理

第二十五條 有限會社ニハ一人又ハ數人ノ取締役ヲ置クコトヲ要ス

第二十六條 取締役數人アル場合ニ於テ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務執行ハ取締役ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス支配人ノ選任及解任亦同シ

第二十七條 取締役ハ會社ヲ代表ス

第二十八條 取締役ハ定款及社員總會ノ議事録ヲ本店及支店ニ、社員名簿ヲ本店ニ備置クコトヲ要ス

第二十九條 社員名簿ニハ社員ノ氏名及住所並ニ其ノ出資ノ口數ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十條 社員及會社ノ債權者ハ營業時間內何時ニモ第一項ニ掲グル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 取締役ハ社員總會ノ認許アルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ノ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員若ハ取締役ガ前項ノ規定ニ違反シテ自己ノ爲ニ取引ヲ爲シタルトキハ社員總會ハ之ヲ以テ會社ノ爲ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

第三十二條 前項ニ定ムル權利ハ監査役アルトキハ監査役ノ一人、監査役ナキトキハ他ノ取締役ノ

第三章 社員ノ權利義務

第三十三條 社員ノ責任ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ出資ノ金額ヲ限度トス

第三十四條 各社員ハ其ノ出資ノ口數ニ應ジテ持分ヲ有ス

第三十五條 社員ハ第四十八條ニ定ムル社員總

第五章 會社ノ決議

第三十六條 會ノ決議アルトキニ限リ其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但シ定款ヲ以テ讓渡ノ制限ヲ加重スルコトヲ妨ゲズ

第三十七條 讓渡ニ因リ社員ノ總數ガ第八條第一項ノ規定ニ依リ制限ヲ超ユル場合ニ於テハ遺贈ノ場合ヲ除クノ外其ノ讓渡ヲ無効トス

第三十八條 社員相互間ノ持分ノ讓渡ニ付テハ第一項ノ規定ニ拘ラズ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 持分ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所並ニ移轉スル出資口數ヲ社員名簿ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ會社其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四十條 有限會社ハ持分ニ付指圖式又ハ無記名式ノ證券ヲ發行スルコトヲ得

第四十一條 商法第二百三條ノ規定ハ持分ガ數人ノ共有ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 持分ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得

第四十三條 第十九條第一項及第二十條ノ規定ハ持分ノ質入ニ之ヲ準用ス

第四十四條 商法第二百八條第一項、第二百九條第一項、第二百十條、第二百十一條及第二百十二條第一項ノ規定ハ社員ノ持分ニ之ヲ準用ス

第四十五條 商法第二百四條第一項及第二項ノ規定ハ社員ニ對スル通知又ハ催告ニ之ヲ準用ス

一人ガ其ノ取引ヲ知りタル時ヨリ二日間之ヲ行使セザルトキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同ジ

第三十條 取締役ハ監査役アルトキハ其ノ承認、監査役ナキトキハ社員總會ノ認許ヲ得タルトキニ限り自己又ハ第三者ノ爲ニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民法第百八條ノ規定ヲ適用セズ

第三十一條 社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ガ訴ノ提起ヲ會社ニ請求シタルトキハ會社ハ請求ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨グズ

第三十二條 商法第二百五十四條、第二百五十七條、第二百五十八條、第二百六十一條、第二百六十二條、第二百六十六條、第二百六十七條、第二百六十八條第二項乃至第二百五項及第二百六十九條乃至第二百七十二條ノ規定ハ取締役ニ之ヲ準用ス

第三十三條 有限會社ハ定款ニ依リ一人又ハ數人ノ監査役ヲ置クコトヲ得

第三十一條ノ規定ハ定款ニ於テ監査役ヲ置クコトヲ定メタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 第三十一條並ニ商法第二百五十

四條、第二百五十七條、第二百五十八條、第二百六十六條、第二百六十七條、第二百六十八條第二項乃至第二百五項、第二百六十九條、第二百七十條、第二百七十二條及第二百七十四條乃至第二百七十八條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス

第三十五條 社員總會ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外取締役之ヲ召集ス

第三十六條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ一週間前ニ各社員ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但シ此ノ期間ハ定款ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ妨グズ

第三十七條 資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ハ會議ノ目的タル事項及召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條第二項及商法第二百三十七條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條 總會ハ社員ノ同意アルトキハ招集ノ手續ヲ經ズシテ之ヲ開クコトヲ得

第三十九條 各社員ハ出資一口ニ付一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ヲ以テ議決權ノ數ニ付別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨グズ

第四十條 有限會社ガ左ノ行爲ヲ爲スニハ第四十八條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス

一 營業ノ全部又ハ一部ノ讓渡

二 營業全部ノ貸貸、其ノ經營ノ委任、他人ト營業上ノ損益全部ヲ共通ニスル契約其ノ他之ニ準ズル契約ノ締結、變更又ハ解約

三 他ノ會社ノ營業全部ノ讓受

四 取締役又ハ監査役ノ任務懈怠ニ因ル責任ノ免除

第三十一條ノ規定ハ前項第四號ノ決議アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ規定ハ有限會社ガ其ノ成立後二年內ニ其ノ成立前ヨリ存在スル財産ニシテ營業ノ爲ニ繼續シテ使用スベキモノヲ資本ノ二十分ノ一以上ニ當ル對價ヲ以テ取得スル契約ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條 商法第二百三十四條乃至第二百三十六條、第二百三十八條、第二百三十九條第一項第三項第四項、第二百四十條、第二百四十一條第二項、第二百四十三條、第二百四十四條及第二百四十七條乃至第二百五十三條ノ規定ハ社員總會ニ之ヲ準用ス

第四十二條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

決議ノ目的タル事項ニ付社員ガ書面ヲ以テ同意ヲ表シタルトキハ書面ニ依ル決議アリタルモノト看做ス

書面ニ依ル決議ハ總會ノ決議ト同一ノ效力

ヲ有ス

總會ニ關スル規定ハ書面ニ依ル決議ニ之ヲ準用ス

第四十三條 取締役ハ毎決算期ニ左ノ書類ヲ作ルコトヲ要ス

一 財産目錄

二 貸借對照表

三 營業報告書

四 損益計算書

五 準備金及利益ノ配當ニ關スル議案

監査役アルトキハ取締役ハ定時總會ノ會日ヨリ二週間前ニ前項ノ書類ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

第四十四條 利益ノ配當ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出資ノ口數ニ應ジテ之ヲ爲ス

第四十五條 有限會社ノ業務ノ執行ニ關シテ正ノ行爲又ハ法令若ハ定款ニ違反スル重大ナル事實アルコトヲ疑フベキ事由アルトキハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ裁判所ニ檢査役ノ選任ヲ請求スルコトヲ得

檢査役ハ其ノ調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ監査役アルトキハ監査役、監査役

ナキトキハ取締役ヲシテ社員總會ヲ召集セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ商法第八十一條第二項及第八十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四十六條 商法第二百八十二條、第二百八十三條第一項、第二百八十四條乃至第二百八十六條、第二百八十八條第一項、第二百八十九條及第二百九十條ノ規定ハ有限會社ノ計算ニ之ヲ準用ス

商法第二百九十五條ノ規定ハ有限會社ト使用人トノ間ノ雇傭關係ニ基キ生ジタル債權ニ之ヲ準用ス

第五章 定款ノ變更

第四十七條 定款ノ變更ヲ爲スニハ社員總會ノ決議アルコトヲ要ス

第四十八條 前條ノ決議ハ社員ノ半數以上ニシテ社員ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ有スル者ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ議決權ヲ行使スルコトヲ得ザル社員ハ之ヲ總社員ノ數ニ、其ノ行使スルコトヲ得ザル議決權ハ之ヲ議決權ノ數ニ算入セズ

第四十九條 左ノ事項ハ定款ニ別段ノ定ナキトキト雖モ資本増加ノ決議ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

一 現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目

のタル財産、其ノ價格及之ニ對シテ與フル出資口數

二 資本ノ増加後ニ讓受クルコトヲ約シタル財産、其ノ價格及讓受人ノ氏名

三 増加スル資本ニ付しテ出資ノ引受ヲ爲ス權利ヲ與フベキ者及其ノ權利ノ內容

第五十條 有限會社ガ特定ノ者ニ對シ將來其ノ資本ヲ増加スル場合ニ於テ出資ノ引受ヲ爲ス權利ヲ與フベキコトヲ約スルニハ第四十八條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス

第五十一條 社員ハ増加スル資本ニ付其ノ持分ニ應ジテ出資ノ引受ヲ爲ス權利ヲ有ス但シ前二條ノ決議ニ依リ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十二條 資本増加ノ場合ニ於テ出資ノ引受ヲ爲サントスル者ハ引受ヲ證スル書面ニ其ノ引受クベキ出資ノ口數及住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

有限會社ハ廣告其ノ他ノ方法ニ依リ引受人ヲ公募スルコトヲ得ズ

第五十三條 有限會社ハ出資全額ノ拂込又ハ現物出資ノ目的タル財産ノ給付アリタル日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ資本増加ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 増加シタル資本ノ額
二 資本増加ノ決議ノ年月日
第五十四條 第四十九條第一號及第二號ノ財
產ノ資本増加當時ニ於ケル實價ガ資本増加
ノ決議ニ依リ定メタル價格ニ著シク不足ス
ルトキハ其ノ決議ニ同意シタル社員ハ會社
ニ對シ連帶シテ其ノ不足額ヲ支拂フ義務ヲ
負フ
第五十五條 引受ナキ出資又ハ出資全額ノ拂
込若ハ現物出資ノ目的タル財產ノ給付ノ未
濟ナル出資アルトキハ取締役及監査役ハ連
帶シテ其ノ引受ヲ爲シ又ハ拂込若ハ給付未
濟財產ノ價額ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ
第五十六條 第十六條ノ規定ハ前二條ノ場合
ニ之ヲ準用ス
第五十七條 第十二條及第四十條第三項並ニ
商法第二百條第二項、第三百五十二條、第
三百五十八條第一項、第三百七十一條、第
三百七十二條、第三百七十三條第一項及第
三百七十四條ノ規定ハ資本増加ノ場合ニ之
ヲ準用ス
第五十八條 商法第三百七十六條第一項第二
項、第三百七十九條第一項第二項及第三百
八十條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用
ス

第五十九條 有限會社ハ他ノ有限會社ト合併
ヲ爲スコトヲ得但シ合併後存續スル會社又
ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ有限會社ナ
ルコトヲ要ス
會社ガ前項ノ規定ニ依リ合併ヲ爲スニハ第
四十八條ニ定ムル決議アルコトヲ要ス
合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ
定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各會
社ニ於テ選任シタル設立委員共同シテ之ヲ
爲スコトヲ要ス
第六十條 有限會社ハ株式會社ト合併ヲ爲ス
コトヲ得此ノ場合ニ於テハ合併ヲ爲ス株式
會社又ハ合併ニ因リテ設立スル株式會社ニ
關シテハ商法ノ規定ニ從フコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ合併後存續スル會社又ハ
合併ニ因リテ設立スル會社ガ株式會社ナル
トキハ合併ハ裁判所ノ認可ヲ受クルニ非ザ
レバ其ノ效力ヲ有セズ
合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ社債ノ償還ヲ完了
セザル株式會社ナルトキハ合併後存續スル
會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ有限
會社タルコトヲ得ズ
前條第二項乃至第四項ノ規定ハ第一項ノ規
定ニ依リ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス
第六十一條 前條第一項ノ場合ニ於テ合併後

存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會
社ガ有限會社ナルトキハ商法第二百八條第
一項ノ規定ハ從前ノ株式ヲ目的トスル債權
ニ之ヲ準用ス
前項ノ場合ニ於テハ債權ノ目的タル持分ニ
付テ出資口數並ニ質權者ノ氏名及住所ヲ社員
名簿ニ記載スルニ非ザレバ其ノ質權ヲ以テ
會社其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
第六十二條 有限會社ガ合併ヲ爲シタルトキ
ハ第六十三條ニ於テ準用スル商法第四百十
二條又ハ第四百十三條ノ規定ニ依リ社員總
會ノ終結ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二
週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ合
併後存續スル有限會社ニ付テハ變更ノ登記
合併ニ因リテ消滅スル有限會社ニ付テハ解
散ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル有限會
社ニ付テハ第十三條第二項ニ定ムル登記ヲ
爲スコトヲ要ス
第六十三條 商法第九十八條第二項、第九十
九條、第一百條、第一百零二條乃至第一百零
九條、第一百七十九條第一項第二項、第四百八
條乃至第四百十條、第四百十二條、第四百十
三條及第四百十五條ノ規定ハ有限會社ニ之
ヲ準用ス
第六十四條 株式會社ハ總株主ノ一致ニ依リ
總會ノ決議ヲ以テ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ
有限會社ト爲スコトヲ得但シ社債ノ償還ヲ

第六章 合併及組織變更

完了セザル場合ニ於テハ此ノ限ニテラズ
前項ノ組織變更ノ場合ニ於テハ會社ニ現存
スル純財產額ヨリ多キ金額ヲ以テ資本ノ總
額ト爲スコトヲ得ズ
第一項ノ決議ニ於テハ定款其ノ他組織ノ變
更ニ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ要ス
第六十一條ノ規定ハ第一項ノ組織變更ノ場
合ニ之ヲ準用ス
第六十五條 前條ノ組織變更ノ場合ニ於テ會
社ニ現存スル純財產額ガ資本ノ總額ニ不足
スルトキハ前條第一項ノ決議當時ノ取締役
監査役及株主ハ會社ニ對シ連帶シテ其ノ
不足額ヲ支拂フ義務ヲ負フ
第六十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第六十六條 株式會社ガ第六十四條ノ規定ニ
依リ其ノ組織ヲ變更シタルトキハ本店ノ所
在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テ
ハ三週間内ニ株式會社ニ付テハ解散ノ登記
有限會社ニ付テハ第十三條第二項ニ定ムル
登記ヲ爲スコトヲ要ス
第六十七條 有限會社ハ總社員ノ一致ニ依リ
總會ノ決議ヲ以テ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ
株式會社ト爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ會社ニ現存スル純財產
額ヨリ多キ金額ヲ以テ拂込ミタル株主金額ト
爲スコトヲ得ズ
第一項ノ組織變更ハ裁判所ノ認可ヲ受クル

ニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ
第六十一條第一項、第六十四條第三項、第
六十五條及前條並ニ商法第二百九條第三項
ノ規定ハ第一項ノ組織變更ノ場合ニ之ヲ準
用ス
第六十八條 商法第九十九條及第一百條ノ規定
ハ第六十四條及前條ノ組織變更ノ場合ニ之
ヲ準用ス
第七章 解散
第六十九條 有限會社ハ左ノ事由ニ因リテ解
散ス
一 存立時期ノ滿了其ノ他定款ニ定メタ
ル事由ノ發生
二 社員總會ノ決議
三 會社ノ合併
四 營業全部ノ讓渡
五 社員ガ一人ト爲リタルコト
六 會社ノ破産
七 解散ヲ命ズル裁判
前項第二號ノ決議ハ第四十八條ノ規定ニ依
ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ
第七十條 前條第一項第一號又ハ第二號ノ場
合ニ於テハ第四十八條ニ定ムル決議ニ依リ
前條第一項第五號ノ場合ニ於テハ新ニ社員
ヲ加入セシメテ會社ヲ繼續スルコトヲ得

第七十一條 有限會社ハ本店ノ所在地ニ於テ
解散ノ登記ヲ爲シタル後ト雖モ前條ノ規定
ニ從ヒテ會社ヲ繼續スルコトヲ妨グズ此ノ
場合ニ於テハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間
支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ繼續ノ登
記ヲ爲スコトヲ要ス
第七十二條 有限會社ガ解散シタルトキハ合
併及破産ノ場合ヲ除ク外取締役其ノ清算
人ト爲ル但シ定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ
社員總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此
ノ限ニ在ラズ
前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキ
ハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ依リ清算人
ヲ選任ス
第七十三條 殘餘財產ハ定款ニ別段ノ定アル
場合ヲ除ク外出資ノ口數ニ應ジテ之ヲ社
員ニ分配スルコトヲ要ス
第七十四條 清算人ハ裁判所ノ選任シタルモ
ノヲ除ク外何時ニテモ社員總會ノ決議ニ
依リ之ヲ解任スルコトヲ得
重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又
ハ社員ノ請求ニ依リ清算人ヲ解任スルコト
ヲ得
第七十五條 商法第九十六條、第一百六條、
第一百二十二條乃至第一百二十五條、第二十
八條、第二百二十九條第二項第三項、第三百
十一條、第三百三十四條、第四百十條乃至第

百四十二條、第四百十八條乃至第四百二十四條及第四百二十七條乃至第四百二十九條ノ規定ハ有價會社ニ之ヲ準用ス
 第二十八條、第三十條、第三十一條、第三十五條及第四十條第一項第四號第二項並ニ商法第二百三十六條乃至第二百三十八條、第二百四十四條第二項、第二百四十七條、第二百四十九條、第二百五十四條第二項、第二百五十八條、第二百六十一條、第二百六十六條、第二百六十七條、第二百六十八條第二項乃至第五項、第二百六十九條乃至第二百七十二條、第二百七十四條乃至第二百七十八條、第二百八十二條、第二百八十三條第一項及第二百八十四條ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

第八章 外國會社

第七十六條 商法第四百七十九條乃至第四百八十二條、第四百八十四條及第四百八十五條ノ規定ハ有價會社ト同種ノ又ハ之ニ類似スル外國會社ニ之ヲ準用ス

第九章 罰則

第七十七條 取締役、監査役又ハ第三十二條若ハ第三十四條ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者若ハ支

配人其ノ他營業ニ關スル或種類若ハ特定ノ事項ノ委任ヲ受ケタル使用人自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ會社ヲ害セシムルコトヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ會社ノ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五十九條第三項若ハ第六十條第四項ノ設立委員、第六十條第一項ノ規定ニ依リ從フベキ商法第五十六條第三項ノ設立委員、清算人又ハ第七十五條第二項ニ於テ準用スル南法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者前項ニ掲グル行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ
 前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第七十八條 前條第一項ニ掲グル者ハ左ノ場合ニ於テハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 會社ノ設立又ハ資本増加ノ場合ニ於テ出資總口數ノ引受、出資ノ拂込若ハ現物出資ノ給付ニ付又ハ第七條第二號乃至第四號若ハ第四十九條第一號第二號ニ掲グル事項ニ付裁判所ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
 二 何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ會社ノ計算ニ於テ不正ニ其ノ持分ヲ取得シ

料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ
 一 本法ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
 二 本法ニ定ムル公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ
 三 本法ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ書類ノ閱覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ拒ミタルトキ
 四 本法ニ定ムル調査ヲ妨ゲタルトキ
 五 官廳又ハ社員總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
 六 第二十一條ノ規定ニ違反シテ持分ニ付指圖式又ハ無記名式ノ證券ヲ發行シタルトキ
 七 第二十四條第一項ニ於テ準用スル商法第二十一條ノ規定ニ違反シテ持分失効ノ手續又ハ持分若ハ質權ノ處分ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
 八 第二十四條第一項ニ於テ準用スル商法第二十二條第一項ノ規定ニ違反シテ出資ノ消却ヲ爲シタルトキ
 九 定款ニ定ムル取締役又ハ監査役ノ員數ヲ缺クニ至リタル場合ニ於テ其ノ選任手續ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
 十 定款、社員名簿、議事錄、財産目錄、

又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ
 三 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益ノ配當ヲ爲シタルトキ
 四 會社ノ營業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲ニ會社財産ヲ處分シタルトキ
 有限會社ノ取締役、監査役若ハ第三十二條若ハ第三十四條ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者又ハ株式會社ノ取締役、監査役若ハ商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項、第二百七十二條第一項若ハ第二百八十條ノ職務代行者若ハ第六十四條又ハ第六十七條ノ組織變更ノ場合ニ於テ第六十四條第二項又ハ第六十七條第二項ノ純財産額ニ付裁判所又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ亦前項ニ同ジ
 第七十九條 第七十七條第一項ニ掲グル者出資ノ拂込ヲ假裝スル爲預合ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス預合ニ應ジタル者亦同ジ
 第八十條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得
 第八十一條 第七十七條第一項若ハ第二項ニ掲グル者又ハ檢査役ノ職務ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又

ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
 前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者前項ニ同ジ
 第八十二條 左ニ掲グル事項ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 社員總會ニ於ケル發言若ハ議決權ノ行使、第四十二條第一項ノ規定ニ依ル議決權ノ行使又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル同意ノ表示
 二 本法ニ定ムル訴ノ提起又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ノ權利ノ行使
 前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ
 第八十三條 第八十一條第一項又ハ前條第一項ノ場合ニ於テ犯人ノ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス
 第八十四條 第八十一條第二項又ハ第八十二條第二項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
 第八十五條 第七十七條第一項若ハ第二項ニ掲グル者、外國會社ノ代表者、檢査役又ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ五千圓以下ノ過

料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ
 一 本法ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
 二 本法ニ定ムル公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ
 三 本法ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ書類ノ閱覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ拒ミタルトキ
 四 本法ニ定ムル調査ヲ妨ゲタルトキ
 五 官廳又ハ社員總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
 六 第二十一條ノ規定ニ違反シテ持分ニ付指圖式又ハ無記名式ノ證券ヲ發行シタルトキ
 七 第二十四條第一項ニ於テ準用スル商法第二十一條ノ規定ニ違反シテ持分失効ノ手續又ハ持分若ハ質權ノ處分ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
 八 第二十四條第一項ニ於テ準用スル商法第二十二條第一項ノ規定ニ違反シテ出資ノ消却ヲ爲シタルトキ
 九 定款ニ定ムル取締役又ハ監査役ノ員數ヲ缺クニ至リタル場合ニ於テ其ノ選任手續ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
 十 定款、社員名簿、議事錄、財産目錄、

貸借對照表、營業報告書、事務報告書、損益計算書、準備金及利益ノ配當ニ關スル議案、決算報告書又ハ商法第三十二條第一項ノ帳簿ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ
 十一 定款、社員名簿、議事錄、財産目錄、貸借對照表、營業報告書、事務報告書、損益計算書、準備金及利益ノ配當ニ關スル議案又ハ監査役ノ報告書ヲ備置カザルトキ
 十二 第四十一條ニ於テ準用スル商法第二百三十四條ノ規定又ハ第四十五條第三項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シテ社員總會ヲ召集セザルトキ
 十三 第四十六條第一項ニ於テ準用スル商法第二百八十八條第一項又ハ第二百八十九條ノ規定ニ違反シテ準備金ヲ積立テズ又ハ之ヲ使用シタルトキ
 十四 第五十二條第二項ノ規定ニ違反シテ出資ノ引受人ヲ公募シタルトキ
 十五 第五十八條、第六十三條又ハ第六十八條ニ於テ準用スル商法第九十九條又ハ第一百條ノ規定ニ違反シテ資本ノ減少、合併又ハ組織變更ヲ爲シタルトキ
 十六 第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第二百二十四條第三項ノ規定ニ違反

シテ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

十七 第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第三百一十一條ノ規定ニ違反シテ會社財產ヲ分配シタルトキ

十八 裁判所ノ選任シタル管理人又ハ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲サザルトキ

十九 清算ノ終了ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第四百二十一條第一項ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ

二十 第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第四百二十三條ノ規定ニ違反シテ債務ノ辨濟ヲ爲シタルトキ

二十一 第七十六條ニ於テ準用スル商法第四百八十四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

株式會社ノ取締役、商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十一條第一項ノ職務代行者、清算人又ハ同法第四百三十條第二項ニ於テ準用スル同法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者ガ第六十條第一項ノ規定ニ依リ從フベキ又ハ第六十八條ニ於テ準用スル商法第九十九條又ハ第一百條ノ規定ニ違反シテ合併又ハ組織

變更ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ
第八十六條 第三條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第十章 雜則

第八十七條 本法ニ依リ署名スベキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

第八十八條 第五十八條、第六十三條若ハ第六十八條ニ於テ準用シ若ハ第六十條第一項ノ規定ニ依リ從フベキ商法第四百一十一條第一項ノ規定又ハ第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第四百二十一條第一項ノ規定ニ依リ從フベキ公告ハ裁判所ガ爲スベキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十九條 有限會社ハ商法ヲ除クノ外他ノ法律ノ適用ニ付テハ之ヲ商法ノ會社ト看做ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律

(明治三十三年二月二十六日) 法律第十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
商法中署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

小商人ノ範圍ニ關スル件

ル件 (勅令第二百七十一號)

朕小商人ノ範圍ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
商行爲ヲ爲スヲ業トスルモ資本金額五百圓ニ滿テタル者ハ之ヲ小商人トス

附則
此勅令ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律

シテ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
十七 第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第三百一十一條ノ規定ニ違反シテ會社財產ヲ分配シタルトキ
十八 裁判所ノ選任シタル管理人又ハ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲サザルトキ
十九 清算ノ終了ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第四百二十一條第一項ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ
二十 第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第四百二十三條ノ規定ニ違反シテ債務ノ辨濟ヲ爲シタルトキ
二十一 第七十六條ニ於テ準用スル商法第四百八十四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

株式會社ノ取締役、商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十一條第一項ノ職務代行者、清算人又ハ同法第四百三十條第二項ニ於テ準用スル同法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者ガ第六十條第一項ノ規定ニ依リ從フベキ又ハ第六十八條ニ於テ準用スル商法第九十九條又ハ第一百條ノ規定ニ違反シテ合併又ハ組織

二關スル件
商標圖形ノ手寫採等
日英商標圖二關スル件
商標圖形ノ手寫採等

商事調停法

(大正十五年三月三十日)
(法律第四十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商事調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商事調停法

第一條 商事ニ關シ爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ相手方ノ住所、居所、營業所若ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ當事者ノ合意ニ依リテ定リタル地方裁判所若ハ區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

調停ノ申立ヲ受ケタル裁判所調停ヲ爲スニ付相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ地方裁判所又ハ區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所力調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二條 商事調停ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外借地借家調停法ヲ準用ス

第三條 裁判所調停ヲ爲スニ付必要アリト認ムルトキハ計算人ヲ選定シ之ヲシテ計算ヲ爲サシムルコトヲ得

調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ前項ニ規定スル裁判所ノ權限ハ調停委員會ニ屬ス計算人ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス其ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 調停委員會ハ當事者ノ合意アル場合ニ於テハ第一條ノ爭議ニ付民事訴訟法ニ依ル仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當事者ノ指定シタル調停委員會ノ屬スル裁判所ハ申立ニ因リ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第五條 借地借家調停法第十八條及第二十九條乃至第三十一條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル仲裁ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

當事者ノ一方ニシテ本法施行地區内ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル者ニ對シ調停ノ申立ヲ爲シ得ヘキ事件ニ付テハ其ノ相手方ノ住所、居所、營業所及事務所カ本法施行地區外ニ在ル場合ト雖之ニ對シ其ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

商事調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件

(大正十五年十月十八日)
(勅令第三百二十二號)

朕商事調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

左ノ地區ニハ大正十五年十一月一日ヨリ商事調停法ヲ施行ス

- 東京府
- 京都府
- 大阪府
- 神奈川縣
- 兵庫縣
- 愛知縣

商事調停ノ手数料等ニ關スル件

(大正十五年十月十八日)
(勅令第三百二十三號)

朕商事調停ノ手数料等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 商事調停法ニ依ル調停ノ申立及仲裁判斷ノ申立ノ手数料ハ左ノ區別ニ從フ

調停又ハ仲裁判斷ヲ求ムル事項ノ價額五圓迄	二十錢
同 十圓迄	三十錢
同 二十圓迄	六十錢
同 五十圓迄	一圓五十錢
同 七十五圓迄	二圓
同 百圓迄	三圓
同 二百五十圓迄	六圓
同 五百圓迄	十圓
同 七百五十圓迄	十三圓
同 千圓迄	十六圓
同 二千五百圓迄	二十三圓
同 五千圓迄	二十八圓
同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ	
調停又ハ仲裁判斷ヲ求ムル事項ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキ	十圓

第二條 大正十一年勅令第三百三十九號第二條乃至第四條ノ規定ハ記録ノ閲覧若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ求ムル手数料並調停委員、調停ノ補助ヲ爲シタル者及計算人ノ旅費、日當及止宿料ニ付之ヲ準用ス

計算人ニハ計算ニ付多ク時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

商業登記取扱手續

附則

本令ハ大正十五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(大正十五年十月十九日)
(司省令第十三號)

商事調停法ノ規定ニ依ル手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付セシムルコトヲ得

附則

本令ハ大正十五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

商業登記取扱手續

(明治三十二年五月十三日)
(司省令第十三號)

改正

明治三三	司省令二〇
明治三五	司省令一六
明治三九	司省令一九
明治四一	司省令四
明治四二	司省令二〇
大正一	司省令二九
大正二	司省令二〇
大正五	司省令二九
大正一〇	司省令三九
昭和四	司省令三九、四二

商業登記取扱手續左ノ通相定ム

第一條 商業登記簿ハ附錄第一號乃至第九號之形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ但合資會社登記簿ヲ調製スルニハ附錄第七號之形ノ第一欄ヨリ變更欄ニ至ルマテノ用紙ト別社員ノ氏名、住所等ヲ記載スヘキ用紙ト別初メニ第一欄ヨリ變更欄ニ至ルマテノ用紙ヲ纏メ其末尾ニ社員ノ氏名、住所等ヲ記載スヘキ用紙ヲ纏メテ之ヲ編綴スヘシ

外國會社登記簿ノ雛形ハ附錄第六號乃至第九號ニ依ルヘシ

第二條 商業登記簿ハ市町村毎ニ別冊ト爲ス

ヘシ但市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域毎ニ別冊ト爲シ東京市、京都市及ヒ大阪市ニ在リテハ其各區毎ニ別冊ト爲スヘシ

第三條 商法施行法第十五條第一項ニ依ル商號ノ登記ノ爲メ東京市及ヒ大阪市ニ存スル登記所（東京區裁判所及ヒ大阪區裁判所ノ本廳ヲ除ク）ノ管轄毎ニ別ニ商號登記簿ヲ備フヘシ

第四條 商業登記簿ノ見出帳ハ附録第十號ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條 受附帳ハ附録第十一號ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第六條 法律ニ依リ登記ノ申請書ニ捺印スヘキ者ハ豫メ其印鑑ヲ登記所ニ提出スヘシ改印ヲ爲シタルトキ亦同シ但登記ノ申請ニ付キ委任ニ因ル代理ヲ爲ス者ハ此限ニ在ラス

第七條 印鑑ハ附録第十二號ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第八條 登記所ニハ登記簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

- 一 印鑑簿
- 二 申請書類送込帳
- 三 決定原本送込帳
- 四 抗告書類送込帳
- 五 登記簿送付帳
- 六 原本抄本證明書交付帳

七 受領證原符元帳

前項第二號乃至第十號ノ帳簿ハ一個年毎ニ別冊ト爲スヘシ但分冊スルコトヲ妨ケス

第九條 申請書、囑託書、通知書、届書、許可書、管轄轉屬ニ因リ移送ヲ受ケタル登記簿原本其他附屬書類ハ之ヲ登記簿ノ冊數及ヒ其丁數ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ依リテ申請書類送込帳ニ之ヲ編綴スヘシ

第十條 登記簿ノ種類ニ依リ前項ノ送込帳ヲ分冊シタルトキハ其表紙ニ登記簿ノ種類ヲ示スヘキ文字ヲ記載スヘシ

第十一條 印鑑簿ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ

第十二條 受附帳ハ十年間之ヲ保存スヘシ

第十三條 決定原本送込帳及ヒ抗告書類送込帳ハ五年間之ヲ保存スヘシ

第十四條 登記簿送付帳、原本抄本證明書交付帳及ヒ受領證原符元帳ハ三年間之ヲ保存スヘシ

第十五條 前項ノ帳簿ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第十六條 登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽又ハ登記簿ノ原本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ申請書ヲ提出スヘシ

第十七條 登記簿又ハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ利害ノ關係ヲ説明スルニ足ルヘキ事由ヲ記載シ又ハ

之ニ其關係ヲ説明スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

- 一 登記簿ノ種類
- 二 閱覽セント欲スル登記事項
- 三 登記所ノ表示
- 四 年月日

第十二條 登記簿ノ原本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

- 一 登記簿ノ種類
- 二 原本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル登記事項
- 三 手数料ノ金額
- 四 登記所ノ表示
- 五 年月日

第十三條 登記簿ノ抄本ノ交付ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲモ記載スヘシ

第十四條 登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ請求スル者ハ申請書ニ通リ提出スヘシ

第十五條 前項ノ申請書ニハ證明ヲ請求スル事項及ヒ年月日ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

第十六條 登記官吏ハ申請書ノ一通ニ證明文ヲ附シ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ申請人ニ交付スヘシ

第十七條 登記ノ申請ハ申請人又ハ其代理人

第十四條 登記所ニ出頭シテ之ヲ爲スヘシ

第十五條 官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ官廳ノ許可書ノ到達シタル年月日ヲ記載スヘシ前項ノ規定ハ商法第二百四條ノ三第三項又ハ第二百五十六條ノ規定ニ依リ外國ニ於テ生シタル事項ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 登記官吏ハ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ登記ノ目的、申請人ノ氏名、（會社力申請人ナルトキハ其商號）受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ申請書ニ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スヘシ

第十七條 申請書其他ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スヘシ

第十八條 登記官吏ハ受附番號ノ順序ニ從ヒテ登記ヲ爲スヘシ

第十九條 登記事項及ヒ登記ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第二十條 登記用紙中或欄ニ登記事項ヲ記載スルコトナクシテ登記ヲ完了シタル片ハ其空欄ニ朱線ヲ交スヘシ但後日登記スルコトアルヘキ事項ノ爲メ設ケタル欄ニ付テハ此限ニ在ラズ

第二十一條 登記用紙中或欄ニ登記事項ヲ記載シタル場合ニ於テ同欄内ニ餘白アルトキハ其餘白ニ朱線ヲ交スヘシ

第二十二條 變更欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ其左側ニ縱

線ヲ引シテ餘白ト分界スヘシ

第二十三條 變更ノ登記又ハ登記ノ更正ヲ爲シタルトキハ變更又ハ更正シタル登記事項ヲ朱線スヘシ

第二十四條 扶消ノ登記ヲ爲シタルトキハ扶消スヘキ登記事項ヲ朱線スヘシ但扶消ノ登記ヲ爲シタルニ因リ登記用紙ヲ閉鎖スヘキ場合ハ此限ニ在ラス

第二十五條 「ヲ朱線スヘシ」キ場合ハ此限ニ在ラス

第二十六條 登記用紙ヲ閉鎖スルニハ登記番號第五十一條第一項、第七十七條、第九十四條第一項又ハ第二百四十二條ニ定メタル登記ヲ爲シタルトキハ登記用紙中豫備欄ニ其事由ヲ記載スヘシ會社ノ合併又ハ組織變更ニ因ル設立ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二十七條 非訟事件手續法第三百三十五條ノ二及ヒ第三百三十五條ノ三ニ定メタル營業ノ禁止又ハ外國會社ノ支店ノ閉鎖ノ登記ハ豫備欄ニ之ヲ爲スヘシ同法第七十條第二項ノ規定ニ依リ商業登記ニ記載スヘキ事項ハ豫備欄ニ之ヲ記載スヘシ

第二十八條 保置ヲ營業トスル株式會社設立費用償却ノ方法ノ登記ハ豫備欄ニ之ヲ爲スヘシ

第二十九條 破産法第二百二十二條及ヒ和議法第八條ノ規定ニ依リ登記ハ豫備欄ニ之ヲ爲スヘシ

第三十條 第二十一條ノ二擔保附信託法ニ依リ社債ノ登記ハ登記用紙中變更欄ニ之ヲ爲スヘシ

第二十一條ノ三 擔保附信託法ニ依リ社債ノ總額ヲ數同ニ分チ發行スル場合ニ於テ第二項以後ノ發行ノ登記ヲ爲スニハ信託證書ヲ表示シ之ニ基テ第何回ノ發行ナルコト及ヒ第一回ノ發行ノ登記ニ表示シタル擔保ノ目的物カ同時ニ其同ノ社債ノ擔保ノ目的タルコトヲ記載スヘシ

第二十二條 登記官吏ハ擔保附信託法第九十五條ノ規定ニ依リ主務官廳ヨリ登記ノ囑託ヲ受ケタル片ハ左ノ規定ニ從フヘシ

- 一 囑託カ信託會社ノ事業ノ停止ニ關スル場合ニ於テハ登記用紙中豫備欄ニ其登記ヲ爲スヘシ
- 二 囑託カ銀行事業ヲ兼スル信託會社ノ免許ノ取消ニ關スル場合ニ於テハ目的變更ノ登記ヲ爲スヘシ
- 三 囑託カ信託事業ヲ兼スル信託會社ノ免許ノ取消ニ關スル場合ニ於テハ解取ノ登記ヲ爲スヘシ

第二十三條 地方鐵道法第六條ノ二（軌道法第二十六條ニ依リテ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依リ後配株ヲ發行シテ資本増加ヲ爲シタルトキハ登記用紙中變更欄ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第二十四條 第二十二條社債又ハ資本若クハ株金ノ増加ノ登記ヲ爲シタル後同一ノ事項ニ付變更ノ登記ヲ爲スヘキ片ハ變更欄ニ其登記ヲ爲スヘシ

第二十三條 非訟事件手續法第四百八條ノ規定ニ依リ登記ノ更正ノ申請アリタルトキハ登記用紙中變更欄ニ其登記ヲ爲スヘシ

第二十四條 登記用紙中或欄カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中登記番號ノ左側ニ其番號ノ第二ナルコト並ニ前用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ其繼續用紙ナルコトヲ記載シ且新用紙中登記番號ノ左側ニ第一ノ文字並ニ前用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ

前用紙中他ノ欄ニ餘白アルトキハ其欄ニ登記スヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 登記ヲ爲シ又ハ申請書其他登記ニ關スル書面ヲ作ルニハ字畫ヲ明瞭ニスヘシ

金錢其他ノ物ノ數量、年月日及ヒ番號ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ字ヲ用ユヘシ

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ之ニ捺印シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スヘシ

第二十六條 登記ノ公告ハ登記ヲ爲シタル登

記所ノ名ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十七條 登記ノ申請人ハ登記簿ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

登記官吏カ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ附録第十三號雛形ニ依リ登記簿ヲ交付スヘシ

第二十八條 商業登記簿ノ見出帳ニイロハ順ニ依リ豫メイノ部ヨリスノ部マテヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ

第二十九條 妻ノ登記ニ付テハ夫ノ氏名、法定代理人ノ登記ニ付テハ無能力者ノ氏名、支配人ノ登記ニ付テハ主人ノ氏名又ハ商號、外國會社ノ登記ニ付テハ會社ノ種類ヲ見出帳ノ備考欄ニ記載スヘシ

第三十條 商號ノ變更又ハ未成年者、妻、法定代理人若クハ支配人ノ氏名ノ變更ノ登記ヲ爲シタルトキハ見出帳中更ニ相當ノ部ニ其見出ヲ移シ前ノ見出ノ備考欄ニ第何冊第何丁ニ移シタル旨ヲ記載シテ其見出ヲ朱抹スヘシ

第三十一條 甲登記所ノ管轄地ノ一部カ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ

其部分ニ屬スル登記簿又ハ其謄本及ヒ附屬書類又ハ其謄本ヲ乙登記所ニ移送スヘシ但登記簿ノ謄本ニハ現存セル登記ノミヲ謄寫スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ甲登記所ノ登記用紙中豫備欄ニ管轄變更ニ因リ轉出シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官捺印シ其登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本及ヒ附屬書類又ハ其謄本ヲ移送ヲ受ケタルトキハ乙登記所ハ登記簿ノ謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ移スヘシ

登記簿ニ登記ヲ移スニハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記管轄ノ表示ヲ爲シ前登記番號ヲ記載シ豫備欄ニ管轄變更ニ因リ轉入シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官捺印スヘシ

第三十三條 會社ノ商號ハ商號登記簿ニ登記スルコトヲ要セス

第三十四條 同一ノ當事者ヨリ數箇ノ商號ノ登記ノ申請アリタルトキハ各商號ニ付キ各別ノ登記用紙ニ登記ヲ爲スヘシ

第三十五條 商業ヲ營ム未成年者カ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其登記事項カ未成年者ノ死亡ニ因リ消滅シタルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヨリ登記ノ申請ヲ爲スヘシ

第三十六條 商業ヲ營ム妻カ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其登記事項カ妻ノ死亡ニ因リ消滅シタルトキハ其夫ヨリ登記ノ申請ヲ爲スヘシ

第三十七條 無能力者ノ爲メニ商業ヲ營ム法定代理人カ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其登記事項カ法定代理人ノ死亡ニ因リ消滅シタルトキハ新法定代理人ヨリ登記ノ申請ヲ爲スヘシ

第三十八條 前三條ノ場合ニ於テハ申請書ニ登記事項ノ消滅シタルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スヘシ

第三十九條 數人ノ支配人ノ登記ノ申請アリタル場合ニ於テハ各別ノ登記用紙ニ登記ヲ爲スヘシ

支配人ノ共同代表ニ關スル規定ノ登記ハ支配人ノ選任ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ登記用紙中豫備欄ニ之ヲ爲スヘシ

第三十九條ノ二 支配人ノ共同代表ニ關スル規定ノ登記ニハ他ノ支配人ノ登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數及ヒ丁數ヲ附記スヘシ

第四十條 登記ヲ爲シタル未成年者、妻若クハ法定代理人ノ營業所又ハ支配人ヲ置キタル營業所カ登記所ノ管轄外ニ移轉シタルトキハ登記用紙中消滅欄ニ其登記ヲ爲シ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

前項ノ規定ハ登記所ノ管轄内ニ他ノ營業所

アル場合ニハ之ヲ適用セス

第四十一條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ノ營業所カ商號ノ效力ヲ有スル區域外ニ移轉シタルトキハ登記用紙中消滅欄ニ其登記ヲ爲シ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十二條 前條ノ規定ハ市町村又ハ商號ノ變更ニ因リ商號ノ登記ノ效力カ消滅シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 合資會社ノ社員ノ氏名、住所、出資及ヒ責任ノ登記ハ登記簿ノ末尾ニ編綴セル用紙ニ之ヲ爲スヘシ其登記事項ノ變更又ハ消滅ノ登記ニ付テモ亦同シ

第四十三條ノ二 會社ノ社員ノ共同代表ニ關スル規定ノ登記及ヒ社員ト支配人トノ共同代表ニ關スル規定ノ登記ハ會社ノ設立ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ登記用紙中代表社員ノ氏名欄ニ之ヲ爲スヘシ

第四十三條ノ三 會社ヲ代表スヘキ取締役ノ登記、取締役ノ共同代表ニ關スル規定ノ登記及ヒ取締役ト支配人トノ共同代表ニ關スル規定ノ登記ハ會社ノ設立ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ登記用紙中取締役ノ氏名住所欄ニ之ヲ爲スヘシ

第四十三條ノ四 第三十九條ノ二ノ規定ハ會社ノ社員又ハ取締役ト支配人トノ共同代表ニ關スル規定ノ登記ニ之ヲ準用ス

第四十三條ノ五 株主總會ノ決議無効ノ登記ハ登記用紙中變更欄ニ之ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ決議無効ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ名稱及ヒ其判決ノ確定シタル年月日ヲモ記載スヘシ

前項ノ登記ヲ爲シタルトキハ決議シタル事項ノ登記ヲ朱抹スヘシ

前二項ノ規定ハ創立總會ノ決議無効ノ登記ニ之ヲ準用ス

第四十四條 會社カ其本店又ハ支店ヲ登記所ノ管轄外ニ移轉シタル場合ニ於テ移轉ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

前項ノ規定ハ登記所ノ管轄内ニ本店又ハ他ノ支店アル場合ニハ之ヲ適用セス

第四十四條ノ二 會社カ其本店ヲ登記所ノ管轄外ニ移轉シタル場合ニ於テ新所在地ノ登記所ニ登記ヲ申請スルトキハ申請書ニ舊所在地ニ於ケル登記簿ノ謄本ヲ添付スヘシ

前項ノ規定ハ新所在地ノ登記所ノ管轄内ニ支店アル場合ニハ之ヲ適用セス

第四十四條ノ三 會社ノ支店ノ廢止ノ登記ハ登記用紙中豫備欄ニ之ヲ爲シ其登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十四條ノ四 規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條ノ四 會社ノ設立無効ノ登記ハ登

記用紙中解散ノ事由及ヒ年月日欄ニ之ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ設立無効ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ名稱及ヒ其判決ノ確定シタル年月日ヲモ記載スヘシ

第四十四條ノ五 會社ノ設立取消ノ登記ハ登記用紙中解散ノ事由及ヒ年月日欄ニ之ヲ爲スヘシ

第四十四條ノ六 裁判所カ清算人ヲ選任又ハ解任シタル場合ニ於ケル登記ノ申請書ニハ裁判ノ原本ヲ添付スヘシ

第四十四條ノ七 會社ヲ代表スヘキ清算人ノ登記及ヒ清算人ノ共同代表ニ關スル規定ノ登記ハ始メテ清算人ノ選任ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ登記用紙中清算人ノ氏名住所欄ニ之ヲ爲スヘシ

第四十四條ノ八 非訟事件手續法第五百十一條ノ二第一項ノ通知ニハ登記ヲ爲シタル事件ノ表示及ヒ其登記カ商法又ハ非訟事件手續法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ記載スヘシ

第四十四條ノ九 非訟事件手續法第五百十一條ノ四ノ規定ニ依リテ抹消ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ其事由ヲモ記載スヘシ

第四十四條ノ十 非訟事件手續法第五百十一條ノ六第二項ノ規定ニ依リテ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ於テハ許可ヲ爲シタル裁判所ノ名稱及ヒ許可ノ年月日ヲモ記載スヘシ

第四十五條 會社登記簿ニ清算終了ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十六條 登記ノ申請書ニ添付シタル書類ノ原本ノ還付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請人ハ其原本ト共ニ原本ニ相違ナキ旨ヲ記載シタル原本ヲ添付スヘシ

登記官吏カ書類ノ原本ヲ還付スルトキハ其原本ニ原本還付ノ旨ヲ記載シテ捺印スヘシ

第四十七條 外國會社ノ登記ハ其會社ト同種ノ會社ノ登記簿又ハ最モ之ニ類似セル會社ノ登記簿ニ之ヲ爲スヘシ

登記スヘキ事項ノ名稱カ或欄ノ表示ニ適合セザルトキハ最モ之ニ類似セル欄ニ記載シタル上其名稱ヲ附記スヘシ

第四十七條ノ二 第四十四條ノ二ノ規定ハ外國會社カ其支店ヲ登記所ノ管轄外ニ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條 外國會社ノ支店ノ廢止ノ登記ハ登記用紙中豫備欄ニ之ヲ爲シ其登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十九條 商法施行前ニ登記シタル事項ノ變更若クハ消滅ノ登記又ハ商法施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付キ商法施行法ノ規定ニ依リテ其會社ノ登記ニ追加スヘキ事項ノ登記ハ從來ノ登記簿ニ之ヲ爲スヘシ但從來ノ登記簿用紙中相當ノ欄ナキ事項ニ付テハ變更欄ニ其登記ヲ爲スヘシ

第四十九條ノ二 非訟事件手續法第三百三十五條ノ二第一項、第三百三十五條ノ四第一項、第三百九十五條ノ二、第二百一一條ノ二、保險業法第二十三條、第二百五條ノ二第二項、擔保附社債信託法第一百五條及ヒ鐵道國有法第十一條ノ規定ニ依ル登記ノ嘱托ニ付テハ登録稅ヲ要セス

第四十九條ノ三 登記官吏カ其職務上過料ニ處セラレヘキ者アルコトヲ知りタルトキハ遲滞ナク其事件ヲ管轄地方裁判所長ニ通知スヘシ

第五十條 不動産登記法施行細則第四條、第五條、第十二條、第十三條、第二十條乃至第二十四條、第二十七條、第三十三條乃至第三十五條ノ二、第三十六條、第三十七條、第三十八條、第三十九條、第四十七條、第五十一條、第七十一條第一項及ヒ第七十四條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス

(附錄雛形略)

取引所法

明治三十二年三月四日法律五八

改正 大正三十一法律三三 大正一十一法律六〇 昭和四一法律二九

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル取引所法ヲ議可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 取引所ノ設立

第一條 賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若ハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第二條 同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限リ設立スルコトヲ得但シ其ノ地區ハ「農商務大臣」之ヲ定ム

第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第四條 株式會社組織ノ取引所ハ他ノ株式會社組織ノ取引所ヲ合併スル場合ニ限リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ存在シタル地區内ニ支所ヲ設クルコトヲ得支所ノ數ハ其ノ合併ニ依リ消滅スル取引所及支所ノ數ヲ超ユルコトヲ得ス

取引所法 第一章 取引所ノ設立

第二章 取引所ノ組織

第三章 取引所ノ會員及取引員

九五

第四條ノ二 有價證券ヲ賣買取引スル市場ハ取引所ト看做シ本法ニ依ルニ非ザレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第二章 取引所ノ組織

第五條 取引所ハ土地商業ノ情況及賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ會員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ取引員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第七條 取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得

第八條 取引所ノ責任ハ其ノ財産ニ限ルモノトス

第九條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ取引所ノ賣買取引ニ附帶スル業務ヲ營ムコトヲ得

第十二條ノ規定ニ依リ賠償ノ責任ニ付テハ前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ物件又ハ銘柄ノ一部ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受ケハシ

第三章 取引所ノ會員及取引員

第十條 取引所ノ取引員トナラムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ

第十一條 帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル會社ニ非ザレハ取引所ノ會員又ハ取引員トナルコトヲ得ス

無能力者、復讐セサル家資分散者及破産者並本法ニ依リ除名セラレ除名ノ日ヨリ五箇年ヲ經過セザル者ハ會員トナルコトヲ得ス

懲役若ハ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ刑法第二編第十六章乃至第十九章第二十三條第三十五條乃至第三十九條、舊刑法第二編第四章第一節乃至第五節第九節第六十條乃至第六十二條第八節第九節第二節第三編第二章第一節第二節第四節乃至第六節、通貨及證券模造取締法、明治三十八年法律第六十六號、紙幣類似證券取締法、印紙犯罪處罰法、商法第二百六十一條、明治二十三年法律第三十二號、商法第三編第九章、同年法律第一號、保險業法第九十八條ノ三若ハ本法第三十一條乃至第三十二條ノ五ノ規定ニ依リ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ刑ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ五箇年ヲ經過セザル者ハ取引員トナルコトヲ得ス前項ニ該當スル者亦同シ

合名會社、合資會社又ハ株式合資會社ニ在リテハ其ノ無限責任社員ノ全員カ帝國臣民

タルモノ、株式會社ニ在リテハ其ノ資本ノ半額以上及議決權ノ過半數カ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬シ其ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員又ハ取引員トナルコトヲ得ス無任責任社員又ハ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員中前二項ニ該當スル者アル場合亦同シ

第十一條ノ二 會員前條第一項、第二項又ハ第四項ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ取引所ヨリ脱退ス

「農商務大臣」ハ不正ノ手段ニ依リ會員トナリタル者又ハ前條第一項、第二項若ハ第四項ニ該當スル者ニシテ會員トナリタル者アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ取引所ヨリ脱退セシムルコトヲ得

取引員前條第一項、第三項又ハ第四項ニ該當スルニ至リタルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

「農商務大臣」ハ不正ノ手段ニ依リ取引員タルノ免許ヲ受ケタル者又ハ前條第一項、第三項若ハ第四項ニ該當スル者ニシテ免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十一條ノ三 取引員取引所ノ役員タル認可ヲ受ケタルトキハ其ノ免許ハ效力ヲ失フ

第十一條ノ四 會員又ハ取引員ハ第二項但書

ノ場合ヲ除クノ外支店、出張所其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス二以上ノ場所ヲ以テ同一取引所ノ賣買取引ノ取扱ヲ爲ス場所ト爲スコトヲ得ス

何人ト雖取引所ノ賣買取引ノ委託ノ代理、媒介又ハ取次ヲ營業ト爲スコトヲ得ス但シ會員又ハ取引員ニシテ「農商務大臣」ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 會員又ハ取引員ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條 取引員ハ其ノ免許ヲ受ケタルトキ免許料ヲ納ムヘシ

第十四條 會員又ハ取引員ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十五條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲メ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ取引員ノ營業ヲ停止シ千圓以内ノ過怠金ヲ課シ且政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ取引員ヲ除名スルコトヲ得

第十五條ノ二 取引所ハ其ノ定款ヲ以テ會員ハ其ノ員數ヲ制限スルコトヲ得

第十一條ノ二ノ規定ハ會員若ハ取引員カ前項ノ要件ヲ缺クニ至リタル場合又ハ之ヲ缺

ク者ニシテ會員若ハ取引員トナリタル者アルコトヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條ノ三 取引員ハ廢業後ト雖其ノ取引ニ於ケル取引ノ結了及監督ノ目的ノ範圍内ニ於テハ取引ノ結了後二週間ヲ經過スル迄仍廢業セサルモノト看做ス

取引員死亡シ、解散シ若ハ除名セラレ又ハ其ノ免許力取消サレ若ハ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了ニ至ル迄亦前項ニ同シ

前項ノ規定ハ會員ノ死亡、解散、除名及脱退ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ會員又ハ取引員ノ行爲ヲ爲ス者ナキトキハ取引所ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ他人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第四章 取引所ノ役員及商議員會

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ任期ヲ以テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ノ役員左ノ如シ

理事 一人

監査役 二人以上

若千人

理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケナシ

第十一條第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

取引員トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ取引所又ハ之ト同種ノ物件ヲ取引スル株式會社組織ノ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

第十六條ノ二 役員前條第四項ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ取引員ノ免許ヲ受ケタルトキハ其ノ職ヲ失フ理事長又ハ理事他ノ取引所ノ理事長又ハ理事タル認可ヲ受ケタルトキ亦同シ

「農商務大臣」ハ不正ノ手段ニ依リ役員タルノ認可ヲ受ケタル者若ハ前條ノ規定ニ違反シテ役員トナリタル者アルコトヲ發見シ又ハ役員ニシテ第十七條第二項ノ規定ニ違反スル者アリト認めタルトキハ之ヲ解職スルコトヲ得

第十六條ノ三 「農商務大臣」ハ役員ノ職務ヲ行フ者ナキ場合ニ於テ必要ト認めタルトキハ假ニ役員ヲ選任スルコトヲ得

第十七條 株式會社組織ノ取引所ノ役員又ハ使用人ハ何人ノ名ヲ以テスルヲ問ハス其ノ取引所ノ取引物件ニ付取引所ニ於ケル賣買取引ヲ爲シ又ハ其ノ委託ヲ爲スコトヲ得ス

株式會社組織ノ取引所ノ役員又ハ使用人ハ其ノ取引所又ハ之ト同種ノ物件ヲ取引スル取引所ノ取引員トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得ス

第十七條ノ二 取引所ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ商議員會ヲ置キ取引所ニ關スル重要ナル事項ヲ付議スヘシ

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ三箇月、米ニ在リテハ三箇月、蠶絲ニ在リテハ六箇月、其ノ他ノ商品ニ在リテハ勅令ノ定ムル期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納ムシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條 取引所ハ「農商務大臣」ノ認可ヲ受ケ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責ニ任スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者

ニ要求スルコトヲ得

第二十二條ノ二 株式會社組織ノ取引所ハ前條ノ規定ニ依リ賠償ノ責ニ任スルトキハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ

第二十三條 取引所ハ賣買取引高ニ應ジ賣買雙方ヨリ手数料ヲ徴收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十四條ノ二 取引所ノ賣買取引ノ委託者ハ會員又ハ取引員カ委託契約ニ違ヒタル場合ニ於テ其ノ違約ニ因ル債權ニ關シ違約シタル會員又ハ取引員ノ身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

前條ノ優先權ハ前項ノ優先權ニ對シ優先ノ效力ヲ有ス

第二十五條 會員又ハ取引員ハ委託ヲ受ケタル取引所ノ賣買取引ニ付取引所ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サシテ之レヲ爲シタルトキト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ對シ其ノ決済ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ違反シタル會員又ハ取引員ハ取引所ノ規定ニ違反シタル營業停止ヲ命シ又ハ之ヲ除名スヘシ

第二十六條 取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ公定相場ヲ決定シ之ヲ公示スヘシ

取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各會員又ハ

各取引員ノ賣買高ヲ公示スヘシ
第二十六條ノ二 差金取引ヲ爲ス取引所類似施設ヲ爲シ又ハ其ノ施設ニ依リテ取引ヲ爲スコトヲ得ス

第六章 取引所ノ監督

第二十七條 「農商務大臣」ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
一 取引所ノ解散
二 取引所ノ停止
三 取引所ノ一部ノ停止若ハ禁止
四 役員ノ解職
五 會員又ハ取引員ノ營業停止若ハ除名

第二十八條 「農商務大臣」ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産其ノ他一切ノ物件及會員又ハ取引員ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及取引員ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第二十九條 「農商務大臣」ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其ノ決議及處分ヲ停止シ、禁止シ若ハ取消スコトヲ得

第三十條 取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七章 罰則

第三十一條 第十七條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ特別ノ利害關係ヲ生スルコトヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十三條 第二條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ其ノ職務ニ關シテ受渡物件ノ格付ヲ爲ス者其ノ職務ニ關シテ受渡物件ノ格付ヲ爲ス者若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十二條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者
二 取引所ニ於ケル相場場ヲ偽リテ公示シタル者
三 公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虚偽ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作製シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者

第三十三條ノ四 免許ヲ受ケスシテ取引所ヲ設立シタル者又ハ第二十六條ノ二ノ規定ニ違反シタル者
前項第一號ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十二條ノ四 取引所ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ虚偽ノ風説ヲ流布シ、偽計ヲ用ヒ又ハ暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十二條ノ五 取引所ニ依ラスシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第百八十六條ノ適用ヲ妨ケス

第三十二條ノ六 會員又ハ取引員ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得

第三十二條ノ七 本法ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ行爲ヲ爲シタル理事、取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス

第三十三條 取引所ノ稅則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料及積立金ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス
明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲ササルモノハ此ノ限ニ在ラス

附則 (昭和四年法律第二十九號)
本法ハ昭和四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前ニ爲シタル取引所ニ於ケル賣買取引ハ其ノ賣買取引力完了スルニ至ル迄舊法ノ規定ヲ適用ス

保險業法

(明治二十三年二月二十二日) 法律第六十九號

改正 (明治四五年法律一八) 昭和八法律五〇

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ保險業法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 保險事業ハ主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
第二條 保險事業ハ株式會社又ハ相互會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
第三條 保險會社ハ他ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ス
第四條 同一ノ會社ニシテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ其目的ト爲スコトヲ得ス但生命保險ノ目的トスル會社ハ生命保險ノ再保險ヲ爲スコトヲ得
第四條之二 保險會社カ免許ヲ申請シタル場合ニ於テ主務官廳ハ必要ト認ムルトキハ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

會社ハ主務官廳ノ認許シタル有價證券ヲ以テ前項ノ供託金ニ代フルコトヲ得
第五條 保險會社カ免許ヲ申請スニルハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
一 定款
二 事業方法書
三 普通保險約款
四 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類
五 財産ノ利用方法ヲ記載シタル書類
第六條 (削除)
第七條 普通保險約款ニハ左ニ掲ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス
一 保險會社カ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキ事由
二 保險契約無効ノ原因
三 保險會社カ其義務ヲ免ルヘキ事由
四 保險會社ノ義務ノ範圍ヲ定ムル方法及ヒ其義務履行ノ時期
五 保險契約者又ハ被保險者カ其義務不履行ノ爲メニ受クヘキ損失
六 保險契約ノ全部又ハ一部ノ解除ノ原因及ヒ其解除ノ場合ニ於テ當事者ノ有スル權利義務
七 保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ利益又ハ利益金ノ分配ニ與カル權利ノ有無及ヒ範圍

第八條 第五條ニ掲ケタル書類ヲ變更スルニハ主務官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス
第九條 保險會社ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
主務官廳ハ本法及ヒ第五條ニ掲ケタル書類ニ定メタル事項ニ從ハシムル爲メ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
第十條 主務官廳ハ何時ニテモ保險會社ヲシテ其事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
第十一條 主務官廳カ保險會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況ニ依リ其事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ財産ノ供託若クハ事業ノ停止ヲ命シ又ハ期間ヲ定メテ業務執行ノ方法若クハ計算ノ基礎ノ變更ヲ命シ其他保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
第十二條 保險會社カ本法、主務官廳ノ命令及ヒ第五條ニ掲ケタル書類ニ定メタル特ニ重要ナル事項ニ違反シタルトキハ主務官廳ハ取締役ノ改選若クハ事業ノ停止ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得
第十三條 保險會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
主務官廳ハ清算事務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査シ財産ノ供託ヲ命シ其他監督ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

ル命令ヲ爲スコトヲ得
第十三條之二 保險會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ清算人ヲ選任ス
商法第八十九條、第九十九條ノ六及ヒ第二百二十六條第二項ニ定ムル清算人ノ選任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス此場合ニ於テハ利害關係人ノ請求ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得
商法第九十三條ノ二第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
主務官廳ハ監査役又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主若クハ十分ノ一以上ノ社員ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得但此請求ヲ爲ス社員ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得
重要ナル事由アルトキハ主務官廳ハ前項ノ請求ナクシテ清算人ヲ解任スルコトヲ得
商法第二百二十八條第二項ノ規定ハ保險會社ノ清算人ニハ之ヲ適用セス
第十三條之三 前條ノ規定ニ依リ清算人ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ主務官廳之ヲ定ム

第十三條ノ四 保險會社ニ非サルモノハ其商號又ハ名稱中ニ保險事業者タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス
第十三條ノ五 保險會社ハ契約ヲ以テ責任準

備金算出ノ基礎ヲ同ジクスル保險契約ノ全部ヲ包括シテ他ノ保險會社ニ移轉スルコトヲ得(昭和八年法律第九號ヲ以テ本條追加)

第二章 株式會社

第十四條 保險ヲ營業トスル株式會社ノ定款ニハ商法第二百十條第二號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 保險ノ種類及ヒ營業ノ範圍
二 設立費用償却ノ方法
第十五條 會社ハ其商號ニ保險ノ種類ヲ示スコトヲ要ス
第十六條 會社ノ資本ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス
第十七條 株式申込證ニハ第十四條及ヒ商法第二百二十六條第二項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
第十八條 會社ハ第十四條及ヒ商法第四百四十一條第一項ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ得ス
第十九條 第五十八條ノ規定ハ株式會社ノ計算ニ之ヲ準用ス但設立費用及ヒ營業費ノ全部ヲ償却シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス
第十九條ノ二 商法第二百十條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社ニハ之ヲ適用セス

第二十條 會社カ資本減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ之ニ關スル定款變更ノ認可ノ日ヨリ二週間内ニ減少スヘキ金額、減少ノ方法及ヒ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス
第十二條ノ三第二項、第三項、算二十二條第三項及ヒ第二十五條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス
第二十條ノ二 第十三條ノ五ノ規定ニ依リ保險契約ヲ移轉スル場合ニ於テハ會社ハ同條ノ契約ヲ以テ會社財産ヲ移轉スヘキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主務官廳カ其會社ノ債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ト認ムル財産ヲ留保スルコトヲ要ス(昭和八年法律第九號ヲ以テ第一項ヲ削除改正)

第十三條ノ五ノ契約ハ各會社ニ於テ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス(同上ヲ以テ本項改正)
前項ノ決議ハ保險契約ヲ移轉セントスル會社ニ在リテハ商法第二百九條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス
第二十條ノ三 保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ移轉契約ノ要旨及ヒ各會社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス
前項ノ公告ニハ保險契約者ニシテ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但其期間ハ二ヶ月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ期間内ニ異議ヲ述ヘタル保險契約者
カ保險契約者總數ノ十分ノ一ヲ超エ又ハ其
保險金額カ保險金額ノ十分ノ一ヲ超ユル
トキハ保險契約ノ移轉ヲ爲スコトヲ得ス第
二十條ノ六ノ規定ニ依リ第七條第七號ノ事
項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ異議ヲ述ヘタ
ル保險契約者ニシテ其保險契約ニ付キ同條
同號ノ事項ヲ變更セラルヘキ者カ同條同號
ノ事項ヲ變更セラルヘキ保險契約者總數ノ
十分ノ一ヲ超ユ又ハ其保險金額カ同條同號
ノ事項ヲ變更セラルヘキ保險契約者ノ保險
金額ノ十分ノ一ヲ超ユルトキ亦同シ
第二十條ノ四ノ規定ニ依リ移轉ハ主務官廳ノ
認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス
前項ノ認可申請書ニハ移轉契約書、各會社
ノ株主總會ノ決議録、財産目録、貸借對照
表及ヒ前條ノ公告並ニ異議ニ關スル書類ヲ
添附スルコトヲ要ス
主務官廳ハ前項ノ書類ノ外必要ト認ムル書
類ノ提出ヲ命スルコトヲ得
第二十條ノ五ノ規定ニ依リ移轉セントスル會
社ハ株主總會ノ決議アリタル時ヨリ保險契
約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲ササルニ至ル時迄其
移轉セントスル保險契約ノ同種ノ保險契約
ヲ爲スコトヲ得ス
第二十條ノ六ノ規定ニ依リ移轉目的トスル會社カ
其保險契約ノ全部ヲ移轉スル場合ニ於テハ

移轉契約ヲ以テ保險金額ヲ削減シ及ヒ將來
ノ保險料ヲ減額スヘキコト又ハ其保險契約
ニ付キ定メタル第七條第七號ノ事項ヲ變更
スヘキコトヲ定ムルコトヲ得
第二十條ノ七ノ規定ニ依リ保險金額ノ
削減ヲ定ムル場合ニ於テハ保險契約ヲ移轉
セントスル會社ハ第二十條ノ二項ノ決
議アリタル時ヨリ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又
ハ爲ササルニ至ル時迄其財産ノ處分ヲ爲シ
又ハ債務ヲ負擔スヘキ行為ヲ爲スコトヲ得
又ハ債務ヲ維持ニ必要ナル費用ヲ支出スル
場合ハ財産ノ保全其他特別ノ必要ニ依リ
主務官廳ノ認可ヲ得テ財産ヲ處分スル場合
ハ此限ニ在ラス(同上ヲ以テ本項改正)
保險契約ノ移轉アリタルトキハ保險契約ニ
因リテ生ジタル債權ニシテ前項ノ規定ニ依
リ支拂ヲ停止セラレタルモノニ付テハ移轉
契約ニ定メタル保險金額削減ノ割合ニ依リ
其金額ヲ削減シテ支拂ヲ爲スコトヲ要ス
前條ノ規定ニ依リ第七條第七號ノ事項ノ變
更ヲ定ムル場合ニ於テ其變更ヲ爲サントス
ル會社亦第一項ニ同シ但保險契約ニ因リテ
生ジタル債務ヲ擔保スルハ此限ニ在ラス
第二十條ノ八ノ規定ニ依リ保險契約ノ認可アリタル
トキハ會社ハ遲滞ナク其旨ヲ公告スルコト
ヲ要ス移轉ヲ爲ササルニ至リタルトキ亦同
シ

第二十條ノ九ノ規定ニ依リ保險契約ノ移轉ヲ爲シ
タルトキハ移轉ヲ爲シタル會社ノ其保險契
約ニ付キ有スル權利義務ハ移轉ヲ受ケタル
會社ニ於テ之ヲ承継ス移轉契約ヲ以テ移轉
スヘキコトヲ定メタル財産ニ付キ亦同シ
第二十條ノ二項ノ決議ノ後ニ於テ移轉
スヘキ保險契約ニ付キ爲シタル收支其他移
轉スヘキ保險契約又ハ財産ニ付キ生ジタル
變更ハ移轉ヲ受ケタル會社ニ屬ス(同上ヲ
以テ本項改正)
第二十條ノ十ノ規定ニ依リ保險契約全部ノ移轉
ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ解散ス
第二十條ノ十一ノ規定ニ依リ解散後三個月
内ニ限リ第二十條ノ二項ノ決議ヲ爲ス
コトヲ得(同上ヲ以テ本項改正)
第七十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用
セス但保險契約ノ移轉ヲ爲ササルニ至リタ
ルトキハ此限ニ在ラス
第二十條ノ十二ノ規定ニ依リ解散ノ登記
ノ申請書ニハ移轉契約書、各會社ノ株主總
會ノ決議録並ニ第二十條ノ三ノ公告ヲ爲シ
タルコト、若シ異議ヲ述ヘタル保險契約者
アルトキハ其數及ヒ其保險金額カ第二十條
ノ三項ニ規定シタル割合ヲ超ユサルコ
トヲ證スル書面及ヒ保險契約移轉ノ認可ヲ
證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス
第二十一條 會社カ營業ノ免許ヲ取消サレタ

ルトキハ之ニ因リテ解散ス
第二十條ノ三ノ規定ニ依リ移轉セントスル會
社ハ株主總會ノ決議アリタル時ヨリ保險契
約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲ササルニ至ル時迄其
移轉セントスル保險契約ノ同種ノ保險契約
ヲ爲スコトヲ得ス
第二十條ノ六ノ規定ニ依リ移轉目的トスル會社カ
其保險契約ノ全部ヲ移轉スル場合ニ於テハ
移轉契約ヲ以テ保險金額ヲ削減シ及ヒ將來
ノ保險料ヲ減額スヘキコト又ハ其保險契約
ニ付キ定メタル第七條第七號ノ事項ヲ變更
スヘキコトヲ定ムルコトヲ得
第二十條ノ七ノ規定ニ依リ保險金額ノ
削減ヲ定ムル場合ニ於テハ保險契約ヲ移轉
セントスル會社ハ第二十條ノ二項ノ決
議アリタル時ヨリ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又
ハ爲ササルニ至ル時迄其財産ノ處分ヲ爲シ
又ハ債務ヲ負擔スヘキ行為ヲ爲スコトヲ得
又ハ債務ヲ維持ニ必要ナル費用ヲ支出スル
場合ハ財産ノ保全其他特別ノ必要ニ依リ
主務官廳ノ認可ヲ得テ財産ヲ處分スル場合
ハ此限ニ在ラス(同上ヲ以テ本項改正)
保險契約ノ移轉アリタルトキハ保險契約ニ
因リテ生ジタル債權ニシテ前項ノ規定ニ依
リ支拂ヲ停止セラレタルモノニ付テハ移轉
契約ニ定メタル保險金額削減ノ割合ニ依リ
其金額ヲ削減シテ支拂ヲ爲スコトヲ要ス
前條ノ規定ニ依リ第七條第七號ノ事項ノ變
更ヲ定ムル場合ニ於テ其變更ヲ爲サントス
ル會社亦第一項ニ同シ但保險契約ニ因リテ
生ジタル債務ヲ擔保スルハ此限ニ在ラス
第二十條ノ八ノ規定ニ依リ保險契約ノ認可アリタル
トキハ會社ハ遲滞ナク其旨ヲ公告スルコト
ヲ要ス移轉ヲ爲ササルニ至リタルトキ亦同
シ

第二十五條 合併ニ因リ解散ノ登記ノ申請書
ニハ第二十二條ノ公告ヲ爲シタルコト、若
シ異議ヲ述ヘタル保險契約者アルトキハ其
數及ヒ其保險金額カ第二十條ノ三項ニ
規定シタル割合ヲ超ユサルコトヲ證スル書
面ヲ添附スルコトヲ要ス
第三章 相互會社
第一節 設立
第二十六條 相互會社ノ發起人ハ定款ヲ作リ
之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名又ハ記名捺印
スルコトヲ要ス
一 保險ノ種類及ヒ事業ノ範圍
二 名稱
三 事務所ノ所在地
四 基金ノ總額
五 基金ノ積出者カ有スヘキ權利
六 社員ノ責任ノ種類
七 基金及ヒ設立費用ノ償却ノ方法
八 剩餘金分配ノ方法
九 會社カ公告ヲ爲ス方法
十 存立期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタル
トキハ其時期又ハ事由
第二十七條 相互會社ハ其名稱ニ保險ノ種類
ヲ示シ且之ニ相互會社ナル文字ヲ附スルコ
トヲ要ス

第二十八條 相互會社ノ基金ハ十萬圓ヲ下ル
コトヲ得ス
基金ノ支拂ハ金儲以外ノ財産ヲ以テ之ヲ爲
スコトヲ得ス
第二十九條 相互會社ノ社員ノ數ハ百人ヲ下
ルコトヲ得ス
第三十條 發起人ニ非サル者カ社員ヲラント
スルトキハ入社申込證ニ通シテ保險ノ目的及
ヒ保險金額ヲ記載シ之ニ署名又ハ記名捺印
スルコトヲ要ス但會社カ主たる事務所ノ所
在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル後社員タ
ラントスル者ハ此限ニ在ラス
入社申込證ハ發起人之ヲ作り之ニ左ノ事項
ヲ記載スルコトヲ要ス
一 定款作成ノ年月日
二 第二十六條ニ掲ケタル事項
三 基金ノ積出者ノ氏名、住所及ヒ其各
自カ積出スル金額
四 發起人ノ氏名、住所
五 發起人カ報酬ヲ受クヘキトキハ其報
酬ノ額
六 設立ノ際募集セントスル社員ノ數
七 一定ノ時期迄ニ會社カ設立セザルト
キハ入社ノ申込ヲ取消スコトヲ得ヘキ
コト
第三十一條 社員カ豫定ノ數ニ滿チタルトキ
ハ發起人ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スルコ

トヲ要ス
 創立總會ニ於テハ社員ノ半数以上出席シ其
 四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲
 ス
 第四十三條及ヒ商法第五十六條第一項、第
 二項、第六十一條第三項、第四項、第
 百六十三條乃至第六十三條ノ四ノ規定ハ
 相互會社ノ創立總會ニ之ヲ準用ス
 第四十二條 第四十九條ノ二ノ規定ハ入社申
 込人ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス
 第三十三條 相互會社ハ創立總會ノ終結ニ因
 リテ成立ス
 第三十四條 相互會社ハ創立總會終結ノ日ヨ
 リ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ
 事項ヲ登記スルコトヲ要ス
 一 第二十六條第一號、第二號及ヒ第四
 號乃至第十號ニ掲ケタル事項
 二 事務所
 三 取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所
 四 會社ヲ代表スヘキ取締役ヲ定メタル
 トキハ其氏名
 五 數人ノ取締役力共同シ又ハ取締役力
 支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコ
 トヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規
 定
 前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルト
 キハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其

登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第三十五條 商法第九條、第十一條乃至第十
 五條、第十九條乃至第三十八條、第四十條、
 第四十一條、第四十四條、第四十四條ノ
 二、第四十四條ノ三第一項、第二項、第四十
 五條、第四十八條ノ二、第九十九條、第百
 三十三條、第百三十八條、第百四十二條ノ
 二及ヒ第百四十二條ノ三ノ規定ハ相互會社
 ニ之ヲ準用ス
 第七十三條第一項ノ規定ハ商法第四十四條
 ノ第三項ノ規定ニ依ル選任ノ場合ニ之ヲ
 準用ス
 第二節 社員ノ權利義務
 第三十六條 社員ハ會社ノ債權者ニ對シ直接
 ニ義務ヲ負フコトナシ
 第三十七條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任
 ハ左ノ三種トス
 一 社員ノ全員力無限ノ責任ヲ負フモノ
 二 社員ノ全員力保險料ノ限度トシテ責
 任ヲ負フモノ
 三 社員ノ全員力保險料ノ外一定ノ金額
 ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ
 第三十八條 社員ハ會社ニ拂込ムヘキ金額ニ
 付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス
 第三十八條ノ二 社員ノ責任力第三十七條第
 三號及ヒ第三號ニ該當スル相互會社ニ在リ

テハ定款ヲ以テ保險金額ノ削減ニ關スル事
 項ヲ定ムルコトヲ要ス
 第三十九條 社員力保險料ノ外會社ノ債務ニ
 關シ離出スヘキモノアルトキハ其金額及ヒ
 其離出ノ方法ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム
 第四十條 損害保險ノ目的トスル相互會社ノ
 社員力保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ讓受
 人ハ會社ノ承諾ヲ得テ讓渡人ノ權利義務ヲ
 承継スルコトヲ得
 第四十一條 生命保險ノ目的トスル相互會社
 ノ社員ハ會社ノ承諾ヲ得テ他人ヲシテ其權
 利義務ヲ承継セシムコトヲ得
 第四十一條ノ二 第二十二條ノ二第一項、第二
 項及ヒ第二十條ノ四乃至第二十條ノ十二ノ
 規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス(昭和八年法
 律第九號ヲ以テ本項改正)
 第四十一條ノ三 保險契約ノ移轉アリタル場
 合ニ於テ移轉ヲ受ケタル會社ガ相互會社ナ
 ルトキハ其ノ保險契約者ハ其ノ會社ニ入社
 ス(同上ヲ以テ本條追加)
 第三節 會社ノ機關
 第四十二條 相互會社ハ定款ヲ以テ社員總會
 ニ代ハルヘキ機關ヲ設ケルコトヲ得此機關
 ニハ社員總會ニ關スル規定ヲ準用ス
 第四十二條ノ二 前條ノ機關ニ於テ第七十三
 條ノ決議ヲ爲シタルトキハ解散セントスル

會社ニ在リテハ解散ノ決議及ヒ貸借對照表
 ヲ合併ヲ爲サントスル會社又ハ保險契約
 ヲ移轉セントスル會社ニ在リテハ合併契約
 又ハ移轉契約ノ要旨及各會社ノ貸借對照表
 ヲ公告スルコトヲ要ス(同上ヲ以テ本條追
 加)
 第二十條ノ三第二項及第三項ノ規定ハ前項
 ノ解散、合併及保險契約移轉ノ場合ニ之ヲ
 準用ス
 第四十三條 社員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決
 權ヲ有ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限
 ニ在ラス
 第四十四條 十分ノ一以上ノ社員ハ會議ノ目
 的タル事項及ヒ其召集ノ理由ヲ記載シタル
 書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ召集ヲ請求
 スルコトヲ得但此權利ノ行使ニ付キ定款ヲ
 以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得
 商法第六十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合
 ニ之ヲ準用ス
 第四十五條 商法第五十六條第一項、第二
 項、第五十七條第一項、第五十九條、第
 百六十一條第一項、第三項、第四項及ヒ
 第百六十三條乃至第六十三條ノ四ノ規定
 ハ相互會社ノ社員總會ニ之ヲ準用ス
 第四十六條 取締役及ヒ監査役ハ社員總會ニ
 於テ之ヲ選任ス
 第四十七條 取締役及ヒ監査役ハ社員タルコ

トヲ要セス
 第四十八條 取締役ハ社員總會ノ認許アルニ
 非サレハ同種ノ保險ノ目的トスル他ノ會社
 ノ無限責任社員、業務擔當社員、取締役又
 ハ監査役ト爲ルコトヲ得ス
 第四十九條 取締役ハ社員名簿ヲ備ヘ之ニ左
 ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 一 社員ノ氏名、住所
 二 各社員ノ保險契約ノ種類、保險金及
 ヒ保險料
 三 第三十七條第三號ノ場合ニ於テ各社
 員ノ責任ノ限度
 第四十九條ノ二 商法第七十二條ノ二ノ規
 定ハ會社ノ社員ニ對スル通知及ヒ催告ニ之
 ヲ準用ス但保險關係ニ關スル事項ニ付テハ
 此限ニ在ラス
 第五十條 取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議録ヲ
 各事務所ニ備ヘ置キ且社員名簿ヲ主タル事
 務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス
 社員及ヒ會社ノ債權者ハ事業時間内何時ニ
 テモ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコ
 トヲ得
 第五十一條 社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ
 訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之
 ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社
 員力ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ
 決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起

スルコトヲ要ス但起訴ノ請求ヲ爲ス者ニ付
 キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得
 前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ監査役ノ請求
 ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
 會社力敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ
 對シテノ損害賠償ノ責任ヲ負フ
 第五十二條 前條ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特
 ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得
 第五十三條 商法第六十四條第二項、第百
 六十五條乃至第六十七條ノ二、第百六十
 九條、第七十條、第七十四條第二項、第
 百七十六條、第七十七條及ヒ第七十七
 九條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用
 ス
 第五十四條 社員總會ニ於テ監査役ニ對シテ
 訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之
 ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社
 員力ヲ以テ之ヲ請求シタルトキハ會社
 ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提
 起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第五十一
 條第一項但書、第五十二條及ヒ商法第八
 十五條第一項但書ノ規定ヲ準用ス
 前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ取締役ノ請求
 ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
 會社力敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ
 對シテノ損害賠償ノ責任ヲ負フ
 第五十五條 商法第六十四條第二項、第百

第六十六條但書、第六十七條、第六十七條ノ二、第六十七條、第六十七條乃至第六十八條、第六十五條第一項及第七百八十六條ノ規定ハ相互會社ノ監査役ニ之ヲ準用ス

第四節 會社ノ計算

第五十六條 基金ハ毎事業年度ノ剩餘金ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ償却スルコトヲ得ス
基金ノ融出者ニ支拂フヘキ利息亦同シ
第五十七條 相互會社ハ損失ノ填補ニ備フル爲メ毎事業年度ノ剩餘金中ヨリ準備金ヲ積立ツルコトヲ要ス
毎年積立ツヘキ金額及ヒ準備金ノ最低額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム
第五十八條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ハ十年ヲ超エサル期間内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ從ヒ毎年其一部ヲ償却スルコトヲ得
第五十九條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ノ全額ヲ償却シ且第五十七條ノ準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ基金ヲ償却シ又ハ剩餘金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ハ前條ノ期間内ニ於テ基金ノ融出者ニ利息ヲ支拂フコトヲ妨ケス
第六十條 基金ヲ償却スルコトキハ其償却スル金額ト同一ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

第六十一條 剩餘金ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ各事業年度ノ終ニ於ケル社員ニ之ヲ分配ス
第六十二條 商法第九十條乃至第九十三條ノ規定ハ相互會社ノ計算ニ之ヲ準用ス

第五節 定款ノ變更

第六十三條 定款ノ變更ハ社員總會ノ決議ニ依リテ之ヲ爲ス但決議ノ認可ヲ得ルニ付キ必要ナル變更ハ社員總會ノ決議ヲ以テ之ヲ取銷役ニ委任スルコトヲ得
第三十一條第二項ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス
（昭和八年法律第九號ヲ以テ本項改正）
第六十四條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ヲ減少セントスルコトキハ商法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第六節 社員ノ退社

第六十五條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハズ社員ハ事業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六ヶ月前ニ其預告ヲ爲スコトヲ要ス
第六十六條 社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス
一 定款ニ定メタル事由ノ發生
二 死亡
三 破産
四 保險關係ノ消滅
第六十七條 退社員ハ定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ從ヒ其權利ニ屬スル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得
第六十八條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ六ヶ月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
退社員ノ拂戻請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
第六十九條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ計算ヲ爲スニ當テリ會社ニ現存スル財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ解決スルニ足ラザルトキハ退社員ハ其負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムコトヲ要ス
第七十條 退社員カ會社ニ對シテ有擔シタル債務アルトキハ會社ハ其退社員ニ拂戻スヘキ金額ノ中ヨリ其債務ノ金額ヲ控除スルコトヲ得
第七十一條 無限責任ヲ負フ社員及ヒ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フ社員ハ登記所ニ備フル社員名簿ニ退社ノ記載ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ其記載後二年間責任ヲ負フ
前項ノ規定ハ第四十條及ヒ第四十一條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七節 解散

七十二條 相互會社ハ在ノ事由ニ因リテ解散ス
一 存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生
二 社員カ百人未滿ニ減シタルコト
三 社員總會ノ決議
四 合併
五 破産
六 免許ノ取消
第七十三條 任意ノ解散、合併及保險契約移轉ノ決議ニハ第三十一條第二項ノ規定ヲ準用ス（同上ヲ以テ本項改正）
前項ノ決議ハ主席官應ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其効力ヲ生セズ
第七十四條 （削除）
第七十五條 第二十二條ノ二及ヒ商法第七十六條、第七十八條乃至第八十二條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス
第八節 清算
第七十六條 相互會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外本節ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス
第七十七條 （削除）
第七十八條 會社カ第七十二條第二號、第三

第八節 補則

號又ハ第六號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタルトキハ保險金額ヲ支拂フヘキ事由カ解散ノ時ヨリ三ヶ月内ニ生シタルトキニ限リ保險金額ヲ支拂フコトヲ要ス
前項ノ期間經過ノ後ハ損害保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ未タ經過セサル期間ニ對スル保險料、生命保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス
第七十九條 清算人ハ左ノ順序ニ從ヒテ會社ノ財産ヲ處分スルコトヲ要ス
一 一般ノ債務ノ清算
二 社員ノ保險金額及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ社員ニ拂戻スヘキ金額ノ支拂
三 基金ノ償却
社員ハ保險料ノ外基金ノ償却ニ付キ責任ヲ負フコトナシ
第八十條 剩餘財産ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ剩餘金ノ分配ト同一ノ割合ヲ以テ之ヲ社員ニ分配ス
第八十一條 （削除）
第八十二條 第四十四條、第五十條乃至第五十二條、第五十四條、商法第八十四條、第九十條乃至第九十三條、第九十三條ノ二、第九十七條、第九十九條、第九十九條、第一百零七條、第一百五十九條、第六十三條乃至第七

登記ト看做ス但之ヲ公告スルコトヲ要セ
 前項ノ規定ハ社員ノ全員カ保險料ノ限度ト
 シテ責任ヲ負フ會社ノ社員名簿ニハ之ヲ適
 用セス
 第八十六條 相互會社ノ支配人ノ選任ノ登記
 ハ會社ヲ代表スヘキ取締役ノ申請ニ因リテ
 之ヲ爲ス支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ非訟事
 件手續法第七十三條第一項第四號ニ掲ケ
 タル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ニ付キ亦
 同シ
 第八十七條 相互會社カ免許ノ取消ニ因リテ
 解散シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ屬託
 ニ因リテ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第八十八條 第八十四條第一項ノ規定ハ相互
 會社ノ解散又ハ其合併ニ因ル變更若クハ設
 立ノ登記ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第八十八條ノ二 相互會社カ合併ニ因ル變更
 ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記
 シ非訟事件手續法第八十二條第二項ニ
 掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス
 相互會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請ス
 ルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第八十四條
 第二項並ニ非訟事件手續法第八十二條第
 二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十四條ノ
 三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者
 ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十八條ノ三 相互會社ガ第四十二條ノ規
 定ニ於テハ解散ノ登記ノ申請書ニハ第四十
 二條ノ二ノ公告ヲ爲シタルコト、若シ異議
 ヲ述べタル保險契約者アルトキハ其ノ數及
 其ノ保險金額ガ第二十條ノ三第三項ニ規定
 シタル割合ヲ超エザルコトヲ證スル書面ヲ
 添附スルコトヲ要ス(昭和八年法律第九號
 ヲ以テ本條追加)
 第八十九條 非訟事件手續法第二百六條第
 一項、第三項、第三百三十五條ノ四、第三百
 一十八條ノ三乃至第三百三十九條、第四百一
 十條乃至第四百十四條、第四百七十三條、第
 七十四條第二項、第四百七十五條乃至第四百
 七十八條、第四百八十八條、第四百九十三條第
 一項、第二項及ヒ第四百九十五條ノ二ノ規定ハ
 相互會社ニ之ヲ準用ス
 第九十條 相互會社カ登記ヲ爲ス場合ニ於テ
 ハ權利ヲ目的トセザル社團法人ト同一ノ登
 録税ヲ納ムルコトヲ要ス
 第九十一條 相互會社ニハ營業收益税ヲ課セ
 ス

第四章 計算

第九十二條 保險會社ハ毎年一回一定ノ時期
 ニ於テ其帳簿ヲ閉鎖シ總會終結ノ後遲滞ナ
 ク財務目録、貸借對照表、事業報告書、損
 益計算書及ヒ基金ノ償却、其利息ノ支拂、
 準備金並ニ利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル
 決議書ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス
 第九十三條 保險契約者、被保險者又ハ保險
 金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社ノ定時總會終結
 ノ後前條ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求メ又ハ
 其原本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ
 得但定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ依リ其
 原本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコ
 トヲ要ス
 第九十四條 第九十二條ニ掲ケタル書類ノ書
 式ハ主務大臣之ヲ定ム
 第九十五條 保險會社ハ保險契約ノ種類ニ從
 ヒ各事業年度ノ終ニ於テ存スル契約ニ付キ
 責任準備金ヲ計算シ且之ヲ特ニ設ケタル帳
 簿ニ記載スルコトヲ要ス
 第九十六條 生命保險ニ在リテハ保險契約者
 又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ
 爲メニ積立テタル金額ニ付キ會社財產ノ上
 ニ優先權ヲ有ス

第五章 罰則

第九十七條 主務官廳ノ免許ヲ受ケシテ保
 險事業ヲ營ム者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第九十七條ノ二 第十三條ノ四ノ規定ニ違反
 シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第九十八條 保險會社ノ取締役、監査役又ハ
 清算人ハ左ノ場合ニ於テ八十圓以上千圓以
 下ノ過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘ
 キトキハ此限ニ在ラス
 一 保險事業ニ非サル事業ヲ爲シタルト
 キ
 二 生命保險ト損益保險トヲ併セテ營ミ
 タルトキ
 三 主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
 四 主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルトキ
 五 正當ノ事由ナクシテ第九十三條ノ規
 定ニ依リ閲覧ヲ許スヘキ書類ヲ閲覧セ
 シメス又ハ其原本若クハ抄本ヲ交付セ
 サリシトキ
 六 會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタ
 ル場合ニ於テ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲
 ササルトキ
 七 第二十條ノ規定ニ違反シテ資本減少
 ヲ爲シタルトキ
 八 第十三條ノ五、第二十條ノ二、第二
 十條ノ三、第二十條ノ五又ハ第四十二
 條ノ二ノ規定ニ違反シテ保險契約ノ移
 轉ヲ爲シ又ハ保險契約ヲ爲シタルトキ
 九 昭和八年第九號ヲ以テ本條改正)
 第九十九條 第七ノ規定ニ違反シテ財產
 ノ處分ヲ爲シ若シハ債務ヲ負擔スヘキ
 行爲ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲シタルトキ

第十 第二十二條、第二十二條ノ二又ハ第
 四十二條ノ二ノ規定ニ違反シテ任意ノ
 解散又ハ合併ヲ爲シタルトキ(同上ヲ
 以テ本條改正)
 第十一 第九十五條ノ規定ニ違反シタルト
 キ
 第九十八條ノ二 株式會社ノ取締役、監査役
 又ハ清算人カ本法ニ定メタル公告ヲ爲スコ
 トヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキハ
 五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス
 第九十八條ノ三 相互會社ノ發起人、取締役、
 監査役又ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ一年
 以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金
 ニ處ス
 一 會社ノ設立又ハ其登記ヲ爲シ若クハ
 之ヲ爲サシムル目的ヲ以テ社員ノ數又
 ハ基金釐出ノ引受ニ付キ裁判所又ハ總
 會ヲ欺罔シタルトキ
 二 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ基金
 分派シタルトキ
 三 會社ノ事業ノ範圍外ニ於テ投機取引
 ノ爲メニ會社財產ヲ處分シタルトキ
 前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ
 適用セス
 第九十九條 相互會社ノ發起人、取締役、監査
 役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上

五百圓以下ノ過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑
 ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス
 一 本法ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠
 リタルトキ
 二 本法ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲
 スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通
 知ヲ爲シタルトキ
 三 第三十條第二項ノ規定ニ反シ入社申
 込證ヲ作ラス、之ニ記載スヘキ事項ヲ
 記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタ
 ルトキ
 四 定款、社員名簿、總會ノ決議録、財
 產目録、貸借對照表、事業報告書、損
 益計算書若クハ基金ノ償却、其利息ノ
 支拂、準備金、剩餘金分配ニ關スル議
 案ヲ事務所ニ備ヘ置カス、之ニ記載ス
 ヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記
 載ヲ爲シタルトキ
 五 正當ノ理由ナクシテ第五十條第二項
 ノ規定ニ依リ閲覧ヲ許スヘキ書類ヲ閱
 覽セシメサルトキ
 六 商法第八十一條ノ規定ニ依ル監査
 役、調査ヲ妨ケタルトキ
 第七 相互會社ノ發起人、取締役、監査役
 又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千
 圓以下ノ過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科
 スヘキトキハ此限ニ在ラス

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
 二 第七十九條第一項ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ處分シタルトキ
 三 商法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ違反シテ社員ノ責任ヲ減少シ又ハ合併ヲ爲シタルトキ
 四 前法第七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
 五 清算ノ了了ヲ遲延セシムル目的ヲ以テ民法第七十九條ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ
 六 民法第七十九條ノ期間内ニ或債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ第八十條若クハ定款ノ規定ニ違反シテ殘餘財産ヲ分配シタルトキ
 第七十條ノ二 明治三十三年法律第五十二號ハ本法ノ和譯ニ之ヲ準用ス
 第八十條ノ一 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス
 (明治三十三年法律第六十九號附則)
 第九十條ノ一 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第九十五條乃至第一百十條ノ施行ス

第六條ハ之ヲ創除ス
 第七十條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ其商號ニ保險ノ種類ヲ示ササルモノハ本法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其商號ヲ改メ且本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第七十一條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ營業ノ免許ヲ受ケザリシモノカ本法主務官廳ノ命令又ハ第五條ニ掲ケタル書類ニ定メタル特ニ重要ナル事項ニ違反シタルトキハ主務官廳ハ其事業ヲ禁止スルコトヲ得
 第七十二條 保險會社カ違法ニ事業ヲ禁止セラレタリトスルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第七十三條ノ二 保險會社カ其事業ヲ禁止セラレタルトキハ之ニ因リテ解散ス
 第七十四條ノ一 第三項、第十三條ノ三、第七十八條、第八十七條及ヒ第九十八條第六號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第七十五條 本法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノハ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ遲延ナク營業報告書、損益計算書及ヒ利益ノ配當ニ關スル案ト共ニ之ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス
 第七十六條 本法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノカ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ其閱覽ヲ求メ又ハ其帳本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保約款ノ定ムル所ニ依リ其帳本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手續料ヲ拂フコトヲ要ス
 第七十七條 第三條、第四條、第八條乃至第十三條ノ三及ヒ第七十三條第二項ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ニ之ヲ準用ス
 第七十八條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ相當ノ責任準備金ヲ積立テザルモノハ本法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其不足額填補ノ方法ヲ定メ主務官廳ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス但填補ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ十年ヲ超ユルコトヲ得ス
 第七十九條 前項ノ填補ヲ爲シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス
 第八十條 第七十八條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社カ第二十一條又ハ商法第七十四條第三號、第五號、第七號、第九十八條、第二百二十一條第二號、第三號ニ掲ケタル事由ニ依リテ解散シタル場合ニ之ヲ準用ス
 第八十一條 第九十二條乃至第九十六條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル合資會社又ハ株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス
 第八十二條 第十三條ノ五、第十九條ノ二乃至

至第二十二條ノ二及ヒ第二十五條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス
 第九十二條ノ二 第二十二條ノ二乃至第二十二條ノ二、第二十二條及ヒ第二十五條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル合資會社カ其保險契約ヲ合資會社若クハ株式會社ニ移轉シ又ハ株式會社ト合併スル場合ニ之ヲ準用ス但保險契約移轉ノ決議ハ舊商法第五十一條第二項ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス
 第九十三條ノ三 第二十二條、第二十五條、第七十三條第二項、商法第七十八條、第七十九條第一項、第二項、第八十三條ノ三及ヒ非訟事件手續法第二百一十一條第一項、第二項ノ規定ハ保險ヲ營業トスル合資會社カ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第九十四條 第九十八條及ヒ第九十八條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役及ヒ清算人ニ之ヲ準用ス
 第九十五條 保險會社ノ業務ヲ執行スル社員又ハ取締役カ第四百四條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル
 第九十六條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

第九十七條 外國人又ハ外國會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營業ム場合ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第九十八條 附則(明治四十五年法律第十八號)本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第九十九條 本法ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ其施行前ニ生シタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但從前ノ規定ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス
 第一百條 本法施行前ニ設立シタル會社ニシテ命令ヲ以テ第五條第二號又ハ第五號ニ掲ケタル書類ニ定ムヘキコトヲ規定スル事項ニ付キ認可ヲ受ケザルモノハ本法施行後六個月内ニ其認可ヲ申請スルコトヲ要ス
 第一百零一條 認可ヲ受ケタル時現ニ利用スル財産ニ付テハ其利用方法ヲ變更セザル限リ認可ヲ受ケタル方法ニ依ラサルコトヲ得
 第一百零二條 本法施行前ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其合併ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得
 第一百零三條 第三十八條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル會社ニハ之ヲ適用セス
 第一百零四條 明治四十四年法律第七十三號附則第四條、第五條、第七條、第九條乃至第十三條、第二十條及ヒ第二十一條ノ規定ハ相會社ニ之ヲ準用ス
 第一百零五條 本法施行前ニ從前ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖其罰則ヲ適用ス
 第一百零六條 裁判所カ本法施行前ニ受理シタル清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附則(昭和八年法律第九號附則)
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和八年勅令第五十九號)以テ同年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス
銀行法 (昭和二年三月三十日) (法律第二十一號)
 附則
 第一條 左ニ掲ケル業務ヲ營業ム者ハ之ヲ銀行トス
 一 預金ノ受入ト金錢ノ貸付又ハ手形ノ割引トヲ併セ爲スコト
 二 爲替取引ヲ爲スコト
 營業トシテ預金ノ受入ヲ爲ス者ハ之ヲ銀行ト看做ス
 第二條 銀行業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營業ムコトヲ得ス
 第三條 銀行業ハ資本金百萬圓以上ノ株式會社ニ非サレハ之ヲ營業ムコトヲ得ス但勅令ヲ以テ指定スル地域ニ本店又ハ支店ヲ有スル銀行ノ資本金ハ二百萬圓ヲ下ルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ地域ノ規定アリタル
 場合ニ於テ其ノ地域ニ本店又ハ支店ヲ有ス
 ル銀行ニシテ資本金二百萬圓未滿ノモノハ
 指定ノ日ヨリ五年ヲ限リ前項但書ノ資本金
 ニ依ラサルコトヲ得
 第四條 銀行ハ其ノ商號中ニ銀行ナル文字ヲ
 用フヘシ
 銀行ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ銀行タル
 コトヲ示スヘキ文字ヲ用フコトヲ得ス
 第五條 銀行ハ擔保附社債信託法ニ依リ擔保
 附社債ニ關スル信託業務ヲ營ミ又ハ保護預り
 其ノ他ノ銀行業務ニ附隨スル業務ヲ營ムノ外
 他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス
 第六條 銀行ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ
 認可ヲ受ケヘシ
 一 商號ヲ變更セントスルトキ
 二 資本金ヲ變更セントスルトキ
 三 支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ヲ設
 置セントスルトキ
 四 本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セ
 ントスルトキ
 五 支店以外ノ營業所ヲ支店ニ變更セン
 トスルトキ
 第七條 銀行ハ代理店主ヲシテ其ノ代理事務
 ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業
 所又ハ復代理店ヲ設ケシムルコトヲ得ス

銀行ノ代理店主ハ其ノ代理事務ニ關シ代理
 店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代
 理店ヲ設ケルコトヲ得ス
 第八條 銀行ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益
 ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十
 分ノ一以上ヲ積立ツヘシ
 第九條 銀行ノ營業年度ハ一月ヨリ六月迄及
 七月ヨリ十二月迄トス
 第十條 銀行ハ營業年度毎ニ業務報告書ヲ作
 成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ
 第十一條 銀行ハ營業年度毎ニ主務大臣ノ定
 ムル様式ニ依リ貸借對照表ヲ作成シテ之ヲ
 公告スヘシ
 第十二條 銀行ノ監査役ハ銀行ノ業務及財産
 ノ狀況ニ關スル調査ノ結果ヲ記載シタル監
 査書ヲ每營業年度ニ同作成シテ之ヲ本店ニ
 備ヘ置クヘシ
 第十三條 銀行ノ常務ニ從事スル取締役又ハ
 支配人カ他ノ會社ノ常務ニ從事セントスル
 トキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
 第十四條 銀行ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受
 ケルニ非サレハ其ノ效力ヲ生ゼス
 第十五條 銀行カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合
 ニ於テ商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ
 テ爲スヘキ催告ハ預金者ニ對シテハ之ヲ爲
 スコトヲ要セス
 第十六條 銀行カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合

ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ
 一月迄之ヲ下スコトヲ得合併ニ因ル株式併
 合ノ場合ニ於テ商法第二百二十條ノ二但書
 ノ期間ニ付亦同シ
 第十七條 銀行カ合併ニ因リテ貯蓄銀行法第
 一條第一項ノ業務ニ關スル契約ニ基ク權利
 義務ヲ承繼シタル場合ニ於テハ其ノ契約ノ
 完了スル迄仍其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ
 之ヲ繼續スルコトヲ妨ケス
 貯蓄銀行法第九條、第十條及第十五條ノ規
 定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第十八條 銀行ノ休日ハ祭日、祝日、日曜日
 其ノ他銀行ノ營業所所在地ニ行ハルル一般
 ノ休日ニ限ル
 銀行カ天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因
 リ臨時ニ休業スルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公告
 シ地方長官ニ届出ツヘシ
 第十九條 銀行カ預金ノ拂戻ヲ停止スルトキ
 ハ直ニ其ノ旨ヲ公告シ事由ヲ具シテ主務大
 臣ニ届出ツヘシ
 第二十條 主務大臣ハ何時ニテモ銀行ヲシテ
 其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ監査
 書其ノ他ノ書類帳簿ヲ提出セシムルコトヲ
 得
 第二十一條 主務大臣ハ何時ニテモ部下ノ官
 吏ニ命ジテ銀行ノ業務及財産ノ狀況ヲ檢査
 セシムルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ銀行ノ業務又ハ財産
 ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ヲ停
 止又ハ財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命
 令ヲ爲スコトヲ得
 第二十三條 銀行カ法令、定款若ハ主務大臣
 ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ
 爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ヲ停止若ハ
 取締役、監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免
 許ヲ取消スコトヲ得
 第二十四條 主務大臣ハ業務ヲ停止ヲ命セラ
 レタル銀行ニ對シ其ノ整理ノ狀況ニ依リ必
 要ト認ムルトキハ營業ノ免許ヲ取消スコト
 ヲ得
 第二十五條 銀行業ノ廢止又ハ銀行ノ解散ノ
 決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ
 其ノ效力ヲ生ゼス
 第二十六條 銀行カ其ノ目的ヲ變更シ他ノ業
 務ヲ營ム會社トシテ存續スル場合ニ於テハ
 銀行ニ免スル事務ヲ管理スル主務大臣ハ其
 ノ會社カ預金債務ヲ完済スルニ至ル迄財産
 ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコ
 トヲ得合併ニ因リ銀行ニ非サル會社カ銀行
 ノ預金債務ヲ承繼シタル場合亦同シ
 第二十條及第二十一條ノ規定ハ前項ノ場合
 ニ之ヲ準用ス
 第三十七條 銀行カ營業ノ免許ヲ取消サレタ
 ルトキハ之ニ因リテ解散ス

前項ノ場合ニ於テ清算人ハ利害關係人ノ請
 求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ選任ス
 其ノ清算人ノ解任亦同シ
 第二十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外裁判所ハ
 利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清
 算人ヲ解任スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ清算人ヲ解任シタルトキ
 ハ裁判所ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得
 第二十九條 裁判所ハ銀行ノ清算事務及財産
 ノ情況ヲ檢査シ、財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他
 ノ情況ヲ監督シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
 第三十條 銀行ノ清算、破産又ハ強制和議ノ
 場合ニ於テ裁判所ハ銀行ノ檢査監督ニ從事
 スル官吏ニ對シ意見ヲ求メ又ハ檢査若ハ調
 査ヲ囑託スルコトヲ得
 第三十一條 銀行ノ清算、破産又ハ強制和議
 ノ場合ニ於テ銀行ノ檢査監督ニ從事スル官
 吏ハ裁判所ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得
 第三十二條 本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀
 行カ本法施行地内ニ支店、出張所又ハ代理
 店ヲ設ケ銀行業ヲ營マントスルトキハ各營
 業所毎ニ代表者ヲ定メ第二條ノ規定ニ依ル
 免許ヲ受ケヘシ
 前項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタルトキハ該
 營業所ハ本法ノ適用ニ付之ヲ銀行ト看做ス
 此ノ場合ニ於テハ第三條乃至第六條、第八
 條、第十二條乃至第十七條、第二十五條及

第二十七條乃至前條ノ規定ニ拘ラス命令ヲ
 以テ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得
 第一項ノ免許ニ付テハ主務大臣ハ特ニ必要
 ナル制限ヲ附スルコトヲ得
 第三十三條 主務大臣ノ免許ヲ受ケシテ銀
 行業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處
 ス
 第三十四條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査
 役、支配人、清算人又ハ本法施行地外ニ本
 店ヲ有スル銀行ノ本法施行地ニ於ケル代表
 者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下
 ノ罰金ニ處ス
 一 業務報告書又ハ監査書ノ不實ノ記載
 虛偽ノ公告其ノ他ノ方法ニ依リ官廳又
 ハ公衆ヲ欺罔シタルトキ
 二 本法ニ依ル檢査ニ際シ帳簿書類ノ隱
 蔽、不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ檢
 査ヲ妨ケタルトキ
 第三十五條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査
 役、支配人、代理店主(代理店主法人ナル
 トキハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役其
 ノ他法人ノ代表者又ハ外國會社ノ代表者)
 清算人又ハ本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀
 行ノ本法施行地ニ於ケル代表者ヲ十圓以上
 千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑
 ヲ科スヘキトキハ此ノ限ニ在ラス
 一 第二十五條乃至第八條又ハ第十三條ノ規

定ニ違反シタルトキ
 第二十七條ニ於テ準用スル貯蓄銀行法
 第九條ノ規定ニ違反シタルトキ
 三 本法ニ依リ銀行ニ備ヘ置クヘキ書類
 ノ備付若ハ主務大臣ニ提出スヘキ書類
 ノ提出ヲ怠リ、之ニ記載スヘキ事項ヲ
 記載セス又ハ之ニ不實ノ記載ヲ爲シタ
 ルトキ
 四 本法ニ定メタル届出若ハ公告ヲ爲ス
 コトヲ怠リ又ハ不實ノ届出若ハ公告ヲ
 爲シタルトキ
 五 第二十二條、第二十三條、第二十六
 條又ハ第二十九條ノ規定ニ依リ主務大
 臣又ハ裁判所ノ爲シタル命令ニ違反シ
 タルトキ
 六 本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタ
 ルトキ
 第三十六條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタ
 ル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス
 第三十七條 銀行カ本法ニ依リ爲スヘキ公告
 ハ新聞紙ニ依ルヘシ
 附則
 第三十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之
 ヲ定ム(昭和二年勅令第三百二十六號ヲ以
 テ同三年一月一日ヨリ施行ス)
 第三十九條 銀行條例ハ之ヲ廢止ス
 舊法ニ依リテ營業ノ認可ヲ受ケタル銀行ニ

シテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ第四十
 條及第四十一條ノ定ムル制限ニ從ヒ本法ニ
 依リテ免許ヲ受ケタル銀行ト看做ス
 舊法ニ依リテ爲シタル認可、處分其ノ他ノ
 行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ
 於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看
 做ス
 第四十條 前條第二項ノ銀行ニシテ株式會社
 又ハ外國銀行以外ノモノハ本法施行後五年
 ヲ限リ仍其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得
 商法施行前ニ設立シタル合資會社ニシテ舊
 法ニ依リ營業ノ認可ヲ受ケタル銀行カ本法
 施行後五年内ニ其ノ組織ヲ變更シ又ハ合併
 ニ因リ株式會社ト爲リタルトキハ前項ノ規
 定ニ拘ラス其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得
 前項ノ組織變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケル
 ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
 第四十一條 第三十九條第二項ノ銀行ノ資本
 金ニ付テハ本法施行後五年ヲ限リ第三條第
 一項本文ノ規定ヲ適用セス第三十九條第二
 項ノ銀行ノ合併ニ因リテ設立シタル銀行ノ
 資本金ニ付テハ同シ
 命令ヲ以テ定ムル人口一萬未滿ノ地ニ本法
 施行ノ際現ニ本店ヲ有スル銀行ニ付テハ第
 三條第一項本文ノ規定ヲ適用セス但シ其ノ
 資本金ハ本法施行後五年内ニ五十萬圓以上
 ト爲スコトヲ要ス

第四十二條 本法施行ノ際現ニ銀行ニシテ其
 ノ商號中ニ銀行ナル文字ヲ用ヒサルモノ及
 銀行ニ非スシテ其ノ商號中ニ銀行タルコト
 ヲ示スヘキ文字ヲ用フルモノニ付テハ本法
 施行後六月ヲ限リ第四條ノ規定ヲ適用セス
 第四十三條 本法施行ノ際現ニ第五條ノ業務
 以外ノ業務ヲ營業スル銀行ハ本法施行後五年ヲ
 限リ仍其ノ業務ヲ繼續スルコトヲ得
 第四十四條 第三十九條第二項ノ銀行ノ本法
 施行ノ際現ニ有スル本店及支店以外ノ營業
 所又ハ代理店ハ本法施行後一年内ニ主務大
 臣ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ存續スル
 コトヲ得ス
 前項ノ認可申請書ハ本法施行後三月内ニ主
 務大臣ニ提出スヘシ
 第四十五條 本法施行ノ際現ニ銀行ノ常務ニ
 從事スル取締役又ハ支配人ニシテ他ノ會社
 ノ常務ニ從事スル者ハ本法施行後一年ヲ限
 リ主務大臣ノ認可ヲ受ケスシテ引續キ其ノ
 會社ノ常務ニ從事スルコトヲ得
 第四十六條 第三十九條第二項ノ銀行ニシテ
 株式會社又ハ外國銀行以外ノモノノ業務廢
 止ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルヘシ
 第四十七條 本法中取締役ニ關スル規定ハ第
 三十九條第二項ノ銀行ニ付テハ株式會社又ハ
 外國銀行以外ノモノノニ付テハ其ノ營業主
 (營業主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行ス
 ル社員)ニ之ヲ準用ス

貯蓄銀行法

(大正十年四月十四日)
 (法律第七十四號)
 改正(昭和二年法律二四
 一)昭和一法律四一
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル貯蓄銀行法ヲ裁可
 シ茲ニ之ヲ公布セシム
 貯蓄銀行法
 第一條 左ニ掲タル業務ヲ營ム者ハ之ヲ貯蓄
 銀行トス
 一 預金ノ方法ニ依リ預金ヲ受入ルルコ
 ト
 二 一圓十圓未滿ノ金額ヲ預金トシテ受
 入ルルコト
 三 豫メ拂戻ノ期限ヲ定メ定期ニ又ハ一
 定ノ期間内ニ於テ數回ノ預金ヲ受入ル
 ルコト
 四 期限ヲ定メテ一定金額ノ給付ヲ爲ス
 コトヲ約シ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ
 於テ數回ニ金錢ヲ受入ルルコト
 貯蓄銀行ニ非サルモノハ前項ノ業務ヲ營ム
 コトヲ得ス但シ貯蓄銀行ニ非サル銀行カ預
 金取引ヲ有スル者ヨリ其ノ前項ノ取引ノ結
 果生シタル十圓未滿ノ金額ヲ其ノ預金ニ受

入レ又ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲スヘキ預金
 取引ヲ有スル者ヨリ十圓未滿ノ金額ヲ其ノ
 預金ニ受入ルル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第二條 貯蓄銀行業ハ主務大臣ノ免許ヲ受ケ
 ルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
 前項ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定
 款及業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面ヲ
 添附シ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ
 第三條 貯蓄銀行業ハ資本金五十萬圓以上ノ
 株式會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
 第四條 貯蓄銀行ハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行ナ
 ル文字ヲ用ウヘシ
 貯蓄銀行ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ貯蓄
 銀行タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコト
 ヲ得ス
 第五條 貯蓄銀行ハ第一條第一項ノ業務ノ外
 左ニ掲タル業務ヲ併セ營ムコトヲ得
 一 定期預金
 二 保護預金
 三 債權ノ取立
 四 公共團體又ハ產業組合ノ金錢出納事
 務ノ取扱
 五 公共團體又ハ產業組合ヨリノ要求拂
 預金
 六 國債、地方債又ハ特別ノ法令ニ依リ
 設立シタル法人ノ債券ノ割賦販賣
 七 國債其ノ他前號ニ掲タル有價證券ノ

募集又ハ其ノ元利金支拂ノ取扱
 第六條 貯蓄銀行ハ本法ニ規定セサル業務ヲ
 營ムコトヲ得ス
 第七條 貯蓄銀行カ貯蓄銀行ノ營ムコトヲ得
 サル業務ニ屬スル契約ニ基ク權利義務ヲ合
 併ニ因リテ取續シタル場合ニ於テハ其ノ契
 約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ
 限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケス
 第八條 貯蓄銀行ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲ス
 第一條第一項第一號、第二號ノ預金取引ヲ
 爲スコトヲ得ス
 第九條 貯蓄銀行ハ第一條第一項及第五條第
 一號第五號第六號ノ規定ニ依リ受入レタル
 金額ノ三分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債
 ヲ供託スヘシ但シ供託金額中受入金額ノ五
 分ノ一ヲ超ユル額ニ付テハ第十一條第一項
 第一號ノ有價證券ヲ以テ國債ニ代フルコト
 ヲ得
 貯蓄銀行ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ大藏
 省預金部ヘノ預金ヲ以テ前項ノ供託ニ代
 フルコトヲ得
 第十條 預金者、第一條第一項第四號ノ規定
 ニ依リ給付金ノ債權者及第五條第六號ノ規
 定ニ依リ有價證券ノ給付ヲ受ケヘキ債權者
 ハ其ノ預金、給付金及有價證券ノ給付ヲ受